

科学技術と倫理 S

15545

担当者名 / Instructor 鶴田 尚美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

近年、企業の不正や事故、科学者の不正行為などの報道を目にすることが多い。これらの問題は、企業倫理、技術者倫理(工学倫理)、科学者の倫理(研究倫理)、環境倫理など非常に幅広い領域にわたっている。この授業では、その中から技術者や科学者が関わる倫理的問題に絞り、彼らが守るべき倫理原則を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 問題を考えるにあたって必要な知識を習得すること。
2. 倫理的諸問題について自分で考える態度を身につけること。
3. 自分の考えを小論文の形式で適切に述べるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概略: 専門職倫理とは何か	専門職、不正行為
2	倫理学の基本的な原理(1)	功利主義、カント
3	倫理学の基本的な原理(2)	道徳的性格と責任
4	技術者の倫理(1) ビデオ	事例
5	技術者の倫理(2)	ガイドライン、倫理綱領
6	技術者の倫理(3)	製造者責任、説明責任、知的財産権
7	技術者の倫理(4)	危険とリスク、予見
8	科学者の倫理(1) ビデオ	事例
9	科学者の倫理(2) 研究計画1	被験者保護、ニュルンベルグ綱領
10	科学者の倫理(3) 研究計画2	実験動物の福祉
11	科学者の倫理(4) 研究計画3	利害の衝突
12	科学者の倫理(5) 研究結果の発表1	オーサーシップ
13	科学者の倫理(6) 研究結果の発表2	盗作、捏造
14	科学者の倫理(7) 研究結果の発表3	盗作、捏造
15	専門家倫理の今後の展望および期末レポート作成にあたっての注意	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	期末に2000字程度のレポートを課す。講義で取り上げたテーマの中から自由に選択し、それについて自分の考えを論理的に述べること。論理性・整合性と、小論文として適切な形式で書かれていることを重視する。

QRコードによる出席を毎回取り、2/3以上の出席を単位認定の条件とする。
レポート作成にあたっての不正行為には厳しく対処する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業時に配布するレジュメに参考文献・ウェブサイトを記載するが、各自関心のある問題については積極的に調べて欲しい。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
誇り高い技術者になるう	黒田光太郎・戸田山和久・伊勢田哲治(編) / 名古屋大学出版会 / 4-8158-0485 /
科学技術倫理を学ぶ人のために	新田孝彦・蔵田伸雄・石原孝二(編) / 世界思想社 / 4-7907-1135-8 /
科学の倫理学	内井惣七 / 丸善株式会社 / 4-621-07054 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ジェンダー論 SA

13011

担当者名 / Instructor 堀江 有里

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義の目的は、社会的に構築された「性別」(ジェンダー)という視点から社会の構造を解説することである。社会は、性別を「男」と「女」に二分し、固定した上で、前者により多くの利益配分を行なうシステムを維持している。また、このような「性別二元論」は、二分された「男」と「女」をつがうものとして認識する社会規範もあわせて持っている(「異性愛主義」)。わたしたちの生活に、多くの場合、無意識に存在する、これらの価値観を、いくつかの事例からひとまずは「問うてみる」作業を行ないたい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会のなかに、「性別二元論」や「異性愛主義」という価値観が、どのように表れているのかを考えること。そして、日常生活のさまざまな場面で立ち止まり、考える契機を生み出すこと。これらの姿勢を身に付けることが本講義の到達目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし。社会学の基礎的な知識を身に付けていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入 / ジェンダー論とは何か	授業の到達目標、進め方、成績評価の方法等 / ジェンダー概念の射程
2	ジェンダーとセクシュアリティを考える: その多様性	ジェンダー、性自認、性的指向
3	ジェンダーと越境(1): トランスジェンダーと性同一性障害	性自認、自己定義権
4	ジェンダーと越境(2): 性同一性障害の医療と法制度	性別適合手術、「性同一性障害」特例法
5	ジェンダーと越境(3): 国家の身体管理	性別二元論、戸籍制度
6	女性解放のあゆみ(1): 北米を中心に	参政権運動、第二波フェミニズム
7	女性解放のあゆみ(2): 日本を中心に	ウーマン・リブ、「男女共同参画社会基本法」
8	性的指向とジェンダー(1): 北米の社会運動	同性愛者解放運動、コミュニティ活動、ピアサポート
9	性的指向とジェンダー(2): 日本の社会運動	府中青年の家裁判、プライドパレード、映画祭
10	性暴力(1): セクシュアル・ハラスメント	権力関係、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント
11	性暴力(2): DV、レイプ	ドメスティック・ヴァイオレンス、デートレイプ
12	性暴力(3): 性的少数者への暴力	憎悪犯罪、パッシング
13	結婚とジェンダー(1): 婚姻制度の諸問題	戸籍法、異性愛主義、天皇制
14	結婚とジェンダー(2): 同性間パートナーシップ	同居と権利、子どもとの関係、権利保障と社会
15	ジェンダーをめぐる現状と課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

疑問に思った点や、わからない部分は、積極的に、図書館やインターネットなどを使って、調べる習慣をつけてください。また、「単位だけ必要」「出席していれば通る」という考え方をもちの学生さんは歓迎いたしません。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	論述試験を実施します。授業内容の理解度と受講生自身の意見を総合して判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

大教室での講義では、受講生の方々とのコミュニケーションには限界があるとは思いますが、できる限り、レスポンスを求め、それを講義に反映させたいと思います。そのために、適宜、「コミュニケーション・カード」を書いていただきます。ご意見、質問、反論などを歓迎します。また、レジュメは、その日の講義の概要を示すにすぎないものなので、終了後に配布しません。必要な場合は、受講生同士で相談するようにしてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
21世紀のジェンダー論(改訂版)	池内靖子・二宮周平・姫岡とし子編 / 晃洋書房 / /
フェミニズム	竹村和子 / 岩波書店 / /
クエア・スタディーズ	河口和也 / 岩波書店 / /

「レズビアン」という生き方

堀江有里 / 新教出版社 / /

そのほか、講義にて適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 高橋 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会的な見地からジェンダー概念について解説した後、私たち自身の日常的なジェンダー感覚とはいかなるものなのかを様々な角度から取り上げる。

私たち自身が社会的・文化的な「思い込み」の産物であるジェンダーから隔絶した時空に生きることができないからこそ、それが「他者との出会い」の場面＝相互行為場面でどのように作用し、いかなる帰結をもたらすのかを考察することもまた必要だろうと思われる。自明視するがあまり、あまり意識することのないジェンダー実践を相対化する試みに是非とも参加して欲しい。

到達目標 / Attainment Objectives

高校で「ジェンダー」という言葉を聞いたことのある学生は、ジェンダー論を「男女平等」について学ぶ科目だと思われるかもしれないが、そうではなく、私たちが内面化したジェンダー感覚そのものを検証し、ジェンダー実践の意味を問い直したい。そういった意味で、「男女平等」先にありきの発想からの脱却はいうまでもなく、「女の人権」や「子どもの人権」、あるいは「性の自己決定権」という言葉を、社会的視座から相対化し、そのうえで自分なりの考えを組み立てられるようになって欲しい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「社会学概論」など、社会学系の基礎科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	総括的導入講義	講義の進め方、成績評価方法、約束事の確認 + 授業内容の提示
第2回	生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダー概念	男女の分類図式
第3回	生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダー	男女の分類図式
第4回	母親へのまなざし	性別役割分業
第5回	母親へのまなざし	母子カプセル
第6回	ビデオ: 生殖医療の現場で(ディスコース分析)	「幸せ」な家族像
第7回	ジェンダー・アイデンティティの実践	「男らしさ」・「女らしさ」
第8回	ジェンダー・アイデンティティの実践	「男らしさ」・「女らしさ」
第9回	ビデオに身体技法を学ぶ	身体技法
第10回	性同一性障害とは	相互行為論
第11回	性同一性障害とは	相互行為論
第12回	性の自己決定権はどこまで認められるのか?	制度的再帰性
第13回	「アクション」を起こせ	戦略
第14回	ジェンダー・フリーの射程	「私」らしさ
第15回	総括 + 最終講義日試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	50 %	
平常点(日常的)	50 %	講義期間中にレポート課題を与える

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義のはじめにレジュメを配布しますが、後日再配布することはありませんので、遅刻した学生は講義後にレジュメを受け取るようにしてください。

レポート課題については講義内に説明しますが、体裁・提出期限・提出先・提出方法が守られていないものに関しては全て未提出扱い(0点)にし、最終講義日試験の受験資格を認めません。(また課題に関する説明を聞いていなかったという理由は、疾病など診断書がある場合を除いて原則的に例外を認めません。)

レポート課題に不正行為が認められた場合も 同様に扱います。

講義を妨げるような私語を繰り返す学生には退室を求め、成績評価から5点マイナスします。

携帯電話の使用はメールを含め禁止し 同様に扱います。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『性同一性障害 性転換の朝』

吉永みち子 / 集英社新書 / ISBN4-08-720020-5 /

『性同一性障害と性のあり方 性転換手術は許されるのか』

山内俊雄 / 明石書店 / ISBN4-7503-1210-X /

『中絶論争とアメリカ社会 身体をめぐる戦争』

荻野美穂 / 岩波書店 / ISBN4-00-023807-8 /

『21世紀家族へ(新版)』

落合恵美子 / ゆうひかく選書 / ISBN4-641-18294-9 /

その他の参考文献は講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

宗教と社会 GA

16038

担当者名 / Instructor 磯貝 健一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

中央アジア地域---主に現在のウズベキスタン領---におけるイスラーム教と国家、社会の関係を、歴史的に解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

イスラーム教を基盤として形成される社会の在り方を具体的に理解できるようになることが本講義の目標となる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イスラームと国家 ---原初のムスリム国家	預言者、カリフ、信仰共同体
2	イスラームと国家 ---イスラーム法とは？	イスラーム法、法と国家
3	イスラームと国家 ---イスラーム法における君主の在り方	イスラーム法、君主、支配者の類型
4	中央アジア史における宗教と国家 ---法学者と国家	イスラーム法学者、ウラマー、世俗権力
5	中央アジア史における宗教と国家 ---君主と法学者の共存	イスラーム法学者、ウラマー、世俗権力
6	中央アジア史における宗教と国家 ---政策を正当化する根拠	イスラーム法、世俗権力、法と支配
7	中央アジア史における宗教と国家 ---聖者、民衆、支配者	イスラーム神秘主義、聖者、聖と俗
8	イスラーム法が規定する社会システム ---公共の福利	寄進システム、公共性
9	イスラーム法が規定する社会システム ---死地とその蘇生	開墾、公共性
10	イスラーム法が規定する社会システム ---イスラーム法における税制	租税制度
11	現代ウズベキスタンとイスラーム ---ウズベキスタン史概観	ウズベキスタン、旧ソ連、中央アジア、民族、言語
12	現代ウズベキスタンとイスラーム ---ソ連崩壊と民族国家のアイデンティティ	旧ソ連、民族国家、国民意識
13	現代ウズベキスタンとイスラーム ---自民族史の再構築	「歴史」の構築、社会主義、民族主義
14	現代ウズベキスタンとイスラーム ---過激派の出現	イスラーム原理主義、上海協力機構

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

講義中に提示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	ほぼ期末試験の成績のみで評価する。
平常点(日常的)	10 %	受講態度が目に見える者についてのみ、減点する。

出席はとらないので、積極的に受講したいという意志のある者のみ講義に参加すること。また、期末試験の評価は相当厳しいので、その旨了解した上で受講すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特にない。

教科書 / Textbooks

講義中に配布するレジュメを教科書とする。

参考書 / Reference Books

講義中に適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

人間性と倫理 S

15491

担当者名 / Instructor 門屋 秀一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「どのようにすれば人間は善く生きることができるのか」ということを永遠の根本問題にする倫理学について、その基礎的な知識と考え方を初学者・入門者向けになるべく平易に説明し、学生諸君の教養豊かな人格の形成に資するつもりである。そのさい各テーマに関連のある西洋美術の名作をイコノグラフィカルな観点から多数補足的に用いることにする。というのも西欧の美術と思想は密接に連関していると思われるからである。ところで、倫理学には新しい分野として応用倫理学もあるけれども、本講義ではその根底、あるいはむしろ人間性そのものの根底を研究した、いわゆる伝統的古典的な倫理学(プラトン、アリストテレス、カント、ヘーゲル)を取り上げる。こうした論証方法を検討することによって人間にとって根本的な思考のあり方とはいかなるものか、理論の構築術とはどうあるべきか、を概説する。

到達目標 / Attainment Objectives

善悪の区別にもとづいた実践としての倫理は大学生諸君にとってもうすでに習得済みの事柄であるから、大学教育であらためて德育を行おうとは思わない。これに対して、学問としての倫理学とはこれまで諸君が体得している道徳的事実を整理し、秩序付け、体系化することである。自分の過去の経験を踏まえて、卓越した倫理学者たちの学説を学ぶことによって、揺るぎない自己の人格を確立すれば、将来の実社会において倫理的、道義的にさほど間違った轍を踏むことは決してないであろう。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高校で倫理を履修していなくても支障ないように配慮している。また履修済みであっても大学生の教養として十分な内容としている。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	倫理学の始まり(1)	ソクラテス 「～とは」の問い
2	倫理学の始まり(2)	ソクラテスの正義
3	倫理学の確立(1)	万学の祖アリストテレス
4	倫理学の確立(2)	幸福論
5	善と芸術(1)	芸術と美術
6	善と芸術(2)	芸術と哲学 芸術と真理 芸術美と自然美
7	善と芸術(3)	芸術模倣論
8	善と美(1)	東洋の言語における善美
9	善と美(2)	二つの愛 美から善へ
10	善と真理(1)	相対主義 絶対主義
11	善と真理(2)	万物の尺度は人間である
12	善と快楽	本性に従って生きる 快楽主義 禁欲主義
13	善と崇高	快適 美 善 崇高
14	善と有用(1)	倫理と幸福
15	善と有用(2)	倫理と幸福

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業外学習は特に指示しない

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	記述式。持ち込みは不可。試験前における程度の情報は開示。
平常点(日常的)	50 %	出席要件を満たした上で、毎回時間内に書いて提出する日常的な小レポートを提出した場合のみ成績評価の対象とし、単に出席の痕跡を残しただけの、所謂「出席点」の場合、加点は一切行わないので注意するように。二次元バーコード(QRコード)持参のこと。

追加点希望者は講義最終日まで、講義に関連したテーマで小レポートを提出のこと。講義内でも指示する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
エチカとは何か	有福孝岳編、門屋秀一他 / ナカニシヤ出版 / 4888485208 / なるべく購入
形而上学の克服	シュヴァイドラー著・門屋他訳 / 晃洋書房 / 4771016585 / 購入必須ではない
カント第三批判と反省的主観性	門屋秀一 / 京都大学学術出版会 / 487698428X / 購入必須ではない

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 土屋 敬二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

哲学が問題としてきたこと

哲学はさまざまなことを問題としてきましたが、自己と社会、そして両者の関係をも問題としてきました。この講義では、古代、近代、現代とそれを分けて考察しつつ、そこにあおうかがわれる人間の可能性について探ってみたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・自己と社会について考える。
- ・哲学史の基礎的な知識を身につける。
- ・抽象的、論理的に思考する力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

西洋思想史に関連した科目を履修しておくことと理解が深まります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	概観 哲学とは何か	
2	古代 1、ソクラテス よく生きること=正しく生きること 『ソクラテスの弁明』、『クリトン』(プラトン)を読む	「善く生きることと美しく生きることと正しく生きることとは同じだということ」
3	2、プラトン 魂の三分説と国家の三階級説 『国家』を読む	国家は大型の人間、人間は小型の国家である
4	3、アリストテレス ポリス的存在としての人間	「ゾーン・ポリティコン」=ポリスの動物としての人間
5	近代 1、デカルト 近代的自我の確立 『方法序説』を読む	「私は考える、ゆえに私はある」というこの真理は、懐疑論者のどのような法外な想定によってもゆり動かしえぬほど、堅固な確実なものである」
6	2、ホッブズ a、欲望存在としての人間と自然状態=戦争状態	「社会状態の外ではつねに各人対各人の戦争状態が存在する」
7	b、社会契約によるリヴァイアサンとしての国家の成立 『リヴァイアサン』を読む	「信約は剣なくしては単なる言葉にすぎず、人々を保護する力をまったくもたないのである」
8	3、カント 道徳法則と自由	「道徳法則は自由の認識根拠である」
9	4、ヘーゲル 近代において分裂した個と全体の統一をめざして	最高の共同は最高の自由である
10	5、マルクス 共産主義の歴史的意義	「労働の生産物が彼に属さず、疎遠な力として彼に對立しているならば、そのことはただ、この生産物が労働者以外の他の人間に属するということによってのみ可能である」
11	現代 1、ニーチェ ヨーロッパの精神の総体的批判 『この人を見よ』、『力への意志』を読む	「真理への意志は単に恒常なるものの世界に入りたいという要望にすぎない」
12	2、ボードリヤール 消費・情報化社会と人間 『消費社会の神話と構造』を読む	「人々は決してモノ自体を(その使用価値において)消費することはない」
13	2、近代的システムについて a、ルーマンの社会システム理論	近代の諸システムが分化した社会においては、「ある『核心』またはある『主体』へと向かっていく世界概念の伝統的な中心化」は解消する。
14	b、ハーバーマスのコミュニケーション的行為の理論	「生活世界から発せられるインパルスが機能システムの自己制御に流れ込むようにしなければならない」
15	総括 現在哲学が問題としなければならないこと	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

哲学にはさまざまな角度から入ることができます。それぞれの関心に応じて哲学に関連した書物を読むように心がけて下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義をいかに理解しているか、そしてそれをいかに文章化しているかを中心に評価します。
平常点(日常的)	20 %	講義に関連して1、2度小レポートを書いてもらいます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

哲学者たちの基本的な思想を押えるように心がけて下さい。3回に1回質問ペーパーを配布します。出席のほか、質問の方も心がけて下さい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
使用しません。	／ ／ ／

教科書は使用ませんが、原典その他のプリントを教科書代わりとします。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『西洋哲学史』	岩崎武雄 / 有斐閣 / / 定評ある西洋哲学史の解説書です。
『はじめての哲学史』	竹田青嗣他 / 有斐閣 / / 書名通りはじめての人のための哲学史の解説書です。
『自由主義の再検討』	藤原保信 / 岩波書店 / / 自由主義を歴史的に考察したものです。
『ヨーロッパ社会思想史』	山脇直司 / 東京大学出版会 / / 古代から現代までヨーロッパの社会思想の展開をわかりやすく解説したものです。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

メンタルヘルス GA

13127

担当者名 / Instructor 徳田 完二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業ではメンタルヘルス(心の健康)について、さまざまな側面からとりあげる。具体的には、心の成り立ちや仕組み、その成長と発達、心の問題とそれに対する心理的援助、心の健康を保つ工夫などが主要なテーマとなる。これらの問題を「自分のこと」としてとらえることが要請されるため、この授業には多かれ少なかれ「自分と向き合う」という面がある。受講生の理解度に応じて授業の進度が多少変動する可能性がある。

到達目標 / Attainment Objectives

自分を含めた人の心について理解を深めること、また、その理解を基礎に自分や人の心の健康を保つ工夫がある程度できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	メンタルヘルスとは	メンタルヘルス
第2回	こころのメカニズム(不安・葛藤・防衛)	意識と無意識、コンプレックス、防衛機制
第3回	青年期の心理	心の発達、青年期、イニシエーション、自我同一性
第4回	対人関係の心理	大学生のメンタルヘルス、対人恐怖
第5回	「適応する」ということ	外的適応、内的適応
第6回	さまざまな「こころの病」	神経症、精神病、心身症、人格障害
第7回	心理測定	質問紙法と投影法
第8回	心理療法	カウンセリング、ロジャーズ
第9回	心理療法	行動療法、認知行動療法、イメージ療法
第10回	第10回「症状」に繋がるこころの動き	症状の意味
第11回	第11回「症状」の変化・治療におけるこころの動き	心理療法のプロセス
第12回	第12回コミュニケーションスキル	コミュニケーションスキル
第13回	第13回ストレスコーピング	ストレス、コーピング、リラクセーション
第14回	第14回病気とパーソナリティ	病前性格
第15回	振り返りと総括	グループ討議、総括レポート

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業の中で、授業内容の理解を深めるのに役立つと思われる図書(主として一般読者向けに書かれた啓蒙書・教養書)を適宜紹介する。それらを中心に自主的、自発的に関連図書を読むよう薦める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	50 %	最終授業日の一部を使い、自分の学びの総括を文章化させ、授業で取り上げたテーマについての理解度を測る。
平常点(日常的)	50 %	授業期間中に、授業で取り上げたテーマに関わる小レポートを課し、自主的学習態度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自分を振り返るきっかけになることを期待する。

教科書 / Textbooks

使用しない。

参考書 / Reference Books

授業の進度にあわせて適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メンタルヘルス GB

13230

担当者名 / Instructor 徳田 完二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業ではメンタルヘルス(心の健康)について、さまざまな側面からとりあげる。具体的には、心の成り立ちや仕組み、その成長と発達、心の問題とそれに対する心理的援助、心の健康を保つ工夫などが主要なテーマとなる。これらの問題を「自分のこと」としてとらえることが要請されるため、この授業には多かれ少なかれ「自分と向き合う」という面がある。

到達目標 / Attainment Objectives

自分を含めた人の心について理解を深めること、また、その理解を基礎に自分や人の心の健康を保つ工夫がある程度できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	メンタルヘルスとは	メンタルヘルス
第2回	こころのメカニズム(不安・葛藤・防衛)	意識と無意識、コンプレックス、防衛機制
第3回	青年期の心理	心の発達、青年期、イニシエーション、自我同一性
第4回	対人関係の心理	大学生のメンタルヘルス、対人恐怖
第5回	「適応する」ということ	外的適応、内的適応
第6回	さまざまな「こころの病」	神経症、精神病、心身症、人格障害
第7回	心理測定	質問紙法と投影法
第8回	心理療法	カウンセリング、ロジャーズ
第9回	心理療法	行動療法、認知行動療法、イメージ療法
第10回	「症状」に繋がるこころの動き	症状の意味
第11回	「症状」の変化・治療におけるこころの動き	心理療法のプロセス
第12回	コミュニケーションスキル	コミュニケーションスキル
第13回	ストレスコーピング	ストレス、コーピング、リラクゼーション
第14回	病気とパーソナリティ	病前性格
第15回	振り返りと総括	グループ討議、総括レポート

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業の中で、授業内容の理解を深めるのに役立つと思われる図書(主として一般読者向けに書かれた啓蒙書・教養書)を適宜紹介する。それらを中心に自主的、自発的に関連図書を読むよう薦める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	50 %	最終授業日の一部を使い、自分の学びの総括を文章化させ、授業で取り上げたテーマについての理解度を測る。
平常点(日常的)	50 %	授業期間中に、授業で取り上げたテーマに関わる小レポートを課し、自主的学習態度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自分を振り返るきっかけになることを期待する。

教科書 / Textbooks

使用しない。

参考書 / Reference Books

授業の進度にあわせて適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

論理と思考 S

13024

担当者名 / Instructor 高木 敏美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

命題論理及び一階の述語論理を取り上げる。
現代論理学が、言語・思考・論理を対象化する際の基本的枠組み、及び様々なテクニックを紹介する

到達目標 / Attainment Objectives

・記号化を通じて、言語表現の多様性を識別しその論理を辿り、さらに自ら展開できる。
・各種資格試験、及び適正試験問題中の<推理、判断>に適切に対処できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義への導入と概要	論証
第2回	日常言語での論証-1	論証の妥当性
第3回	日常言語での論証-2	論証の妥当性
第4回	日本語と論理	記号化
第5回	真理関数的論理・・・命題論理-1	真理値
第6回	真理関数的論理・・・命題論理-2	トートロジー
第7回	意味論と構文論(公理系)	記号、意味、世界
第8回	公理系・・・その導入	規則に従う
第9回	一般性・・・述語論理-1	全て、～が在る
第10回	一般性・・・述語論理-2	ヴェン図
第11回	関係	多重量化
第12回	複雑な関係	同一性
第13回	様々な問題-1	過去問
第14回	様々な問題-2	実践へ
第15回	総括講義	目標到達の確認

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	各回で取り上げた基本問題や概念についてきちんと理解できているかどうかを評価する。
平常点(日常的)	30 %	毎回の授業終了後に、授業内容の理解度を確認する小テストを実施する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

プリントを使用する。

参考書 / Reference Books

適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 小川 丈治

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

古語辞典には「影像」だけで「映像」の文字はありません。「映像」という造語は1896年(明治29年)日本に映画技術が紹介されて以降に登場しました。今では写真、映画、テレビ、アニメ、CG等「他の物の表面に映った物の形・姿」を表す言葉として使われています。映像の知識とこれを駆使する能力を伝授します。

なお、講義内容は前期・後期、各クラス共基本は同じですが、受講生の反応をみて多少修正する事があります。

到達目標 / Attainment Objectives

普段何気なく見て楽しんでいるテレビも映画も、学問的に分析していくと随分奥が深いことを、講義を通して実感、理解してもらうこと。そして映像との接し方を考え直す機会にしてみられれば結構です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前に履修してほしい科目はありません。但し、講義には心理学や言語学に関係した話が何度かあります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講師の自画像(VIDEO)	講師の生い立ちをビデオで自伝風に描きながら、映像(学)と講師との関わりを説明します。まずは映像を使って諸君に御挨拶を!
第2回	「映像の時代」の意味	映像という言葉が出現したいきさつを探ると共に、「現代は映像の時代である」と言われる所以(ゆえん)をメディアの今昔を比較して浮き彫りにします。いくなれば映像論序説です。
第3回	歴史 - 絵画から写真へ	以後3回の講義で映像誕生までの足跡をたどります。絵画の歴史を振り返ると、画家が正確な絵を描く工夫を重ねていくうちに、静止画像(写真)を写すカメラが発明されたことが判ります。
第4回	歴史 - 動く映像の発明	絵画や写真を動かしてみたいという人間の遊び心が、動く映像(映画)を生み出しました。映画が生まれるまでの人間の様々な営みをビデオでふりかえります。
第5回	歴史 - 初期の映画	初期の幼稚で短い映像の数々を見ることで、映画誕生から110年有余を経た現代の映像表現技術の進展ぶりが実感できます。
第6回	映像認知の仕組み	ここから3回は映像の特性を考察します。まずは、「人間にとっての何が見え、わかるとはどういうことなのか」を認知心理学の研究を基に説明します。
第7回	脳の中の映像と言語	神経心理学の研究を援用しながら「言葉と映像が脳の中でどう処理されているか」その仕組みを解説します。
第8回	映像と言語の比較	記号論を基に「映像と言語の性質の類似と違い」を明らかにします。
第9回	映像表現法1(撮影)	以後2回は映像表現の初歩的技法の講義です。今回はレンズの種類やカメラの動かし方(camera work)等、撮影技法について説明します。
第10回	映像表現法2(編集)	撮影より前の作業として必要な「台本(scenario シナリオ)の作成」や「映像のカット割り(decoupage デクーパージュ)」それに撮影後の作業としての「編集(montage モンターージュ)」について解説します。
第11回	ナチスと映画	これより3回は映像が社会に及ぼしてきた負の側面(弊害)について言及します。まず映画によってドイツ国民を破局に導いたナチス・ドイツの例を検証します。
第12回	嘘つき映像の歴史	「写っているから事実だ」と思いがちな人々の映像信仰を逆にとり、映画誕生当初から、虚偽映像の数々が観客を欺いてきました。過去の事例をフィルムで見ます。
第13回	米国政治とTV	現代アメリカの政治コマーシャルの制作理念とそれが民主政治を歪めている現実をドキュメンタリー番組で見えます。
第14回	映像との付き合い方	講義のまとめとして、今後私たちは映像とどう接すれば良いかを考えます。

第15回

補遺 (質問に答え、講義の理解度を確認する)

講義時に受講者が提出したコミュニケーションペーパーをもとに、講義で理解が難しかった箇所や疑問点を取り上げ補充説明を行い、さらに質疑応答形式で理解を深めてもらう。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

興味がわけば関連の参考書を何冊かピックアップして読んでください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	授業で得た「映像」に関する知識と諸君のこれまでの体験を元に、君独自の < 考え > を構築して書くこと。表現が下手でも君の頭脳のぬくもりが感じられるものを評価します。
平常点(日常的)	30 %	不定期に5回、講義時にコミュニケーションペーパー形式で講義について感想(関心を持った点、疑問点、批判、提言等)を書いてもらい、授業への積極的参加の度合いをはかる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

将来広告や放送業界を目指す人は是非受講してください。毎回プリントを配布、ビデオ教材を沢山上映します。出席してビデオを見ることが大切です。講師は元TVディレクター。南米ペルー滞在3年。

教科書 / Textbooks

テキストは使わない

参考書 / Reference Books

参考図書は授業初回時に紹介。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

観光学 GA

16331

担当者名 / Instructor 小松原 尚

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

観光学には様々な学問分野がかかわっている。

本講義ではこれまで担当者がかかわってきた観光地に関する事例をも踏まえつつ、地理学の視点から観光学へのアプローチを紹介する。可能な限り、具体例をあげ、映像教材も利用しつつ、近年の地域構造の再編と観光とのかかわりについて考察してみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

この講義の受講者は、

1. 地図や文字情報を使い、観光地に関する知識を深める。
2. 地形や気候の違いによる観光地の特徴を理解する。
3. 個別地域の産業の発展と観光とのかかわりを考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ツーリズム学概論、 、ツーリズム学実習、
地理・地域科学にかかわる科目
サービス産業に関する科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	充実した授業を実現し、優れた成績評価を獲得するために	通常点(ワークシート)、特別点(Sレポート、Pレポート)
2	マクロレベルの観光客流動構造(7-20) ()内の数字はテキスト参照頁、以下同様	日本国内圏域間流動、来道観光客流動パターン、訪日観光客
3	観光資源の季節性と都市的要素(21-38)	観光客入込み数、自然観光資源、観光客の増減
4	自然公園の観光的利用(38-49)	釧路湿原、個人旅行、利用形態
5	ミクロレベルの観光客流動構造(49-53)	展望台系観光拠点、利用者流動パターン、日帰りドライブ
6	交通変革の進展と観光(54-59)	モータリゼーション、ジャンボジェット、リゾート
7	自家用車の普及と自然観光資源の利用(59-64)	オートツーリズム、マイカー、家族旅行
8	河川と沿岸域の観光・レクリエーション利用(64-78)	沖積平野の土地利用、河川改修、港湾の親水機能
9	大都市圏港湾地域の再生とレクリエーション機能(78-87)	ウォーターフロント開発、構造不況と用地用途創造、2大都市圏
10	情報通信技術の発達と観光地(87-98)	大都市圏、情報技術革新、奈良観光のイメージ
11	農業生産と観光とのかかわり(99-112)	産業遺産観光、限界地の開拓、スキー観光と農産物
12	農山村における観光振興の課題(112-117)	エコ・ツーリズム、アクセス2時間圏、人的流動構造と観光
13	都市圏の観光・レクリエーション機能と山間地域(117-127)	多自然居住地域、日帰り観光圏、宿泊観光地
14	山間地域のイメージと観光への取組み(127-140)	十津川村、奈良観光軸、国民保養温泉地
15	観光学講義の総復習、自学自修の成果と課題の確認	自己点検、試験対策、特別点成績素材

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

研究会への参加、展示施設の見学など、講義時間外の学修活動も奨励する。

そして、その成果をSレポートとして受け付ける。その要領は講義の中でお知らせする。

さらに、学外での実習や対外試合のリポートも工夫次第で特別点の対象となる。

また、参考書を使った自主的な勉強についても、Pレポートとして成績評価に組み入れる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	6 %	10点満点、講義内容を踏まえ試験勉強していれば必ずできる問題内容
平常点(日常的)	94 %	講義時間ごとに提出を求めるワークシートの得点、毎回10点満点
<p>・成績評価方法</p> <p>各自の得点の合計が以下の式で算出した合格最低点(B値)を上回れば単位を認定する。 $B = 1/2X + 2/3Y$ ただし、X:定期試験の満点の値 Y:ワークシートの満点の合計値</p> <p>・100点法への換算方法は講義時間中に説明する。</p> <p>・成績評価は「通常点」を基本とするが、発展的な学修に関する「特別点」もある。後者については提出は任意であるが、内容の完成度を評価し、得点に加算する。</p>		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義への出席は当然のことであるから出席点はない。したがって、席を占めているだけでは評価の対象にはならない。
 目標の成績に到達するには「通常点」と「特別点」の構成を受講者の自己責任で編成され、努力の成果を結実されたい。
 公認欠席についても対象者は「特別点」をもって対応することで解消可能である。

教科書 / Textbooks

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
地域からみる観光学	小松原尚 / 大学教育出版 / 9784887307780 / 定価1,800円(税別)

教科書は2回目の講義から毎時間使用する。
 必ず購入の上、教室に持参されたい。
 ワークシートの作成にも使う。
 地図帳は以下のものを必携教材として使用するの、準備されたい。
 二宮書店編集部[編]『詳解現代地図』(二宮書店)2008年

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
E・M・ブルーナー観光と文化/旅の民族誌	安村克己ほか訳 / 学文社 / 978-4-7620-1694-3 / 定価本体3,900円(税別)
アジア市場のコンテクスト東南アジア編	川端基夫 / 新評論 / 4-7948-0677-9 / 定価本体2,200円(税別)
総合的現象としての観光	江口信清 / 晃洋書房 / 4-7710-1641-0 / 定価本体2,000円(税別)

特別点の課題図書として使用する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 藤村 健一、加藤 政洋、瀬戸 寿一、三枝 暁子、奈良 勝司、藤巻 正己、片平 博文、吉越 昭久、河原 典史、生田 真人、佐古 愛己、河角 龍典 単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本科目は京都をテキストとして、歴史・地理・文学を中心に社会・経済・建築などさまざまな側面から学際的にアプローチし、京都の個性や地域性を総合的に理解する。講義は各専門分野の立場からリレー方式で行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

「京都」を多面的重層的にとらえ、他者に語る事ができる。
自ら「京都」をフィールドワークし、そのフィールド経験を通じて、自身にとっての「京都」を他者に語る事ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本年度より教養科目として開講される「京都歴史回廊概論」の履修を推奨する(ただし受講制限あり)。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「立命館京都学」の創成 (藤巻正己)	立命館京都学、新たな京都学
第2回	平安京の環境史 (河角龍典)	平安京、環境考古学、環境史
第3回	平安京の都市化と文化 - 平安前・中期の京都の姿 - (佐古愛己)	平安京、人口集中、疫病の蔓延、治安の悪化、穢れ意識、怨霊、物の怪
第4回	紅蓮の炎に包まれてきた都 - 平安京の火災 - (片平博文)	平安京、火災
第5回	宗教都市京都(1) (藤村健一)	宗教都市
第6回	宗教都市京都(2) (藤村健一)	宗教都市
第7回	京都の庭園を探る 系譜とその風景 (瀬戸寿一)	庭園、景観
第8回	近世における鴨川の堤防と防災 (吉越昭久)	鴨川、「寛文新堤」、洪水・治水
第9回	近代京都の挑戦 明治期における「京都策」の展開 (小山俊樹)	東京奠都(てんと)、京都策
第10回	京・花街の空間文化誌 (加藤政洋)	花街、花街イメージ、歴史地誌
第11回	金閣炎上をめぐる歴史と文学 (三枝暁子)	三島由紀夫「金閣寺」、水上勉「五番町夕霧楼」、京都文化
第12回	朝鮮に渡った京都の缶詰 (河原典史)	花街、缶詰工場、朝鮮
第13回	産業経済の特徴とまちづくり (生田真人)	関西三都、京阪神大都市圏、都市開発
第14回	都市学の攪乱 鷺田清一「京都の平熱」の(微熱的)読解と実践 (加藤政洋)	都市学、京都生活者、都市案内、鷺田清一「京都の平熱」
第15回	京都の多様な「生活世界」 (藤巻正己)	生活世界、もう一つの京都

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

「京都」をフィールドワークすることを大いに推奨します。フィールドを歩き・観察し・写真やメモをとり、時には関係施設を訪れ、地元の方々へのささやかなインタビューを通じて、現場での身体的学びを追求してみてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	所定のテーマ・方法によるレポート。詳細については備考欄参照。
平常点(日常的)	40 %	コミュニケーション・ペーパーの提出による。

最も興味をいだいた授業内容の要旨を簡潔にまとめ、さらにそれをふまえて自身のテーマを設定し、それにふさわしい参考文献を活用しつつ執筆(本文3000字以上)。
その際、執筆内容に関連する自身が撮影した風景(景観)写真を3点以上添付し、それらの写真についても概説を加える。
写真をどこで撮影したのか、撮影箇所を明示した地図を添付。
書式などについては、所定の時期に指示する。またコースツールを参照。
インターネットや文献からのカット/ペースト的記述は「不可」となるので要注意。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日頃から、自身でテーマを設け、大いに「京都」をフィールドワークすることを奨励します。
日頃のフィールドワーク経験を通して、授業内容に関連づけ、自身で「京都研究」を試みてください。

教科書 / Textbooks

とくになし。

参考書 / Reference Books

「京都本」多数あり。自身で探求してください。なお、講師の方々が、授業内容にかかわって有益な図書を推奨してくれることでしょう。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

とくになし。自身で探求してください。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 沖 裕貴

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

講義は、現代の教育の諸相と題して、学校内外の教育の諸問題について解説する。現在の子どもの実態、学力低下論争や情報化社会の影の問題、大学教育の課題、教育現場の様子などを解説し、各自の問題意識を高めたい。
大規模授業ながら、一方的に聴くのではなく、積極的に質問をし、授業に参画してほしい。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現代の教育の諸問題について、その背景や原因、検討すべき課題を指摘できる。(知識・理解)
2. 現代の教育の諸問題について、教育的な視点に基づき、解決策や対処すべき課題に関して自らの意見を述べる事ができる。(思考・判断)
3. 教育に関して興味関心を持ち、自ら調べ、考える態度を持つ。(関心・意欲・態度)

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	自己紹介、授業の到達目標・授業の進め方・成績評価方法等の説明、各回の授業概要の説明
2	現代の教育の諸相1 / 学力低下論争	学習指導要領、学力低下論の類型、データに見る学力の変遷、ゆとり教育の検証
3	現代の教育の諸相2 / 教授・学習理論	経験主義・行動主義・構成主義の教授・学習理論、カリキュラム開発の類型
4	現代の教育の諸相3 / 立命館小学校の実践	立命館小学校、百マス計算、モジュールタイム、学習者中心主義
5	現代の教育の諸相4 / 現代の若者像	データに見る現代の若者像、若者像に関する識者の意見、若者像の変貌はゆとり教育が原因か？
6	現代の教育の諸相5 / 情報社会の影(1)	情報社会で子どもたちを待ち受ける罠、コンピュータ・ゲーム、観察学習理論・脱感作理論、認知的発達への阻
7	現代の教育の諸相6 / 情報社会の影(2)	コミュニケーションの在り方を巡る罠、情報モラルや情報犯罪に関わる罠、親や教師の知らない世界 - ホームペ、ネットいじめ -
8	現代の教育の諸相7 / 命の教育を考える	豚のPちゃんと32人の小学生、総合的な学習の時間、構成主義の授業設計
9	現代の教育の諸相8 / 教育の目的と評価	教育目標分類学(B.S.Bloom)、目標類型と目標領域(梶田観一)、目標に準拠した評価、ルーブリック評価、ポートフォリオ評価
10	現代の教育の諸相9 / 現代の大学事情(1)	立命館大学の沿革、歴史、特色
11	現代の教育の諸相10 / 現代の大学事情(2)	現代の大学を巡る国内外の状況、教育の質の保証
12	現代の教育の諸相11 / 格差問題を考える	階層化や格差の進行は本当か、ニートは本当に増えているか、教育の格差問題の原因
13	現代の教育の諸相12 / 教育の現場と課題(1)	要求する親・問われる教師、モンスターペアレント、学校と教師の対応
14	現代の教育の諸相13 / 教育の現場と課題(2)	それでも教師はやり甲斐のある職業、現場の先生の生の声(ゲストスピーカ)
15	現代の教育の諸相14 / まとめ	これまでの講義を振り返り、受講生の小レポートを紹介しながらまとめを行う。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	44 %	現代の教育の諸相1～14に関して、一つもしくは複合的なテーマについて、複数の文献に当たり、多角的に考察し、自らの意見を述べる。 (注意) 自らの意見と引用、参考にした意見とが区別できるよう、引用・参考部分にアンダーラインを引き、文末に出典を必ず明記してください。 小レポートよりも深く多面的に考察したものを求めますので、かなり厳しい採点をする予定です。

平常点(日常的) 56% 毎回の授業の終わりにその日のテーマに関して小レポートを提出(A4一枚、4点×14回=56%)。

レポート試験を1回実施する(44点満点)。また、小レポート(各4点満点×14回=56点)の書き方については、単なる授業の感想ではなく、授業で指示した設問に対する回答や、毎回の授業の到達目標の達成度など、授業に主体的に参加していなければ答えられない内容とする。この点については第1回目の授業で詳しく説明する。なお、小レポートにはQRコードを必ず添付すること。添付していない小レポートは1点減点とする。

毎回の小レポートの結果は、翌週までにコースツールで確認できるようにする。また、授業で配付した資料もコースツールから取得できるようにするので、毎時確認していただきたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

下記参考書及び毎回の授業で、その日の内容に関して参考図書、参考URLを紹介する。興味ある内容に関してそれらを参考に深めてほしい。特にレポート試験には、毎回の小レポートと日々の文献研究で深めたテーマに関してより多角的、発展的な論述を求める。付け焼き刃では間に合わないので、毎回の授業を真剣に聴くとともに、積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習を進めてほしい。

なお、本授業は(教)教育方法論の内容と一部重複するところがあるので、教育方法論をとる予定の人は別の教員の教育方法論をとることをお勧めする。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。必要な資料は適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
必携! 相互理解を深めるコミュニケーション実践学	林徳治・沖裕貴 / ぎょうせい / 978-4-324-08141-9 C3036 /
仮想現実と子どもたちの心	沖裕貴 / 久美株式会社 / 4-907757-53-0 C3037 /
テレビゲームと子どもの心	坂元章 / メモタル出版 / 4-89595-463-3 C0077 /
脳内汚染	岡田尊司 / 文藝春秋 / 4-16-367840-9 C0095 /
ゲーム脳の恐怖	森昭雄 / 生活人新書 / 4-14-088036-8 C0237 /
メディアと暴力	佐々木輝美 / 勤草書房 / 4-326-60110-8 C3036 /
階層化日本と教育危機	荻谷剛彦 / 有心堂 / 4-8420-8525 C3037 /
大衆教育社会のゆくえ	荻谷剛彦 / 中公新書 / 4-12-101249-6 C1237 /
不平等社会日本	佐藤俊樹 / 中公新書 / 4-12-101537-1 C1236 /
下流社会	三浦展 / 光文社新書 / 4-334-03321-0 C0236 /
就職がこわい	香山リカ / 講談社 / 4-06-212269 C0095 /
オレ様化する子どもたち	諏訪哲二 / 中公新書 / 4-12-150171-3 C1236 /
他人を見下す若者たち	速水敏彦 / 講談社現代新書 / 4-06-149827-4 C0211 /
「学び」から逃走する子どもたち	佐藤学 / 岩波ブックレットNo.524 / 4-00-009224-3 C0336 /
豚のPちゃんと32人の小学生	黒田恭史 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03833-5 C3037 /
「学力低下」の実態	荻谷剛彦・志水宏吉他 / 岩波ブックレットNo.578 / 4-00-009278-2 C0336 /
公立小学校の挑戦「力のある学校」とはなにか	志水宏吉 / 岩波ブックレットNo.611 / 4-00-009311-8 C0336 /
なぜフィンランドの子どもたちは「学力」が高いか	教育科学研究会編 / 国土社 / 4-337-46025 C3037 /
フィンランドに学ぶ教育と学力	庄井良信・中嶋博 / 明石書店 / 978-4-7503-2164-6 C0337 /
ゆとり教育が日本を滅ぼす	櫻井よしこ・宮川俊彦 / ワック出版 / 4-89831-528-3 C0234 /
学力低下を克服する本	陰山英男・小河勝 / 文春文庫 / 4-16-771716-6 C0195 /
立命館小学校メロッド	深谷圭助 / 宝島社 / 4-7966-5521-2 C0041 /
格差時代を生き抜く教育	寺脇研 / KTC中央出版 / 4-87758-506-0 C0037 /
学校文化の比較社会学 - 日本とイギリスの中等教育	志水宏吉 / 東京大学出版会 / 4-13-056205-3 C3037 /
格差社会 何が問題なのか	橋木俊昭 / 岩波新書 / 4-00-431033-4 C0233 /
学力を育てる	志水宏吉 / 岩波新書 / 4-00-430978-6 C0237 /
コンピュータが子どもたちの心を変える	ジェーン・ハリー / 大修館書店 / 4-469-21242-3 C3037 /
学力の社会学	荻谷剛彦・志水宏吉 / 岩波書店 / 4-00-022443-3 C0037 /
再生産	ブルデュー & パスロン / 藤原書店 / 4-938661-24-1 C1030 /
殺意をえがく子どもたち	三沢直子 / 学陽書房 / 4-313-63036-8 C0036 /
情報モラル	宮田仁 / 一橋出版 / 4-8348-2114-5 C3004 /

学力論争とはなんだったのか	山内乾史・原清治 / ミネルヴァ書房 / 4-623-04244-8 C3037 /
学力があぶない	大野晋・上野健爾 / 岩波新書 / 4-00-430712-0 C0237 /
教育改革の幻想	苅谷剛彦 / ちくま書房 / 4-480-05929-6 C0237 /
論争 格差社会	文春新書編集部編 / 文春新書 / 4-16-660522-4 C0295 /
「ニート」って言うな	本田由紀他 / 光文社新書 / 4-334-03337-7 C0236 /
「ゆとり教育」が国を滅ぼす	小堀桂一郎 / 小学館文庫 / 4-09-402636-3 C0137 /
ワーキングプア	門倉貴史 / 宝島社新書 / 4-7966-5533-6 C0236 /
若者はなぜ3年で辞めるのか	城繁幸 / 光文社新書 / 4-334-03370-9 C0234 /
現代社会と教育	堀尾輝久 / 岩波新書 / 4-00-430521-7 C0237 /
教育工学事典	日本教育工学会編 / 実教出版 / 4-407-05110-8 C3537 /
教育学小辞典	下程勇吉監修 / 法律文化社 / 4-589-00746-0 C1537 /
新・教育心理学事典	依田新監修 / 金子書房 / /
絶対評価とルーブリックの理論と実際	高浦勝義 / 黎明書房 / 4-654-01729-1 C3037 /
教育評価	梶田叡一 / 有斐閣双書 / 4-641-11226-6 C1337 /
絶対評価 < 目標標準評価 > とは何か	梶田叡一 / 小学館 / 4-09-104473-5 C9437 /
情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術	林徳治編著 / ぎょうせい / 4-324-06243-9 C3036 /
大学淘汰の時代	喜多村和之 / 中公新書 / 4-12-100965-7 C1237 /
大学の教育力	金子元久 / ちくま新書 / 978-4-480-06384-7 C0237 /
大学改革その先を読む	寺崎昌男 / 東信堂 / 978-4-88713-788-2 C3037 /
世界の大学 ハーバード	シャロン・ゾウ編著 / 成文堂 / 4-7923-9062-1 C3037 /
大学教授職とFD	有本章 / 東信堂 / 4-88713-597-1 C3037 /
二十歳の原点	高野悦子 / 新潮社 / /

上記以外にも、毎回の授業で、その分野に関する参考書を紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各種統計資料や指導、評価方法に関して、国立教育政策研究所 (<http://www.nier.go.jp/homepage/kyoutsuu/index.html>)
 各種教育統計に関して(財)日本青少年研究所 (<http://www1.odn.ne.jp/youth-study/index.htm>)
 学習指導要領等は文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>) を参照すること。

その他 / Others

遅刻はやめてください。また、特別な事情のない限り早退も認めません。私も気分が悪いですし、授業の雰囲気が悪くなります。
 また、私語は慎んでください。これは言うまでもなく、最低限のマナーです。また、私も、出来る限り分かりやすく、興味を引く授業を心がけます。
 授業に対する要望があれば、小レポートに書いてください。できることであれば、必ず次回から配慮します。

スポーツと現代社会 SA

13026

担当者名 / Instructor 山下 高行

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ここでは、いくつかの問題群を通して現代社会の中でスポーツが位置している状況を理解し、その有り様を考察すると共に、形成期に構造化された近代文化としての性格を再考することにより、今後どのような方向を目指すべきか考えることとしたい。本講義は主に低回生を対象とするが、そのことからこれまで持っていた「スポーツ」の「概念砕き」を行えるよう、さまざまなトピックを交えながら講義を進めることとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、スポーツが現代社会の中でどのような位置を占め、どのような課題が存在しているか、社会の側と、スポーツの側の双方から考察し得るための基礎的知識や考え方を学ぶことを目標とする。最終的には、現れているスポーツの様々な現象を社会科学的に考察し、それに対し明確に自己の意見を持ち得ることを目指すこととしたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要とすすめかた	現代スポーツの問題群の見取り図
2	現代スポーツの変化と問題群(1)変化の枠組み	国民国家とスポーツ、スポーツの市場的展開
3	現代スポーツの変化と問題群(2)国民国家とスポーツ	高度競技力とスポーツ
4	現代スポーツの変化と問題群(3)国家を表象するスポーツ	オリンピックとメディアイベント
5	現代スポーツの変化と問題群(4)グローバルスポーツの展開	グローバルスポーツの見取り図、商品連鎖、移民
6	現代スポーツの変化と問題群(5)スポーツ商品	グローバルな商品連鎖とスポーツ
7	現代スポーツの変化と問題群(6)移民	スポーツ労働力商品 = 移民の現状と問題
8	近代スポーツの社会史(1)	近代スポーツとはなにか
9	近代スポーツの社会史(2)	近代スポーツと担い手
10	近代スポーツの社会史(3)	中心化と周辺化
11	現代日本社会の変化とスポーツ(1)	スポーツの場という考え方
12	現代日本社会の変化とスポーツ(2)	1970年代以降地域スポーツの展開
13	現代日本社会の変化とスポーツ(3)	80年代以降の変化と産業的展開
14	現代日本社会とスポーツの場の変化(4)	Jリーグの誕生とスポーツの場の変化
15	まとめ	スポーツの場の変化と新しい担い手の登場

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

主題がより理解しやすいように、講義では可能な限り写真や映像などの視覚資料を使用する。同時に、適宜授業時間内にレポートを課し、受講生が自分の頭でまとめていくことができるようにしたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義内容の理解度、および自己の意見がきちんと作られているかを評価の基準とする
平常点(日常的)	30 %	適宜行うレポート提出により評価する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ、権力、文化	ジョン・ハーグリーブス / 不昧堂 / 4-8293-0267-4 /
スポーツと文明化	N・エリアス、E・ダニング / 法政大学出版 / 4-588-00492-1 /
近代ヨーロッパの探求、スポーツ	有賀郁敏他 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03509-3 /
スポーツ・レジャー社会学; オルターナティブの現在	D. ジェリー、J. ホーン、清野正義他編著 / 道和書院 / 4-8105-4008-1 /

上記以外、課題に応じて適宜授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.jsss.jp/> (日本スポーツ社会学会HP)

<http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html> (日本スポーツ産業学会HP)

その他 / Others

スポーツと現代社会 SB

15469

担当者名 / Instructor 川口 晋一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、スポーツを学ぶ基礎の科目として、その前半部分では基本的な概念に関わることについての理解を促し、後半では20世紀の歴史的な事実や現象について触れる中で、スポーツがどのようなもので、社会状況によってどのように変化してきたかということを考えてもらうような内容と展開で進めていく。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・スポーツを自らの経験やそこから生まれる感覚でなく、客観的に捉えられるようにする。
- ・スポーツの重要な概念を理解し、社会の中における位置や社会との関係について考えられるようにする。
- ・現在の状況や問題を分析し、説明できるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要と進め方	スポーツと社会の関係とその変遷
第2回	スポーツの基本概念(1)	スポーツを構成するもの
第3回	スポーツの基本概念(2)	スポーツにおける競争と共同
第4回	スポーツの基本概念(3)	スポーツの技術と規範
第5回	スポーツの価値(1)	思想・信条, 国家, ビジネス
第6回	スポーツの価値(2)	人間の権利, スポーツ・フォア・オール
第7回	社会におけるスポーツの問題(1)	スポーツの高度化と大衆化, アマとプロ
第8回	社会におけるスポーツの問題(2)	不正, 差別, 民主主義
第9回	社会の変化とスポーツの変化	近代スポーツから現代スポーツへ, 組織化の過程, システム
第10回	戦後復興とスポーツ・イベント	国民体育大会, 国民の統合, 共同体の創造
第11回	1960年代: スポーツの振興とテレビのスポーツ	国民の健康と体力, 東京オリンピック, プロ野球と娯楽
第12回	1970年代: 企業スポーツとコミュニティ・スポーツ	企業広告, 福利厚生, 市民のスポーツとスポーツ政策
第13回	1980年代: 産業構造の転換とスポーツ	地域スポーツの崩壊, スポーツ関連消費の増大
第14回	1990年代: Jリーグの誕生と日本のスポーツ	Jリーグ構想, スポーツシステムの改革
第15回	まとめ: スポーツと社会を学ぶために	スポーツ観: 現状と形成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基礎的な概念の理解, スポーツの社会における位置, 関係性など本質的や構造に関わる総合的分析力。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

適宜, 授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

その他 / Others

スポーツの歴史と発展 SA

13054

担当者名 / Instructor 西原 茂樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義ではスポーツを広い意味での身体運動文化ととらえ、その社会的歴史的存在としての個性を、古代から中世、近代を経て現代に至るまで、主としてヨーロッパを中心にスポーツ文化の諸相とその発展の経緯から概観していく。講義では文献資料の紹介が中心となるが、受講生の理解を促進するために、できる限り映像資料なども用いて進めていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

講義を通じて、それぞれの時代におけるスポーツ文化が当該社会の中でいかなる意味を持っていたのか、また私たちが日頃親しんでいる野球、サッカーなどの「近代スポーツ」が、19世紀のヨーロッパの社会状況からの影響をいかに強く受けて生まれてきたのかといったことを理解してもらい、そのことによって受講者のスポーツ観が一層深まることを望みたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	「スポーツ」の語源および語義の変遷、ヨーロッパと日本の土壌の違い
第2回	古代の身体運動文化(1)	未開社会のスポーツ、古代文明のスポーツ
第3回	古代の身体運動文化(2)	古代オリンピック
第4回	古代の身体運動文化(3)	古代ローマのショー・スポーツ
第5回	中世の身体運動文化(1)	貴族のスポーツ、農民のスポーツ、都市民のスポーツ
第6回	中世の身体運動文化(2)	(ビデオ鑑賞)イギリス・アシュボーンの民俗フットボール
第7回	中世の身体運動文化(3)	民俗フットボール、中世日本のスポーツ
第8回	近代スポーツの誕生(1)	近代スポーツ誕生の社会的基盤、ルールの統一と組織化
第9回	近代スポーツの誕生(2)	イギリスにおける伝統的民衆娯楽の淘汰と近代化
第10回	近代スポーツの誕生(3)	アマチュアリズムの確立、近代スポーツへの女性の参入
第11回	近代スポーツの誕生(4)	(ビデオ鑑賞)映画「炎のランナー」に見る近代スポーツの歓喜と苦悩
第12回	近代スポーツの誕生(5)	近代オリンピックの創設
第13回	近代スポーツの伝播と受容(1)	イギリススポーツの伝播過程、植民地政策とスポーツ
第14回	近代スポーツの伝播と受容(2)	アメリカスポーツの伝播過程、文化帝国主義とスポーツ
第15回	日本における近代スポーツの受容と展開	学校における近代スポーツの展開、在来スポーツの近代化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業内容全体の理解度を重視する。
平常点(日常的)	30 %	数回に一度の割合で、授業の感想・質問・要望等を授業後に書いてもらい、それを日常点として組み入れる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義では主としてヨーロッパを中心に、日本の身体運動文化や近代スポーツの受容にもふれることになるが、スポーツ文化が発展していくうえで、ヨーロッパと日本とはどのような基盤の違いが存在しているのか、そのことを常に頭の片隅に置きながら受講してもらいたい。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。講義の中で参考となり得る文献をその都度紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
図説スポーツ史	寒川恒夫 / 朝倉書店 / 4-254-69023-1 / 講義全体を通じて参照
古代オリンピック	桜井万里子、橋場弦 / 岩波書店 / 4-00-430901-8 / 古代オリンピックに関する最新の研究成果

近代スポーツの誕生

松井良明 / 講談社 / 4-06-149512-7 / イギリスにおける伝統的民衆娯楽の淘汰と近代化に関する文献

スポーツの歴史

レイモン・トマ / 白水社 / 4-560-05750-8 / 寒川恒夫「付論 日本のスポーツ」が参考となる

スポーツと帝国

アレン・ゲットマン / 昭和堂 / 4-8122-9712-5 / 近代スポーツの伝播と受容に関する文献

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツの歴史と発展 SB

15465

担当者名 / Instructor 西原 茂樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義ではスポーツを広い意味での身体運動文化ととらえ、その社会的歴史的存在としての個性を、古代から中世、近代を経て現代に至るまで、主としてヨーロッパを中心にスポーツ文化の諸相とその発展の経緯から概観していく。講義では文献資料の紹介が中心となるが、受講生の理解を促進するために、できる限り映像資料なども用いて進めていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

講義を通じて、それぞれの時代におけるスポーツ文化が当該社会の中でいかなる意味を持っていたのか、また私たちが日頃親しんでいる野球、サッカーなどの「近代スポーツ」が、19世紀のヨーロッパの社会状況からの影響をいかに強く受けて生まれてきたのかといったことを理解してもらい、そのことによって受講者のスポーツ観が一層深まることを望みたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	「スポーツ」の語源および語義の変遷、ヨーロッパと日本の土壌の違い
第2回	古代の身体運動文化(1)	未開社会のスポーツ、古代文明のスポーツ
第3回	古代の身体運動文化(2)	古代オリンピック
第4回	古代の身体運動文化(3)	古代ローマのショー・スポーツ
第5回	中世の身体運動文化(1)	貴族のスポーツ、農民のスポーツ、都市民のスポーツ
第6回	中世の身体運動文化(2)	(ビデオ鑑賞)イギリス・アシュボーンの民俗フットボール
第7回	中世の身体運動文化(3)	民俗フットボール、中世日本のスポーツ
第8回	近代スポーツの誕生(1)	近代スポーツ誕生の社会的基盤、ルールの統一と組織化
第9回	近代スポーツの誕生(2)	イギリスにおける伝統的民衆娯楽の淘汰と近代化
第10回	近代スポーツの誕生(3)	アマチュアリズムの確立、近代スポーツへの女性の参入
第11回	近代スポーツの誕生(4)	(ビデオ鑑賞)映画「炎のランナー」に見る近代スポーツの歓喜と苦悩
第12回	近代スポーツの誕生(5)	近代オリンピックの創設
第13回	近代スポーツの伝播と受容(1)	イギリススポーツの伝播過程、植民地政策とスポーツ
第14回	近代スポーツの伝播と受容(2)	アメリカスポーツの伝播過程、文化帝国主義とスポーツ
第15回	日本における近代スポーツの受容と展開	学校における近代スポーツの展開、在来スポーツの近代化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業内容全体の理解度を重視する。
平常点(日常的)	30 %	数回に一度の割合で、授業の感想・質問・要望等を授業後に書いてもらい、それを日常点として組み入れる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義では主としてヨーロッパを中心に、日本の身体運動文化や近代スポーツの受容にもふれることになるが、スポーツ文化が発展していくうえで、ヨーロッパと日本とはどのような基盤の違いが存在しているのか、そのことを常に頭の片隅に置きながら受講してもらいたい。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。講義の中で参考となり得る文献をその都度紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
図説スポーツ史	寒川恒夫 / 朝倉書店 / 4-254-69023-1 / 講義全体を通じて参照
古代オリンピック	桜井万里子、橋場弦 / 岩波書店 / 4-00-430901-8 / 古代オリンピックに関する最新の研究成果

近代スポーツの誕生

松井良明 / 講談社 / 4-06-149512-7 / イギリスにおける伝統的民衆娯楽の淘汰と近代化に関する文献

スポーツの歴史

レイモン・トマ / 白水社 / 4-560-05750-8 / 寒川恒夫「付論 日本のスポーツ」が参考となる

スポーツと帝国

アレン・ゲットマン / 昭和堂 / 4-8122-9712-5 / 近代スポーツの伝播と受容に関する文献

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

世界の言語と文化 S

10610

担当者名 / Instructor 南 裕恵、MUELLER BEATE、玉木 佳代子、久津内 一雄、山崎 信三、文 楚雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

言語習得(学習)に関わる基本的な課題と論点を整理した上で、異文化理解と多文化共生の観点から、産業社会学部で開設される初修外国語学習の動機付けをも踏まえて、言語と文化をテーマにして、講義を行う。この講義ではドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語の五つの言語とそれらの言語を話す国の文化について、それぞれリレー方式で講義する。外国語、特に初修外国語を学習する意義や目的、または、国際化の観点から、異文化理解、多言語・多文化共生、平和と民族共存などについての教養を深めて欲しい。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総論	
2	総論	
3	総論、フランス語	
4	中国語	
5	中国語	
6	中国語	
7	スペイン語	
8	スペイン語	
9	スペイン語	
10	ドイツ語	
11	ドイツ語	
12	ドイツ語	
13	朝鮮語	
14	朝鮮語	
15	朝鮮語	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

* 定期試験として実施

* 筆記試験による評価。配点は、講義内容(各論=各国語)の基礎知識の確認が六割、講義内容(総論=第一回目講義)と関連した論述が四割。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

講義時レジュメ配布。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『言語学とは何か』	田中克彦 / 岩波書店 / 4-00-430303-6 /
『ことばと国家』	田中克彦 / 岩波書店 / 4-00-420175-6 /
『多文化主義社会の到来』	関根政美 / 朝日新聞社 / 4-02-259750-X /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

美と芸術の論理 S

13018

担当者名 / Instructor 竹中 悠美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

美や芸術という、普段もっぱら感性的にとらえ、享受しているものを学問の対象として考察し、論ずるなら、どのような論理的アプローチが可能であろうか？

当科目は、まず古代ギリシアを起源とする西洋美術を研究対象とした美学や美術史学の基本的な問題意識と概念、および方法論から始める。次に19世紀半ばから20世紀半ばまでの芸術を論じたモダニズム理論を検証し、さらに私たちと同じこの時代に生み出されている現代アートが置かれている状況や、現代アートがなにをどのように表現しているのかを考察していく。また、芸術／非芸術の区分を超えた視覚文化という広い視野のもとで「美」や「芸術」という概念をとらえなおしたり、「イメージを見る」ということが文化や社会の中でどのように機能しているかを問うひとまわり大きな視点にも議論を進める。

到達目標 / Attainment Objectives

美術の歴史と様々な芸術論の基礎的知識を習得し、それを足がかりとして美や芸術について自分で考え、言葉にしていく力を身につけることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	単位が必要な学生は必ず出席しておくこと
2	様式論(1)	古代ギリシア、中世キリスト教美術、ルネサンス
3	様式論(2)	ルネサンスとバロック、ロココとロマン主義
4	意味論(1)	イコノロジーとイコノグラフィー
5	意味論(2)	マニエリスムとネーデルラント絵画
6	モダニズム論(1)	印象主義と表現主義
7	モダニズム論(2)	抽象芸術とフォーマリズム
8	中間テストと解説	
9	モダニズム論(3)	アヴァンギャルドと反芸術
10	視覚論(1)	視覚装置の発展と視覚性
11	視覚論(2)	視線の政治学
12	視覚文化論(1)	芸術と非芸術
13	視覚文化論(2)	アートのグローバリゼーション
14	視覚文化論(3)	現代アートとサブカルチャー
15	検証テストと解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	50 %	記述問題と選択問題。前もって授業中に配付する試験持込用紙のみ参照可。この試験持込用紙はレポートとして答案用紙とともに提出。
平常点(日常的)	50 %	中間期の授業で行うテスト。記述問題と選択問題。持ち込み不可。

出席は取らないが、受講生は全授業出席していることを前提としている。よって、正当な理由のない欠席・遅刻・途中退出によって授業の進行についていけなくなったり、連絡事項や試験範囲を聞き逃したりしても、フォローはないことを理解しておくこと。

また、この科目の単位が必要で、絶対に落とせないという学生は、試験の間際ではなく、必ず2回目の授業までに申し出ておくこと。授業を真面目に受けていても単位が危ぶまれる場合には相談のうえ特別なレポートを課す場合がある。もちろん、やむを得ない理由なしに欠席をしたり、出席していてもしっかりとノートを取っていない場合はそのような救済措置は行わない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

参考文献や参考ウェブサイトおよび配付資料は授業用ホームページでも公開している。

授業中に提示する画像は毎回50点以上あり、画質やサーバーの容量や著作権等々の理由により配付資料やホームページへの転載は行っていない。よって、授業中は作品画像をよく観察しながら素速くメモを取っていく集中力が要求される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

美学と現代美術の距離	金悠美 / 東信堂 / /
カラー版 西洋美術史	高階秀爾監修 / 美術出版社 / /
カラー版 20世紀美術史	末永昭和監修 / 美術出版社 / /
ヴィジュアル・カルチャー入門	ジョン・A・ウォーカー / サラ・チャップリン / 晃洋書房 / /
アートを学ぼう	大森淳史、川田都樹子、岡林洋編 / ランダムハウス講談社 / / 近刊
アートスタディ	秋庭史典・島本澆・竹中悠美・長尾浩幸・茂登山清文編 / 晃洋書房 / / 近刊
その他、授業中に紹介する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業用ホームページ <http://mypage.odn.ne.jp/home/artichoke>

その他 / Others

文化人類学入門 SA

15474

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

文化人類学の基本的考え方をその学説史を中心にして講義するとともに、文化人類学によって始められたフィールドワークの実践を、具体的な調査を基にして検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

目標は三本柱である。

- (1) 初期導入教育として、大学での学問の取り組み方についての理解とそのスキルへの自覚。
- (2) 文化人類学を中心とした社会科学の考え方の基礎を獲得すること。
- (3) フィールドワーク実践の動機づけとその方法についての理解獲得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本授業は一回生前期の授業なので、あらかじめとっておくべき授業はない。

しかしながら、「文化人類学入門」を履修した後、(あるいは履修する前でも可能であるが)文化人類学に関心のある学生ならば、「文化人類学」、「比較文化論」、及び「エスニシティ論」を履修することをすすめる。以上、四つの授業科目を履修することで、文化人類学についての知識・考え方を修得できる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	現代社会が必要とする人間と大学の役割	コミュニケーション力、フィールドワーク、学問
2	フィールドワークとは何か	コミュニケーション力、主観と客観そして観、
3	フィールドワークの方法	民族誌、マリノフスキー、異文化理解
4、5	フィールドワーク教育の事例	教師と学生の相互関係、調査からの論文作成
6	フィールドワークの実践とその効果	自己理解と他者理解、社会性の獲得
7	文化人類学の世界	文化人類学、最先端研究、異文化理解
8	人種主義との対決	単系進化、多系進化、人種
9	イギリス社会人類学	比較社会学、社会構造、フィールドワーク
10	アメリカ文化人類学	文化相対主義、ポアズ、全体的アプローチ
11	構造主義以前の文化人類学	政治性、実証主義、経験主義
12、13	構造主義の考え方とその系譜	関係性、全体性、交換性
14	構造主義以後の文化人類学	ハビトゥス、生態心理学、グローバリゼーション
15	文化人類学の学問的役割	他者理解、倫理、実践

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

教科書の読書を基本として、その延長上に参考書等の読書がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	教科書の内容理解と講義内容理解を尺度とした客観テストと論述テスト
平常点(検証テスト)	30 %	教科書の内容理解と講義内容理解を尺度とした客観テスト(日付は学生に通達する)
平常点(日常的)	10 %	出席点(日付等を決めずに、時折実施する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業で、大学の学問に目覚められるようになります。質問は、メールでも、そして個別でも受け付けます。

「求めよさらば与えられん」です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
フィールドワーク教育入門	原尻英樹 / 玉川大学出版部 / 4-472-40329-3 /
文化人類学の方法と歴史	原尻英樹 / 新幹社 / /

教科書「文化人類学の方法と歴史」は、2008年4月に出版予定なので、出版され次第、購入されたし。

参考書 / Reference Books

参考書については授業時に、随時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

「文化人類学入門」を履修した後、(あるいは履修する前でも可能であるが)文化人類学に関心のある学生ならば、「文化人類学」、「比較文化論」、及び「エスニシティ論」を履修することをすすめる。以上、四つの授業科目を履修することで、文化人類学についての知識・考え方を修得できる。

文化人類学入門 SB

13129

担当者名 / Instructor 山本 勇次

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

私は、「文化人類学入門」において、次の二点を主張したい。第一は、人間の「文化」とは本質的に「全体性」を持つものであり、その各要素の相対的なバランスの上に、健全な人間性が存立すること。第二に、人間は動物のように本能的ではないが、機械のように完全な合理性を保持するものでもない。本講義では、動物と人間、人間と機械とを多様な文化で対比しながら、人間本来の全体性を回復するための問いかけを試みたい。

到達目標 / Attainment Objectives

文化人類学を専門的に勉強したいと思うようになる人が一人でも多く出るくらいに受講生を引っ張り上げることは、この入門講座の教員としての「挑戦」なのである。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

入門コースであり、受講に必要な知識・スキルなどはまったく必要がない。現在の我々は、全ての物事を地球的規模で考える必要があり、近い将来世界のどこかへ出かけて活躍したいという願いを持っている学生さんなら心から歓迎したい。そして、諸君の進化論的の同輩であるチンパンジー等にも知的関心があれば、もっといい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義方針と講義概要:植民地化と文化人類学誕生、文化人類学の野外科学としての特徴、文化人類学的全領域	フィールドサイエンス、植民地主義、アームチェア人類学者、E.タイラー、F.ボアズ、ベトナム戦争、オリエンタリズム
2	先史人類学入門:類人猿から原人への進化、直立二足歩行で脳肥大、言語の発明、ゲノム研究とDNA進化論検証	C.ダーウィン、キリスト教世界観否定、サバンナ化、プロトホムニド、ガラパゴス諸島、ゾウガメ、イグアナ、自然淘汰
3	言語人類学入門:ギボンの言語と人間の言語の比較、音声型と機能的意味の1:1対応、組合せ二重構造、暗号	C.カーペンター、N.チョムスキー、普遍文法、無話法・多話法性、文法性の有無、音素、形態素、言語的コンピテンス
4	言語環境論入門:チンパンジーの言語学習、アシカの行動訓練、野生人の言語的文化的退行、言語発達年齢制限	ワショー、サラ、シャーマン、オースチン、カンジ、ムリカ、リンネの「野生人」、野生人ピーター、狼少女カマラ、アマラ
5	大脳生理学入門:夜行化による哺乳類生存、ノックアウト・マウス法、マシュマロテスト、ゲーム脳警告、100マス計算	ツチ骨、キヌタ骨、大脳新皮質、育児学習放棄、自己制御力、テレビ中毒症、多重人格化、早起朝飯効果、蔭山英男
6	婚姻家族論入門:結婚の成立、家族の誕生、オス・メス役割分割と性的結合、インセスタブー、限定均衡、一般均衡	ヘレン・フィッシャー、メスのセクシー化進化論、性の自家消費の禁止、オイデップス・コンプレックス、C.レビストロース
7	社会人類学入門:親族名称研究(モルガンの三体系、マードックの六体系)、結婚形態の多様な類型	L.モルガン、『古代社会』、G.マードック、イロコイ型、エスキモー型、ハワイ型、モノガミー、ポリガミー、ポリアンドリー
8	エスノグラフィーのビデオ鑑賞:『クラ(KULA)』(マリノスキーが調査したクラ儀礼の100年後の姿)	マリノスキー、『西太平洋の遠洋航海者』、トロブリアンド諸島、クラ、ギムワリ、ムワリ、ソウラヴァ、互報性の規範。
9	経済人類学入門:沈黙貿易、クラ贈与交換、「純粹贈与」論争、贈与制度から貨幣市場への大転換、互酬性の原理	K.ポラニー、M.モース、M.サーリンス、C.レビストロース、クラ、ギムワリ、ムワリ、ソウラヴァ、歳暮、中元
10	民俗生殖論入門:未開社会から現代生殖医療への教訓、人工生殖に対する各国のバイオ・エシックス的反応の相違	エミックとエテック、ジェニター、ジェネトリックス、ベイター、メイター、ゴースト・ファザー、女性花婿、代理母出産二型
11	心理人類学入門:通過儀礼、社会化、人格形成、文化とパーソナリティ、モラトリアム、IQ遺伝論争とEQ、象徴交換論	F.ヘネップ、R.ベネディクト、M.ミード、基本的性格、文化の型、G.H.ミード、主我と客我の成長、他者の役割取得
12	政治人類学入門:権力とリーダーシップ、エスニック集団、複合民族国家のエスニック紛争、マイノリティとテロ。	人種、民族、エスニック集団、経済的階層、儀礼的階層、大衆可動性、エスニック同一性、エスニック・マー
13	人種差別論入門:カースト制度の誕生、反ユダヤ主義の発生、19世紀欧州での人種主義誕生、印欧語族発見の影響	アーリヤ人、ユダヤ人、ディアスポラ、ゲットー、W.ジョーンズ、J.A.ゴビノー、ポグロム、シオニズム、ホロコースト
14	観光人類学入門:ネパールの観光都市ボカラの都市化とカースト制度の変容、フィールドワークのビデオ鑑賞。	ヒンドゥー教、カースト制度、カースト通婚、富のピラミッド、明るい貧困と暗い貧困、スクンパン(不法占拠民)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	記述式問題。テーマ毎に大きくまとめるように。 講義中に配布するレジメは持ち込み許可とする。
平常点(日常的)	30 %	毎回コミュニケーション・ペーパー配布。それに、「QRコード」を貼付け、「授業コメント」を記入して提出すれば、出席表1枚当たり2点。全出席なら30点。

授業中の私語は、他人の迷惑になるから、厳しく注意します。
授業中での脱帽。室内で男子が脱帽することは、国際的エチケットです。
授業の邪魔になるので、開始30分後の遅刻入室は遠慮して下さい！！

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

予習は不要。講義終了後に、話されたテーマにつき、大きくまとめてみるような復習を行ってください。

教科書 / Textbooks

必要な教材は毎回、プリント(レジメ)にして配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ヒトと文化	江口信清 / 八千代出版 / 4-8429-0520 /
「貧困の文化」再考	江口信清 (編) / 有斐閣 / 4-641-19938-8 /
生活世界としての「スラム」	藤巻正巳 (編) / 古今書院 / 4-7722 - 4024 - 1 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

文学と社会 S

15544

担当者名 / Instructor 村田 好哉

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

明治から大正という時代の大きな転換期とも重なり1910年代には多様な文学運動の中から多くの問題作が生まれた。本講義では時代や社会とのかかわりをふまえながら、1910年代を代表する作家やその作品について具体的に考えることを通じて理解を深め、あわせてその特色についての考察を試みたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1910年代の文学の特色を理解した上で、代表的な作家やその作品について説明することができる。あわせて自分の考えを的確に述べるができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	ガイダンス	日本近代文学を学ぶことの意義
第2回目	日本近代文学入門	日本近代文学の流れ
第3回目	白樺派の文学 1	志賀直哉 人と作品
第4回目	白樺派の文学 2	「城の崎にて」の世界
第5回目	新思潮派の文学 1	芥川龍之介 人と作品
第6回目	新思潮派の文学 2	「枯野抄」の世界
第7回目	新思潮派の文学 3	菊池寛 人と作品
第8回目	新思潮派の文学 4	「藤十郎の恋」の世界
第9回目	耽美派の文学 1	谷崎潤一郎 人と作品
第10回目	耽美派の文学 2	「刺青」の世界
第11回目	余裕派の文学 1	森鷗外 人と作品
第12回目	余裕派の文学 2	「雁」の世界
第13回目	余裕派の文学 3	夏目漱石 人と作品
第14回目	余裕派の文学 4	「道草」の世界
第15回目	まとめ	1910年代の文学の意義

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義で取り上げる作品は、できるだけ事前に読んでおくこと

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義内容の理解度と、自分の考えが論理的に述べられているか等を基準とする。
平常点(日常的)	30 %	

レポート試験の成績を主とし、小レポート・出席状況等とあわせて総合評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
1910年代の文学	玉井敬之他 / 翰林書房 / 4-87737-009-9 c0093 / 1997年

参考書 / Reference Books

講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 玉井 信吾

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本経済を支えている会社のおかれている状況を理解するためには、会社というものの全体像をつかみ、その仕組みや運営・動きを知ることが必要である。このためには、企業に関する基礎的知識を確実に習得することである。更に、企業間関係や企業のグローバル化などの現代企業の活動、そして、直面する諸問題について理解しておくことが必要である。

到達目標 / Attainment Objectives

「会社は誰のものか」をめぐる主要な議論の内容を学ぶこと、そして各議論の根拠を踏まえて比較・検討できるようになること、である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

企業財務、或いはコンプライアンスなどに関する講義科目を履修済みであれば、本講義の内容は理解し易くなると思われる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	オリエンテーション	
第02回	会社とは何か/会社の種類/会社以外の事業組織	有限責任、無限責任
第03回	株式会社の誕生・普及/資本と経営の分離	証券化、専門経営者
第04回	会社の組織・制度/日本の株式会社・世界の株式会社	取締役会、監査役、執行役員
第05回	資金調達メカニズム/株式公開・株式上場	自己資本、負債、社債、説明責任
第06回	企業格差(大企業と中小企業)	中小企業政策
第07回	事業の縮小・整理・倒産	日常的・非日常的意思決定、撤退戦略、PPM
第08回	企業経営を支える制度・企業環境	資本主義のタイポロジー、政府の失敗、市場の失敗
第09回	企業間関係の諸類型/財閥と企業集団	水平的連関、社長会、独占禁止法
第10回	企業グループ/下請企業グループ	企業系列とその再編
第11回	日本企業の多国籍化/日本的経営の海外移転	海外直接投資、グローバル化
第12回	外資系企業/世界の中の日本企業	三角合併解禁、現地化
第13回	企業の社会的責任・貢献/環境問題など	コンプライアンス、説明責任
第14回	総括	
第15回	最終講(進度調整・内容補足用の予備時間)	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho**

日本経済新聞、週刊東洋経済などの経済紙の産業・経済関連の記事を読むことを薦める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	記述・論述形式を中心とする。
レポート試験	20 %	VTR教材を見たと、設問に解答してもらう。
平常点(検証テスト)	0 %	なし。
平常点(日常的)	10 %	出席点ではなく、毎回の質問・感想票(=任意提出)とする。詳細は以下の備考を参照。

* 定期試験として実施---

期末試験(評価全体の70%を占める)による。VTR教材視聴を通じた小レポートも求めるが、あくまで上記試験にとつての補完的評価材料という位置づけを越えることはない。質問・感想票は「提出さえすれば即加点」ではなく、その内容に応じて最大で10%考慮する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「会社は誰のものか」、「誰のものと言うにせよ、その根拠は何か」という問いを常に思い浮かべながら学ばれたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
企業形態論(第3版)	小松 章 / 新世社 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本型コーポレート・ガバナンス	伊丹 敬之 / 日本経済新聞社 / /
テキスト現代企業論	坂本 恒夫ほか / 同文館出版 / /
西武事件	吉野 源太郎 / 日本経済新聞社 / /
日米欧の企業経営	吉森 賢 / 放送大学教育振興会 / /

上記以外の参考文献については講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本経営学会 --- <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsba/>
組織学会 --- <http://wwwsoc.nii.ac.jp/aos/>

その他 / Others

丸暗記だけで単位がとれる仕掛けにはなっていないので、そのつもりで受講するか否かを決められたい。

現代の経営 SA

16693

担当者名 / Instructor 玉井 信吾

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この講義は、現代の経営の仕組み、およびそれを取りまく社会・経済についてのごく基礎的な知識を獲得すること、それを通じて「現代の経営」に社会的に何が求められているのか学ぶことを主たる目的としています。このため、講義では基礎的な知識の内容そのものも、もちろん展開されますが、あわせて「現代の経営を学ぶ上で何を知っておかなければならないのか」を理解することが重視されます。そして、この講義では、単に教科書的な知識をつみあげるだけでなく、実際の「現代の経営」について具体的なイメージをもてるようにトピックス(企業事例)から理論学習にはいるように工夫されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)現代の経営の仕組みについての基礎的な知識を獲得する。
- (2)現代の経営に関わる経済・社会の仕組み及びその社会的課題や問題点について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「企業と社会」などの経営学(=特に企業統治、人事・労務、経営戦略など)系の科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	大学でどう学ぶか～イントロダクション	
第02回	会社は誰のものか:株式会社の基本構造	株券、株価、株式市場、所有と経営の分離、法人、ヒト・モノ・カネ・情報、ステークホルダー
第03回	会社は誰が動かしているのか:社長とは何をする人か、組織の基本的な仕組みなど	トップマネジメント、会長・社長・部長・課長・係長、取締役・常務・専務、営業部・総務部・人事部
第04回	どんな会社があるのか:主要な企業形態、産業(業界)と企業	産業、業界、景気、景気循環、会社企業と自営業
第05回	会社の一生:ベンチャーから大企業への成長プロセスと、倒産・清算	ベンチャー、大企業・中小企業、株式公開、倒産・清算、買収・合併、M&A
第06回	会社はどうやって動いているのか:戦略とマーケティングに関わって	理念・目的、戦略、戦術、経営環境、市場、顧客
第07回	会社で働くとはどういうことか:マネジメントに関わって	マネジメント・サイクル、日本的経営、モチベーション、労働組合、非正規労働者、事業部制・マトリックス組織
第08回	前半7回の中間総括	
第09回	企業を取り巻く環境変化:戦後復興から「失われた10年」	高度成長、石油ショック、バブル、平成不況、円高・円安、日米関係、日本的経営
第10回	企業の社会的責任	社会的責任、CSR、企業倫理、過労死、サービス残業、雇用機会均等法
第11回	国際化時代の企業:グローバル化、国際社会と企業、地域と企業	グローバル化、多国籍企業、南北問題、ODA、環境問題、地域社会の崩壊、外国人労働者、中国、インド、ASEAN
第12回	経営の新しい動き:NPO、フェアトレードなど	NPO、社会的投資、フェアトレード、まちづくり、女性(女性労働、女性経営者)
第13回	現代の経営の最新課題とは	JR福知山線脱線事故
第14回	後半6回の総括	
第15回	(進度調整・内容補足などのための予備時間)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日本経済新聞、週刊東洋経済などの経済紙を読むことを薦める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	記述・論述形式を中心とする。
レポート試験	20 %	VTR教材を見た上で、設問に解答してもらう。
平常点(検証テスト)	0 %	なし。
平常点(日常的)	10 %	出席点ではなく、毎回の質問・感想票(=任意提出)とする。詳細は以下の備考を参照。

* 定期試験として実施---

期末試験(評価全体の70%を占める)による。VTR教材視聴を通じた小レポートも求めるが、あくまで上記試験にとっての補完的評価材料という位置づけを越えることはない。質問・感想票は「提出さえすれば即加点」ではなく、その内容に応じて最大で10%考慮する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

多くの受講者にとって、本講義内容は就職後の人生に深く関わることであるから、それを念頭において受講されたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
はじめの一步・経営学	守屋 貴司ほか / ミネルヴァ書房 / /

毎回の講義は原則として教科書内容に沿って進めて行く。

参考書 / Reference Books

参考書については、講義中適宜指示・紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本経営学会 --- <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsba/>

組織学会 --- <http://wwwsoc.nii.ac.jp/aos/>

その他 / Others

丸暗記だけで単位がとれる仕掛けにはなっていないので、そのつもりで受講するか否かを決められたい。

現代の経営 SB

13149

担当者名 / Instructor 玉井 信吾

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この講義は、現代の経営の仕組み、およびそれをとりまく社会・経済についてのごく基礎的な知識を獲得すること、それを通じて「現代の経営」に社会的に何が求められているのか学ぶことを主たる目的としています。このため、講義では基礎的な知識の内容そのものも、もちろん展開されますが、あわせて「現代の経営を学ぶ上で何を知っておかなければならないのか」を理解することが重視されます。そして、この講義では、単に教科書的な知識をつみあげるだけでなく、実際の「現代の経営」について具体的なイメージをもてるようにトピックス(企業事例)から理論学習にはいるように工夫されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)現代の経営の仕組みについての基礎的な知識を獲得する。
- (2)現代の経営に関わる経済・社会の仕組み及びその社会的課題や問題点について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「企業と社会」などの経営学(=特に企業統治、人事・労務、経営戦略など)系の科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	大学でどう学ぶか～イントロダクション	
第02回	会社は誰のものか:株式会社の基本構造	株券、株価、株式市場、所有と経営の分離、法人、ヒト・モノ・カネ・情報、ステークホルダー
第03回	会社は誰が動かしているのか:社長とは何をする人か、組織の基本的な仕組みなど	トップマネジメント、会長・社長・部長・課長・係長、取締役・常務・専務、営業部・総務部・人事部
第04回	どんな会社があるのか:主要な企業形態、産業(業界)と企業	産業、業界、景気、景気循環、会社企業と自営業
第05回	会社の一生:ベンチャーから大企業への成長プロセスと、倒産・清算	ベンチャー、大企業・中小企業、株式公開、倒産・清算、買収・合併、M&A
第06回	会社はどうやって動いているのか:戦略とマーケティングに関わって	理念・目的、戦略、戦術、経営環境、市場、顧客
第07回	会社で働くとはどういうことか:マネジメントに関わって	マネジメント・サイクル、日本の経営、モチベーション、労働組合、非正規労働者、事業部制・マトリクス組織
第08回	前半7回の中間総括	
第09回	企業を取り巻く環境変化:戦後復興から「失われた10年」	高度成長、石油ショック、バブル、平成不況、円高・円安、日米関係、日本の経営
第10回	企業の社会的責任	社会的責任、CSR、企業倫理、過労死、サービス残業、雇用機会均等法
第11回	国際化時代の企業:グローバル化、国際社会と企業、地域と企業	グローバル化、多国籍企業、南北問題、ODA、環境問題、地域社会の崩壊、外国人労働者、中国、インド、ASEAN
第12回	経営の新しい動き:NPO、フェアトレードなど	NPO、社会的投資、フェアトレード、まちづくり、女性(女性労働、女性経営者)
第13回	現代の経営の最新課題とは	JR福知山線脱線事故
第14回	後半6回の総括	
第15回	(進度調整・内容補足などのための予備時間)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日本経済新聞、週刊東洋経済などの経済紙を読むことを薦める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	記述・論述形式を中心とする。
レポート試験	20 %	VTR教材を見た上で、設問に解答してもらう。
平常点(検証テスト)	0 %	なし。
平常点(日常的)	10 %	出席点ではなく、毎回の質問・感想票(=任意提出)とする。詳細は以下の備考を参照。

* 定期試験として実施---

期末試験(評価全体の70%を占める)による。VTR教材視聴を通じた小レポートも求めるが、あくまで上記試験にとっての補完的評価材料という位置づけを越えることはない。質問・感想票は「提出さえすれば即加点」ではなく、その内容に応じて最大で10%考慮する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

多くの受講者にとって、本講義内容は就職後の人生に深く関わることであるから、それを念頭において受講されたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
はじめの一步・経営学	守屋 貴司ほか / ミネルヴァ書房 / /

毎回の講義は原則として教科書内容に沿って進めて行く。

参考書 / Reference Books

参考書については、講義中適宜指示・紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本経営学会 --- <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsba/>

組織学会 --- <http://wwwsoc.nii.ac.jp/aos/>

その他 / Others

丸暗記だけで単位がとれる仕掛けにはなっていないので、そのつもりで受講するか否かを決められたい。

現代の国際関係と日本 S

15475

担当者名 / Instructor 篠原 美江

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマは『世界経済のグローバル化と日本』。現代の国際関係と日本について、主に経済的側面から学ぶ講義です。グローバル化の進展によって表面化した現代の世界経済における様々な諸問題について、日本との関連性を視野に含めながら総合的に把握し、それらの解決へ向けていったいどのような第一歩を踏み出すべきか、議論を通じて理解を深めていくことが本講義の目的です。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標は、次の3点です。

- 1) 現代の世界経済における現状とその特徴について理解し、説明することができる。
- 2) 現代の世界経済を取り巻く諸問題について理解し、その要因について述べるることができる。
- 3) 現代の世界経済における諸問題に対して、積極的に関わっていくための対応力、構想力、想像力を身に付けることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	授業の到達目標、進め方、成績評価方法、教科書、参考文献などについての説明
第2回	世界経済におけるグローバル化の進展	現代における世界経済の動向、戦後の世界経済体制の確立、ブレトンウッズ体制
第3回	世界貿易と自由貿易協定	GATTからWTOへの移行、貿易自由化の拡大、世界貿易における地域主義の台頭
第4回	多国籍企業と海外投資	国際投資の進展、企業の海外進出、多国籍企業の活動と諸問題
第5回	国際通貨体制	IMF体制の成立と変容、固定為替相場制、変動為替相場制、ドル体制の再編
第6回	人口問題と国際労働力移動	世界人口の動向、国際労働力移動の背景と問題点
第7回	食糧問題	世界の栄養不良の現状とその要因、飢餓、多国籍アグリビジネスの活動
第8回	ディスカッション - その1	第2回～第6回の講義内容について1つテーマを決めて行う
第9回	地球環境問題 その1 資源問題の本質と論点	枯渇性天然資源と非枯渇性天然資源、資源問題の将来
第10回	地球環境問題 その2 代替資源	代替資源の開発、バイオ燃料の普及、ファンドマネーの流入
第11回	発展途上国と累積債務問題	南北問題の登場と国際金融、累積債務問題の背景、累積債務危機以後の途上国向け資金フロー
第12回	ディスカッション - その2	第9回～第11回の講義内容について1つテーマを決めて行う
第13回	冷戦体制崩壊後における世界の軍事化	冷戦崩壊後における軍事化進展の背景、民間軍事会社(PMC)の台頭
第14回	日本による国際協力のあゆみ	世界におけるODAの現状、日本のODAの原点とその後の変遷
第15回	講義のまとめ	コミュニケーションペーパーの質問と解説

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業に出てくる語句についてわからないものがあれば、授業後に必ず各自で調べるようにしてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	論述形式の問題。 授業中に取り上げた基本概念や重要語句の理解をもとに、論理的に説明できるかどうかを中心に評価する。

平常点(日常的) 20 % ディスカッション(第8回、第12回)の問題提起に対する論述回答(授業の内容を問う試験ではありません。ただし、与えられたテーマに対して自分の意見がきちんと論理的に述べられているかどうかを重視します)。
コミュニケーションペーパーのコメント、ビデオの感想。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講にあたって、経済に関する特別な知識は必要ありません。

ただし、新聞やテレビ、インターネット等を通じて国際関係や世界経済などに関する情報と日常的に接し、関心を高めておくことが、講義をさらに理解するための手助けになります。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
経済新語辞典2008年版	日本経済新聞社 / 日本経済新聞社 / 453221517X / 生協書籍部で購入可
世界に格差をバラ撒いたグローバリズムを正す	ジョセフ・E・スティグリッツ / 徳間書店 / 419862254X / 生協書籍部で購入可
グローバル資本主義 危機か繁栄か	ロバート・ギルピン / 東洋経済新報社新報社 / 4492442804 / 生協書籍部で購入可
世界経済入門 第3版	西川潤 / 岩波新書 / 4004308941 / 生協書籍部で購入可

その他の参考文献については、授業で説明します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国連貿易開発会議 (UNCTAD) のHP www.unctad.org

経済協力開発会議 (OECD) のHP www.oecd.org

その他 / Others

現代の世界経済 S

15546

担当者名 / Instructor 中戸 祐夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

グローバル化が進展している現代の国際社会においては、世界経済を舞台に様々なドラマが繰り広げられています。こうしたドラマを読み解くために、本講義では政治、経済、社会、文化のそれぞれの相互関係や歴史的背景を基礎から把握することで、現代世界経済の諸問題に対する理解を深めたいと思います。本講義は経済学の知識を必要としませんが、共通科目として現代の世界経済について学びたいと思う学生を対象にします。

到達目標 / Attainment Objectives

現代の世界経済をグローバルな視点から捉え、世界経済に関するニュースや新聞記事に対して自分なりの考えを持てるようにすること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	本講義の課題と目的	
第2回～第14回	現代世界経済をとりまく諸問題	国際貿易 国際金融 国際投資 多国籍企業 南北問題 グローバリゼーション その他
第15回	本講義の総括 - 期末試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	80 %	期末試験
平常点(日常的)	20 %	小レポート等

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

とくに使用しませんが、日本経済新聞などの新聞記事や雑誌記事、ニュースなどを読んでみると参考になります。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 大平 祐一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、職場における性的嫌がらせ、婚姻にさいして氏を同じにすること、労働現場の変化と法、犯罪とそれに対する刑事罰のあり方、男女の平等な取り扱い、表現の自由とプライバシー、消費生活における法的問題等、現代における市民生活のなかで生ずる法的問題について論じます。

到達目標 / Attainment Objectives

市民生活のなかで生ずるさまざまな法的問題についての基礎的知識、考え方を身につけ、健全な市民として成長できる素地を蓄積すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1章	はじめに	現代社会と法を学に当たって
第2章	セクハラ	男女雇用機会均等法 人間の尊厳
第3章	夫婦と法	夫婦の氏 婚姻
第4章	労働と法	派遣労働 労働基準法
第5章	犯罪と刑罰	罪刑法定主義 刑罰の正当化
第6章	民事裁判	弁論主義 裁判外の紛争解決
第7章	刑事裁判	適正手続 当事者主義
第8章	表現の自由	政治的意見 知る権利
第9章	プライバシー・名誉毀損	表現の自由 人格権
第10章	平等	男女の平等 投票価値の平等
第11章	親子	親権 相続
第12章	宗教と法	信教の自由 政教分離
第13章	消費者と法	売買 消費者契約法
第14章	国際社会と法	外国人 国際法
第15章	企業と法	企業 企業の社会的責任

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

この授業はテキストがなく、ノートをとる授業ですので必ずノートを持参して下さい。
参考書による自学自習、授業内容の復習が授業の学習に効果的です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	授業でとりあげた基本的なことがらを的確に理解できていること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

教科書は使用しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
法学入門	末川博 / 有斐閣 / /
現代法学を学ぶ人のために	中川淳 / 世界思想社 / /
法学入門	遠藤浩・久保田きぬ子 / 有斐閣 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

現代日本の政治 S

13067

担当者名 / Instructor 赤澤 史朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本政治の現状を理解することに焦点を当てながら、その背景となる制度や歴史に関する基本的知識・考え方の習得に力点をかけて講義します。授業内容の3分の2位はテキスト『現代日本政治』（五十嵐仁著）に沿って展開しますが、テキストにない内容が3分の1位あり、毎回授業のレジュメを出します。テーマに関連して新聞記事のトピックスも紹介、解説することがあります。

到達目標 / Attainment Objectives

現代日本政治の基本的な枠組みについての理解を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

科目としてはありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	政治とは何か(テキストの序章)	紛争と解決
第2回	正統性と権力(pp.21～29)	合法的支配
第3回	議会と政党(pp.32～46, 42～45)	代表
第4回	日本の国会(pp.62～72, 86～89)	国会の種類
第5回	日本の選挙(pp.46～51, 104～110, テキストになし)	小選挙区比例代表並立制
第6回	政党と族議員(pp.110～122, 84～86, 91～95)	優勢政党制
第7回	圧力団体と政治資金(pp.38～42, 136～140)	政治資金規正法
第8回	日本の官僚(テキストになし, pp.51～54)	稟議
第9回	日本の内閣(pp.72～84)	内閣強化策
第10回	マス・メディアと政治(1)(テキストになし, pp.51～54)	議題設定機能
第11回	マス・メディアと政治(2)(テキストになし)	放送法
第12回	地方自治(pp.187～192)	団体自治、住民自治
第13回	憲法改正問題(テキストになし, pp.172～173)	解釈改憲論
第14回	現代日本のナショナリズム(テキストになし, pp.166～167)	冷戦終焉
第15回	現代日本の政治状況と講義まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

新聞の政治欄、社会欄を読むようにしてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基本事項の理解度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業を聞き、ノートを取る

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代日本政治	五十嵐仁 / 八潮社 / 4-86014-100-8 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 松井 章浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この講義では、法の視点から国際社会の動きを学習します。具体的には、最近問題になることが多い死刑問題を素材にして、国際社会を規律する国際法の基礎を学びます。

日本でも2009年から裁判員制度が始まります。凶悪犯罪が増加していると日々報道され、裁判所の判断に対する疑問が投げかけられているなか、みなさんも近い将来に裁判員に選ばれ、死刑という判断を下す局面に立たされるかもしれません。

一方、死刑問題は日本国内にとどまる問題ではありません。世界にはすでに死刑を廃止している国もあります。2007年12月に国連総会は、すべての死刑存置国に死刑執行を一時停止するように求めることを決議しました。国際問題にもなりうるのです。

そこで、裁判員制度がまもなく導入されるこの時期に、みなさんが死刑制度や犯罪者の処罰という問題を広く考えるきっかけとなるように、国際法の視点から死刑問題を考察し、同時に国際法の基礎知識を獲得して、最終的には「国とは何か」「法とは何か」といった根源的な問いを思考する講義をめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・国際社会を規律する国際法の基礎知識を獲得する。
- ・実際に生じた事例の内容を正確に把握して、論理的に検討することができる。
- ・法的な視点から国際社会を俯瞰し、国そのものや法そのものを思考することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「法」は社会のあらゆる事象と関わっているため、文系理系を問わず、さまざまな科目を履修しておくことが間接的に役立ちます。なお、この講義では「法」の問題を扱いますが、ほとんどの受講生が「法」を初めて学習することを前提に講義を行います。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	死刑をめぐる最近の動向 - 講義の導入 -	死刑廃止は世界的な傾向なのか、死刑をめぐる議論状況
第2回	日本における死刑の理想と現実	死刑はどのように執行されるのか、執行の時期、死刑囚の扱い、執行方法、執行の秘密性
第3回	自国領域内における管轄権行使	犯罪者を処罰する方法は各国の自由裁量ではないのか、属地主義、属人主義、国籍
第4回	自国領域内における管轄権行使	国境を越える犯罪にはどう対応するのか、ネット上の犯罪、法執行の限界、犯罪人引渡
第5回	自国領域内における管轄権行使	自国領域内でも管轄権を行使できない場合がある、駐留軍隊兵士、外交特権免除、主権免除
第6回	国際人権における死刑	国際的な人権条約は死刑をどう扱っているのか、人権条約の意義、国際人権規約、第二選択議定書
第7回	国際人権における死刑	地域的な人権条約は死刑をどう扱っているのか、欧州人権条約と欧州人権裁判所
第8回	国際人権における死刑	死刑を行う国への犯罪人引渡は拒否されるのか、ゼーリング事件、キンドラー事件、日本への引渡
第9回	国際人権における死刑	自国民に対する死刑執行を止められるか、ラグラン事件、国際司法裁判所、外国人の権利
第10回	戦後処理における死刑	戦争犯罪人に死刑を執行できるのか、平時法と戦争法、武力紛争法と国際人道法、戦争犯罪の処罰
第11回	戦後処理における死刑	国際刑事裁判でも死刑判決が下されるのか、重大な人権侵害の処罰、国際犯罪、国際刑事裁判所
第12回	国連の死刑執行停止要請決議	国連はどのように決議しているのか、国連憲章、国連の組織と機能、総会と安全保障理事会
第13回	国連の死刑執行停止要請決議	国連決議を守らないといけないのか、総会決議と安保理決議の違い、慣習国際法への影響
第14回	死刑制度の今後	国際社会の動向は日本に影響するのか、犯罪被害者の権利との関係、刑罰観の相違
第15回	死刑制度の今後	結局は日本は死刑をどうすればいいのか、裁判員制度との関係、執行方法や執行者の問題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

この講義では教科書を使用しません。参考書として提示している書籍を積極的に読もう。日本の死刑制度については、『13階段』、『死刑はこうして執行される』のうち、どちらか1冊をできるだけ早い段階(第5回くらいまで)に一読しておく、講義内容を理解しやすくなるでしょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	国際法の基礎知識をどれくらい習得しているか、死刑問題の現状をどれくらい理解しているかを試す。基本概念や語句の理解を確認する問題と、死刑問題を論理的に洞察する力を問う問題を出す。
平常点(日常的)	20 %	「講義メモ」の提出を少なくとも2回求める。受講者が数回提出した「講義メモ」のうち、評価が優れたメモを最終評価に加える。この「講義メモ」の提出は強制ではないので、提出するかどうかは受講者の判断に任せる。

講義中に提出を求める「講義メモ」の詳細は初回講義で説明する。「講義メモ」の提出は少なくとも2回実施し、評価が優れている分を最終評価に加える。なお、氏名や学生証番号しか書いていないメモを提出しても一切加点しない。実施回数などは講義の進捗具合によるので、適宜、受講者と相談したい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・出席確認を行いませんので、いわゆる「出席点」は一切ありません。
- ・受講者が他の受講者の学習を妨げること(私語をする、騒音を出すなど)を禁じます。
- ・受講者が講義中に入退室するのは自由ですが、他の受講者の学習を妨げないようにしてください。
- ・他の受講者の学習を妨げる者には受講を認めません。その者には定期試験の結果にかかわらず単位を与えません。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。レジュメと資料を講義中に配付する。レジュメと資料を紙媒体で配布するのは講義中のみである。WebCTにも掲載するので、紙媒体のレジュメや資料を入手できないときは、自らダウンロード、印刷すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
13階段	高野和明 / 講談社文庫 / 4-062-74838-X / 死刑囚、刑期を終えた者、犯罪被害者の遺族など、犯罪に関係した者たちの懊悩を描いたミステリー小説。日本の死刑制度、犯罪処罰の現状を問う一冊。
死刑はこうして執行される	村野薫 / 講談社文庫 / 4-062-75304-9 / 死刑の是非を議論するために必要な情報(死刑執行の現状など)を詳細な取材をもとにまとめている。
国際法(Sシリーズ)(第5版)	松井芳郎 他 / 有斐閣 / 4-641-15927-3 / 講義で扱う国際法全般を見渡すのに適している。
判例国際法(第2版)	松井芳郎 編集代表 / 東信堂 / 4-88713-675-7 / 国際法に関する事例を調べるのに適している。
講義国際法	小寺彰・岩沢雄司・森田章夫 編 / 有斐閣 / 4-641-04620-4 / 国際法についての代表的な教科書の一つ。

参考になる文献は他にも多くある。講義のなかでも紹介したい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国際連合 <http://www.un.org>
 外務省 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html>
 国際司法裁判所 <http://www.icj-cij.org>

その他 / Others

市民と政治 S

15463

担当者名 / Instructor 徳久 恭子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- ・「政治」と聞いて多くの人が抱くイメージは、政治家や国会議事堂であり、そこで繰り広げられる権力ゲームであるようだ。他方、「市民」といった場合、「市民」という地域住民を表す単語と同義と捉えている人が多いように思う。そして多くの人は、政治を自分と無縁なものとして、ワイドショーを観て時おり愚痴をこぼす傍観者となる。こうした指摘に心当たりはないだろうか。本講義では、政治が私たちの日常世界を構成する主要素であり、個々人の意思と行動によって、良くも悪くも変化しうることを学び、それについて考えることを目的としたい。
- ・授業は以下の予定に即して行いが、受講生の方々の理解や関心に応じて随時修正したいと考える。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・政治という事象について主体的に考えられるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1講	導入:「市民」とは誰だろう?	
第2講	近代国家の誕生 絶対王政から市民革命	(社会契約説、自然権、三権分立)
第3講	民主主義 理想と現実	(自由民主主義体制、普通選挙権、大衆民主主義、エリート民主主義理論)
第4講	「合理的な市民」とは、どのような存在か? (1)	(政党支持、投票行動)
第5講	「合理的な市民」とは、どのような存在か? (2)	(争点投票、業績投票、投票コスト)
第6講	選挙制度	(中選挙区制、小選挙区比例代表並立制)
第7講	利益団体 (1)	(利益団体、圧力団体、フリーライダー、集合行為問題、選択的誘因)
第8講	利益団体 (2)	
第9講	「合理性」について考える	(囚人のジレンマ)
第10講	「信頼」について考える 民主主義をいかに機能させるか?	(ソーシャル・キャピタル)
第11講	大衆社会論	
第12講	政治とメディア (1)	
第13講	政治とメディア (2)	
第14講	まとめ (1)	
第15講	まとめ (2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- ・新聞やテレビで報道される政治や経済に関するニュースに目を通すよう心がけてください。(インターネットでニュースを見る場合は網羅的に目を通すようにして下さい。)

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	記述式の問題を出題予定

出席はとりません。講義を休まれる方は、各人でテキストの該当箇所を勉強してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・講義中の私語や途中退出後の再入室を厳禁とします。(迷惑行為があった場合、学生証の提示および退出を命じます。)
- ・講義で使用するレジュメの配布は原則として当日に限ります。
- ・レジュメはあくまでも講義で使用する資料ですので、欠席された方はテキストで該当箇所を勉強してください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
政治学	久米郁男ほか編著 / 有斐閣 / 4-641-05368-5 /

講義はレジュメを用いて行うため、テキストは各人の予習や復習に利用してください。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
信頼の構造	山岸俊男 / 東京大学出版会 / 4-13-011108-6 /

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

持続可能な開発 GA

12933

担当者名 / Instructor 大西 学

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「持続可能な開発 (Sustainable Development)」が『Our Common Future』の中で登場し、注目を集めてから、既に20年が経過した。環境問題は、現在でも様々な形で噴出し、多様な視点からその把握と解決が提示されているが、その際に「持続可能な開発」の概念は欠くことのできないキーワードとなっている。

そこで本講義では、「持続可能な開発」の概念、環境問題の多様性、主にミクロ経済学の視角からその問題の把握と解決のための手法の解説、の3点を通じて、「持続可能な開発」に向けた取組みとその課題について理解することを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・「持続可能な発展」という用語の登場背景とその概念についての理解を深める。
- ・「持続可能な発展」に向けて、ミクロ経済学の枠組みから環境問題に対する解決方法を習得する。
- ・様々な環境問題の事例から、「持続可能な開発」の構築を可能とする政策的手段についての知識を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
イントロダクション	「持続可能な開発」は、1987年に国連の「環境と開発に関する世界委員会」にて提示された定義が採用されることが多い。まず、この用語の登場背景とその問題意識を解説する。	成長の限界、ブルントラント委員会
「持続可能な開発」とは何か	「持続可能な開発」の定義は多岐に渡る一方で、これを脅かす原因の多くが経済活動に関わっている。ここでは特に環境と経済の関係に着目し、環境思想を概観した上で、「持続可能な開発」に対する定義を確認していく。	持続可能な開発、環境主義、人間中心主義
環境経済学の概観	環境問題に対する解決策は、当然問題の把握の仕方によって変わる。新古典派経済学を中心に、「諸」環境経済学がどのような視角から環境問題を捉え、そして解決策を提示しているのか、概観する。	新古典派、マルクス、エントロピー
外部性と内部化 (新古典派からの環境問題に対するアプローチの理論的枠組み)	新古典派経済学では、市場に反映されない経済的影響(外部性)をどのように市場の中に取込む(内部化)かが、焦点となる。この「外部性」の「内部化」についての理論的枠組みについて学ぶ。	市場メカニズム、外部性、内部化
内部化の手段 : 環境税:ピグー税とボームル・オーツ税	外部性を内部化する手段の一つ、環境税を取り上げる。環境税には、ピグー税とボームル・オーツ税があるが、これを「パレート最適」と「費用最小」の差異を踏まえて理解する。	パレート最適、最小安全基準、費用最小
内部化の手段 : 許可証取引制度:地球温暖化 / アメリカ・京都議定書	外部性を内部化する手段の一つ、許可証取引制度(量的規制)を取り上げる。特に、環境税(価格規制)との比較をし、両政策手段の長短を把握する	ワイツマンの定理
その他の政策手段:	環境問題を解決する手段は、税や許可証取引制度だけに留まらない。ここでは、直接規制、補助金、デポジットといった政策手段に対して、経済的側面からその有効性を検討する。	効率性、汚染者負担原則
環境価値の測定	環境が持つ価値を、人々の支払意思額(Willingness to pay)から算定し、その貨幣的価値を表現する方法がある。これを算出する各手法について概観する。	利用価値、非利用価値、支払意思額
各論対象 大気汚染と水質汚濁	水俣病や四日市喘息に象徴されるように、大気汚染や水質汚濁は環境汚染の典型的なケースである。内外の事例を元に、その問題解決に取られた各政策手段を検討する。	課徴金、排出権取引制度、直接規制
各論対象 :景観の保全	生活空間の中にアメニティ(快適な環境)を創出するために、豊かな景観の保全が求められている。伝統的な建築物である京町家を事例に、その経済的価値の測定とその活用について学ぶ。	アメニティ、文化的価値、経済的価値
各論対象 :都市交通	都市の郊外化と中心市街地の空洞化を促進した要因の一つにモータリゼーションが挙げられる。このように交通機関が都市に与える影響を踏まえ、特に自動車交通のコントロールについて理解を深める。	中心市街地の活性化、交通権、ロード・プライジング、

各論対象 : 漁業 (その他第1次産業類?)	漁業では、乱獲による資源量の低下と漁業経営の悪化、という二つの問題を抱えているケースが稀ではない。ここでは、許可証取引制度の導入によって、その二つの問題の解決に向けた取組みについて解説する	コモنز、レント
各論対象 : 地球 温暖化問題	京都議定書は、2008年から2012年までを対象として、先進国の温室効果ガスの排出抑制を目指したものである。そこで採用された京都メカニズムの特徴をまとめつつ、今後の展望を考察する	京都メカニズム、南北問題
まとめ	これまでの内容を振り返り、「持続可能な開発」、およびその取組みと課題への理解を深める。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	いくつかのテーマの中から選択する形で、達成目標に到達と「持続可能な開発」に対する受講生自身の考えを記述してもらう。 なお大量のコピー＆ペーストを認めた場合は、全く評価しません。
平常点(日常的)	30 %	講義時における発言、および配布するコミュニケーション・ペーパーにおけるコメントは、講義への積極的参加として考慮する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

経済学的な視点から、「持続可能な開発」についての捉えることを主軸とするものの、その限界についても言及する。頭の体操という気持ちを持って受講して欲しい。

また、レポート、小レポートにおいてインターネットから「引用」の手順を踏まないコピー＆ペーストが見つかった場合は、単位認定は行いません。自分自身の咀嚼して、レポートを作成し、提出してください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「環境経済学」	植田和弘 / 岩波書店 / /
「環境経済学」	岡敏弘 / 岩波書店 / /
「環境経済学」	柴田弘文 / 東洋経済 / /

その他は各回に応じて適宜参考テキストを紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

日本経済概説 S

15490

担当者名 / Instructor 松川 周二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ - 日本経済の諸問題を学ぶ。

日本経済は、戦後1950年から60年代にかけて、高度成長を実現し、国民の生活水準も向上し、先進国の仲間入りをした。しかし、70年代に入ると、日本経済は2度のオイル・ショックや円の対外価値の変動(繰り返される円高と円安)を経験するものの、それらを克服、経済大国への道を突き進む。そして、80年代後半、日本経済は絶頂期を迎えるが、それはバブルの形成を促し、90年代、バブル崩壊と伴に日本は不況とゼロ成長の時代となる。本講義では、90年代以降の日本経済の諸問題を、理論的、現実的、政策論的に概説する。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

新聞・テレビ・雑誌などで、現実の経済の動きに関心をもってほしい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	日本経済をめぐる問題を4つの大きなテーマに分け、それぞれについて、3・4回の講義を行う。	毎回の講義で、2～3のキーワードが示され、その経済的意味を理解する形で、授業を進めていく。たとえば、[1] - デフレ・スパイラル、[2] - ワーク・シェアリング、[3] - 循環型社会、[4] - WTOやFTAなど
	[1]デフレ・不況とマクロ経済	デフレ・不況の経済学的意味を明らかにし、不況対策の効果を検討する。
	[2]雇用・生活・家庭と労働	不況下で進行する雇用形態の多様化を生活者の視点から説明する。
	[3]環境・資源・エネルギー問題	これは21世紀の世界の課題であり、企業や政府の積極的な試みやわれわれの生活スタイルの変革などをとりあげる。
	[4]日本経済の国際化	日本企業の海外進出やFTA、ODAなどについて説明する。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	
主に定期試験で評価する		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

毎回、講義に用いるプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業で配布する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

質問のある学生、講義終了後、直接私に質問して下さい。

日本国憲法 S

15502

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「法」は私たちの生活を規定しながら、その実態を掴むことは難しい。中でも「憲法」は、最も基本的な「法」でありながら、日常生活においてはなかなか実感できない。本講義では、この基本的な「ルール」(憲法)がいかなるもので、どのように機能しているかを知ることが目標となる。具体的には、いくつかのトピックをあげながら、法文を参照し、どのように考えていけばよいかを学んでいながら、基本的な知識を習得していくこととなる。

到達目標 / Attainment Objectives

法についての基本的知識の習得。
憲法についての基本的知識の習得。
憲法的な思考方法の習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	法の基本的知識	法、公法、私法、憲法、法と私たちの生活、通説・判例、多数説、少数説、解釈
2	憲法の基本的知識	大日本帝国憲法と日本国憲法、憲法の構造、憲法の三大原理、基本的人権、統治機構、前文、違憲審査制
3	天皇	天皇、象徴天皇制、国事行為、内閣の助言と承認
4	戦争の放棄	第9条、平和主義、自衛権、自衛隊、国際紛争を解決するための戦争
5	人権1(人権総則)	個人の尊厳、基本的人権、幸福追求権、公共の福祉、権利・自由と義務
6	人権2(平等)	法の下での平等、差別の禁止、人種差別
7	人権3(思想・良心の自由と信教の自由)	思想・良心と信教、「国家からの自由」と「国家による自由」、多数者と少数者
8	人権4(表現の自由1)	表現の自由の優越的地位と二重の基準論
9	人権5(表現の自由2)	表現の自由と違憲審査制、違憲審査基準、コミュニケーション技術の発達と表現の自由
10	人権6(経済的自由と生存権)	経済的自由と福祉国家、封建制、居住移転の自由、財産権、損失補償、生存権
11	人権7(法の適正手続き)	デュー・プロセス・オブ・ロー
12	統治機構1(三権分立)	三権分立と民主主義、人権
13	統治機構2(国会・内閣・裁判所)	国会、衆議院の優越、内閣、議院内閣制、裁判所、違憲審査制
14	統治機構3(国会・内閣・裁判所)	民主主義と人権、多数者と少数者、憲法と私たちの生活
15	まとめ	民主主義と人権、多数者と少数者、憲法と私たちの生活

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義では、出来る限りエッセンスを分かりやすく解説しようとするため、詳細な知識や判例などは授業外で補う必要がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	基本的な知識の習得及び基本的な考え方、思考能力を問う。
平常点(検証テスト)	10 %	基本的な知識の修得を問う小テストなど。
平常点(日常的)	20 %	講義中の応答など。

小テストの回数などは、講義の進行速度により調整を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

資格試験などを旨とする受講生は、この講義で基本的な考え方を身につけ、詳細な知識を学習し、問題演習を行うことを薦める。

教科書 / Textbooks

キーワード集などを配布する予定である。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

いちばんやさしい憲法入門

初宿 正典 ほか / 有斐閣アルマ / 4641120870 / 基本的な論点、基本的な考え方を見る、もっともやさしい良書である。

参考書の他、より詳しく憲法を学ぶためには、基本書と呼ばれる書籍を読むと良い。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

新しい日本史像 S

15450

担当者名 / Instructor 櫻澤 誠

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

幕末維新期から高度成長期までの日本の政治・外交の歩みを、琉球／沖縄を中心に据えながら論じていく。戦前に関しては、帝国主義下における日本の植民地政策と沖縄との関係性が、戦後に関しては、冷戦下における米国の極東戦略との関係をベースとした沖縄の扱われ方が議論の中心となる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・日本近現代史を琉球／沖縄から見ることによって、「教科書」的な中央偏重の理解とは異なる日本史像を獲得する。
- ・当該期の各国家による東アジア戦略、世界戦略を見据えた日本史像を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	
2	東アジア国際秩序の崩壊と明治維新 琉球処分とは何か	鎖国と開国、明治維新、琉球処分
3	西洋に対する条約改正交渉と清国に対する分島・改約案	条約改正、分島・改約案
4	日清戦争と沖縄、台湾の植民地化	旧慣温存策、日清戦争、公会堂運動
5	日露戦争と韓国併合、沖縄の民権運動	民権運動、土地整理事業
6	第一次世界大戦と南洋群島の植民地化 移民と出稼ぎ	ソテツ地獄、移民と出稼ぎ
7	ワシントン体制 / 大正デモクラシーとその崩壊	社会運動、軍国主義
8	アジア・太平洋戦争 沖縄戦への道	沖縄戦
9	日本の敗戦と占領改革 沖縄の分割統治	米軍占領、忘れられた島
10	冷戦下における講和条約の成立過程 沖縄米軍基地を核とする安保体制の成立	復帰署名運動、琉球政府
11	55年体制の成立と「沖縄問題」の顕在化	島ぐるみ土地闘争
12	安保闘争と沖縄	沖縄県祖国復帰協議会
13	日韓基本条約、ベトナム戦争と沖縄返還交渉の開始	ベトナム戦争、佐藤栄作
14	復帰 / 返還闘争の激化	教公二法阻止闘争、ゼネスト、コザ反米騒動
15	沖縄返還と日中共同声明、授業全体のまとめ	復帰特別措置、復帰三大事業

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	持ち込み可の論述式筆記試験を行う。部分的な理解度ではなく、15回の講義全体に対する理解度を要求する問題を出題する。
平常点(日常的)	20 %	コミュニケーションペーパーなどを通して、授業への取り組みの度合を評価する。

出席はとらないが、3分の2以上の講義を受けなければ、解答が困難な問題を出題する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

高校までに学習した日本史(近現代史)が授業の前提となる。授業中にも適宜その内容には触れるが、各回の該当時期の予習をしておくことが、理解の助けになると思われる。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。

参考書 / Reference Books

参考書は授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

アメリカの歴史 S

15559

担当者名 / Instructor 吹戸 真実

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

主に、1回生を対象としたアメリカ史入門。

アメリカは政治・経済・文化を問わず我々にとり最も存在感の大きな国であるため、とすれば、好悪の感情につきうごかされた議論が見うけられる。だからこそ、ときに立ち止まって、アメリカとは何かとの点について冷静に振り返る必要があるだろう。アメリカにおいて現在進行中の様々な事象に関して、感情的な議論に安易に流されることなく、歴史的視点に基づき思考する力を身につけたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・アメリカの歴史に関する基本的な事実を理解したうえで、説明できる。
- ・現在進行中のアメリカに関する様々な事象を、歴史的知見を踏まえ、より深く分析、理解することができる。
- ・そうした分析、理解能力をもとに、メディア等を通じて得られるアメリカに関する情報の洪水に流されることなく、能動的な取捨選択ができるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくに指定はしない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	自己紹介、授業の進め方、成績評価、アンケートなど
第2回	アメリカ合衆国の誕生(10、11章)	独立宣言、合衆国憲法
第3回	南北戦争への道(6、10、11章)	リンカーン、奴隷制度、国民国家
第4回	大恐慌下のアメリカ(2章)	金びかの時代、第一次世界大戦、ニューディール政策
第5回	福祉国家の消長(10、11章)	リンドン・ジョンソン、偉大な社会、ベトナム戦争
第6回	保守化するアメリカ(2、10、11章)	レーガン、小さな政府、アンダークラス化
第7回	アフリカ系アメリカ人の歴史(6章)	黒人奴隷制、ジムクロウ制度
第8回	公民権運動とアメリカ(6、10、11章)	ブラウン判決、キング牧師、ブラックパワー
第9回	先住アメリカ人の歩み(4章)	強制移住法、インディアン再組織法、レッドパワー
第10回	アメリカ史のなかの移民(5章)	旧移民と新移民、移民制限法
第11回	ラティーノ / ヒスパニックの歴史(7章)	ブラセロ計画、不法移民、移民改革管理法
第12回	アジア系アメリカ人の歩み(8章)	帰化不能外国人、排日移民法、モデル・マイノリティ
第13回	フェミニズムの歴史(9章)	共和国の母、セネカ・フォールズ、女らしさの神話
第14回	アメリカ史における宗教(13章)	政教分離、市民宗教
第15回	国民統合と人種、エスニシティ(12章)	多文化主義、人種のるつぼ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	85 %	授業で論じたアメリカ史における重要な事象に関して、その事実関係を正しく把握しているか否かを、さらに、その事象の置かれた歴史的脈を正しく理解しているかを確認する問題を出す。たとえば、奴隷解放宣言に関して出題するとすれば、その内容を問うといった単純なものではなく、何故そうした宣言が出されるに至ったのか、という歴史的背景、経緯を論理だてて記述することを、要求するであろう。
平常点(日常的)	15 %	授業のおわりに簡単な小テストを行う。その日の授業内容に対する理解度を確認することを意図している。5回程度の予定。

・期末テストに関して、持ち込み物件は一切なしとする。

・最終回の授業において、ある程度、復習する範囲を限定できるよう、テストに関するヒントを提供することにしたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書に目を通したことを前提に授業を進めるので、指定した章を事前に予習しておくこと、資料、レジュメは適宜配布する予定。また、受講者には高校の世界史レベルの知識があることを前提として、講義を進める。したがって日本史しか履修してこなかった学生は、できれば事前に、概説書などにより、最低でも、17世紀以降の世界史(西洋史を中心に)の流れを把握しておくことが望ましいであろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アメリカの歴史	有賀夏紀・油井大三郎(編) / 有斐閣 / 4641121621 /

参考書 / Reference Books

授業の内容が多岐にわたるため、各回において、参考文献を紹介したい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

時間に余裕があれば、ウェブ上で公開されているアメリカ史関連の様々な資料(画像など)を、授業中に紹介することも考えている。

その他 / Others

イスラーム世界の多様性 S

13020

担当者名 / Instructor 矢島 洋一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

イスラームに関する基礎知識を体系的に学ぶことを目標とし、毎回一つのトピックを取り上げて解説を加える。またその際、以下の二つの点に留意する。(1)イスラームの多様性に配慮し、多様なイスラームを多様なまま理解することを目指す(2)イスラーム世界の現状を理解するために必要な歴史的背景の理解を重視する。

到達目標 / Attainment Objectives

イスラームに関する正確な基礎知識を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序論	授業の方針、用語
2	イスラームの基本教義	六信五行
3	他宗教との関係	ユダヤ教、キリスト教、啓典の民、異教徒
4	神	神学、神の姿、神の唯一性、神の正義
5	ムハンマド	ムハンマドの生涯、後世のムハンマド像
6	クルアーンとハディース	啓典、伝承、アラビア語
7	宗派	スンナ派、シーア派
8	中間のまとめと小テスト	
9	イスラーム法	シャリーア、政教分離
10	スーフイズム	神秘主義、教団
11	美術	偶像崇拜の禁止、絵画・書道・工芸・建築
12	アフガニスタン問題とその背景	英露関係、米ソ関係、ターリバーン
13	イラク問題とその背景	イラク建国事情、イラン・イラク戦争、湾岸戦争
14	イスラーム世界と日本	
15	イスラームについて学ぶ意味	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

特にはないが、各種メディア(新聞、テレビ、インターネット等)が発信する国際ニュースには注意しておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	すべて講義の内容から出題し、知識の修得度をはかる。
平常点(日常的)	30 %	出席はとらないが、確認のための小テストを授業中に行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

イスラーム世界がらみのニュースに接する度に、講義で得た知識を活かし、自分なりにそのニュースを読み解く癖をつけてみよう。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
岩波イスラーム辞典	大塚和夫ほか(編) / 岩波書店 / 4-00-080201-1 / 用語を調べるのに便利である。
新イスラーム事典	日本イスラーム協会ほか(編) / 平凡社 / 4-582-12633-2 / 同上。
イスラーム主義とは何か	大塚和夫 / 岩波新書 / 4-00-430885-2 / 現代のイスラーム復興現象をその歴史的背景から解説する。
アッラーのヨーロッパ	内藤正典 / 東京大学出版会 / 4-13-025028-0 / ヨーロッパにおけるムスリム移民の現状を社会学的見地から解説したもの。
国際政治とは何か	中西寛 / 中公新書 / 4-12-101686-6 / 国際政治についての平易で優れた概説書。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

エリアスタディ入門 S

13040

担当者名 / Instructor 生田 真人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

エリアスタディ(地域研究)とは、社会科学の諸分野で学問分野を越えて展開しつつある研究方法である。すなわち、経済学に地域研究があるし、社会学にも地域研究がある。この講義では、地理学の成果を踏まえつつ、地域研究の意義と方法を概説し、世界の諸地域(主に国家)を対象にして特定地域の歴史、社会、経済、政治的課題を空間的視点から学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

エリアスタディの考え方を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	地域研究の発展	地域研究
2	社会科学の地域概念	地域主義
3	第1部日本の地域再編 日本の地域構造	自然経済の地域構造 商品経済の地域構造
4	戦後の地域再編と地域政策	全国総合開発計画
5	東京大都市圏の変貌	多核化
6	関西圏と関西の都市	ベイエリア 研究学園都市
7	第2部欧米の都市と地域 フランスの地域主義	地域主義
8	イタリアの都市づくり	まちづくり
9	カナダの大都市管理	大都市圏政府
10	アメリカの地域経済と都市	都市計画 都市自治
11	第3部アジアの地域発展 アジアの都市と国家	開発主義 過剰都市化
12	シンガポールの国際的都市開発	成長の三角地帯
13	マレーシアの地域開発と民族問題	土地問題 植民地 多民族国家
14	中国の地域発展戦略	沿海州発展戦略
15	韓国と東アジア共同体	ソウル大都市圏

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

なし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業内容に対する正確な理解の程度。
平常点(日常的)	30 %	この科目に対する関心の深さと態度を、主に出席回数で評価する。
なし		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
なし	///
なし	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『アジアの大都市』全5巻	大阪市立大学経済研究所監修 / 日本評論社 / /
先進国経済の地域構造	松原宏編 / 東京大学出版会 / /
なし	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

なし

戦争の歴史と現在 GA

12912

担当者名 / Instructor 池尾 靖志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

最近、「戦争」のことについて、十分に高校までで習ってこなかった、あるいは、教科書に載っている「事実」として、機械的に暗記してきただけだ、という学生の声を耳にするようになってきた。

そこで、この講義では、一方で、日本における戦争体験の「風化」が進み、他方で、「平和ぼけ」をしている日本においては、ショック療法として、「戦争をすべきだ」と平然と主張する向きがあることを前提として、過去の戦争がなぜ起きたのか。それが、現在の日本や、とりわけ国際社会においてどのようなインパクトをもつのか。さらには、冷戦後の「新しい戦争」(M. Kaldor)といわれる現状を取りあげ、今の私たちが、単に、過去の記憶として「戦争」を語るだけでいいのか?という問題提起を行い、それに対する自らの意見や主張を形成することを講義のねらいとする。

到達目標 / Attainment Objectives

日本の過去に犯した「戦争責任」について考えるようになること。また、それをめぐって、現在の日本の政治や世論が二分していることに気づくようになること。

さらには、自ら、進んで新聞やニュースの政治欄や国際欄などを読み、自分なりの意見を形成できるように、また、他者に、自らの主張を、感情論ではなく、論理的かつ説得的に説明できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本政治史や欧米政治史、日本史や世界史に関する教養科目など。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ 権力とは?	キーワード アナーキーとヒエラルキー、国家主権
第2回	テーマ 権力の暴走は「暴力」になる?	キーワード プロパガンダ、メディア宣伝
第3回	テーマ 戦争の違法化	キーワード 正戦論、無差別戦争観、国際組織の形成、集団安全保障
第4回	テーマ 戦後国際秩序の形成(1)	キーワード ヤルタ会談、冷戦の始まり
第5回	テーマ 戦後国際秩序の形成(2)	キーワード (古典的)リアリズムとネオリアリズム、
第6回	テーマ 冷戦秩序(1)	キーワード 核による平和、抑止力、集団的自衛権
第7回	テーマ 冷戦秩序(2)	キーワード ゲームの理論、囚人のジレンマ、チキンゲーム
第8回	テーマ 冷戦秩序の崩壊:なぜ、ネオリアリズムは、冷戦の崩壊を予測できなかったのか	キーワード トランスナショナルな動き
第9回	テーマ 大量破壊兵器の拡散	キーワード 不拡散、NPTレジーム
第10回	テーマ ポスト冷戦期の国際秩序の維持	キーワード PKO
第11回	テーマ エスニック・コンフリクト(紛争)の事例	キーワード コソボ紛争
第12回	テーマ 「新しい戦争」(1)	キーワード 軍事におけるグローバリゼーション、小型武器
第13回	テーマ 「新しい戦争」(2)	キーワード 子ども兵の存在
第14回	テーマ 国連の危機	キーワード アメリカによる単独行動主義
第15回	テーマ 日米同盟のゆくえ	キーワード 米軍再編と日本の動き

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義に関する必要な連絡は、すべてWebCTを通じて行うので、毎週1回はWebCTをみること。また、積極的な、ディスカッション・ボードへの書き込みを期待する。(話題提供として)

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義を通して、どの程度、自分なりにニュースや新聞を読み、自分の頭で考えたのかを問う論述2問。単に知識を問う問題は出題しないので、持ち込みは自由にする。
平常点(日常的)	20 %	WebCTを通じて行うが、昨年は、うまく提出できない人のために3回のうち2回という設定を行ったが、結果的に読み切れない量のレポートが提出されたため、今年度は、WebCTを通じてうまくレポートを提出することができるのかを試すための課題(抜き打ちで、出席点代わりとする)を、試験的に1回、予行練習を行う。(出席しているかどうかの確認として用い、提出したのものには、底上げ点としてカウントする。)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞やニュースの政治欄や国際欄に目を通しておくこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本から発信する平和学	安齋育郎、池尾靖志編 / 法律文化社 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
国際紛争	ジョセフ・ナイ / 有斐閣 / / * 原著がかなりの頻度で改訂され、それに応じて翻訳版も新しく出版されているので、できるだけ、新しい版を参照すること。また、大学院を志望する人は、原著はさほど分厚くないので、原著(英書)で読むことをおすすめする。
戦争の記憶と和解	池尾靖志編 / 晃洋書房 / / 特に1章を、講義開始前に読んでおくこと。図書館にあるはずです。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

担当者のホームページ (<http://www.yikeo.com>) を参照のこと。

その他 / Others

中国の国家と社会 S

13085

担当者名 / Instructor 増井 寛也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「中国」が日本の最も重要な隣国のひとつであることは、時代により程度の差はあれ、古来不変の事実であった。ところが、この「中国」という存在は、長大な歴史と地域的多様性により、総合的・全体的に把握することが著しく困難である。この講義では、「中国」理解の一環として、支配権力の保持者/組織を基準とした時代区分(授業スケジュール参照)を立て、そうした権力を支える国家と社会の通時的説明を試みる。

到達目標 / Attainment Objectives

「中国」史の全体的な流れを理解する。
中華帝国の成立から現代中国に至るまでの各時代の特徴を把握する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高校世界史の授業の履修漏れは、もはや存在しないものとして講義を進める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	地理的中国と歴史的中国の相違	大中国と小中国、外中国と内中国、華と夷
第2回	前期中華帝国 古代帝国の成立と展開 秦から後漢まで	皇帝制度と官僚制、郡県制
第3回	前期中華帝国 古代帝国の成立と展開 秦から後漢まで	儒教の正統教学化、豪族と名士
第4回	前期中華帝国 中世の分裂と再統一 隋唐帝国まで	貴族制、五胡と拓跋国家群
第5回目	前期中華帝国 中世の分裂と再統一 隋唐帝国まで	律令制と科挙制、律令制国家から財政国家へ
第6回	後期中華帝国 近世的社会の成立 五代・宋	皇帝権力の強化、科挙制度の整備
第7回	後期中華帝国 近世的社会の成立 五代・宋	都市の発展と社会の変貌
第8回	征服王朝 北方民族の中国征服 大元ウルス	北方民族社会と漢民族社会の並存
第9回	後期中華帝国 近世社会の成熟と満洲族の中国征服 明と清	明の「固い」体制、皇帝権力の極大化とその病理
第10回	後期中華帝国 近世社会の成熟と満洲族の中国征服 明と清	清の版図拡大と大中国の成立
第11回	清末・中華民国 アヘン戦争・辛亥革命から中華民国まで	改革(洋務・变法)と革命、北洋軍閥
第12回	清末・中華民国 アヘン戦争・辛亥革命から中華民国まで	国民党と共産党、国共合作と分裂
第13回	中華人民共和国 毛沢東から鄧小平まで	社会主義建設と「大躍進」
第14回	中華人民共和国 毛沢東から鄧小平まで	文化大革命の波乱
第15回	中華人民共和国 毛沢東から鄧小平まで	改革と開放

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

高校等で世界史の科目を履修していない(本来あり得ないはず)か、していても知識が不十分との自覚のある学生は、内容理解にハンデを負うことになりかねないので、授業に先立ってあらかじめ、もしくは授業と平行して、概説書(第1回目に紹介する)を読むなり等、自助努力をしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容に直結する特定ないし任意のテーマに関して期末レポート(2400字以上)を課す。
平常点(日常的)	50 %	受講者数にもよるが、ほぼ毎回、コメントの提出を求める(翌週の授業開始前に教員に直接提出)。これは出席を兼ねる。また、3分の2以上の出席をもって成績評価の対象とする。それ以下は対象外。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

第1回目の授業で講義内容、参考書等に関する説明を行うので、必ず出席すること。

教科書 / Textbooks

教科書は原則として使用しない。それに代えて、レジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

参考書は第1回目に配布するレジメに掲載しておく。また、それらに関する簡単な説明も行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

東アジアと朝鮮半島 S

15446

担当者名 / Instructor 嚴 敬俊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

朝鮮半島を中心に、東アジアの近過去を振り返り、近未来を展望します。過去・現在・未来の歴史軸を縦軸に、歴史問題、安全保障、文化の違いなどの観点を横軸にして、東アジアの国際秩序を多面的に捉えます。東アジアはどこから来て、どこへ向かっているかを、共に考えるような授業になります。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 朝鮮半島の今日を形作った歴史について、儒教・近代化・国際関係の観点から理解する。
2. 韓国と日本、アメリカとの関係を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。高校レベルの世界史の知識、新聞の国際面を関心をもって読むという態度があればいいと思います。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義内容の紹介。なぜ今東アジアか(1)。	アジアの勃興、東アジア共同体
2	なぜ今東アジアか(2)。東アジアに緊張をもたらすもの	米朝対立、歴史問題、日朝国交正常化、日韓協力の必要性
3	朝鮮の儒教文化	韓国・朝鮮人の認識枠組みについて
4	日本・朝鮮・中国の帝国主義への対応	尊王攘夷、交戦、体制の違い、時間との競争
5	近代との出会い	植民支配下の近代化とは何だったのか。
6	中国・台湾・朝鮮半島の反日感情の異同と変遷	各国内部の政治変動、日本との関係
7	朝鮮戦争とベトナム戦争	分断国家の統一問題と国際関係
8	韓国・朝鮮という国の形	朴正熙と金日成を生んだもの
9	冷戦後の朝鮮半島	韓国の成功と朝鮮の失敗
10	朝鮮半島とアメリカ	朝鮮戦争と韓米同盟、韓米同盟の再定義
11	核問題とは何か。	核問題の構図、朝鮮問題とアメリカ問題
12	朝鮮半島と日本	日韓・日朝国交正常化と歴史認識
13	拉致問題をどう見るか	日朝国交交渉に見る日本の文化状況
14	日韓歴史認識の争点を理解する	教科書、慰安婦、靖国、竹島問題
15	まとめ・和解のために	文化・国益の違いを超えて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	各回に取り上げた基本的事項について、しっかり把握しているかを問います。
平常点(日常的)	20 %	毎回、講義感想をコミュニケーションペーパーに書いていただきます。講義内容を的確に理解した上で、ある程度賛否などの理由づけをしてコメントすることが求められます。

日常点は出席とコミュニケーションペーパーの内容によって判断します。
 欠席、病欠、就職活動などによる欠席には証明書が必要です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特にありません。毎回、プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
韓国現代史	文京洙 / 岩波新書 / /
歴史認識を乗り越える: 日中韓の対話を阻むものは何か	小倉紀蔵 / 講談社現代新書 / /
これだけは知っておきたい日本と韓国・朝鮮の歴史	中塚明 / 高文研 / /
北朝鮮は、いま	石坂浩一訳 / 岩波新書 / /

和解のために:教科書、慰安婦、靖国、独島 朴裕河 / 平凡社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ヨーロッパの歴史 S

15456

担当者名 / Instructor 佐藤 専次

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

今日ヨーロッパは統合へと向かって進んでいる。二回の世界大戦ののち、フランス・ドイツ・イギリスといった国民国家がせめぎ合う時代は終わりを告げ、ヨーロッパは国家を越えて、より広域な経済・政治体制のもとに統合されつつある。このようなヨーロッパという文化的政治的なまとまりがどのように形成され、発展していくのかを概観する。

到達目標 / Attainment Objectives

ヨーロッパ世界の形成・発展を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ヨーロッパの風土・民族・宗教	ロマンス語, ゲルマン語, スラヴ語, カトリック, 東方正教, プロテスタント
第2回	後期帝政のローマとキリスト教の発展	3世紀の危機, ディオクレティアヌス, 西ローマの滅亡, キリスト教の発展
第3回	ケルト人とゲルマン人	ドルイド, タキトゥス, ヴォーダン, 供犠祭
第4回	ゲルマン人の移動と部族王国	西ゴート, ガイセリック, テオドリク
第5回	イスラームと地中海世界の分裂	ウマイヤ朝, ビレヌ=テーゼ, 交易の活発化
第6回	東ローマ帝国からビザンツ帝国へ	ユスティニアヌス, テマ制, マケドニア朝
第7回	フランク王国の成立	サリ族, クローヴィス, ビピン, カロリング朝
第8回	カール大帝とフランク王国	ザクセン族, カールの戴冠, カロリング=ルネサンス
第9回	ノルマン人とイングランド王国の成立	ノルマンディー公領, デーン人, アルフレッド大王, ノルマン=コンクエスト
第10回	技術革新と人口の増大	水車, カルッカ, 三圃制, 収穫率
第11回	修道院改革とグレゴリス改革	聖遺物崇拜, クリュニー修道院, レオ9世, 叙任権闘争
第12回	十字軍とラテン=キリスト教世界の膨張	クレルモン宗教会議, 民衆十字軍, 東方植民, レコンキスタ
第13回	中世都市の誕生	キヴィタス, 商人定住地, 商人ギルド, コミューン運動
第14回	たそがれる中世世界	黒死病, 廃村, 領主経済の危機
第15回	近代世界へ向けて	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	
平常点(日常的)	10 %	ほぼ月に1回程度講義に関する感想を書いてもらう

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『教養のための西洋史入門』	中井義明ほか / ミネルヴァ書房 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

歴史観の形成 S

15493

担当者名 / Instructor 奈良 勝司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業は、歴史を歴史観という観点から考えることで、我々の生きる社会を捉え直すものである。無味無臭で完全に静態的な歴史は存在しない。歴史は受け手の歴史観を通してしか受容されず、歴史観は時代・地域・個人の環境・思想・信条に基づく多様性を持つからである。本授業では、これまでの代表的な歴史観の構造を学ぶと共に、最新の研究成果に基づいた新たな歴史観の形成をはかる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・今までの代表的な歴史観の構造を押さえることができる。
- ・歴史事象や社会事象を能動的に捉え直す能力を身につけることができる。
- ・現代社会の基礎をつくった19世紀の日本列島地域を対象に、最新の研究成果に基づく新たな歴史観を養うことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが、高校の日本史・世界史を履修していれば理解の助けになるだろう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに:そもそも歴史観とは何か。授業の進め方の説明。	史実と史観 歴史教科書
2~3	歴史の時間 :循環史観および鑑戒主義の構造	十干十二支 輪廻転生 神との距離
4~5	歴史の時間 :発展段階説の構造と展開	マルクス主義 大塚史学 近代化理論
6~7	歴史の時間 :世界システム論から「不都合な真実」へ	アナール学派 ウォーラステイン 地球環境問題
8	歴史観の枠組み・構造、歴史家の仕事	「史実」とは何か 時間哲学と歴史観 解釈と認識
9~10	国家の歴史観 :中華王朝の歴史観	易姓革命 中華思想 小中華主義
11~12	国家の歴史観 :近代国家の成立と歴史観	「唐人殺しの世界」 ナショナリズム 国家神話
13~15	史実と歴史観:幕末史のイメージと実態	「幕府」とは何か 新撰組 坂本龍馬 西郷隆盛

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

本授業では特に 教養 という点にこだわる。教養 であるということは、単なる入門ということではなく、応用ができるということである。従って、受講生諸君には普段から物事を論理的に考える力を養って欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	ほぼ定期試験のみで評価する。テストでは、語句説明と共に、授業内容をどれだけ能動的に理解し、人に説明できるかが測られる。従って、授業に出ているだけや語句を丸暗記するだけでは得点は覚束ないので、その点留意しておくこと。
平常点(日常的)	10 %	1, 2回小テストを行い、その内容を加味する。 受講態度の著しく優れた者への加点や、著しく劣る者への減点を行う場合がある。

- ・講義の具体的な進め方については初回の授業で指示するので必ず出席すること。
- ・授業の理解度を高めるためコミュニケーションペーパーを配布することがある(出席点としてはカウントしない)。
- ・授業中に他の受講生の迷惑になるような行為(私語・携帯電話等)がなされた場合は、氏名と学籍番号を質した上で成績評価に大幅な減点を行うこともあるので注意すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないので、学習意欲のある者のみ受講してほしい。

教科書 / Textbooks

決まったテキストは用いず、適宜資料を配布する予定である。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
歴史学ってなんだ?	小田中直樹 / PHP研究所 / 4-569-63269-6 / 最新の概説・入門書。
砂糖の世界史	川北稔 / 岩波書店 / 4-00-500276-5 / 一つの食材から世界の歴史を捉え返した良書。
歴史とは何か	カー(Carr,E.H.) / 岩波書店 / 4004130018 / 古典的なベストセラー。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

宇宙科学 S

15547

担当者名 / Instructor 伊藤 裕

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

宇宙を階層的に構成する諸天体および宇宙全体について、それらの姿と時間発展を概観する。

到達目標 / Attainment Objectives

宇宙の構造と歴史について、その概略を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに & 地球	--- 宇宙、長さの単位、代表的な天体、地球の形
第2回	月	--- 距離、大きさ、形成
第3回	太陽系	--- 惑星、準惑星、太陽系小天体、公転運動、太陽系の形成
第4回	太陽面現象	--- 太陽の大きさ、総輻射量、表面温度、表面の構造、外層、地球の気候への影響
第5回	太陽のエネルギー源	--- エネルギー源の候補、原子核融合反応、その検証
第6回	恒星の明るさ	--- 光とは、明るさの等級、本当の明るさ
第7回	恒星の性質	--- 恒星の色、色と明るさの関係、恒星の寿命
第8回	星間物質と星形成	--- 星の素:星間物質、恒星の形成
第9回	恒星の進化	--- 核融合反応の進展、巨大な赤い星へ、太陽の巨大化で地球は消滅するか
第10回	恒星の終末	--- 燃え尽きた星、星の爆発、ブラックホール、宇宙における物質のリサイクル
第11回	銀河系	--- 天の川、銀河系の姿、天体の運動、銀河系の質量
第12回	いろいろな銀河とその集団	--- アンドロメダ星雲の距離と大きさ、銀河の形、銀河同士の衝突、銀河の集団
第13回	宇宙の大規模構造 & 謎の暗黒物質	--- 宇宙における疎密:大規模構造、正体不明の暗黒物質
第14回	膨張する宇宙	--- 宇宙の広さ、宇宙は膨張している、宇宙の年齢、宇宙の地平面
第15回	宇宙の過去と未来	--- 誕生から数十万年以内の宇宙で起こったこと、これから起こること

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

配布教材にある「問」、「復習」、「問題」を解いておくこと

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基本的なことがらに対する理解度をみる。
定期試験以外に適当な方法でボーナス点を出すかもしれない		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

なし

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
宇宙のデータブック	比田井昌英ら / 東海大学出版会 / / 図表中心
新版・100億年を翔ける宇宙	加藤万里子 / 恒星社厚生閣 / / 教科書スタイルの本
ハッブル望遠鏡の宇宙遺産	野本陽代 / 岩波書店:新書 / / 写真が多い読み物

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国立天文台 <http://www.nao.ac.jp/> (全般)
宇宙航空研究開発機構 <http://www.jaxa.jp/> (飛翔体による研究とその成果)
同 宇宙科学研究本部 <http://www.isas.jaxa.jp/j/> (同上)
National Aeronautics and Space Administration <http://www.nasa.gov/> (同上)

その他 / Others

科学・技術と社会 SA

13059

担当者名 / Instructor 宮下 晋吉

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

今日科学はよりマクロな宇宙へ、よりミクロなクォークへ、そして生命の神秘へと発展を続けている。また技術に应用され、今日のわれわれの暮らしをますます豊かで便利なものになっている。しかしその一方で、化学物質過敏症やBSE問題、人間の卵子売買など科学や技術に関わる社会問題も頻発している。では、われわれにとって、現代社会にとって科学とは何か、技術とは何か？ 本科目は、それを主として科学や技術に関わる社会問題をとらえて考究する。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)今日の科学や技術に関わる社会問題に関心と問題意識を持つこと
- (2)授業で取り上げる科学や技術に関わる社会問題の代表的な例について、自然科学・技術的、および社会的理解を深めること
- (3)それを通して、科学・技術と社会の関わりについて、科学論・技術論、あるいは科学社会学的に理論的に考えることができるにすること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	科学・技術と社会 世紀をこえて	20世紀とは、人工化学物質の時代、科学技術文明とわれわれ
2	人工化学物質と人体 21世紀病	シックハウス、化学物質過敏症、アレルギー
3	環境ホルモン問題の登場	内分泌攪乱物質、動物に現れた予兆、ヒトの精子数の激減？
4	環境ホルモン問題を考える	T.コルボーン、「奪われし未来」
5	環境の世紀へ	R.カーソン、「沈黙の春」
6	環境ホルモン問題の今 不確実のカード	本当に「思い過ごし」か、失速するSPEED98
7	脳とプリオン 動物からヒトへ、ヒトからヒトへ	狂牛病(BSE)、クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)、その他のプリオン病
8	BSE問題と対策をめぐって	食の安全、「リスク管理」について考える
9	ヒトゲノム解読 生命の世紀へ	ヒトゲノム、DNA
10	生命の世紀はどこへ、生殖工学の行方	ドリー、クローン人間、ES細胞、そして卵子売買
11	医学と医学者、医の倫理	ヒポクラテスの誓い、インフォームド・コンセント、医療事故、病院改革
12	チェルノブイリでは何が起きたか	チェルノブイリ原発事故、人々と暮らしへの影響、原発事故と産業社会
13	原発事故はなぜくりかえすか	関電美浜事故、あいつぐトラブル隠し、原発被爆(東海村臨界事故)
14	マンハッタン計画(その1)	20世紀物理学、原爆構想、原爆工学、原爆開発
15	マンハッタン計画(その2)	原爆開発、製造と投下、科学者の社会的責任をめぐって

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
平常点(日常的)	30 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この科目では、今日の人類の課題を自らみつけ、問題意識を深め、自分の頭で考えるという姿勢が、とくに大事だと思います。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
奪われし未来	T.コルボーンら / 翔泳社 / 88135-985-1 /
沈黙の春	R.カーソン / 新潮社 / 10-207401-5 c0161 /
狂牛病 人類への警告	中村靖彦 / 岩波書店 / 00-430759-7 /
優生学と人間社会	米本昇平 / 講談社 / 06-149511-9 c0245 /

原発事故はなぜくりかえすか

高木仁三郎 / 岩波書店 / 00-430703-1 /

必要最低限(授業中取り上げる部分)は、講義資料としてプリントし配付する

参考書 / Reference Books

適宜授業中に指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 宮下 晋吉

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

今日科学はよりマクロな宇宙へ、よりミクロなクォークへ、そして生命の神秘へと発展を続けている。また技術に应用され、今日のわれわれの暮らしをますます豊かで便利なものになっている。しかしその一方で、化学物質過敏症やBSE問題、人間の卵子売買など科学や技術に関わる社会問題も頻発している。では、われわれにとって、現代社会にとって科学とは何か、技術とは何か？ 本科目は、それを主として科学や技術に関わる社会問題をとらえて考究する。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)今日の科学や技術に関わる社会問題に関心と問題意識を持つこと
- (2)授業で取り上げる科学や技術に関わる社会問題の代表的な例について、自然科学・技術的、および社会的理解を深めること
- (3)それを通して、科学・技術と社会の関わりについて、科学論・技術論、あるいは科学社会学的に理論的に考えることができるにすること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	科学・技術と社会 世紀をこえて	20世紀とは、人工化学物質の時代、科学技術文明とわれわれ
2	人工化学物質と人体 21世紀病	シックハウス、化学物質過敏症、アレルギー
3	環境ホルモン問題の登場	内分泌攪乱物質、動物に現れた予兆、ヒトの精子数の激減？
4	環境ホルモン問題を考える	T.コルボーン、「奪われし未来」
5	環境の世紀へ	R.カーソン、「沈黙の春」
6	環境ホルモン問題の今 不確実のカード	本当に「思い過ごし」か、失速するSPEED98
7	脳とプリオン 動物からヒトへ、ヒトからヒトへ	狂牛病(BSE)、クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)、その他のプリオン病
8	BSE問題と対策をめぐって	食の安全、「リスク管理」について考える
9	ヒトゲノム解読 生命の世紀へ	ヒトゲノム、DNA
10	生命の世紀はどこへ、生殖工学の行方	ドリー、クローン人間、ES細胞、そして卵子売買
11	医学と医学者、医の倫理	ヒポクラテスの誓い、インフォームド・コンセント、医療事故、病院改革
12	チェルノブイリでは何が起きたか	チェルノブイリ原発事故、人々と暮らしへの影響、原発事故と産業社会
13	原発事故はなぜくりかえすか	関電美浜事故、あいつくトラブル隠し、原発被爆(東海村臨界事故)
14	マンハッタン計画(その1)	20世紀物理学、原爆構想、原爆工学、原爆開発
15	マンハッタン計画(その2)	原爆開発、製造と投下、科学者の社会的責任をめぐって

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

配付資料をよく読み、その回に取り上げた科学・技術に関わる社会問題について、まとめ、考察を加えておくこと。小テスト、コミュニケーションペーパーなどで、随時チェックする予定。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
平常点(日常的)	30 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この科目では、今日の人類の課題を自らみつけ、問題意識を深め、自分の頭で考えるという姿勢が、とくに大事だと思います。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
奪われし未来	T.コルボーンら / 翔泳社 / 88135-985-1 /
沈黙の春	R.カーソン / 新潮社 / 10-207401-5 c0161 /

狂牛病 人類への警告 中村靖彦 / 岩波書店 / 00-430759-7 /

優生学と人間社会 米本昇平 / 講談社 / 06-149511-9 c0245 /

原発事故はなぜくりかえすか 高木仁三郎 / 岩波書店 / 00-430703-1 /

必要最低限(授業中取り上げる部分)は、講義資料としてプリントし配付する

参考書 / Reference Books

適宜授業中に指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜指示する

その他 / Others

科学と技術の歴史 S

15536

担当者名 / Instructor 宮下 晋吉

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人類は、周囲の環境をつくりかえながら、しだいに人口と生産力をまし、技術やそして科学をも発達させ、豊かだが地球規模の環境問題も激化させるに至ってきた。それではこのような人類の歴史において、生産力の発展に大きな役割を果たした技術や科学(自然科学)とは、いったい何か、それを歴史的に、科学史、技術史、および科学と技術の社会史にもとづいて考察することが、この科目の主な目的である。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)地球規模の環境問題の要因とも関連して、人類史においてとくに近代技術による生産力の拡大が果たした役割について、問題意識を持つこと。
- (2)石器の発達、機械の誕生、産業革命など技術史の大きな転換点(イノベーション)について理解を深めること。
- (3)あわせて科学の誕生や近代科学の成立など科学史の基本的な流れについて、理解すること。
- (4)とくに19世紀ドイツにおいて科学と技術の現代的な社会的ありよう(企業研究所と国立研究所など)が成立するプロセスを系統的に学び、企業や国家と科学技術の関わり、その問題点について考察すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	いま歴史から学ぶこと、人類と環境、科学と技術	イースター島の教訓、「緑の世界史」
2	石器づくりの歴史的進歩 古人類学にみる人間と技術	ミッシングリンク、古人類学の進歩、R.リーキー、石器発達史
3	ギルガメッシュ叙事詩	メソポタミア文明、環境破壊と古代文明の崩壊、
4	科学の誕生	ギリシャ科学、アリストテレス、自然学、運動理論と四元素説
5	道具と機械	すきから5つの単一機械まで、道具、機械、機械の誕生
6	「デ・レ・メタリカ」の世界	アグリコラ、マニファクチュア、機械、ヨアヒムシュタールの鉱山、鉱山学
7	もののけ姫の世界	映画「もののけ姫」を読み解く、近代と非近代、タタラ製鉄
8	近代科学の誕生	ガリレオ、ベネチアの造兵廠、斜面の実験、S.ドレイク
9	近代科学の成立	ニュートン、プリンキピア、デカルト、機械論的自然観
10	産業革命とイノベーション	紡錘、紡錘車、ジェニー紡績機、紡績機の三大発明、道具論と機械論
11	イノベーションとファクトリー	アークライト、クロンフォード工場、機械体系、近代的工場制度
12	科学の社会史	D.S.L.カードウェル、経験的発明と科学に基礎づけられた発明、「科学の組織化」、応用科学、イギリス科学の衰退の原因
13	科学と技術の社会史(その1): 模倣	ドイツ産業革命と技術導入、P.C.W.ボイト、産業助成協会、科学技術助成の起源
14	科学と技術の社会史(その2): 転回点	F.リューローと「フィラデルフィアからの手紙」、品質問題としての「鉄と鋼の等級分け」問題、試験と試験研究所、国立研究所の誕生
15	科学と技術の社会史(その3): 「科学大国」への道	企業と研究所、E.アッベとカールツァイス社、ガラス技術研究所、標準・度量衡検定委員会、帝国物理技術研究所、国家・企業と科学技術

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回の授業後、レジュメや配付資料を読み直し、内容と自分の問題意識をよくまとめておくこと

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
平常点(日常的)	30 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
模倣から「科学大国」へ 科学と技術の社会史	宮下晋吉 / 世界思想社 / / 2008年3月出版予定

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
緑の世界史	C.ボンティング / 朝日新聞社 / 02-25963-1 /
技術と労働	大沼正則 / 岩波書店 / 4-00-003662-9 /
科学の社会史 イギリスにおける科学の組織化	D.S.L.カードウェル / 昭和堂 / 3040-058916-3474 /
適宜授業中に指示する	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜指示する

その他 / Others

担当者名 / Instructor 木野 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人間の歴史の中で、産業革命以後の科学技術の発達は著しく、当初は「科学技術の発達は人間や社会を豊かにする」と信じられていた。しかし、20世紀後半から、この科学技術の急激な発達をもたらす負の側面がさまざまなところで顕在化し、科学技術と人間や社会のあり方を見直す必要が高まっている。この授業では、科学技術の発達と現代の環境問題を通して、科学的な見方・考え方および科学技術のあり方を考える。

この授業では、教科書の各章を参考にして4-5人ずつのグループで課題研究を行い、その発表とディスカッションで授業を進める。課題は、公害、薬害、労災職業病、原子力、エネルギー、環境問題と行政、環境問題と差別、環境問題と専門家の中から選び、教科書を参考にしながら、教科書と異なる事例をテーマに選び、図書館やインターネットを利用して調査研究を進める。

1回の授業で2つのグループ発表とし、それぞれ発表15分、ディスカッション15分とする。その後10分位で発表に対する評価と総括の小レポートを書いてもらう。

授業の詳しい進め方については第1回目の授業で説明する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・科学技術の発達と環境問題の関係について理解する。
- ・自分で問題を調べ、考える力をつける。
- ・グループ研究の仕方を身につける。
- ・ディスカッションできるようになる
- ・授業を受け身ではなく、自ら学んだという実感を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	授業の進め方、グループ研究とは、課題の検討	【キーワード】科学、技術、進歩、人間、環境、社会、グループ研究
第2回目	課題研究のグループ分けとグループ研究の進め方	【キーワード】グループ研究、課題
第3回目	グループ研究のためのチーム・ミーティング(1回目)	【キーワード】グループ研究、チーム・ミーティング
第4回目	グループ研究のためのチーム・ミーティング(2回目)	【キーワード】グループ研究、チーム・ミーティング
第5回目	グループ研究発表(1, 2)	【キーワード】グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第6回目	グループ研究発表(3, 4)	【キーワード】グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第7回目	グループ研究発表(5, 6)	【キーワード】グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第8回目	グループ研究発表(7, 8)	【キーワード】グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第9回目	グループ研究発表(9, 10)	【キーワード】グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第10回目	グループ研究発表(11, 12)	【キーワード】グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第11回目	グループ研究発表(13, 14)	【キーワード】グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第12回目	グループ研究発表(15, 16)	【キーワード】グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第13回目	グループ研究発表(17, 18)	【キーワード】グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第14回目	グループ研究発表(19, 20)	【キーワード】グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第15回目	グループ研究発表を振り返って	【キーワード】環境問題、科学技術、人間

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

グループ研究のためには、図書館やインターネットで資料を検索し、各自で調べておくことが必須である。

また、チーム内では携帯メール等で連絡を取りながら進めるチームワークが必要である。

教室でのチーム・ミーティングでは、毎回、私が各グループを回って相談や助言に当たる。

発表グループは事前に発表用レジュメを提出すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	0 %	定期試験は行わない。
レポート試験	30 %	「グループ発表を終えて」の題で、発表とディスカッションを振り返って、各自、最後に総括のレポートを提出してもらう。その出来具合で評価する。
平常点(日常的)	70 %	1. グループ発表に対するディスカッションへの参加度で評価する。 2. グループ発表に対する毎回の小レポート(発表に対する評価とその理由、発表内容に対する感想と意見)の出来具合で評価する。 3. 発表グループはグループ発表の出来具合とグループ内の貢献度で評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

私は大学の授業は教員の一方的な講義で終わってはならないと考えており、どんな授業でも「双方向型の授業」を基本にしている。双方向型の授業とは、教員と学生の間はもちろん、さらに同じ授業を受けている受講生同士のコミュニケーションを大切にすることを授業のことである。それはまた同時に、お互いに学びあう関係を作ることであり、自ら主体的に授業に参加することでもある。この授業ではグループ研究を通してその目標を達成したいと思う。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版 環境と人間 公害に学ぶ	木野茂編 / 東京教学社 / 8082-5013-6 / 第5刷(2007.9刊)を使用する。

参考書 / Reference Books

教科書の各章に参考文献を記している。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業で紹介する。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 安齋 育郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、超能力・予言・占い・心霊現象といった「科学と非科学の狭間」にあるような問題をあえて取り上げて、その本質について考える。科目担当者の安齋は、昨年、NHK人間講座「だます心 だまされる心」(全8回)や、日本テレビの「世界一受けたい授業」「ザ!世界仰天ニュース」などに登場し、こっくりさん占い、サイババの「物質化現象」、スプーン曲げ、UFO、ナスカの地上絵、ミステリーサークル、心霊手術など、数多くの不思議現象の本質を解明した。この講義の中でも不思議な現象を実演しつつ、その本質に迫る過程を通じて、「科学的な見方・考え方」を考える。

この授業はインターネットを通じたオンデマンド形式+スクーリング(1回)で実施される。学生は受講可能期間中(各講通常1週間)の好きな時間に、自宅や大学のコンピュータ教室から授業を受けることができるが、各自のスケジュールに合わせて計画的に学習を進めること。また、受講にあたっては、ADSL以上のインターネット接続ができるPC環境が必要である。

スクーリングの開催日程は開講前にメールで連絡する。出席できない場合の課題についてもあわせて連絡する。

なお、この授業では電子掲示板(BBS)への主体的な意見の書込みが求められる。他の学生の意見にも積極的に反応することにより、相互に見識が高められることを期待する。

オンデマンド授業については、下記のページを参照のこと。

<http://www.ritsumeai.ac.jp/ondemand/2008/pre-guide-kagaku.html>

到達目標 / Attainment Objectives

- ・どんな不思議な現象にも理由があることを理解する。
- ・「なぜ」と問う心を豊かに育む。
- ・健全な懐疑心を培う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業要綱解説、教員紹介 他	
第2回	人生には「科学で扱える命題」と「科学で扱えない」命題とがある	
第3回	「科学者として優れている」とは、どういう意味なのか?	
第4回	近代心霊術の幕開け - 職業的霊媒の元祖・フォックス姉妹の数奇な運命	
第5回	スクーリング	
第6回	たかが「こっくりさん」、されど「こっくりさん」	
第7回	「ナスカの地上絵」 - 古代ペルー人は空を飛んだのか?	
第8回	「スプーン曲げ」騒動で曲がった科学への信念?	
第9回	A B O式の血液型で性格判断はできるのか?	
第10回	U F O (未確認飛行物体)は宇宙人の乗り物か?	
第11回	愉快犯の仕業 - ミステリー・サークル&虹による地震予知	
第12回	錯誤の世界への2つの入り口 - 「思い込み」と「欲得」	
第13回	なぜ「科学」の時代に「非科学」に走るのか?	
第14回	人生、4つの大事 価値、主体性、合理性、相対化	
第15回	科学的な見方・考え方とは?	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	
平常点(日常的)	70 %	日常点(30%)、授業コンテンツの視聴状況(30%)、電子掲示板(BBS)への書込み状況(10%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

成績は、授業コンテンツの視聴状況、電子掲示板(BBS)への書込み状況、小テスト、レポートによって総合的に評価する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 福本 武明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

科学技術は、われわれ人間の暮らしの中からどのようにして生まれ、われわれの暮らしをどのように変えてきたか、そして今後われわれの暮らしをどう変えようとしているのか。このことについて、われわれの日常生活と関連深い具体的な事例を、私の専攻する土木工学(Civil Engineering)分野から幾つか取り上げ、ビデオなども使いながら講義する。この講義を通じて、受講者それぞれが人類の未来に思いをはせ、現代人としての責務をしっかりと再認識する契機ともなればと願っている。

到達目標 / Attainment Objectives

現代人の日常生活と科学技術との不可分な関係を理解し、人類の未来を見据えて科学技術とどう付き合うべきかを考え、地球市民としての責務を自覚する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

毎回出席するように心掛けて自ら見聞を広め素養を高めるよう努めてほしい。レポートの提出を求めることがある。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	概説(講義内容、スケジュール、評価法、等)	
第2回	地球を測る(地球の大きさ、地図作成など測量の歴史)	
第3回	距離・角度・標高を測る(測量の理論と技術、等)	
第4回	山を治める(土砂災害への備え、等)	
第5回	水を治める(治水事業の今昔、等)	
第6回	建造物を据えつける(各種建造物とそれを支える地盤の科学)	
第7回	飲み水・灌漑用水を確保する(用水路の話)	
第8回	交通路を築く() - 道路の歴史、築造技術	
第9回	交通路を築く() - 鉄道、港湾、空港	
第10回	橋を架ける(橋のいろいろ、構造力学と橋梁技術)	
第11回	トンネルを掘る(掘削技術の説明、等)	
第12回	ダムを造る(歴史、構造、施工法、ダムの功罪、等)	
第13回	下水を処理する、公害と戦う(処理技術の紹介、公害の歴史と現状、等)	
第14回	地球環境工学の課題(土壌・地下水汚染、廃棄物処理、等)	
第15回	地球環境問題(現状と展望、技術しゃ倫理や海外技術援助等の話も含む)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

月間学術誌「科学」、「自然災害科学」、「環境技術」などにより、自然科学分野における今日的課題等について広く知り関心を高めることができる。メディアセンターでの閲覧を奨めたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
平常点(日常的)	20 %	

期末試験(定期試験)結果に平常点(レポート、出席、等)を加算して評価する。詳細は、第1回目の授業時に説明する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
土木工学概論教科書	土木工学概論教科書研究会編 / 彰国社 / 4-395-04006-3 /
地盤の科学	土木学会関西支部編 / 講談社 / 4-06-257088-2 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代環境論 SA

13017

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

産業革命以降の科学・技術の急速な発達による社会の生産力の発展と人間の経済活動の拡大は、地域的な産業公害から地球規模に至るまでの深刻な環境汚染を引き起こし、人類の生存さえも脅かしつつある。公害・環境問題の解決は、21世紀の現代社会が抱える緊急かつ最重要の課題の1つであり、とりわけ地球温暖化の危機はもはや一刻の猶予も許されず、環境保全型社会への転換が強く求められている。

本講義では、地球環境問題を中心とした環境問題全般についての汚染と被害の実態を概説し、その原因・発生メカニズム・影響などを、自然科学と社会科学の両側面から考察する。具体的には、オゾン層破壊、地球温暖化、大気汚染、化学物質汚染、産業公害、廃棄物問題、自然破壊、放射能汚染などの問題について、現代社会や人間活動と関係づけながら論じたい。これらを通して、今日の地球環境問題の克服への課題について検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・地球環境問題を中心とした環境問題全般についての汚染と被害の実態、その原因・発生メカニズム・影響などを幅広く理解できる。
- ・現代の公害・環境問題が抱えている課題について、自分の見解を論理的に述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回目)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	はじめに - 20世紀の公害・環境問題	本講義の課題、公害問題、環境問題
第2回目	地球と生命の歴史	地球と生命の誕生、超大陸の形成、生物と自然環境の相互作用と進化
第3回目	オゾン層破壊とフロンガス	成層圏オゾン層、南極オゾンホール、紫外線、モントリオール議定書
第4回目	地球温暖化問題(1)	地球温暖化のメカニズム・影響予測・原因、温室効果ガス
第5回目	地球温暖化問題(2)	気候変動枠組条約、京都議定書、気候政策、排出量取引
第6回目	大気汚染と酸性雨	硫酸酸化物、窒素酸化物、環境の酸性化、光化学スモッグ
第7回目	化学物質汚染と環境ホルモン	内分泌攪乱化学物質、ダイオキシン汚染、有機塩素化合物
第8回目	公害問題(1)水俣病	塩化メチル水銀、カーバイド・アセチレン系有機合成工業、石油化政策
第9回目	公害問題(2)イタイイタイ病	カドミウム、発生源対策、まきかえし、未認定患者
第10回目	食品汚染問題	水銀による魚介類汚染、カドミウム汚染米、残留農薬、食品添加物
第11回目	アスベスト問題とストック公害	中皮腫、クボタ・ショック、複合型ストック公害
第12回目	森林破壊と生物多様性	熱帯林破壊、生物種の絶滅、自然・生物保護
第13回目	放射能汚染と原子力(1)	原子爆弾、放射性物質、核実験、第五福竜丸事件
第14回目	放射能汚染と原子力(2)	原子炉、原子力発電、原発事故、チェルノブイリ
第15回目	まとめ - 21世紀の持続可能な社会への展望	物質代謝、大量生産・大量消費・大量廃棄、環境保全型社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日頃から環境問題に関する本、新聞、雑誌、テレビ、ビデオ、インターネット、映画、文学、フィールドワークなどを通して、現実の環境問題についてのイメージをつかむように努力してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
平常点(日常的)	20 %	講義中に随時実施する小レポート(感想・意見・質問)などを評価。いわゆる出席点はなし。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

予備知識は特に必要としないが、高校の教科書(物理・化学・生物・地学など)をよく復習しておくこと。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。必要に応じて講義レジュメや資料などを配布する。また時にはビデオ教材も利用する。

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
地球白書(各年版)	クリストファー・フレイヴィン / ワールドウォッチジャパン / /
アジア環境白書(各年版)	日本環境会議 / 東洋経済新報社 / /
環境展望(Vol.1～5)	日本科学者会議公害環境問題研究委員会 / 実教出版 / /
新・地球環境論	和田 武 / 創元社 / 4422400177 /
日本公害論	加藤邦興 / 青木書店 / 4250770257 /

その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

授業の概要 / Course Outline

産業革命以降の科学・技術の急速な発達による社会の生産力の発展と人間の経済活動の拡大は、地域的な産業公害から地球規模に至るまでの深刻な環境汚染を引き起こし、人類の生存さえも脅かしつつある。公害・環境問題の解決は、21世紀の現代社会が抱える緊急かつ最重要の課題の1つであり、とりわけ地球温暖化の危機はもはや一刻の猶予も許されず、環境保全型社会への転換が強く求められている。

本講義では、地球環境問題を中心とした環境問題全般についての汚染と被害の実態を概説し、その原因・発生メカニズム・影響などを、自然科学と社会科学の両側面から考察する。具体的には、オゾン層破壊、地球温暖化、大気汚染、化学物質汚染、産業公害、廃棄物問題、自然破壊、放射能汚染などの問題について、現代社会や人間活動と関係づけながら論じたい。これらを通して、今日の地球環境問題の克服への課題について検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・地球環境問題を中心とした環境問題全般についての汚染と被害の実態、その原因・発生メカニズム・影響などを幅広く理解できる。
- ・現代の公害・環境問題が抱えている課題について、自分の見解を論理的に述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回目)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	はじめに - 20世紀の公害・環境問題	本講義の課題、公害問題、環境問題
第2回目	地球と生命の歴史	地球と生命の誕生、超大陸の形成、生物と自然環境の相互作用と進化
第3回目	オゾン層破壊とフロンガス	成層圏オゾン層、南極オゾンホール、紫外線、モントリオール議定書
第4回目	地球温暖化問題(1)	地球温暖化のメカニズム・影響予測・原因、温室効果ガス
第5回目	地球温暖化問題(2)	気候変動枠組条約、京都議定書、気候政策、排出量取引
第6回目	大気汚染と酸性雨	硫酸酸化物、窒素酸化物、環境の酸性化、光化学スモッグ
第7回目	化学物質汚染と環境ホルモン	内分泌攪乱化学物質、ダイオキシン汚染、有機塩素化合物
第8回目	公害問題(1)水俣病	塩化メチル水銀、カーバイド・アセチレン系有機合成工業、石油化政策
第9回目	公害問題(2)イタイイタイ病	カドミウム、発生源対策、まきかえし、未認定患者
第10回目	食品汚染問題	水銀による魚介類汚染、カドミウム汚染米、残留農薬、食品添加物
第11回目	アスベスト問題とストック公害	中皮腫、クボタ・ショック、複合型ストック公害
第12回目	森林破壊と生物多様性	熱帯林破壊、生物種の絶滅、自然・生物保護
第13回目	放射能汚染と原子力(1)	原子爆弾、放射性物質、核実験、第五福竜丸事件
第14回目	放射能汚染と原子力(2)	原子炉、原子力発電、原発事故、チェルノブイリ
第15回目	まとめ - 21世紀の持続可能な社会への展望	物質代謝、大量生産・大量消費・大量廃棄、環境保全型社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho**

日頃から環境問題に関する本、新聞、雑誌、テレビ、ビデオ、インターネット、映画、文学、フィールドワークなどを通して、現実の環境問題についてのイメージをつかむように努力してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
平常点(日常的)	20 %	講義中に随時実施する小レポート(感想・意見・質問)などを評価。いわゆる出席点はなし。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

予備知識は特に必要としないが、高校の教科書(物理・化学・生物・地学など)をよく復習しておくこと。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。必要に応じて講義レジュメや資料などを配布する。また時にはビデオ教材も利用する。

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
地球白書(各年版)	クリストファー・フレイヴィン / ワールドウォッチジャパン / /
アジア環境白書(各年版)	日本環境会議 / 東洋経済新報社 / /
環境展望(Vol.1～5)	日本科学者会議公害環境問題研究委員会 / 実教出版 / /
新・地球環境論	和田 武 / 創元社 / 4422400177 /
日本公害論	加藤邦興 / 青木書店 / 4250770257 /

その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 木野 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

2005年にアスベスト・パニックともいべき社会問題が突然起こった。2006年は水俣病発見から50年目の年であったが、いまだに水俣病問題は終わっていない。有害物質による環境汚染の問題はかつて「公害」として世に知られたが、今や地球環境問題にまで広がっている。

この授業では具体的な事例として、アスベスト、水俣病、薬害エイズ、原子力問題などを取り上げ、それらのトピックスを通して環境問題の中に潜む本質とは何かを考える。

さらに私たちが今後環境問題にどう対応すればよいのかを考えるため、環境問題と日々取り組んでおられる被害者や専門家の当事者の方々にゲストを招き、直接話をさせていただく機会を設ける。

この授業では環境問題の知識を得るだけでなく、環境問題を通して自分で考える能力を磨くことが目的である。講義はそのためのヒントであり、あなた方への問いかけであり、問題提起である。講義を聞いて終わりではなく、始まりであると捉えてほしい。BBS(電子掲示板)でのディスカッションや、レポートもそのつもりで取り組んでほしい。

「受講にかかわる注意」

この授業はインターネットを通じたオンデマンド形式とスクーリング(1回)で実施される。学生は受講可能期間中(各講通常1週間)の好きな時間に、自宅や大学のコンピュータ教室から授業を受けることができるが、各自のスケジュールに合わせて計画的に学習を進めること。

受講にあたっては、ADSL以上のインターネット接続ができるPC環境が必要である。

スクーリングの開催日程は開講前にメールで連絡する。出席できない場合の課題についてもあわせて連絡する。

オンデマンド授業については、下記のページを参照のこと。ガイダンス動画も視聴可能。

<http://www.ritsumei.ac.jp/ondemand/2008/pre-guide-gendai.html>

到達目標 / Attainment Objectives

- ・ 環境問題とは何かを理解する。
- ・ 自分で問題を見つけ、自分で調べる力をつける。
- ・ 調べたことの受け売りではなく、自分で考える力をつける。
- ・ レポートをまとめる力をつける。
- ・ 授業を受け身ではなく、自ら学んだという実感を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。大学生なら、わからないことはちょっと自分で調べれば大体は理解できるはずである。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス、水俣病事件から学ぶ (公害認定までの長い道のり)	水俣病、公害、有機水銀中毒、認定
第2回	水俣病事件から学ぶ (被害者の救済と公害の責任)	見舞金契約、認定基準、不作為、被害者の救済、行政の責任
第3回	公害と労災職業病 (ある町工場のマンガン中毒事件から)	労災職業病、マンガン中毒、監督行政
第4回	公害と労災職業病 (アスベスト・パニックから)	アスベスト、粉じん、潜伏期間
第5回	薬害から学ぶ (薬害エイズは今……被害者の花井十伍さんに聞く)	薬害エイズ、血液製剤、血友病、HIV訴訟
第6回	スクーリング	公害、環境問題、現代環境論
第7回	薬害から学ぶ (薬害を未然に防いだ製薬労働者:北野静雄さんに聞く)	新薬、ダニロン、発がん性試験、労働組合、マイルーラ
第8回	原子力とエネルギー (原子力の光と影 - 原子力は夢のエネルギーだったか)	原子力、原水爆、原子力発電、放射能
第9回	原子力とエネルギー (プルトニウムと私たち:アイリーン・スミスさんに聞く)	プルトニウム、高速増殖炉、もんじゅ、プルサーマル
第10回	原子力とエネルギー (エネルギーと人間:京大原子炉の小出裕章さんに聞く)	エネルギー、化石燃料、原子力、浪費、不平等社会
第11回	公害環境問題と差別(公害や環境問題でも差別の問題は避けて通れない)	患者差別、胎児障害、出生前診断、優生思想
第12回	公害環境問題と行政(自治体の現場から:高槻市会議員の二木洋子さんに聞く)	公害行政、環境アセスメント、バイオ産業、情報公開、環境自治体
第13回	公害環境問題と専門家(三池炭じん爆発から:熊本学園大の原田正純さんに聞く)	三池炭じん爆発、水俣病、科学者の責任
第14回	公害環境問題と私たち(さまざまな専門家の役割を問う。では私たちは?)	原因究明、被害者救済、専門家、市民

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

- ・第1～第2回目:教科書のはしがき、あとがき、第1章を読んでくる。
- ・第3回目:教科書の第2章を読んでくる。
- ・第4回目:アスベストに関する記事やWebを読んでくる。
- ・第5回目:教科書の第5章を読んでくる。
- ・第7回目:教科書の第6章を読んでくる。
- ・第8回目:教科書の第7章を読んでくる。
- ・第9回目:教科書の第8章を読んでくる。
- ・第10回目:教科書の第9章を読んでくる。
- ・第11回目:教科書の第10章を読んでくる。
- ・第12回目:教科書の第4章を読んでくる。
- ・第13回目:教科書の第3章を読んでくる。
- ・第14回目:教科書の第11章を読んでくる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	0 %	定期試験は行わない。
レポート試験	60 %	小レポートは指定課題について2回。各500字程度。各5%。最終レポート(50%)は「環境と人間」の範疇に入るものであれば、テーマは自由。調べたことをまとめるだけでなく、自分で何かをつかんだと認められるものを高く評価する。すなわち、評価の半分は、テーマの選び方、調べ方、まとめ方、書き方(章・節分け、段落、引用・参考文献など)であるが、もう半分はどこまで自分で考えたかという考察力で評価する。分量は2000字以上。ただし、多ければよいというものではなく、内容がともなっていることが必要である。最終レポートの評価は、50点(優秀)を最高に、40点(良)、30点(普通)、20点(可)、10点(劣)の5段階評価で行う。
平常点(検証テスト)	0 %	最終講義日試験は行わない。
平常点(日常的)	40 %	授業コンテンツの視聴確認テスト(5%)、理解度確認小テスト(15%)、電子掲示板(BBS)への書き込み状況(20%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業外学習で記したように、該当する章を講義の前に読んでくること。教科書を読んでいることを前提にして講義を行う。
 また、この授業ではBBSを使って受講生の授業への積極的な参加を求める。同じ講義を聞いても人によって受け止め方がいかに違うかを知ることが自分で考えるための第一歩である。BBSの書き込みに対しては主として教育コーチ(山中由紀氏)が対応する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版 環境と人間 公害に学ぶ	木野茂編 / 東京教学社 / 8082-5013-6 / 第5刷(2007.9刊)を使用する。

参考書 / Reference Books

教科書の各章に参考文献を記している。
 必要に応じて授業でも紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業で紹介する。

その他 / Others

現代人とヘルスケア SA

13019

担当者名 / Instructor 空閑 佐智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

様々な健康情報・健康問題が取り巻く現代で、「健康に生きる」ということはどういうことなのか、また、これからますます進む高齢化社会とどのように向き合っていくのか、などについて考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

様々な健康情報・健康問題を知り、「健康」について自分の考えを持つ

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	健康ってなんだろう?	平均寿命・死亡率
2	食べることにについて(栄養素)	栄養・五大栄養素
3	食べることにについて(食生活)	食事摂取基準・食事評価・外食
4	運動について	運動の効果・身体活動量
5	メタボリックシンドローム	診断基準
6	肥満	体脂肪・減量
7	生活習慣病	高血圧
8	生活習慣病	糖尿病
9	生活習慣病	骨粗しょう症
10	タバコ	有害物質・依存症・禁煙
11	アルコール	代謝・パッチテスト
12	健康食品	保健機能食品
13	食品表示	強調表示
14	心の健康	ストレス・心身症
15	これからの高齢社会	高齢化率・認知症

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	
平常点(日常的)	40 %	考察や課題など、講義時間中の提出物による評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

第1回目の授業の時に、シラバスならびに授業運営の詳細については説明する。
受講希望者は出席するように。

現代人とヘルスケア SB

15470

担当者名 / Instructor 空閑 佐智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

様々な健康情報・健康問題が取り巻く現代で、「健康に生きる」ということはどういうことなのか、また、これからますます進む高齢化社会とどのように向き合っていくのか、などについて考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

様々な健康情報・健康問題を知り、「健康」について自分の考えを持つ

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	健康ってなんだろう?	平均寿命・死亡率
2	食べることに(栄養素)	栄養・五大栄養素
3	食べることに(食生活)	食事摂取基準・食事評価・外食
4	運動について	運動の効果・身体活動量
5	メタボリックシンドローム	診断基準
6	肥満	体脂肪・減量
7	生活習慣病	高血圧
8	生活習慣病	糖尿病
9	生活習慣病	骨粗しょう症
10	タバコ	有害物質・依存症・禁煙
11	アルコール	代謝・パッチテスト
12	健康食品	保健機能食品
13	食品表示	強調表示
14	心の健康	ストレス・心身症
15	これからの高齢社会	高齢化率・認知症

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	
平常点(日常的)	40 %	考察や課題など、講義時間中の提出物による評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

第1回目の授業の時に、シラバスならびに授業運営の詳細については説明する。

受講希望者は出席するように。

自然と進化 S

15466

担当者名 / Instructor 本郷 儀人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義の目標は、生物進化の基本となる自然淘汰の仕組みを理解することである。さらにその考え方を基盤として、動物にみられる様々な現象を理解してゆく。

到達目標 / Attainment Objectives

生物進化の基本的なしくみ、自然淘汰を学ぶ。
動物の行動や形態などを、進化学的にとらえ、
いかによくできているかを理解してもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	授業内容、進め方など
第2回	自然淘汰と進化1	ダーウィン、行動生態学、適応度
第3回	自然淘汰と進化2 -進化は観察できる！ なぜそんな行動が進化する？ 進化の実例-	アノール、ライオン、子殺し
第4回	自然淘汰と進化3 -「種の利益のために」はあり得るか？ -	ライオン、ハヌマンラングール
第5回	群れ生活の進化	警戒性、うすめの効果、防衛効果
第6回	最適戦略	最適採餌戦略
第7回	性淘汰1	同性内淘汰、異性間淘汰
第8回	性淘汰2	求愛行動
第9回	代替戦略	行動の多型、形態の多型
第10回	信号の進化 -コミュニケーション-	化学的、触覚的、聴覚的、視覚的信号
第11回	共進化と軍拡競争	捕食者、餌生物、隠ぺい色、警告色、托卵
第12回	動物の闘争	儀式的闘争、ゲーム理論
第13回	血縁淘汰	包括適応度、社会性、利他行動
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

身近にいる動物にみられる不思議な現象をさがしてみよう

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	
レポート試験	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義内容を覚えるのではなく、理解することを心がけて下さい。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
進化とはなんだろうか	長谷川真理子 / / ISBN4-00-500323-0 /
動物の社会	伊藤嘉昭 / / /
クジャクの雄はなぜ美しい？	長谷川真理子 / / /
全て強制ではない(買う必要はない)	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

自然人類学 S

13015

担当者名 / Instructor 足立 薫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

私たち人間が生物としてどのような特徴をもち、同種や他種の生物との間にどのような関係を結びつつ生きているのかを考える。人間に近縁な霊長類の行動や生態への理解から、人類進化を解明する方法を紹介し、さまざまな人間らしさの起源を探ることを目標とする。

到達目標 / Attainment Objectives

進化論の基本を知り、進化のしくみを理解する。人間の行動や社会の特徴を、他の動物(とくにほかの霊長類)と比較して、人類進化の観点から論じることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	人類学 動物 環境 「人間とは何か」
第2回	霊長類とは何か	生物の分類 分布 社会構造
第3回	サルと類人猿	近縁種 分岐分類 動物の権利
第4回、第5回	進化論とは何か	自然選択 ダーウィン 総合説 系統進化 進化心理学
第6回、第7回	人類の起源と進化(1)	直立二足歩行 アウストラロピテクス 脳の進化
第8回	人類の起源と進化(2)	ホモ・エレクトス アウト・オブ・アフリカ 更新世
第9回	人類の起源と進化(3)	現代人の起源 ネアンデルタール
第10回	行動学と進化	行動の機能 血縁度 包括適応度
第11回	繁殖と性	性淘汰 配偶者選択 家族の起源
第12回	道具使用と文化	行動の社会的伝達 類人猿の道具使用 伝統
第13回	言語の起源	霊長類の音声 類人猿の言語研究
第14回	コミュニケーションと進化	社会構造 システム理論 ニッチ構築
第15回	人間の社会	狩猟採集民 文化 宗教

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

特になし。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	論述形式
平常点(日常的)	50 %	レポート、小テスト、レスポンスペーパーなど

定期試験に日常点を加味して、総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

生物学の予備知識は特に必要としないが、講義で示されるトピックをもとに、「人間とは何か」について、論理的に深く考えることが求められる。講義に関する諸注意の伝達にWebCTを使用するので、各自でアクセスできるようにしておくこと。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。講義中に資料プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

講義中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都大学理学部人類進化論研究室 <http://jinrui.zool.kyoto-u.ac.jp/>
 京都大学霊長類研究所 <http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/index-j.html>

その他 / Others

講義の進展状況によって授業内容・スケジュールは変更の可能性があるため、WebCTなどのお知らせをチェックすること。

スポーツのサイエンス S

13014

担当者名 / Instructor 漆原 良

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

近年、プロスポーツ選手のプレーをスローで再生しながら解説するテレビ番組など、多くの人にとってスポーツや運動のサイエンスに触れる機会は増えている。しかし、実際にそれらの情報を正しく理解し、自分たちの健康維持や競技力向上に十分利用できている人はそう多くはない。

そこで、本講義では、受講者が自身の日常生活で経験する運動、スポーツに科学的な取り組みを応用できるようになることを目的として、運動やスポーツのサイエンスを理解するための基礎的な知識や実際のトレーニング方法について解説するとともに、いくつかの身近なテーマについて、実際の科学的な観察を通して考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

日常生活の中で経験する運動やスポーツに対してサイエンスとしての視点をもって観察し、取り組むための基礎的な知識について理解し、自身で応用するための基盤を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

必須の科目はないが、個々の内容についてより深く学習したい場合には、「生理学」や「スポーツバイオメカニクス」の履修を薦める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入, 講義内容の概説	
2	運動を行うための身体の仕組みと機能1 (筋収縮)	骨格筋
3	筋力トレーニング1	部位による違い
4	筋力トレーニング2	負荷による効果
5	身体組成とダイエット	体脂肪, 生活習慣病
6	運動を行うための身体の仕組みと機能2 (呼吸・循環)	最大酸素摂取量, 心拍数
7	有酸素運動1	健康維持のための運動
8	有酸素運動2	持久力向上のための運動
9	スポーツパフォーマンスの評価	評価方法, 動作解析
10	ランニングの分析	ビデオやストップウォッチを使った分析
11	各機能を調整する機能	神経, 感覚
12	神経, 感覚のトレーニング	ラダー, ドリル
13	トレーニング計画	観察, 目標設定
14	コーディネーショントレーニング	コーディネーション
15	まとめ	自分たちの計画をたててみよう

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業で学んだことを自分たちの日常生活の中で実践して試してもらうために、定期的に授業内容を整理するための簡単な課題を課すことがあるので、常に授業内容について自ら考えておいてもらいたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	運動やスポーツを科学的な自らの力で観察し、自らの言葉で論理的な記述ができる。
平常点(日常的)	40 %	出席及び受講態度についてリアクションペーパーを中心に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義では講義室内でできる程度の範囲で、自分の身体の機能を自分で測定したり、実際のトレーニング方法を体験してもらうことおよびそれに基づく学生間での討論を行うことを予定している(受講者数によっては変更になる可能性がある)ため、常に積極的な姿勢でのぞんでもらいたい。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。
必要に応じて、随時資料を配付する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて講義内で適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

生物の多様性 S

13108

担当者名 / Instructor 佐藤 路子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

地球上には海洋、森林、高山、砂漠など様々な環境が存在し、それぞれに適応した様々な生物が生息している。そして、同じ環境に生息している生物であっても、生活を営む方法は種それぞれで違っている。本講義では様々な生物やその営みを紹介し、なぜたくさんの種類の生物がいるのか、どうやって様々な生活の営みが作り上げられてきたのか、その多様性はどのように維持されているのかについて、進化的な側面を交えながら、環境と生物の関係および生物間関係に着目して解説する。また近年の生物多様性の危機や環境保全についても解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・動物や植物の生態や進化のメカニズムについて説明ができる
- ・環境保全についての基礎を修得する
- ・生物に関連する社会問題の情報を得て、対策を考える

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

理解を深めるために「自然と進化」を合わせて受講されることをおすすめします。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業内容の紹介・受講のルール・評価方法について	
第2回	生物多様性の概念と階層性	個体、個体群、群集、形質、変異、多型
第3回	種多様性と種の形成 その1	種概念、分類、種の表記法
第4回	種多様性と種の形成 その2	進化、自然淘汰
第5回	種多様性と種の形成 その3	進化、性淘汰
第6回	種多様性と種の形成 その4	種分化のしくみ、生殖隔離機構、適応放散
第7回	環境と生物の関係・生物間関係 その1	生態系のしくみ、無機的環境と生物の関係
第8回	環境と生物の関係・生物間関係 その2	生物間相互作用、食う・食われるの関係、軍拡競争
第9回	環境と生物の関係・生物間 その3	相利共生、寄生、共進化、競争
第10回	生物多様性の重要性和現状	絶滅のパターン、生物多様性の価値、生態系サービス
第11回	生物多様性の保全 その1	生息地の破壊、分断化
第12回	生物多様性の保全 その2	環境汚染、環境ホルモン、地球温暖化
第13回	生物多様性の保全 その3	移入種、外来種、交雑
第14回	生物多様性の保全 その4	乱獲、病気、遺伝的変異の減少
第15回	各講義テーマのおさらい、練習問題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基礎的な語句や概念を理解しているか、現象の原理が説明できるかを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・普段から新聞の科学欄を読んだり、自然科学系のテレビ番組(NHK「ダーウィンが来た」等)を見たりして、生き物に対する意識を高めておくといでしょう。
- ・講義にて配布済みのレジュメはWebCTでダウンロードできます。

教科書 / Textbooks

購入する教科書は特にありません。毎回プリントやビデオなどで解説します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生態学入門	日本生態学会 / 東京化学同人 / 4807905988 / 第1-9回に関連
生き物の進化ゲーム	酒井聡樹・高田壯則・近雅博 / 共立出版 / 4320055225 / 第4-5回に関連
保全生物学のすすめ	リチャードB.プリマック・小堀洋美 / 文一総合出版 / 4829921161 / 第10-14回に関連

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で適宜紹介します。

生命科学と倫理 S

15476

担当者名 / Instructor 大谷 いづみ

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

生命科学と先端医療の急激な発達により、「生・老・病・死」の諸相は大きく変容しようとしている。本講座では、生命倫理の問題群の倫理的・法的・社会的な問題を考えるが、とくに先端医療の発達と「生命のはじまり」をめぐる生命倫理問題に焦点を当て、そこから考察を進展させる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・生命科学と倫理をめぐる現代的課題を検討し、初歩的な調査ができる。
- ・一市民としてどのように問題を理解し対処すべきか、判断するための基盤を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	オリエンテーション / 授業の概要と解説	
2.	近未来における生と死～映画『ガタカ』から	
3.	遺伝子決定時代の到来?～ポスト・ゲノム時代の「生・老・病・死」	
4.	人工生殖技術の現在(1) 生殖技術の歴史	
5.	人工生殖技術の現在(2) 生殖技術の現状	
6.	ベビーM事件	
7.	代理出産契約の是非 / 親権・養育権	
8.	代理母契約の背景	
9.	分裂する父性・分裂する母性	
10.	コミュニケーション・ペーパーと討議	
11.	出生前診断の波紋	
12.	優生学と新優生学	
13.	再生医療と人体の資源化	
14.	コミュニケーション・ペーパーと討議	
15.	まとめ:生殖技術が問いかけるもの	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

生命科学と生命倫理に関連する問題は、ドキュメンタリーや新聞などで日常的に話題になる。また、医療問題をとりあげた映画やTVドラマも多い。複眼的な視点で活用し、自らの問題意識を深める機会にしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	授業理解および授業参加度を評価する。
平常点(日常的)	40 %	出席の他、授業終了後に、数回、コミュニケーション・ペーパーの提出を求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生命倫理とは何か	市野川容孝編 / 平凡社 / /
テーマ30 生命倫理	生命倫理教育研究協議会 / 教育出版 / /

他に、参考となる文献や情報については、授業中に適宜プリントほかで配布、紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

地球変動学

地球表層で生起しているさまざまな変動についてプレートテクトニクスを基礎として理解することを目指す。

はじめに地球についての全体像を解説するほか、現在の地球表層の自然環境がどのように変化して出来上がってきたかを概観する。その後、プレート同士の相互運動により、プレート境界周辺で集中的にさまざまな変動が起きることを学ぶ。

とくに日本列島とその周辺は、世界的に見てもプレート境界で起こる諸現象、すなわち変動がとくに集中しているところである。そこで日本列島の形成と現在生起している変動の特徴についても学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

地球の全体像と共に、地球の各部分が相互に関連して全体が成り立っていることを理解し、説明できる。

地球科学の特殊性を理解すると共に、物理や化学といった面から地球を理解し、説明できる。

地球科学全般にわたる基本的な知識、考え方を習得し、説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに - 地球システムについて	岩石圏、地殻、マントル、核、プレート、水圏、大気圏、磁気圏、生物圏
2	地球と太陽系の誕生と進化	原始太陽系星雲、微惑星、衝突クレーター、潮汐力、成層構造
3	地球表層環境の進化	海、生命の起源、生物進化、酸化的大気、光合成、太陽定数、熱平衡、温室効果、気候変動
4	地球のかたちと重力場	回転楕円体、水平、ジオイド、重力
5	地震波でわかってきた地球の内部構造	地震波、P波、S波、地震波の反射と屈折、走時曲線、地殻、マントル、中心核
6	地球の構成物質 - 元素・鉱物・岩石	元素、鉱物、岩石
7	地震と火山の発生するところ	地震活動、火山活動、大地形、海底地形
8	プレートの概念と球面を動くプレートの運動	大陸移動、海底拡大、海底更新、球面プレート、プレート境界、プレュームテクトニクス
9	地球の磁場 - 現在と過去	地磁気、偏角、伏角、地心磁気双極子、古地磁気、岩石磁気、地磁気の逆転
10	プレート運動の推定 - 岩石・地層に記された昔の地球磁場の記録	古地磁気、地磁気の逆転、見かけの古地磁気極の移動
11	岩石・地層の年代測定	相対年代、古生物の進化、生層序による年代区分、放射性元素、放射崩壊、放射年代決定
12	プレート境界に働く力 - 地震の発生メカニズム	応力分布、プレート運動、地震波初動、地震発生のメカニズム、断層の型
13	プレート境界で起こる変動	発散境界、収束境界、すれ違い境界、地震活動、火山活動、マグマの発生
14	日本列島のテクトニクス	沈み込み、島弧、圧縮場、活断層、地震活動、海溝型巨大地震、内陸直下型地震、火山活動
15	日本列島の形成	沈み込み、島弧、付加体、背弧海盆

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

参考書等による復習が必要。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

定期試験(筆記) 100 % 基本的な事項の理解とその応用を問う。原則として論述問題を主に課す。

授業では時間の都合で扱いきれなかったトピック的なテーマについてショートレポートを課すことがある。原則として定期試験だけで成績評価をするが、もしレポートを課した場合は、20%を目安としてレポート点とし、定期試験との合計で100%とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

高校地学の知識は要しない。数学・物理・化学等の知識があったほうが多少は有利であるが、必須ではない。

授業の理解には毎回の積み上げが大事である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
使用しない。	/ / /

次の2つ(部分)は便利な参考書である。

ニューステージ新訂地学図表 浜島書店編集部編著 浜島書店 4-8343-4007-4 役に立つ図表集。

理科年表 平成20年版 国立天文台編 丸善 978-4-621-07902-7 データブック。一部が参考になる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
図説地球科学	杉村新・他編 / 岩波書店 / 4-00-005669-7 / 講義内容全般に関連する基本事項を調べるのに便利な参考書
地球科学入門 - プレートテクトニクス	河野長 / 岩波書店 / 4-00-005667-0 / 講義内容全般に関連する教科書風の参考書
グローバルテクトニクス	杉村新 / 東京大学出版会 / 4-13-062116-5 / 講義内容全般に関連するやや高度な教科書風の参考書
地球学入門 惑星地球と大気・海洋のシステム	酒井治孝 / 東海大学出版会 / 4-486-01615-7 / 講義内容全般に関連する教科書風の参考書
惑星科学入門	松井孝典 / 講談社学術文庫 / 4-06-159222-X / 講義内容の一部に関連する参考書

その他、講義内容の一部に関連する参考書

安藤雅孝・吉井敏尅「地震 - 理科年表読本」(丸善, 1993)4-621-03831-1

藤田和夫「変動する日本列島」(岩波新書, 1985)4-00-420306-6

松田時彦「活断層」(岩波新書, 1995)4-00-430423-7

平朝彦「日本列島の誕生」(岩波新書, 1990)4-00-430148-3

Kenneth J. Hsu 高柳洋吉訳「地球科学に革命を起こした船 - グローマーチャレンジャー号」(東海大学出版会, 1999)4-486-01460-X

土木学会関西支部編「地盤の科学 地面の下をのぞいてみると・・・」(講談社ブルーバックス, 1995)4-06-257088-2

池田安隆・他「活断層とは何か」(東京大学出版会, 1996)4-13-063309-0

寒川旭「地震考古学 遺跡が語る地震の歴史」(中公新書, 1992)4-12-101096-5

上田誠也「プレートテクトニクス」(岩波書店, 1989)4-00-005929-7

瀬野徹三「プレートテクトニクスの基礎」(朝倉書店, 1995)4-254-16029-1

寒川旭「地震の日本史 大地は何を語るのか」(中公新書, 2007)978-4-12-101922-6

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国土地理院、気象庁、産業技術総合研究所地質調査総合センター、防災科学技術研究所などのホームページ

その他 / Others

情報の数理 GA

15503

担当者名 / Instructor 原 啓介

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

情報を数学的に扱うための理論、いわゆる情報理論の基礎を講義する。

到達目標 / Attainment Objectives

情報を数学的に扱うための枠組みを理解し、その基本的な概念に習熟すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

文系の国公立大学入試程度の高校までの数学が理解されていることが望ましい。もしそうでない場合には、講義の理解のために自習を要する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	情報理論とは	情報系
2	コード化の概念	
3	一意復号化可能コード	
4	一意復号化可能コード2	
5	即時的コード	
6	即時的コード2	
7	Kraft の不等式とMcMillan の不等式	
8	Kraft の不等式とMcMillan の不等式2	
9	最適コード	
10	最適コード2	
11	エントロピーの概念と性質	
12	エントロピーの概念と性質2	
13	エントロピーの概念と性質3	
14	Shannon の第一定理へ	
15	Shannon の第一定理へ2	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

聴講生の理解を見ながら進度を工夫するので、上記のスケジュールはおおむねの目安と考えられたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

筆記の期末試験の成績で評価をする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

基本的に数学の講義のスタイル(つまり、主に大量の板書)で行い、レジュメ等の配布はない。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

レジュメの類は配布しない。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 吉田 要

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

車のCMを見ていて、車のホイールが、進行方向とは逆に回転しているのを見たことはないだろうか。これは、アナログからデジタルに変換する過程で起こる、情報の欠落によるのであるが、おわかりだろうか。

また、人間の未来は、多くの可能性を秘めており、不確定であるが故に、可能性を過大に評価していないだろうか。我々人類が得ることのできる知識の限界や、量をはかり、提示することはできるのであるか。

コンピュータを利用した技術は、日進月歩の進展を見せており、人工知能や人工生命あるいはロボットなど、情報に関わる技術は、映画「2001年宇宙の旅」や「マトリックス」のように、人類を脅かすものとなっていくのだろうか。コンピュータの能力は人間の能力に匹敵するものなのだろうか。このような答えの一端をこの授業で明らかにしていく。

到達目標 / Attainment Objectives

情報化とはどのようなことか。また、情報化の進んでいく方向を見極める目を養うことを目的とし、情報処理のメカニズムについて理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ 情報科学で扱うこと	キーワード 情報 表現 処理 アナログとデジタル 連続と離散
第2回	テーマ 情報概念出現の歴史的背景と科学的背景	キーワード 物質 エネルギー 情報 汎用化
第3回	テーマ 情報とネット社会の現状	キーワード 世界的盗聴システム エシロン 情報の表現と人類の限界 情報公開とプライバシー保護
第4回	テーマ 情報の表現をどのようにするか	キーワード 符号化と復号化 暗号 個人認証
第5回	テーマ 最適な情報の表現について考える	キーワード コンパクト符号 ハフマンの符号化法 情報の圧縮
第6回	テーマ 情報の価値を科学的に量るために	キーワード 情報量 エントロピー 生起確率
第7回	テーマ 情報量を求めてみる	キーワード TV 光の三原色 DVD CD サイコロ
第8回	テーマ 機械的自動処理のメカニズム	キーワード 人工生命 複雑系 オートマン セルオートマン
第9回	テーマ オートマトンによる情報処理の表現	キーワード 状態図 オートマトンによる認識 形式言語
第10回	テーマ 生物の情報処理のメカニズムを真似て	キーワード 脳 マカロックとピッツ 神経回路網 人工知能 生物知能 自動機械
第11回	テーマ コンピュータの原理を考える	キーワード チューリングマシン コンピュータ
第12回	テーマ 人間と計算機の情報処理能力の比較	キーワード チューリングテスト ゲーデル
第13回	テーマ 人間とコンピュータの情報処理能力を比較する2	キーワード 人間の能力 計算機の能力
第14回	テーマ 人間とコンピュータの情報処理能力を比較する3	キーワード クリーネーの定理
第15回	テーマ 授業で扱った内容の関係について整理 と テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

Turing Testなど授業中に随時レポートを指示します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	授業全般にわたっての理解を確認する
平常点(日常的)	20 %	授業の進行に従って、問題を出題し、正解が出れば加点する。出席も重視

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書に沿って授業を行う。積み上げ式なので、授業を遅れたり休んだりすると理解しにくい。また、問題には積極的にチャレンジして欲しい。授業を毎回まじめに聞くことが重要。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

情報学概論・Prologプログラミング

授業は教科書に沿って

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

吉田要 / 八千代出版 / 4-8429-0874-2 / 生協書籍部にて

参考書 / Reference Books

授業中随時

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報技術と社会 S

13069

担当者名 / Instructor 杉本 英昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会は急速に情報化社会に移行している。すなわち、大量生産による効率向上を目指した社会から、個性化重視の情報化社会に移りつつある。

本科目では、いま、何故情報なのか、さらには、情報化社会における人々の生活が、これまでに比べてよりよいものになるのかどうかという視点から、情報化社会の姿とそれを支える情報技術について展望する。

授業においては、我々の社会において、どのような情報技術がどのように活用されているかを日常生活で利用されている具体的な例を取り上げて説明するとともに、情報技術そのものに関する最新のニュースや情報技術が関係したニュースを取り上げ、情報技術が我々の社会に与える影響について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 授業で説明する情報技術やそれらを用いた製品・サービスについてその仕組みを理解し、説明できる。
- (2) 情報技術を用いた製品・サービスが社会に与える影響(長所、短所、問題点など)について説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報処理、情報リテラシーの技術を身につけているとより理解が深まるが、本科目を履修する上においては必須ではない。レポートの提出に利用する予定であるWebCT等の詳細な使い方は授業の中で説明する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入(授業の進め方、評価方法、WebCTについて)、情報技術とは	IT, ICT
第2回	ハードウェアの基礎	コンピュータの歴史、コンピュータの5大装置
第3回	ソフトウェアの基礎	ソフトウェアの分類、ユーザビリティ
第4回	プログラミングの基礎	機械語、アセンブリ言語、高級言語、コンパイラ
第5回	ネットワークの基礎とその応用(1)	インターネット、World Wide Web
第6回	ネットワークの基礎とその応用(2)	TCP/IP、DNS、ルーティング
第7回	ネットワークの基礎とその応用(3)	ブログ、RSS、Wiki、SNS、CGM、Web 2.0、ロングテーブル
第8回	中間のまとめ	これまでのまとめと復習の演習問題、レポート課題の出題
第9回	ビジネスにおける情報技術の活用	インターネット広告、SEO、SaaS
第10回	ICタグ	RFID、ICタグ、ICカード
授業スケジュール変更(記載内容6/19変更)	当初の予定より1回分遅れてしまったため、第11回以降は、以下のように当初の予定を1回分ずらせて、第15回に「情報技術とセキュリティ、最新の技術動向とまとめ」を行います(6/13の授業中に説明済み)	成績評価方法に変更はありません。
第11回	ICタグ	RFID、ICタグ、ICカード
第12回	行政における情報技術の活用	電子政府、電子自治体、電子投票
第13回	医療分野における情報技術の活用	CTスキャナ、MRI、病院情報システム、電子カルテ
第14回	情報技術と著作権	著作権、クリエイティブ・コモンズ、特許、ビジネスモデル特許
第15回	情報技術とセキュリティ、最新の技術動向とまとめ	個人情報の保護、コンピュータウイルス、シンクライアント、授業で取り上げたテーマのまとめと最新の技術動向について

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業を受講する前に閲覧・利用が望まれるWebサイト等がある場合は、事前に指示する。

授業の内容を復習するとともに、授業で紹介したWebサイトやサービスを、マルチメディアルーム等で可能な限り実際に利用して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	75 %	(1) 授業で説明した情報技術やそれらを用いた製品・サービスの基本的な知識を問う。 (2) 授業で説明した情報技術を用いた製品・サービスが社会に与える影響(長所、短所、問題点など)について説明できるかを問う。

平常点(日常的)	25 %	(1)与えたテーマ(課題)について実際のWebサービス等を利用し、その長所・短所や問題点の指摘および改善のための提言ができていないかを問うレポートを課す。(課題内容は第8回頃に授業中に説明する。WebCTを使って提出を受け付ける予定である)[15%] (2)質問等、授業への参加を考慮する[10%]
----------	------	--

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「参考になるWWWページ」で紹介している情報技術に関するニュースサイトを閲覧するなどして、日頃から情報技術に関するニュースに関心を持って欲しい。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。
授業中に適宜プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
あなたはコンピュータを理解していますか? 10年後、20年後まで必ず役立つ根っこの部分がきっちりわかる!	梅津 信幸 / ソフトバンク クリエイティブ / 978-4797339499 / ハードウェアに関する参考書
プログラムはなぜ動くのか 第2版 知っておきたいプログラミングの基礎知識	矢沢 久雄 / 日経BP社 / 978-4822283155 / ソフトウェア、プログラミングに関する参考書
TCP/IPの絵本 ネットワークっておもしろい!	アंक / 翔泳社 / 978-4798105161 / ネットワークに関する参考書
絶対わかる!新・ネットワーク超入門	日経NETWORK / 日経BP社 / 978-4822212643 / ネットワークに関する参考書
社内ブログ革命 営業・販売・開発を変えるコミュニケーション術	シックス・アパート株式会社 / 日経BP社 / 978-4822245665 / 企業でのブログの利用に関する参考書
クチコミの技術 広告に頼らない共感型マーケティング	コグレ マサト / 日経BP社 / 978-4822245771 / インターネットを利用したマーケティングに関する参考書
CGMマーケティング 消費者集合体を味方にする技術	伊地知 晋一 / ソフトバンククリエイティブ / 978-4797337907 / インターネットを利用したマーケティングに関する参考書
RFID + ICタグ システム導入・構築 標準講座	西村 泰洋 / 翔泳社 / 978-4798112688 / ICタグに関する参考書
「どこまでOK?」迷ったときのネット著作権ハンドブック	中村 俊介 / 翔泳社 / 978-4798109428 / インターネット関連の著作権に関する参考書
次世代広告テクノロジー	織田 浩一 / ソフトバンク クリエイティブ / 978-4797340198 / 広告技術に関する参考書
SaaSで激変するソフトウェア・ビジネス -ソフトウェア業界を揺るがす破壊的イノベーション-	城田 真琴 / 毎日コミュニケーションズ / 978-4839924102 / SaaS(Software as a Service)に関する参考書
ウェブ社会をどう生きるか	西垣 通 / 岩波書店 / 978-4004310747 / ウェブ社会に関する参考書
グーグル革命の衝撃	NHK取材班 / 日本放送出版協会 / 978-4140811924 / 検索技術(特にGoogle)に関する参考書
「情報」を学び直す	石井 健一郎 / エヌティティ出版 / 978-4757102118 / 「情報」全般に関する参考書
超人類へ! バイオとサイボーグ技術がひらく衝撃の近未来社会	ラムズ・ナム / 河出書房新社 / 978-4309906980 / 情報技術を含めた近未来の技術に関する参考書
広告の基本	波田 浩之 / 日本実業出版社 / 978-4534042804 / 「広告」についての参考書。インターネット広告の他、広告業界についても詳しい

授業で取り扱う各テーマについて、さらに詳しく知りたい人はぜひ読んでほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日経BP記事検索サービス : <http://www.ritsumeit.ac.jp/acd/mr/lib/sogo/nikkeibp.htm>
(日経BP社発行雑誌のバックナンバーの全文記事検索サービス。授業内容に関連した記事を紹介するので利用して欲しい)

[情報技術に関するニュースサイト]

IT media ニュース : <http://www.itmedia.co.jp/news/>

CNET Japan : <http://japan.cnet.com/>

ITpro : <http://itpro.nikkeibp.co.jp/>

[情報技術の用語辞典サイト等]

IT用語辞典 e-Words : <http://e-words.jp/>

ASCII.jp - アスキー デジタル用語辞典 : <http://yougo.ascii24.com/>

誰でもわかる! パソコン用語 : <http://support.microsoft.com/gp/glossary/>

インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ : <http://i.impressrd.jp/bn/>

上記サイトの他にも、参考になるWebサイトやWebページ(記事)を授業の中で紹介する。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 原 啓介

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「数学」とは何か、について、解説することを目標とする。
 具体的な例として、「数」、「図形」、「確率」などの概念などを通して、
 数学とはどんなことを考え、研究する学問なのかを学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

「数」「幾何」「確率」の概念などを実例にして、数学とは何かを理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

文系の国立大学入試程度の高校までの数学が理解されていることが望ましい。
 もしそうでない場合には、講義の理解のために自習を要する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	数学とは、数学者とは？	
2	「数」の定義と性質。自然数の定義。	
3	自然数の上に演算を定義する	
4	整数とその上の演算	
5	有理数	
6	実数の定義1	
7	実数の定義2	
8	初等幾何学(ユークリッド幾何学)と非ユークリッド幾何学	
9	非ユークリッド幾何学の構成	
10	非ユークリッド幾何学の構成2	
11	非ユークリッド幾何学の構成L3	
12	確率とは何か、いろいろな易しい問題	
13	初等確率論からの話題	
14	初等確率論からの話題2	
15	確率の現代数学的定義	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	
筆記の期末試験によって成績評価する。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義の性質上、全15回の各回にどのような項目を学ぶかを現時点で確定しておくことはできないが、おおよそ、上記のような進捗を進めることを予定している。
 基本的に数学の講義のスタイル(つまり、主に大量の板書)で行い、レジュメ等の配布はない。

教科書 / Textbooks

教科書はない。参考書は講義の中で随時、挙げることもある。
 レジュメの類はない。

参考書 / Reference Books

同上。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

統計学 S

15543

担当者名 / Instructor 小池 行弘

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

統計学は、多数の資料を整理しその傾向を探るための科学である。社会調査などから得た標本をもとに母集団のありようを推測する目的でも利用されている。この講義では統計学の基礎的な手法を学ぶことを目的としています。ほとんどの学生にとっては、これまでに統計学を学ぶ機会は少なかったと思われるので、受講にあたり特に予備知識は必要としていません。

到達目標 / Attainment Objectives

資料の整理と統計的な分析を、社会科学において運用できる能力を習得する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	平均値	平均値 中央値
第2回目	基本的な代表値	平均 分散 標準偏差
第3回目	規準化	偏差値など
第4回目	度数分布表	
第5回目	ローレンツ曲線	
第6回目	相関	正の相関 負の相関 相関係数
第7回目	回帰分析(1)	最小2乗法
第8回目	回帰分析(2)	
第9回目	確率変数	確率変数の期待値
第10回目	確率分布(1)	二項分布
第11回目	確率分布(2)	標準正規分布 中心極限定理
第12回目	母集団と標本	
第13回目	推定	
第14回目	検定	
第15回目	復習と試験の概要	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	授業内で行った演習問題と同程度のもの
平常点(日常的)	40 %	毎回授業の後半に演習問題を課します

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

毎時授業ごとにテキストを配布します

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

教養ゼミナール 1

20400

担当者名 / Instructor 保坂 芳男

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【英語名人の学習法研究】

2008年は日本人が英語を始めてちょうど200年の記念すべき年である。このゼミでは、この200年間に日本人がいかにして英語を学んできたかを学習する。ゼミの前半では、英語教育・学習の歴史の概論を学ぶ。次に、明治から現代までの英語名人(ジョン万次郎や津田梅子ら)のうち、1人を取り上げ、業績や英語学習法を紹介してもらう。最終的には、自分の英語学習法の見直しにつなげて欲しい。取り上げる英語名人に関しては、前半の歴史概論を学習する過程で決定したい。また、学生の出身地(郷土)の偉人(英語名人)を取り上げても構わない。概論のまとめ、英語名人の研究、英語学習の見直し表明(英語スピーチ)など基本的には学生のプレゼンを中心とした授業である。

到達目標 / Attainment Objectives

まずは、200年間の英語教育・学習の歴史を学び、その時代背景とともに全体的な流れをつかんで欲しい。次に、明治以来の英語名人を取り上げ、その個人の業績・業績学習歴を報告してもらう。最後に、自分の英語学習歴を見直し、英語力向上につなげて欲しい。最終的には、主体的に英語が学べる自律した学習者を目指して欲しい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	オリエンテーション、英語教育史概論(1)日本人にとっての英文法	
2回目	英語教育史概論(2)英語教授法の歴史	
3回目	英語教育史概論(3)英語教科書の歴史、NSの採用の歴史、英語教育行政の歴史	
4回目	英語教育史概論(4)英語教授法の歴史1	
5回目	英語教育史概論(5)英語教授法の歴史2	
6回目	学生のプレゼンテーション1	
7回目	学生のプレゼンテーション2	
8回目	学生のプレゼンテーション3	
9回目	学生のプレゼンテーション4	
10回目	学生のプレゼンテーション5	
11回目	学生のプレゼンテーション6	
12回目	英語スピーチ1	
13回目	英語スピーチ2	
14回目	英語スピーチ3	
15回目	まとめ、検証テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	
平常点(検証テスト)	40 %	
平常点(日常的)	30 %	

このクラスは教養ゼミなので、授業は基本的には学生の発表を中心とする。履修の人数によって、その後の授業内容(プレゼンの計画など)が変わる可能性が高いので、最初の授業には必ず出席すること。ゼミの性格上、4回以上欠席した場合やプレゼンを行わなかった場合などは、原則単位を認定しません。

この授業は、前期の教養ゼミ5と同じ内容です。自分の時間割を組んで、都合の良い方を選んでください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学問に王道なしとはよく言ったものです。だからこそこれだけ文明が発達した現代でも絶対的な外国語習得法は見つかっていません。重要なことは、このゼミを通じてさまざまな学習法を知り、自分の英語学習に生かすことです。多くの学習法から自分にあった学習法を見つけて実践することです。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本の英語教育200年	伊村元道 / 大修館 / 4-469-2448-4 /

英語達人塾

斉藤兆史 / 中公新書 / 4-12-101701-3 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
間違いだらけの英語学習	近江誠 / 小学館 / 4-09-387567-7 /
日本人に一番合った英語学習法	斉藤兆史 / 祥伝社 / 4-396-50073-4 /
英語達人列伝	斉藤兆史 / 中公新書 / 4-12-101533-9 /
よりよい外国語学習を求めて	竹内理 / 松柏社 / 4-7754-0052-5 /
英語学習7つの誤解	大津由紀雄 / 生活人新書 / 978-4-088229-0 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中指示をする

その他 / Others

教養ゼミナール 2

20401

担当者名 / Instructor 中根 智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

〔本学ボランティアセンターをフィールドとするボランティア / サービスラーニングに関する研究〕

ボランティアは、他者や社会あるいは自然環境が抱える様々な問題の解決のために、自らの意志に基づき、進んで関わりを求めようとする人を表現しています。この演習では、本学ボランティアセンターをフィールドとして、ボランティアとその活動に関する歴史・理論・実際について考察していきます。全ての学部を対象とする「教養ゼミ」の特徴を生かして、ゼミ生のそれぞれの専門や問題関心を交流・融合させながらボランティアの可能性や課題について理解を深めていきます。また、本演習が、本学ボランティアセンターをフィールドとすることから、ボランティアセンターが提供する様々な教育プログラムや講座・研修・広報・啓発などの取り組み、学生や地域から寄せられるボランティア相談等々への参加や協力、その企画や運営という具体的な実践場面に直接関わっていくことも演習本来の課題とします。演習そのものが、ボランティアコーディネーションという場面への参与観察的な参画という機能も持っています。参加や体験を、演習での発表や討議、教員からのスーパービジョンによって、ボランティアの理解をより深め、関心を更に広げていきます。ボランティアを学習・研究するということを通して、社会と自分の「いま」を見つめ「これまで」を振り返るとともに、さらに私たちの「これから」を見通す力につながるような学習コミュニティ(演習)にしたいと思えます。

到達目標 / Attainment Objectives

1. ボランティアに関する理論と実践から、その価値・知識・技術について理解を深める。
2. 演習受講を通してボランティア活動への興味関心を深め、ボランティア活動への参加動機を高める。
3. 個人又はチーム研究論文を仕上げる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ボランティア活動やNPO、社会貢献に関する科目、生活・福祉・環境等に関わっての社会問題に関する科目、等の受講者にとっては本演習の課題はより理解が深まると思われる。また、出来る限り、本学ボランティアセンター事業に関わって、実際のボランティア関連事業の運営にも参加しておくことが理解促進のためにも望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ボランティアを考える1	人権 社会 コミュニティ
2	ボランティアを考える2	若者 戦争 NPO 市民社会
3	障害のある人びと	障害 手話 点字 朗読 車イス 要約筆記
4	高齢者を支える	高齢 福祉施設 在宅支援
5	国境を越えて	国際 発展途上国
6	自然を守るために	環境 水 山 森 動物
7	足元からの国際交流	留学生 教える 国際交流
8	子どもたちのサポーター	乳児院 養護施設 いじめ 不登校
9	震災の現場で	阪神淡路大震災 救援活動
10	これだってボランティア!	スポーツ 博物館 おもちゃ 踊り 演芸 園芸
11	ボランティアコーディネーター1	ボランティアコーディネーター 社会福祉協議会 ボランティアセンター
12	ボランティアコーディネーター2	ボランティアコーディネーター 社会福祉協議会 ボランティアセンター
13	討議 - ボランティアってなに?	ボランティア 社会貢献 自己実現
14	個人又はチーム研究発表1	ボランティア 個人研究 チーム研究
15	個人又はチーム研究発表2	ボランティア 個人研究 チーム研究

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	出席30%、発表・レポート・論文70%
出席、発表、課題レポート、論文、等で総合的に評価する。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本学ボランティアセンターを拠点にしながら、ボランティア活動に関する学びを深めて欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ボランティア	岩波書店編集部 / 岩波書店 / 4 00 009886 1 /
教科書以外に、必要な参考文献はその都度紹介する。	

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本青年奉仕協会(JIVA):<http://www.jyva.or.jp/index2.html>
地域福祉・ボランティア情報ネットワーク(全国社会福祉協議会)
http://www3.shakyo.or.jp/CDVC/shiryo/joho1_v.asp
立命館大学ボランティアセンター:
<http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/cg/ss/vc/index.html>

その他 / Others

教養ゼミナール 3

20402

担当者名 / Instructor 慈道 裕治

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【科学は社会に何をもたらしたか】

いま、再生医療研究の成果が注目されている。人の皮膚細胞から骨や心臓などの臓器の細胞が作られ、病変した臓器の再生治療への期待が高まっている。しかし同時に生命の基本にかかわる倫理問題を表面化させている。第二次大戦中、ナチの支配に抵抗し、原爆の開発をアメリカ政府に進言し、その開発を成功に導こうとした科学者たちがいた。アメリカは広島、長崎に原爆を投下し、戦後科学者の責任が問われることになる。「知ること」への希求とともに成長してきた科学は「いまや「生きること」の基本にかかわるようになっていく。

このゼミでは、希望と危険に直面してきた科学とその応用の事例を調べ、一人の市民として科学にどのように向き合ったらいいのかについて研究する。また、理科や数学をどのように学んできたかを交流し、科学の価値をどのようにとらえるのか、各自が自らの考えをつくり上げる場とする。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 科学が社会にもたらすものについて具体的事例を研究し、科学の価値について、学生が複眼的理解ができるようになることを目指す。
2. 学生が、専門を異にする学生間で多面的に討議し、共通する理解、各自の異なる面を自覚的にとらえる態度を身につけることを目指す。
3. 文献を読み、課題を整理し、自らの考えを文章に表現する力が身につくことを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	ゼミの目標、勧め方に関する提案と討議	教員がゼミの目標について説明し、授業の進め方を提案する。学生はゼミで学習したいこと(期待)を交流し、興味・関心を共有するための最初の場とする。
2回～5回	第1ステージ 課題を深めるステージ	共通文献をもとに、科学をめぐる希望と危険がどのようなものか、具体的事例について、読解、発表、討議によって、理解を深め、各自のテーマに関する興味・関心を深める。共通文献としては、文献リストにある『生命科学の冒険』(青野由利著)を第一案とする。このステージで、第2ステージで行う主要なテーマ(複数)を決める。
6回～10回	第二ステージ 課題に関する研究のステージ	科学の価値について考えていくと、「知ること」と「感じること」(あるいは「生きること」)、「作ること」と「楽しむこと」など、私たちの日常的行為の価値や意味について考えることが必要となる。第2ステージでは、第1ステージで出てきたテーマを、自由にいろんな面から考えていくことを試みる。数学や理科をどのように学んだか、面白みはどこにあったのかなども含めて、各自のテーマを確定するステージとする。このステージの目標を達成するためにどのように議論するのか、それ自体が重要なテーマである。
11回～13回	第三ステージ 成果の発表と論文作成	このステージでは、第2ステージまでに議論したことを各自が各自のテーマとしてまとめ、文章表現することを目指す。口頭発表から始めて、文章構成を考える。
14回、15回	まとめ	各自の成果を相互に確認しあう場とする。どのような方法が適当かは、それまでの進行状況によって決める。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業では、文献の読み合わせには余り時間を割かず、発表や討論をとおして問題関心を深め、固めることを重視する。そのためには、受講生は文献学習にもとづいて発表や発言内容を事前に準備することが重要である。具体的なことは授業中に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマ設定的確さ テーマの深め方と論述のしかた 文章構成、文献使用等の的確さ
平常点(日常的)	50 %	各ステージで求められる小レポート 発表、討論への参加度

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生命科学の冒険	青野由利 / ちくまプリマー新書 / 978-4-480-68774-6 /

第一ステージのテキストとして使用する。体外受精、再生医療、クローン技術などのトピックスを生命科学の基礎を踏まえつつ、何が問われているかを提起するもの。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
いのち - 生命科学に言葉はあるか	最相葉月 / 文芸春秋 / 4-16-660474-0 /
すべての命が愛おしい	柳沢桂子 / 集英社文庫 / 978-4-08-746129-9 /
ゲノムの波紋	ロイス・ウィンガーソン、牧野賢治・青野由利訳 / 化学同人 / 4-7598-0869-8 /
原爆はこうして開発された	山崎正勝・日野川静江 / 青木書店 / /

第一ステージに関連するテーマの参考書を上げています。それ以後の議論の進行に応じて追加の参考書を紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

教養ゼミナール 4

20403

担当者名 / Instructor 木野 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【人間と科学】

科学の発達が現代社会や人類にどのように関わっているかという大きなテーマで、かつ広い範囲を対象とするが、このゼミでの目標は、自分の頭で考えることと他の人の考えを知ることを体験することにより、考えることの意義と楽しさを身につけてもらうことにある。学部学年を超えた教養ゼミナールならではの醍醐味を味わってほしい。

ゼミの前半では、有吉佐和子の『複合汚染』を読みながら、自分の頭で考える力を高めていく。この書を取り上げる理由は、作家の有吉がこの作品を書くのに300冊以上の書物を読み、何十人もの専門家に話を聞きに行ったことをかみしめ、その百分の一でもよいから自分で関心のある問題についてやってみようというメッセージでもある。ゼミではこの読書会と並行して、それぞれ自分のやりたい研究テーマを挙げあいながら同士を募り、3人ずつのグループを作る。テーマは人間・科学・社会のキーワードから外れない限り自由であるが、テーマの趣旨説明がクラスメイトと私を納得させることを条件とする。グループ研究を始めた後は、適宜、中間報告を求め、必要に応じて助言を行う。

第11～14回のゼミでは、グループ研究の発表とディスカッションを行う。発表グループは15分の発表時間で如何に良いプレゼンテーションができるか、30分のディスカッションに如何に的確に対応できるかが問われる。一方、聞く側の人たちは発表内容をどれだけ理解したか、発表に対してどれだけ自分の考えを持つことができたかが質問の有無や内容で問われる。

発表時のディスカッションで十分対応できなかった問題や、ディスカッションで新たに気がついた点を修正・補充した上で、最後に「ゼミ論文」を完成させる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・自分で考える力をつける。
- ・自分の意見を持つことができるようになる。
- ・自分の意見を他の人に理解できるように伝える力をつける。
- ・他の人の意見を理解する力をつける。
- ・グループ研究の仕方を身につける。
- ・発表と質疑応答を行うことができるようになる。
- ・レポートより論文に近いものを書くことができるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定はしないが、図書やWebで自分のやりたい研究課題をいくつか探してることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	・ゼミの進め方 ・自己紹介、関心を持つ課題の交換 ・「複合汚染」の読書会分担	
第2～7回	・「複合汚染」の読書会 ・研究グループ(各3人)を作り、 グループ研究を始め、毎回進行状況を報告	
第8～9回	・グループ研究の中間報告とディスカッション	
第10回	・グループ研究発表の仕方 ・ゼミ論文執筆の仕方	
第11～14回	・グループ研究の発表会(毎回2グループ、それぞれ発表 15分+ディスカッション30分)	
第15回	・ゼミ論文草稿のチェックとコメント ・グループごとにゼミ 論文完成に向けてミーティング	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- ・読書会では「複合汚染」の該当部分を授業までに読んでくる。
- ・読書会のレポーターは担当部分に関連した情報や問題を調べてくる。
- ・グループ研究のための情報収集を図書館やインターネットを利用して調べる。
- ・グループメンバーと連絡を取りながらグループ研究を進める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	グループによるゼミ論文を、独創性、調査力、まとめ方、考察力で総合的に評価し、各自の付記で個人評価を加える。
平常点(日常的)	40 %	内訳は、「複合汚染」のレポーターのときの出来具合を10%、それ以外のときのディスカッション参加度を10%、グループ研究発表時のグループ評価および各自の貢献度を10%、他のグループ発表時のディスカッション参加度を10%とする。 なお、原則として2/3以上の出席を成績評価の要件とし、欠席回数に応じて平常点を減点する。

【ゼミ論文】

- ・論文の標準的な構成にしたがい、章・節分け、最初の字下げ、段落、図表、脚注、出典や引用、文献一覧なども身につけ、内容・形式ともにレポートより論文に近いものを目標とする。字数は1万字程度。
- ・ゼミ論文本体はグループで作成するが、ゼミ論文に対する各自の意見・考察を付記(1000字程度)として付ける。
- ・ゼミ論文をもとにゼミ論集を作る予定で、ゼミ生から編集委員を募る。なお、ゼミ論集に掲載されるためには、私の査読を受け、修正が求

められたときは書き直す必要がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「自分の頭で考える」ことは、自分一人だけで考えることという意味ではない。いろいろな人とコミュニケーションを取る中で、自分の頭の中を整理しながら、自分の考えをまとめていくことで、そのプロセスを楽しんでほしい。もちろん、ときには迷路に入り込んで苦しむときもあるが、それが「考える」ということである。

このゼミと同じゼミを前任校でもやってきたが、受講生の一人は「心のオアシス」だったと表現してくれた。教養ゼミでなければ得られないことを君もぜひ見つけてほしい。

なお、教養ゼミナールは予備登録科目なので、4月7日午後5時までに下記から登録申し込みをすること。

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

複合汚染

有吉佐和子 / 新潮社 / 4-10-113212-7 / 改版(2002.5)を使用する。旧版は使用不可

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業で紹介する

その他 / Others

ゼミナールなので、履修者数は24名に制限し、予備登録制とする。

なお、履修希望者が10人に満たないときは開講しない。

教養ゼミナール 5

16936

担当者名 / Instructor 保坂 芳男

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【英語名人の学習法研究】

2008年は日本人が英語を始めてちょうど200年の記念すべき年である。このゼミでは、この200年間に日本人がいかにして英語を学んできたかを学習する。ゼミの前半では、英語教育・学習の歴史の概論を学ぶ。次に、明治から現代までの英語名人(ジョン万次郎や津田梅子ら)のうち、1人を取り上げ、業績や英語学習法を紹介してもらい、最終的には、自分の英語学習法の見直しにつなげて欲しい。取り上げる英語名人に関しては、前半の歴史概論を学習する過程で決定したい。また、学生の出身地(郷土)の偉人(英語名人)を取り上げても構わない。概論のまとめ、英語名人の研究、英語学習の見直し表明(英語スピーチ)など基本的には学生のプレゼンを中心とした授業である。

到達目標 / Attainment Objectives

まずは、200年間の英語教育・学習の歴史を学び、その時代背景とともに全体的な流れをつかんで欲しい。次に、明治以来の英語名人を取り上げ、その個人の業績・業績学習歴を報告してもらい、最後に、自分の英語学習歴を見直し、英語力向上につなげて欲しい。最終的には、主体的に英語が学べる自律した学習者を目指して欲しい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	オリエンテーション、英語教育史概論(1)日本人にとっての英文法	
2回目	英語教育史概論(2)英語教授法の歴史	
3回目	英語教育史概論(3)英語教科書の歴史、NSの採用の歴史、英語教育行政の歴史	
4回目	英語教育史概論(4)英語教授法の歴史1	
5回目	英語教育史概論(5)英語教授法の歴史2	
6回目	学生のプレゼンテーション1	
7回目	学生のプレゼンテーション2	
8回目	学生のプレゼンテーション3	
9回目	学生のプレゼンテーション4	
10回目	学生のプレゼンテーション5	
11回目	学生のプレゼンテーション6	
12回目	英語スピーチ1	
13回目	英語スピーチ2	
14回目	英語スピーチ3	
15回目	まとめ、検証テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	
平常点(検証テスト)	40 %	
平常点(日常的)	30 %	

このクラスは教養ゼミなので、授業は基本的には学生の発表を中心とする。履修の人数によって、その後の授業内容(プレゼンの計画など)が変わる可能性が高いので、最初の授業には必ず出席すること。ゼミの性格上、4回以上欠席した場合やプレゼンを行わなかった場合などは、原則単位を認定しません。

この授業は、後期の教養ゼミ1と同じ内容です。自分の時間割を組んで、都合の良い方を選んでください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学問に王道なしとはよく言ったものです。だからこそこれだけ文明が発達した現代でも絶対的な外国語習得法は見つかっていません。重要なことは、このゼミを通じてさまざまな学習法を知り、自分の英語学習に生かすことです。多くの学習法から自分にあった学習法を見つけて実践することです。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本の英語教育200年	伊村元道 / 大修館 / 4-469-2448-4 /

英語達人塾

斉藤兆史 / 中公新書 / 4-12-101701-3 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
間違いだらけの英語学習	近江誠 / 小学館 / 4-09-387567-7 /
日本人に一番合った英語学習法	斉藤兆史 / 祥伝社 / 4-396-50073-4 /
英語達人列伝	斉藤兆史 / 中公新書 / 4-12-101533-9 /
よりよい外国語学習を求めて	竹内理 / 松柏社 / 4-7754-0052-5 /
英語学習7つの誤解	大津由紀雄 / 生活人新書 / 978-4-088229-0 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中指示をする

その他 / Others

教養ゼミナール 6

16945

担当者名 / Instructor 加藤 善子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【個人と集団：多様化社会の構築と知の生産】

本ゼミナールでは個人と集団との関係を考えるが、現代社会でまさに起こっている文化的交流を教室というマイクロな次元で実現することで、大学内の知識と人間の交流を促し、参加者(教員を含む)の知を統合し、新しい知を生産することを目的とする。

ゼミナールで扱う個人と集団間の問題は、友人関係から国家まで複数のレベルにわたり、複数の学問を横断してアプローチする。毎週、短編小説や論文を読んだ上で、複数の視点から議論をする。社会科学・自然科学・人文科学で共通に使われている概念や理論を、私たちの日常生活に適用して個人の生活へのフィードバックを提供することが、毎回のゼミナールの目標である。同時に、知的な議論の過程そのものが、自己理解と集団との関わり方の理解を深め、一見役に立たぬ学問を「使う」スキルを獲得することに利するだろう。

到達目標 / Attainment Objectives

論文を正確に読みこなす(要約ができる・具体的な例が挙げられる・応用を考えることができる)。

自らの専門領域を学際領域の文脈に位置づけることができる(他の分野との相違点を把握する)。

論文を書く力を伸ばす。

礼儀正しく議論に参加することができる。

(聞く・話す・同意する・反対する・感情を処理する・アイデアを出す・合意に達する)

年齢・性別・経済状況・専攻分野・信念や価値体系を問わず、個人を尊重する態度を身につける。

自己を正当に主張しながらグループで働く方法を身につけ、実践することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション、学際的な知の創造の方法	
第2回	個人と個人の関係(心理学)(1)	囚人のジレンマ 理論編
第3回	個人と個人の関係(心理学)(2)	応用編
第4回	個人と個人の関係(法学・経済学)(3)	契約関係 理論・応用編
第5回	個人と複数の個人の関係(情報学・数学・社会学)(1)	ネットワーク分析 理論編
第6回	個人と複数の個人の関係(情報学・数学・社会学)(2)	ネットワーク分析 応用編
第7回	個人が集団に及ぼす力(経済学・社会学)	予言 基礎・応用編
第8回	個人と集団の関係(哲学・文学・政治学)(1)	国家と権力 理論編
第9回	個人と集団の関係(哲学・文学・政治学)(2)	応用編(西洋)
第10回	個人と集団の関係(哲学・文学・政治学)(3)	応用編(東洋)
第11回	個人と集団の関係(歴史・哲学・文学)(4)	物語 基礎・応用編
第12回	個人と集団の関係(歴史・社会学)(5)	自殺 理論編
第13回	個人と集団の関係(歴史・社会学)(6)	自殺 応用編
第14回	まとめ	多様化社会の構築と知の生産
第15回	グループ発表、授業評価	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

毎週、論文や短編小説の読書課題を与える。読書ガイドに従って、予習をすること。

中間試験として個人レポートを課するので、計画を立てた上で執筆の時間を確保すること。

期末試験としてのグループプロジェクトは、少なくとも週に一度はグループメンバーが集まれるよう、

早めに予定を調整すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	30 %	期末のグループプロジェクト。グループ点と個人点を合計して算出する。内容の完成度とグループとしての機能を評価する。
平常点(日常的)	70 %	毎回の予習課題(30%)。 1回につき2点(良2点、可1点、不可0点) レポート(20%) 中間試験として課する。ガイドラインは後期開始後に配布する。 日常点(20%) グループディスカッションの運営を定期的に評価する。評価の基準は後期開始時に配布し、評点は迅速にフィードバックする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

歓迎: 一人で本を読むのは辛い勉強してみたい人。
話し方・聞き方を練習したい人。
自分の力を正しく知りたい人。
自信を持ちたい人。
好奇心の幅が広い人。
大学ならではの友達(勉強のことが話せる友達)がほしい人。

学習(レポート執筆・予習の問題等)、グループ活動運営の相談にも応じます。少人数ゼミの特権を活かして、教員を大いに利用してください。歓迎します。

教科書 / Textbooks**参考書 / Reference Books**

下の本の一部を使用します。使用箇所をまとめてこちらで用意しますので、購入の必要はありません。
一部変更することがあります。

理論編

『現代社会と知の創造』ギボンズ 丸善ライブラリー
『社会的ジレンマ』山岸俊男 PHP新書
『ネットワーク分析』安田雪 新曜社
『ペニスの商人の資本論』内橋克人
『自殺論』デュルケム 中公文庫
『フーコー 知と権力』桜井哲夫 講談社
『国家』プラトン 岩波新書
『論語』孔子 中央公論社
『千の仮面を持つ英雄』キャンベル みすず書房

短編小説

『チャイナタウンの女武者』(キングストン)より一編
『静かな生活』(大江健三郎)より一編
『憂国』三島由紀夫
ほか

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

教養ゼミナール 7

17025

担当者名 / Instructor 安岡 高志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【発見・発明ワークショップ】

発見や発明は全ての人に平等にチャンスが与えられています。しかし、そのチャンスを活かすためには多少の訓練が必要です。今までに何かに気づいたり、工夫したことのある方は小さい発見や発明をしたのです。これを発見や発明と自覚することにより本人の持っている発見・発明能力は増強されます。

大切なことは、人から教わったり、書物から知識を得ることではなく、自分自身で発見したり、気づくことです。発見したことを調べてみると既に誰かが、発見してあっても問題はありません。自分自身の発見・発明を繰り返すことにより、確実に発見・発明能力は身に付きます。

到達目標 / Attainment Objectives

履修者が発見・発明の習慣(考える習慣)が身に付いたと実感する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 今までの発見の経験を含めた各自の自己紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第2回	各自見つけた疑問の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第3回	各自見つけた疑問の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第4回	各自見つけた疑問の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第5回	各自見つけた疑問の紹介と発見した法則の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第6回	各自見つけた疑問の紹介と発見した法則の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第7回	各自見つけた疑問の紹介と発見した法則の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第8回	中間まとめの発表	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第9回	中間まとめの発表	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第10回	法則の証明とディスカッション	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第11回	法則の証明とディスカッション	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第12回	法則の証明とディスカッション	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第13回	法則の証明とディスカッション	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第14回	発見した法則についてのプレゼンテーション	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第15回	発見した法則についてのプレゼンテーションとレポート提出	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

授業外で疑問を見つけたり、法則を発見したり、考える習慣を身につけることが狙いですので、大半は授業外に取り組み、その結果を授業に持ち寄るといったイメージで、授業に臨んでください。スケジュールには見つけた疑問や発見した法則と書きましたが、見つけた不便や開発・発明なども結構です。

毎週授業の前日17:00までに見つけた疑問、見つけた不便、発見した法則、発明など箇条書きにして、e-mailで提出してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	オリジナルな発見・発想・発明などが含まれていることが必要です。
平常点(検証テスト)	40 %	最後のプレゼンテーションを聞いて、気づき、発想の展開、工夫などのよさを評価します。評価には受講生の相互評価の結果も含まれます。
平常点(日常的)	30 %	授業外での取り組み状況、授業への積極的な参加の状況の評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

何かを教わろうと思ってきても何もありません。あなたの持っている能力を活用する訓練をするのみです。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
文化の法則を探ろう	中川正 / 三重大学出版会 / 4-944068-42-5 / 定価=本体価格1200円 + 消費税

一度目を通して、法則とはどの程度のものかを理解してください。

<三重大学出版会>

〒514-8799 津中央郵便局 私書箱 88

電話:059-232-1211 内線3711 or 2699

Fax:059-231-9199

電話 & Fax:059-232-1356

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

教養ゼミナール 8

17026

担当者名 / Instructor 安岡 高志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【発見・発明ワークショップ】

発見や発明は全ての人に平等にチャンスが与えられています。しかし、そのチャンスを活かすためには多少の訓練が必要です。今までに何かに気づいたり、工夫したことのある方は小さい発見や発明をしたのです。これを発見や発明と自覚することにより本人の持っている発見・発明能力は増強されます。

大切なことは、人から教わったり、書物から知識を得ることではなく、自分自身で発見したり、気づくことです。発見したことを調べてみると既に誰かが、発見してあっても問題はありません。自分自身の発見・発明を繰り返すことにより、確実に発見・発明能力は身に付きます。

到達目標 / Attainment Objectives

履修者が発見・発明の習慣(考える習慣)が身に付いたと実感する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 今までの発見の経験を含めた各自の自己紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第2回	各自見つけた疑問の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第3回	各自見つけた疑問の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第4回	各自見つけた疑問の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第5回	各自見つけた疑問の紹介と発見した法則の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第6回	各自見つけた疑問の紹介と発見した法則の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第7回	各自見つけた疑問の紹介と発見した法則の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第8回	中間まとめの発表	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第9回	中間まとめの発表	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第10回	法則の証明とディスカッション	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第11回	法則の証明とディスカッション	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第12回	法則の証明とディスカッション	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第13回	法則の証明とディスカッション	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第14回	発見した法則についてのプレゼンテーション	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
第15回	発見した法則についてのプレゼンテーションとレポート提出	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業外で疑問を見つけたり、法則を発見したり、考える習慣を身につけることが狙いですので、大半は授業外に取り組み、その結果を授業に持ち寄るといったイメージで、授業に臨んでください。スケジュールには見つけた疑問や発見した法則と書きましたが、見つけた不便や開発・発明なども結構です。

毎週授業の前日17:00までに見つけた疑問、見つけた不便、発見した法則、発明など箇条書きにして、e-mailで提出してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	オリジナルな発見・発想・発明などが含まれていることが必要です。
平常点(検証テスト)	40 %	最後のプレゼンテーションを聞いて、気づき、発想の展開、工夫などのよさを評価します。評価には受講生の相互評価の結果も含まれます。
平常点(日常的)	30 %	授業外での取り組み状況、授業への積極的な参加の状況の評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

何かを教わろうと思ってきても何もありません。あなたの持っている能力を活用する訓練をするのみです。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
文化の法則を探ろう	中川正 / 三重大学出版会 / 4-944068-42-5 / 定価=本体価格1200円 + 消費税

一度目を通して、法則とはどの程度のものかを理解してください。

<三重大学出版会>

〒514-8799 津中央郵便局 私書箱 88

電話:059-232-1211 内線3711 or 2699

Fax:059-231-9199

電話 & Fax:059-232-1356

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

教養ゼミナール 9

17027

担当者名 / Instructor 林 徳治

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【情報社会と人間のコミュニケーション】

情報通信社会における現代の人間社会を振り返り、相互理解のためのコミュニケーション能力のあり方に着目し、論理的思考(ロジカルシンキング)、批判的思考(クリティカルシンキング)、対等・自己責任(アサーション)、表現・伝達(プレゼンテーション)など諸能力の向上をめざしたコミュニケーショントレーニングを実施する。「Learning by Doing(成すことにより学ぶ)」の考えを根底に学生の主体的な参画によるグループ学習を取り入れ、インターネットや携帯電話などメディアを介したコミュニケーション活動の今日的な課題である「ミスコミ」や「責任」について、他者を見据えつつ自分を振り返り改善点を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

知識・理解の観点:

コミュニケーション能力を構成する諸要素

(クリティカルに考える力、主張し提案する力・道徳的に判断する力、問題解決に向けて相互理解を深める力)

思考・判断の観点:

論理的、批判的な思考力と判断力

関心・意欲の観点:

コンピュータ、携帯電話、インターネットなど電子メディアに対する興味関心

態度の観点:

自発的、独創的に取り組む姿勢

技能・表現の観点:

メディアを利用したプレゼンテーションの教材作成・実施・評価を通しての実践力

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	情報通信社会(ICT)の特徴	ICT社会の「光」と「影」
第2回	ICT社会に求められる人間の能力	情報活用能力
第3回	オーディエンスに求められる力	オーディエンス
第4回	妥協点を見つけるために受容的に聞く力	カウンセリング
第5回	自分の情報を整理する力	強制連結法
第6回	プレゼンテーションの論理的な筋書きを作る力	プレゼンテーション
第7回	相手の気持ちに立って話しをする力	アサーション
第8回	表現力とアイコンタクト	視覚情報
第9回	議論に負けない力	ディベート
第10回	情報を構造化する力	フォトランゲージ
第11回	問題解決のために問題を発見し、情報を収集する力	情報の信頼性
第12回	情報を読みとる力	情報収集
第13回	クリティカルに考える力	クリティカルシンキング
第14回	主張し、提案する力	ロジックツリー
第15回	道徳的に判断する力	コールバーク

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

テキストで学ぶ新しい知識は、氷山の一角であるため、インターネットや授業で紹介する文献について主体的に学ぶ姿勢を身につける。また、授業を通して得た知識や技能を実学につなげられるよう日頃から問題意識をもつ。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教員が教えるといった教授スタイルではなく、「Learning by Doing(成すことにより学ぶ)」の考えを根底に学生の主体的な参画によるグループ学習で行うため、学習の計画・実施・評価について自ら学ぶ積極的な学習参加を期待する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
必携! 相互理解を深めるコミュニケーション実践 林徳治・沖裕貴 / ぎょうせい / 978-4-324-08141-9 /

学

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術	林徳治 / ぎょうせい / 4-324-06243-9 /
情報教育の理論と実践	林徳治・宮田仁 / 実教出版 / 4-407-03060-7 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

現代の人権 S

13053

担当者名 / Instructor 徐 勝

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

21世紀は「人権の世紀」だと言われている。「冷戦の崩壊」、イデオロギーの終焉とともに、人権、環境、平和、ジェンダーなどが新しい世紀のキーワードとして登場してきている。これらの課題のすべてが、「人間が人間らしく生きることのできる世界」の創造を目指しているが、各地で戦争や紛争が多発し、重大な人権侵害が行われている。今日、人権ほど広く用いられている言葉は少ないが、明確に説明できる人は少ない。本講義では、人権の基本的な概念と歴史を概観し、人権の前提としての戦争と平和の問題に注目しながら、人権の実際を分かりやすく理解する。

到達目標 / Attainment Objectives

人権が国家権力からの自由を本質的な性格を持っていること、そこから人権がどのように発展してきたかという歴史的過程を理解する。
戦争と人権の関係について理解する。
世界人権宣言、国際人権規約、国連憲章、ジェノサイド条約など、重要な国際人権条約や人権文書を読み、それを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

一回生配当なので、履修科目を要求するのは難しいが、人権や平和の概説書、世界人権宣言、国際人権規約、国連憲章などを読んでおいてほしい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
3	国連憲章、世界人権憲章(世界人権宣言、国際人権規約)を読む	国連、世界人権宣言、ジェノサイド条約
1	人権とはなにか	人権
4	人権概念の成立と自由権的人権	近代国家の成立、産業革命、社会契約説、市民社会、自由放任主義、夜警国家、フランス人権宣言
2	人権論の展開(社会権的人権)	福祉国家、社会権、労働権、教育権、労働者の人権宣言
1	発展権的人権	集団的人権、資源に対する主権、発展権、環境権、平和権
1	国家安全保障論(非常事態論)と重大な人権侵害	集団虐殺、国家保安法
2	国際刑事裁判所(ICC)条約と現代の人権	戦争犯罪、人道に対する罪、国際司法裁判所
1	現代人権の見取り図	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

人権の歴史と世界人権宣言について、幅広く本を読んでほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義の内容をよく理解し、概念の理解を的確にしているのか。配布資料をよく読み、把握しているのか。
平常点(日常的)	30 %	中間レポートを課す。

講義中静粛を守り、講義開始後、30分以後の出席は認めません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

講義の時にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
人権宣言集	高木八尺訳 / 岩波書店 / /
人権の歴史	杉原泰雄 / 岩波書店 / /
国際法から世界を見る	松井芳郎 / 東信堂 / /
人権の歴史	浜林正夫 / 吉川弘文堂 / /
憲法 1 人権	渋谷 秀樹 赤坂 正浩 / 有斐閣 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国連ホームページ <http://www.un.org/>

財団法人アジア・太平洋人権情報センター http://www.hurights.or.jp/index_j.html

Yahoo!カテゴリ人権: http://dir.yahoo.co.jp/Society_and_Culture/Issues_and_Causes/Human_Rights/

http://dir.yahoo.co.jp/Society_and_Culture/Issues_and_Causes/Human_Rights/

その他 / Others

日本の近現代と立命館 GA § 特殊講義(日本の近現代と立命館) GA § ヴィジョン形成特殊講義(日本の近現代と立命館) 13550

担当者名 / Instructor 芦田 文夫、坂本 和一、岡尾 恵市、久岡 康成、川口 清史、柳ヶ瀬 孝三、吉田 美喜夫、山 崎 有恒、小関 素明 単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

近代化のひずみや教育の危機などの日本の近現代史のなかで近代日本の高等教育ならびに立命館の歩みを学び、大学の歩みを客観的に捉えるとともに、自らの学びの位置を知る。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	序論・講義の全体的概略と前史	
第2回	立命館の黎明と発展 明治後期～大正期	
第3回	立命館の黎明と発展 大学の拡充と自立化の模索	
第4回	戦争の影と教育・思想の危機 京大事件と立命館	
第5回	戦時体制下の立命館 日本型軍国主義の進行・転落とわが学園の意外の曲折	
第6回	敗戦後の混乱と学園の再建	
第7回	「立命館民主主義」の創成	
第8回	「高度経済成長」と大学の大量化(1960年代) マスプロ教育に抗する「小集団教育」	
第9回	「大学紛争」と立命館教学(60年代末から70年代) 「大学解体」を否定して、さらに「大学改革」へ	
第10回	転換期の高等教育政策 「学園創造」はどのように展開されたか	
第11回	学びのシステムの新展開 その特質と課題をめぐって	
第12回	立命館大学における課外スポーツ活動の歩み	
第13回	BKCはいかにして創られたか	
第14回	立命館創立100周年と立命館アジア太平洋大学	
第15回	総長講演	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義内容全般の的確な理解と叙述。
平常点(日常的)	30 %	出席点を含めて評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義は一連の流れに沿って進められるので、毎回出席しないと理解はおぼつかない。またヤマをはって試験に臨むようなやり方は通用しない。そのつもりで取り組むこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
立命館百年史 通史1・2	立命館百年史編纂委員会 / / / 全般にわたる基礎的文献である
西園寺公望(岩波新書)	岩井忠熊 / 岩波書店 / / 西園寺公望を知るに便利

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 池尾 靖志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「平和と民主主義」を教学理念と掲げる立命館大学で、なぜ、「平和学」を学ぶ必要があるのだろうか。

「平和学」は、現在の国際社会の状況を踏まえて、「平和」とは、どのような状況や、社会のありようをいうのか、また、どうすれば、紛争を解決して、「平和」の状況を導くのか、といった、科学的研究を行う「平和研究」、その研究成果を教育の現場で実践する「平和教育」、そして、教育を受けた人たちが、実際に、自分に何ができるだろうか。一人では無理でも、同じ気持ちや志を持つ人たちと連帯すれば、ひょっとしたら、自分にもなにがしかの貢献ができるのではないか(「平和運動」)の、3つの柱からなっている。

立命館大学には、世界の中でも唯一、大学立の「平和博物館」を有しているが、「平和博物館」を、大学が平和教育の場として、あるいは、平和研究の推進拠点として、さらには、平和運動も、最近では、異なるイシュー(例えば、環境問題や開発問題、人権問題など)のNGOが、これまで個別に取り組んできたが、昨今では、異なるイシューに取り組むNGOが「連帯」して運動を展開するようになってきた。そのため、立命館大学の「平和博物館」には、そうしたNGOどうしを結ぶ結節点としての役割を担うことが期待されるのだが、これが果たして成功しているのだろうか。

これらの点を、是非、自分の目で見て、人の話をよく聞いて、そして、率先して、平和の「担い手」として実践できるようになる礎を築くことが、この講義のねらいである

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 現在の日本社会や国際社会の構造や問題点が、新聞やテレビのニュースを見ていて、「なるほど」と理解できるようになること。
- 2) かつての先達が築き上げてきた「平和学」の歴史の上に、21世紀の課題を重ね合わせてみたとき、何が喫緊の課題かを、自分の頭で整理し、理解できるようになること。
- 3) 外部との交流を深めて、立命館から世界に「平和」の尊さを発信できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

あらゆる科目が「平和」の実践には重要であることを理解できるようにしておくこと。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	平和学のあゆみ(1)	権力、暴力、核抑止力批判
第2回	平和学のあゆみ(2)	南北問題、構造的暴力
第3回	平和学のあゆみ(3)	地球環境問題の浮上
第4回	平和学のあゆみ(4)	文化的暴力とは？
第5回	戦争の違法化という観点から見た、「立命館大学国際平和ミュージアム」	戦争の違法化、*この日までに、事前に平和ミュージアムを改めて見学しておくこと
第6回	なぜ、日本には「平和博物館」が他国に比べて多いのか	戦争の記憶、被害と加害、自虐史観
第7回	南北問題の登場	先進国と途上国、戦後国際経済秩序(ブレトン・ウッズ体制)、構造調整プログラム
第8回	食糧問題のゆくえ	穀物市場、アグリビジネス、開発教育、
第9回	国際的相互依存の進展	敏感性と脆弱性
第10回	南北問題のグローバル化	グローバリゼーションの進展、ダボス会議、グローバル・アパルトヘイト
第11回	国際協調の可能性(1)	地球温暖化とは、エビステティック・コミュニティの役割
第12回	国際協調の可能性(2)	レジーム、ネオリベラル・インスティテューショナルイズム、京都議定書
第13回	国際協調の可能性(3)	排出権取引、洞爺湖サミット後の日本、第1約束期間後の温室効果ガス削減の取り組み
第14回	地球市民社会の形成(1)	対人地雷全面禁止条約の交渉過程
第15回	地球市民社会の形成(2)	NGOの影響力の高まり、グローバル・ガバナンス

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義の連絡事項は、すべてWebCTを用いるので、1週間に1度は見ること。

また、ディスカッション・ボードに積極的に書き込みをすること。(話題提供として)

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義を通じて、自分なりに、どの程度、新聞やニュース、インターネットなどを通じて調べ、自分の考えを形成するにいたったかを見る論述2問。単に知識を問う問題にはしないので、持ち込みは自由とする

平常点(日常的) 20 % 昨年度は、試験的にWebCTを用いたため、うまく提出できるかを確かめる予行演習もレポートの1回としてカウントしたため、十分に反応することができなかった。そのため、今年は、2回のレポートを課す前に、講義前半において、WebCTでのレポート提出がうまくできるかを確かめる実験を行う。(出席点の代わりとして用いる)。レポートは2回、1回10点満点で採点する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日頃から、新聞やニュースの政治面や国際面を見ておくこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『新・平和学をはじめ』

池尾靖志編 / 晃洋書房 / / 2008年10月頃完成予定。

参考書 / Reference Books

講義中に随時指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

担当者のホームページ(<http://www.yikeo.com>)

その他 / Others

担当者名 / Instructor 池尾 靖志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「平和と民主主義」を教学理念と掲げる立命館大学で、なぜ、「平和学」を学ぶ必要があるのだろうか。

「平和学」は、現在の国際社会の状況を踏まえて、「平和」とは、どのような状況や、社会のありようをいうのか、また、どうすれば、紛争を解決して、「平和」の状況を導くのか、といった、科学的研究を行う「平和研究」、その研究成果を教育の現場で実践する「平和教育」、そして、教育を受けた人たちが、実際に、自分に何ができるだろうか、一人では無理でも、同じ気持ちや志を持つ人たちと連帯すれば、ひょっとしたら、自分にもなにがしかの貢献ができるのではないかと(「平和運動」)の、3つの柱からなっている。

立命館大学には、世界の中でも唯一、大学立の「平和博物館」を有しているが、「平和博物館」を、大学が平和教育の場として、あるいは、平和研究の推進拠点として、さらには、平和運動も、最近では、異なるイシュー(例えば、環境問題や開発問題、人権問題など)のNGOが、これまで個別に取り組んできたが、昨今では、異なるイシューに取り組むNGOが「連帯」して運動を展開するようになってきた。そのため、立命館大学の「平和博物館」には、そうしたNGOどうしを結ぶ結節点としての役割を担うことが期待されるのだが、これが果たして成功しているのだろうか。

これらの点を、是非、自分の目で見て、人の話をよく聞いて、そして、率先して、平和の「担い手」として実践できるようになる礎を築くことが、この講義のねらいである。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 現在の日本社会や国際社会の構造や問題点が、新聞やテレビのニュースを見ていて、「なるほど」と理解できるようになること。
- 2) かつての先達が築き上げてきた「平和学」の歴史の上に、21世紀の課題を重ね合わせてみたとき、何が喫緊の課題かを、自分の頭で整理し、理解できるようになること。
- 3) 外部との交流を深めて、立命館から世界に「平和」の尊さを発信できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

あらゆる科目が「平和」の実践には重要であることを、理解しておいてほしい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	平和学のあゆみ(1)	権力、暴力、核抑止力批判
第2回	平和学のあゆみ(2)	南北問題、構造的暴力
第3回	平和学のあゆみ(3)	地球環境問題の浮上
第4回	平和学のあゆみ(4)	文化的暴力とは？
第5回	戦争の違法化という観点から見た、「立命館大学国際平和ミュージアム」	戦争の違法化、*この日までに、事前に平和ミュージアムを改めて見学しておくこと
第6回	なぜ、日本には「平和博物館」が他国に比べて多いのか	戦争の記憶、被害と加害、自虐史観
第7回	南北問題の登場	先進国と途上国、戦後国際経済秩序(ブレトン・ウッズ体制)、構造調整プログラム
第8回	食糧問題のゆくえ	穀物市場、アグリビジネス、開発教育
第9回	国際的相互依存の進展	敏感性と脆弱性
第10回	南北問題のグローバル化	グローバリゼーションの進展、ダボス会議、グローバル・アパルトヘイト
第11回	国際協調の可能性(1)	地球温暖化とは、エビステティック・コミュニティの役割
第12回	国際協調の可能性(2)	レジーム、ネオリベラル・インスティテューショナルリズム、京都議定書
第13回	国際協調の可能性(3)	排出権取引、洞爺湖サミット後の日本、第1約束期間後の温室効果ガス削減の取り組み
第14回	地球市民社会の形成(1)	対人地雷全面禁止条約の交渉過程
第15回	地球市民社会の形成(2)	NGOの影響力の高まり、グローバル・ガバナンス

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義の連絡事項は、すべてWebCTを用いるので、1週間に1度は見ること。

また、ディスカッション・ボードに積極的に書き込みをすること。(話題提供として)

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義を通じて、自分なりに、どの程度、新聞やニュース、インターネットなどを通じて調べ、自分の考えを形成するにいったかを見る論述2問。単に知識を問う問題にはしないので、持ち込みは自由とする。

平常点(日常的) 20 % 昨年度は、試験的にWebCTを用いたため、うまく提出できるかを確かめる予行演習もレポートの1回としてカウントしたため、迅速なレスポンスをできずにいた。そのため、今年は、2回のレポートを課す前に、講義前半において、WebCTでのレポート提出がうまくできるかを確かめる練習を行う。(出席点の代わりとして用い、底上げ点としてカウントする)。レポートは2回、1回10点満点で採点する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日頃から、新聞やニュースの政治面や国際面を見ておくこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

『新・平和学をはじめ』

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

池尾靖志編 / 晃洋書房 / / 2008年10月頃完成予定。

参考書 / Reference Books

講義中に随時指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

担当者のホームページ (<http://www.yikeo.com>)

その他 / Others

スポーツ方法論I 1

10149

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを用
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論Ⅱ

10150

担当者名 / Instructor 山下 高行

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 3

10151

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを用
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 4

10286

担当者名 / Instructor 中西 匠

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを用
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 5

10287

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 6

10684

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを用
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 7

10685

担当者名 / Instructor 砂連尾 理

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 8

10686

担当者名 / Instructor 長谷川 豪志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 9

10854

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを用
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 10

10855

担当者名 / Instructor 砂連尾 理

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを用
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 11

10857

担当者名 / Instructor 長谷川 豪志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 12

11356

担当者名 / Instructor 藤田 太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを用
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 13

11357

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを用
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 14

11358

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 15

11551

担当者名 / Instructor 藤田 太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 16

11552

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 17

11553

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを用
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 18

12015

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 19

12017

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを用
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 20

12170

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを用
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method
成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 21

12171

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを用
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method
成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 22

12425

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを用
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 23

12424

担当者名 / Instructor 平野 嘉彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを用
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

担当者名 / Instructor 平野 嘉彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method
成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 25

12535

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを用
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method
成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 26

12536

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method
成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 1

10228

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 2

10229

担当者名 / Instructor 川口 晋一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 3

10230

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 4

10389

担当者名 / Instructor 中西 匠

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 5

10390

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 6

10786

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 7

10787

担当者名 / Instructor 西川 啓子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 8

10788

担当者名 / Instructor 長谷川 豪志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 9

10946

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 10

10947

担当者名 / Instructor 西川 啓子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 11

10949

担当者名 / Instructor 長谷川 豪志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 12

11438

担当者名 / Instructor 藤田 太朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 13

11439

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 14

11440

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 15

11635

担当者名 / Instructor 藤田 太朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 16

11636

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 17

11637

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 18

12088

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 19

12089

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 20

12250

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 21

12251

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 22

12472

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 23

12473

担当者名 / Instructor 平野 嘉彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 24

12637

担当者名 / Instructor 平野 嘉彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 25

12638

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 26

12639

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

イタリアの言語とエクスペッション応用I LA § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とエクスペッション応用I) LA § 特 ¹⁶⁷²² _{小冊子} 義(イタリアの言語とエクスペッション応用I) GA

担当者名 / Instructor CORONA FRANCO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

The purpose of this course is to develop the students' ability in understanding, speaking, reading and writing in the Italian language and thus to acquire some knowledge of the Italian culture and way of life. The course is mainly aimed at developing and improving the students' ability to express concepts in the Italian language by way of presenting a speech or writing an essay, both on topics previously tackled with the active help of the teacher. Various subjects as books, music, films, youth, the contemporary world and aspects of Italy will be examined and discussed according to the students' knowledge of the Italian language and for the purpose of improving it.

到達目標 / Attainment Objectives

Level A2-B1 of the Common European Framework of Reference for Languages: Waystage-Threshold (i.e. Lower-mid Intermediate).

The students must reach a good level of expression in written and spoken Italian.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

A specific preparatory study is required. The students must have attended a first year Italian language course (Beginners) at Ritsumeikan. If any prospective students should feel prepared to attend the course without having studied Italian at Ritsumeikan (i.e. having attended language courses elsewhere, or having studied the language independently), they are kindly requested to contact the teacher Mr Franco Corona for an interview. Please email as specified below.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
01	Parlare della famiglia; descrivere una fotografia.	
02	Esprimere possesso.	
03	Parlare dei regali (di nozze etc.)	
04	Parlare dei ricordi dell'infanzia; descrivere abitudini del passato.	
05	Descrivere situazioni.	
06	Addurre argomenti a favore o contro qualcosa.	
07	Descrivere una persona fisicamente; mettere persone a confronto.	
08	Parlare del carattere di una persona; domandare qualcosa cortesemente.	
09	Fare supposizioni; fare una proposta; dare un consiglio.	
10	Accettare o rifiutare una proposta motivandone il rifiuto.	
11	Fare una controproposta. Prenotare telefonicamente un biglietto teatrale.	
12	Raccontare qualcosa che succede in quel momento; darsi appuntamento.	
13	Chiedere un piacere; chiarire un'intenzione.	
14	Informarsi su qualcosa; raccontare delle vacanze; esprimere stupore o dispiacere.	
15	Chiedere come si arriva in un posto e quanto tempo ci si impiega.	
16	Dare consigli; esprimere dei bisogni.	
17	Parlare del cibo e delle abitudini alimentari.	
18	Esprimere un'opinione. Parlare della qualità e delle caratteristiche dei cibi.	
19	Riferire di problemi di salute; descriverne i sintomi; dare consigli e indicazioni.	
20	Domandare di attività fisiche ed esprimere la propria opinione al riguardo.	
21	Voler convincere qualcuno.	
22	Parlare del futuro; esprimere desideri e intenzioni; scrivere una domanda di impiego.	
23	Parlare del lavoro e delle condizioni di lavoro.	

24	Scrivere un curriculum.
25	Esprimere necessità, desideri; descrivere una casa.
26	Fare supposizioni e motivarle; addurre argomenti a favore o contro qualcosa.
27	Parlare dei mobili e dell'arredamento della casa.
28	Chiedere scusa; raccontare qualcosa che succede in quel momento preciso.
29	Esprimere interesse.
30	Stimolare la conversazione; esprimere la propria opinione.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

Students are supposed to spend a certain amount of time for self learning, i.e. doing the prescribed homework.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

<u>種別 / Kind</u>	<u>割合 / Percentage</u>	<u>評価基準等 / Grading Criteria etc.</u>
平常点(日常的)	100 %	A+: Excellent A : Very good B : Good C : Pass D : Failed

Regular attendance and active participation in class activities will be most valued. A number of short written tests will be performed during both terms to check the students' level of attainment. Students will be regularly informed of their progress.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

It is most important for the student to understand that constant study and active practice of the Italian language is essential for succeeding, which implies always doing one's homework, either written or oral, as it is specified by the teacher.

The teacher will inform the students about a free conversation class, usually held at Meigakukan. All students are kindly invited to attend.

教科書 / Textbooks

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
Espresso 2, Corso di italiano + CD	Maria Balì, Giovanna Rizzo / Alma Edizioni, Firenze / 88-86440-37-5 / required text

Students are kindly required to bring the textbook to every class. No photocopies will be provided.

参考書 / Reference Books

Any Japanese-Italian dictionary and Italian grammar textbook can be used for reference and self learning.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Students should spend some time on a daily base checking the following websites: www.Rai.it for practice in listening comprehension; and www.LASTAMPA.it for practice in reading comprehension.

その他 / Others

特殊講義(イタリアの言語とエクスプレッション・基礎) GA § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とエクスプレッション・基礎) ¹⁶⁹⁶⁰ LA
--

担当者名 / Instructor CORONA FRANCO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

The purpose of this course is to develop the students' ability in understanding, speaking, reading and writing in the Italian language and thus to acquire some knowledge of the Italian culture and way of life. The course is mainly aimed at developing and improving the students ability to express concepts in the Italian language by way of presenting a speech or writing an essay, both on topics previously tackled with the active help of the teacher. Students will learn how to introduce themselves, to meet people, to ask and give information, to describe people and places and to relate events concerning their life and young people in general.

到達目標 / Attainment Objectives

Level A1 of the Common European Framework of Reference for Languages: Breakthrough (i.e. Beginners).

The students must reach a good level of expression in written and spoken Italian.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

No specific preparatory study is required.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
01	Salutare, chiedere il nome; presentarsi.	
02	Chiedere e indicare la provenienza; congedarsi.	
03	Chiedere il numero di telefono e l'indirizzo e rispondere; chiedere di ripetere un'informazione; numeri cardinali da 0 a 20.	
04	Informarsi dello stato di salute; presentare; chiedere e fornire informazioni personali.	
05	Informarsi delle conoscenze linguistiche altrui e fornire le proprie; essere spiacenti di qualcosa.	
06	Ringraziare; chiedere e dire l'età; numeri cardinali fino a 100.	
07	Ordinare al bar e al ristorante; chiedere qualcosa che manca al tavolo; chiedere il conto.	
08	Fare una prenotazione telefonica.	
09	L'alfabeto; compitare.	
10	Parlare del tempo libero; parlare della frequenza con cui si fa qualcosa.	
11	Parlare di gusti e preferenze; esprimere accordo e disaccordo.	
12	Manifestare desideri; chiedere e dire l'ora.	
13	Prenotare una camera d'albergo; prendere informazioni; chiedere il prezzo della camera; dare informazioni.	
14	Parlare dell'arredamento di una stanza; informarsi sulla eventuale presenza di oggetti; lamentarsi.	
15	Descrivere un appartamento; prendere in affitto un appartamento; motivare una scelta; i numeri da 100 in sù; la data.	
16	Descrivere un luogo; chiedere un'informazione e reagire.	
17	Descrivere un percorso; rammaricarsi; indirizzare qualcuno ad altre persone; scusarsi.	
18	L'orario (a che ora...?); parlare degli orari di apertura e di chiusura.	
19	Raccontare eventi del passato; parlare delle vacanze.	
20	Locuzioni temporali nel passato.	
21	Parlare del tempo.	
22	Parlare degli acquisti e delle proprie abitudini in merito; fare la spesa in un negozio di alimentari.	

23	Parlare di prodotti tipici; confrontare le abitudini alimentari.
24	Descrivere un negozio; farsi dare una ricetta; le stagioni.
25	Parlare degli orari lavorativi, di una giornata tipo e delle abitudini.
26	Parlare della frequenza.
27	Fare gli auguri; le festività in Italia.
28	Descrivere e comprare vestiti; chiedere il prezzo.
29	Chiedere di poter cambiare qualcosa; essere indecisi.
30	Esprimere gusti e preferenze; fare confronti; gli acquisti.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

Students are supposed to spend a certain amount of time for self learning, i.e. doing the prescribed homework.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	A+: Excellent A : Very good B : Good C : Pass D : Failed

Regular attendance and active participation in class activities will be most valued. A number of short written tests will be performed during both terms to check the students' level of attainment. Students will be regularly informed of their progress.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

It is most important for the student to understand that constant study and active practice of the Italian language is essential for succeeding, which implies always doing one's homework, either written or oral, as it is specified by the teacher.

The teacher will inform the students about a free conversation class, usually held at Meigakukan. All students are kindly invited to attend.

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Espresso 1, Corso di italiano + CD	Luciana Ziglio, Giovanna Rizzo / Alma Edizioni, Firenze / 9 788886 440301 / required text

Students are kindly required to bring the textbook to every class. No photocopies will be provided.

参考書 / Reference Books

Any Japanese-Italian dictionary and Italian grammar textbook can be used for reference and self learning.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Students should spend some time on a daily base checking the following websites: www.Rai.it for practice in listening comprehension; and www.LASTAMPA.it for practice in reading comprehension

その他 / Others

特殊講義(イタリアの言語とエクスプレッション・基礎) GB § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とエクスプレッション・基礎) ¹⁶⁹⁶² LB
--

担当者名 / Instructor CORONA FRANCO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

The purpose of this course is to develop the students' ability in understanding, speaking, reading and writing in the Italian language and thus to acquire some knowledge of the Italian culture and way of life. The course is mainly aimed at developing and improving the students ability to express concepts in the Italian language by way of presenting a speech or writing an essay, both on topics previously tackled with the active help of the teacher. Students will learn how to introduce themselves, to meet people, to ask and give information, to describe people and places and to relate events concerning their life and young people in general.

到達目標 / Attainment Objectives

Level A1 of the Common European Framework of Reference for Languages: Breakthrough (i.e. Beginners).

The students must reach a good level of expression in written and spoken Italian.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

No specific preparatory study is required.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
01	Salutare, chiedere il nome; presentarsi.	
02	Chiedere e indicare la provenienza; congedarsi.	
03	Chiedere il numero di telefono e l'indirizzo e rispondere; chiedere di ripetere un'informazione; numeri cardinali da 0 a 20.	
04	Informarsi dello stato di salute; presentare; chiedere e fornire informazioni personali.	
05	Informarsi delle conoscenze linguistiche altrui e fornire le proprie; essere spiacenti di qualcosa.	
06	Ringraziare; chiedere e dire l'età; numeri cardinali fino a 100.	
07	Ordinare al bar e al ristorante; chiedere qualcosa che manca al tavolo; chiedere il conto.	
08	Fare una prenotazione telefonica.	
09	L'alfabeto; compitare.	
10	Parlare del tempo libero; parlare della frequenza con cui si fa qualcosa.	
11	Parlare di gusti e preferenze; esprimere accordo e disaccordo.	
12	Manifestare desideri; chiedere e dire l'ora.	
13	Prenotare una camera d'albergo; prendere informazioni; chiedere il prezzo della camera; dare informazioni.	
14	Parlare dell'arredamento di una stanza; informarsi sulla eventuale presenza di oggetti; lamentarsi.	
15	Descrivere un appartamento; prendere in affitto un appartamento; motivare una scelta; i numeri da 100 in sù; la data.	
16	Descrivere un luogo; chiedere un'informazione e reagire.	
17	Descrivere un percorso; rammaricarsi; indirizzare qualcuno ad altre persone; scusarsi.	
18	L'orario (a che ora...?); parlare degli orari di apertura e di chiusura.	
19	Raccontare eventi del passato; parlare delle vacanze.	
20	Locuzioni temporali nel passato.	
21	Parlare del tempo.	
22	Parlare degli acquisti e delle proprie abitudini in merito; fare la spesa in un negozio di alimentari.	

23	Parlare di prodotti tipici; confrontare le abitudini alimentari.
24	Descrivere un negozio; farsi dare una ricetta; le stagioni.
25	Parlare degli orari lavorativi, di una giornata tipo e delle abitudini.
26	Parlare della frequenza.
27	Fare gli auguri; le festività in Italia.
28	Descrivere e comprare vestiti; chiedere il prezzo.
29	Chiedere di poter cambiare qualcosa; essere indecisi.
30	Esprimere gusti e preferenze; fare confronti; gli acquisti.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

Students are supposed to spend a certain amount of time for self learning, i.e. doing the prescribed homework.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	A+: Excellent A : Very good B : Good C : Pass D : Failed

Regular attendance and active participation in class activities will be most valued. A number of short written tests will be performed during both terms to check the students' level of attainment. Students will be regularly informed of their progress

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

It is most important for the student to understand that constant study and active practice of the Italian language is essential for succeeding, which implies always doing one's homework, either written or oral, as it is specified by the teacher.

The teacher will inform the students about a free conversation class, usually held at Meigakukan. All students are kindly invited to attend.

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Espresso 1, Corso di italiano + CD	Luciana Ziglio, Giovanna Rizzo / Alma Edizioni, Firenze / 9 788886 440301 / required text

Students are kindly required to bring the textbook to every class. No photocopies will be provided.

参考書 / Reference Books

Any Japanese-Italian dictionary and Italian grammar textbook can be used for reference and self learning.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Students should spend some time on a daily base checking the following websites: www.Rai.it for practice in listening comprehension; and www.LASTAMPA.it for practice in reading comprehension

その他 / Others

特殊講義(イタリアの言語とエクスプレッション・基礎) GC § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とエクスプレッション・基礎) ¹⁶⁹⁶⁴ LC
--

担当者名 / Instructor CORONA FRANCO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

The purpose of this course is to develop the students' ability in understanding, speaking, reading and writing in the Italian language and thus to acquire some knowledge of the Italian culture and way of life. The course is mainly aimed at developing and improving the students ability to express concepts in the Italian language by way of presenting a speech or writing an essay, both on topics previously tackled with the active help of the teacher. Students will learn how to introduce themselves, to meet people, to ask and give information, to describe people and places and to relate events concerning their life and young people in general.

到達目標 / Attainment Objectives

Level A1 of the Common European Framework of Reference for Languages: Breakthrough (i.e. Beginners).

The students must reach a good level of expression in written and spoken Italian.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

No specific preparatory study is required.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
01	Salutare, chiedere il nome; presentarsi.	
02	Chiedere e indicare la provenienza; congedarsi.	
03	Chiedere il numero di telefono e l'indirizzo e rispondere; chiedere di ripetere un'informazione; numeri cardinali da 0 a 20.	
04	Informarsi dello stato di salute; presentare; chiedere e fornire informazioni personali.	
05	Informarsi delle conoscenze linguistiche altrui e fornire le proprie; essere spiacenti di qualcosa.	
06	Ringraziare; chiedere e dire l'età; numeri cardinali fino a 100.	
07	Ordinare al bar e al ristorante; chiedere qualcosa che manca al tavolo; chiedere il conto.	
08	Fare una prenotazione telefonica.	
09	L'alfabeto; compitare.	
10	Parlare del tempo libero; parlare della frequenza con cui si fa qualcosa.	
11	Parlare di gusti e preferenze; esprimere accordo e disaccordo.	
12	Manifestare desideri; chiedere e dire l'ora.	
13	Prenotare una camera d'albergo; prendere informazioni; chiedere il prezzo della camera; dare informazioni.	
14	Parlare dell'arredamento di una stanza; informarsi sulla eventuale presenza di oggetti; lamentarsi.	
15	Descrivere un appartamento; prendere in affitto un appartamento; motivare una scelta; i numeri da 100 in sù; la data	
16	Descrivere un luogo; chiedere un'informazione e reagire.	
17	Descrivere un percorso; rammaricarsi; indirizzare qualcuno ad altre persone; scusarsi.	
18	L'orario (a che ora...?); parlare degli orari di apertura e di chiusura.	
19	Raccontare eventi del passato; parlare delle vacanze.	
20	Locuzioni temporali nel passato.	
21	Parlare del tempo.	
22	Parlare degli acquisti e delle proprie abitudini in merito; fare la spesa in un negozio di alimentari.	

23	Parlare di prodotti tipici; confrontare le abitudini alimentari.
24	Descrivere un negozio; farsi dare una ricetta; le stagioni.
25	Parlare degli orari lavorativi, di una giornata tipo e delle abitudini.
26	Parlare della frequenza.
27	Fare gli auguri; le festività in Italia.
28	Descrivere e comprare vestiti; chiedere il prezzo.
29	Chiedere di poter cambiare qualcosa; essere indecisi.
30	Esprimere gusti e preferenze; fare confronti; gli acquisti.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

Students are supposed to spend a certain amount of time for self learning, i.e. doing the prescribed homework.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	A+: Excellent A : Very good B : Good C : Pass D : Failed

Regular attendance and active participation in class activities will be most valued. A number of short written tests will be performed during both terms to check the students' level of attainment. Students will be regularly informed of their progress.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

It is most important for the student to understand that constant study and active practice of the Italian language is essential for succeeding, which implies always doing one's homework, either written or oral, as it is specified by the teacher.

The teacher will inform the students about a free conversation class, usually held at Meigakukan. All students are kindly invited to attend.

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Espresso 1, Corso di italiano + CD	Luciana Ziglio, Giovanna Rizzo / Alma Edizioni, Firenze / 9 788886 440301 / required text

Students are kindly required to bring the textbook to every class. No photocopies will be provided.

参考書 / Reference Books

Any Japanese-Italian dictionary and Italian grammar textbook can be used for reference and self learning.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Students should spend some time on a daily base checking the following websites: www.Rai.it for practice in listening comprehension; and www.LASTAMPA.it for practice in reading comprehension.

その他 / Others

イタリアの言語とコミュニケーション応用I LA § 特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用I) GA § ヴィジョン形成¹⁶⁷¹⁴
講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用I) LA

担当者名 / Instructor CORONA FRANCO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

The purpose of this course is to develop the students' ability in understanding, speaking, reading and writing in the Italian language and thus to acquire some knowledge of the Italian culture and way of life. The course is mainly aimed at developing and improving the students' ability to express ideas in the Italian language by way of interacting in a conversation with native speakers, on topics previously tackled with the active help of the teacher. Various subjects as books, music, films, youth, the contemporary world and aspects of Italy will be examined and discussed according to the students' knowledge of the Italian language and for the purpose of improving it.

到達目標 / Attainment Objectives

Level A2-B1 of the Common European Framework of Reference for Languages: Waystage-Threshold (i.e. Lower-mid Intermediate).

The students must reach a good level of expression in written and spoken Italian.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

A specific preparatory study is required. The students must have attended a first year Italian language course (Beginners) at Ritsumeikan. If any prospective students should feel prepared to attend the course without having studied Italian at Ritsumeikan (i.e. having attended language courses elsewhere, or having studied the language independently), they are kindly requested to contact the teacher Mr Franco Corona for an interview. Please email as specified below.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
01	Parlare della famiglia; descrivere una fotografia.	
02	Esprimere possesso.	
03	Parlare dei regali (di nozze etc.).	
04	Parlare dei ricordi dell'infanzia; descrivere abitudini del passato.	
05	Parlare dei ricordi dell'infanzia; descrivere abitudini del passato.	
06	Addurre argomenti a favore o contro qualcosa.	
07	Descrivere una persona fisicamente; mettere persone a confronto.	
08	Parlare del carattere di una persona; domandare qualcosa cortesemente.	
09	Fare supposizioni; fare una proposta; dare un consiglio.	
10	Accettare o rifiutare una proposta motivandone il rifiuto.	
11	Fare una controproposta. Prenotare telefonicamente un biglietto teatrale.	
12	Raccontare qualcosa che succede in quel momento; darsi appuntamento.	
13	Chiedere un piacere; chiarire un'intenzione.	
14	Informarsi su qualcosa; raccontare delle vacanze; esprimere stupore o dispiacere.	
15	Chiedere come si arriva in un posto e quanto tempo ci si impiega.	
16	Dare consigli; esprimere dei bisogni.	
17	Parlare del cibo e delle abitudini alimentari.	
18	Esprimere un'opinione. Parlare della qualità e delle caratteristiche dei cibi.	
19	Riferire di problemi di salute; descriverne i sintomi; dare consigli e indicazioni.	
20	Domandare di attività fisiche ed esprimere la propria opinione al riguardo.	
21	Voler convincere qualcuno.	
22	Parlare del futuro; esprimere desideri e intenzioni; scrivere una domanda di impiego.	

- 23 Parlare del lavoro e delle condizioni di lavoro.
- 24 Scrivere un curriculum.
- 25 Esprimere necessità, desideri; descrivere una casa.
- 26 Fare supposizioni e motivarle; addurre argomenti a favore o contro qualcosa.
- 27 Parlare dei mobili e dell'arredamento della casa.
- 28 Chiedere scusa; raccontare qualcosa che succede in quel momento preciso.
- 29 Esprimere interesse.
- 30 Stimolare la conversazione; esprimere la propria opinione.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

Students are supposed to spend a certain amount of time for self learning, i.e. doing the prescribed homework.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	A+: Excellent A : Very good B : Good C : Pass D : Failed

Regular attendance and active participation in class activities will be most valued. A number of short written tests will be performed during both terms to check the students' level of attainment. Students will be regularly informed of their progress.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

It is most important for the students to understand that constant study and active practice of the Italian language is essential for succeeding, which implies always doing one's homework, either written or oral, as it is specified by the teacher.

The teacher will inform the students about a free conversation class, usually held at Meigakukan. All students are kindly invited to attend.

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Espresso 2, Corso di italiano + CD	Maria Bali, Giovanna Rizzo / Alma Edizioni, Firenze / 88-86440-37-5 / required text

Students are kindly required to bring the textbook to every class. No photocopies will be provided.

参考書 / Reference Books

Any Japanese-Italian dictionary and Italian grammar textbook can be used for reference and self learning.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Students should spend some time on a daily base checking the following websites: www.Rai.it for practice in listening comprehension; and www.LASTAMPA.it for practice in reading comprehension.

その他 / Others

イタリアの言語とコミュニケーション応用II LA § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用II) L § 16719
 講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用II) GA

担当者名 / Instructor MAJERU ANTONIO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

イタリア語の文献の購読。

到達目標 / Attainment Objectives

イタリア語の文献の購読を通して、イタリア語の読解スキルのレベルを高める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この授業はイタリア語中級の学生向けなので、初心者は受けることができません。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

イタリアの文化についての基本的な文献を読む。尚、文献の内容による日常会話をする。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教室で指示する。

参考書 / Reference Books

教室で指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・基礎) GA § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・基礎)¹⁶⁹⁵⁴
LA

担当者名 / Instructor MAJERU ANTONIO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

イタリア語の日常会話の基礎を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

日常会話の練習を通して、イタリア語の文法やイタリア文化などの基礎を習得します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

文学部の学生で初修外国語のイタリア語(基礎、展開、表現、応用)を受講している学生は、この授業を受講しないようにして下さい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	自己紹介・挨拶	紹介する・自分に関して話す・ご馳走する
	情報を聞く・感謝する	許可を求める
	好みに関して話す	提案する・注文する
	意見を聞く・リクエストする	道を尋ねる・案内する
	お願いする・疑いを表現する	買い物をする
	物を比較する	旅行を語る
	招待する	招待を受け入れる
	説得する	時間を言う
	アドバイスする	自分の習慣に関して話す
	意見や希望などを表現する	ホテルを予約する
	旅行を計画する	物の値段を訪ねる
	約束をする・待ち合わせを決める	義務を表現する
	電車の切符を買う	スケジュールを教える
	自分の一日を語る	復習
	復習	口答試験

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	50 %	
平常点(日常的)	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・基礎) GB § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・基礎)¹⁶⁹⁵⁶
LB

担当者名 / Instructor MAJERU ANTONIO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

イタリア語の日常会話の基礎を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

日常会話の練習を通して、イタリア語の文法やイタリア文化などの基礎を習得します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

文学部の学生で初修外国語のイタリア語(基礎、展開、表現、応用)を受講している学生は、この授業を受講しないようにして下さい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	自己紹介・挨拶	紹介する・自分に関して話す・ご馳走する
	情報を聞く・感謝する	許可を求める
	好みに関して話す	提案する・注文する
	意見を聞く・リクエストする	道を尋ねる・案内する
	お願いする・疑いを表現する	買い物をする
	物を比較する	旅行を語る
	招待する	招待を受け入れる
	説得する	時間を言う
	アドバイスする	自分の習慣に関して話す
	意見や希望などを表現する	ホテルを予約する
	旅行を計画する	物の値段を訪ねる
	約束をする・待ち合わせを決める	義務を表現する
	電車の切符を買う	スケジュールを教える
	自分の一日を語る	復習
	復習	口答試験

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	50 %	
平常点(日常的)	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・基礎) GC § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・基礎) LC

担当者名 / Instructor MAJERU ANTONIO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

イタリア語の日常会話の基礎を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

日常会話の練習を通して、イタリア語の文法やイタリア文化などの基礎を習得します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

文学部の学生で初修外国語のイタリア語(基礎、展開、表現、応用)を受講している学生は、この授業を受講しないようにして下さい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	自己紹介・挨拶	
	紹介する・自分に関して話す・ご馳走する	
	情報を聞く・感謝する	
	許可を求める	
	好みに関して話す	
	提案する・注文する	
	意見を聞く・リクエストする	
	道を尋ねる・案内する	
	お願いする・疑いを表現する	
	買い物をする	
	物を比較する	
	旅行を語る	
	招待する	
	招待を受け入れる	
	説得する	
	時間を言う	
	アドバイスする	
	自分の習慣に関して話す	
	意見や希望などを表現する	
	ホテルを予約する	
	旅行を計画する	
	物の値段を訪ねる	
	約束をする・待ち合わせを決める	
	義務を表現する	
	電車の切符を買う	
	スケジュールを教える	
	自分の一日を語る	
	復習	
	復習	
	口答試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	50 %	
平常点(日常的)	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(イタリアの言語と文化・入門I) L § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語と文化・入門I) L § 特殊講義(イタリアの言語と文化・入門I) GA ¹⁶⁹⁵⁰

担当者名 / Instructor 鯖江 秀樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

イタリアの文化を理解するためには、キリスト教を知る必要がある。なぜなら、国の宗教として国民の考え方、習慣と伝統の中に生きており、そして町の建築や美術の作品の中にも多く見られるからである。この授業の目的はキリスト教の根源からこの宗教の発展と変化、そしてそのイタリア文化との関連を分析・紹介することである。

イタリアの歴史におけるローマカトリック教会の役割は非常に重要であったので、それについて考察して、イタリアの文学におけるその影響を紹介する。そのなかでダンテの『神曲』を中心として説明し、アッシジの聖フランチェスコや聖ベネディクトのようなイタリアの宗教者とそれらの思想および著作についても論じる。

さらに、この授業では様々なイタリアの芸術の作品を分析しながら、キリスト教の根本概念やイエス・キリストの生涯、旧約と新約聖書の主要なエピソードを紹介する。そして、多くの作品に含まれているイコノグラフィを明らかにし、その意味を説明する。レオナルド・ダ・ヴィンチやミケランジェロのような有名なイタリアの芸術家も紹介する。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義は、イタリア文化におけるキリスト教を中心にする。全体的にイタリアの文化を見せることだけでなく、キリスト教にかかわるイタリアの美術と文学、様々な習慣と祭りを紹介することもこの授業の目標である。とくに、旧約と新約聖書に基づいている教会のフレスコや絵などを理解することが望まれているので、授業中多くの資料を見せながら、詳細な説明と解釈を行う。さらに、ほぼ毎回視聴覚教材を利用することになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

イタリアの文化と比較文化学に対して興味を持つ学生が望ましい。しかし、この授業は「イタリアの言語と文化・基礎」「イタリアの言語とコミュニケーション・基礎」を受講している学生のための入門講義である。従って、受講者は上記の科目を受講していることが好ましい。この授業は将来イタリアの文化を研究する者に役立つような情報、知識を与えることを目的としている。

観光情動的なものを期待している人にはやや難しいかもしれないので、注意して下さい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	授業の紹介
第2回	イタリアの文化とキリスト教の関係について	カトリックの秘跡、イタリアの祭り
第3回	イタリアの芸術におけるキリスト教1:旧約聖書	旧約聖書、創世記
第4回	イタリアの芸術家1:ミケランジェロ	ミケランジェロ、システィーナ礼拝堂
第5回	イタリアの芸術におけるキリスト教2:新約聖書(聖母マリア)	新約聖書、聖母マリア
第6回	イタリアの芸術におけるキリスト教3:新約聖書(イエスの生涯1)	新約聖書、イエス・キリスト
第7回	イタリアの芸術におけるキリスト教4:新約聖書(イエスの生涯2)	新約聖書、イエス・キリスト
第8回	イタリアの芸術家2:レオナルド・ダ・ヴィンチ	レオナルド・ダ・ヴィンチ、最後の晩餐
第9回	イタリアの芸術におけるキリスト教5:聖人	聖人、カレンダー、殉教者
第10回	イタリアの芸術におけるキリスト教6:天使と悪魔	大天使、天使、悪魔
第11回	イタリアの文学におけるキリスト教1:ダンテの『神曲』	ダンテ、『神曲』
第12回	イタリアの文学におけるキリスト教2:アッシジの聖フランチェスコの『被造物の讃歌』	アッシジの聖フランチェスコ、『被造物の讃歌』
第13回	イタリアの芸術家3:ジョット	ジョット、アッシジの聖堂壁画
第14回	フィールド・ワーク:教会のミサに参加する	ミサ
第15回	レポートの提出とその発表	レポート、発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

毎回配布された資料を学習することが必要

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最後の授業においてレポートの発表も行う
平常点(検証テスト)	10 %	場合によって、様々な感想文を書くことになる
平常点(日常的)	40 %	できるだけ出席することが望ましい

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

毎回、参考文献で紹介される書物をできるだけ多く読むこと。

教科書 / Textbooks

授業内において配布するプリント等。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『イメージを読む』	若桑 みどり / 筑摩書房 / 4-480-08907-1 /
『レオナルド・ダ・ヴィンチ』	田中英道 / 講談社 / 4-06-159013-8 /
『アッシジのフランチェスコ』	キアラ・フルゴーニ / 白水社 / 4-560-02602-5 /

教室でそのつど参考書を指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(イタリアの言語と文化・入門II) L § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語と文化・入門II) L § 特殊講義(イタリアの言語と文化・入門II) GA

担当者名 / Instructor 松田 博

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ルネサンス以降の文化史的背景、自治都市の形成と都市文化などイタリア文化の特徴と日本への影響、生活文化の意義などを各論的テーマとしてとりあげ、イタリアの言語・文化への理解と関心を深め、各自の問題意識を養成する。またイタリア語成立の歴史的背景(Rinascimento, Culturaなど)についても各テーマと関連させて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

イタリア文化およびイタリア語の歴史的特質およびその現代的意義の基礎について考え、今後の専門的学習・研究の基礎的な知識を獲得する。また入門的科目なので小論文などの文章表現力の向上も目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

イタリア文化史、社会史などの歴史系の基礎的科目。イタリア語初級程度の基礎知識のある受講生が望ましい。イタリア語の講座ではないが、イタリア語のレジュメ資料も使用する予定。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス シラバス説明 参考文献紹介	Introduzione
第2回	ルネサンス文化の概観	Cultura, Rinascimento
第3回	ルネサンス文化の概観	Cultura
第4回	ルネサンス文化と歴史	Storia
第5回	ルネサンス文化と歴史	Cultura e Societa' dell' Rinascimento
第6回	ルネサンス文化の人間像	Umanesimo
第7回	ルネサンス文化の人間像	Uomo sapienza
第8回	中間まとめ 質疑応答 小論文作成	基礎知識の整理
第9回	ルネサンス文化と社会	Cultura e Societa'
第10回	ルネサンス文化と社会	Cultura e Societa'
第11回	ルネサンス都市	Citta'
第12回	ルネサンス都市	Citta'
第13回	ルネサンスと現代	Cultura di vita, modo di vivere
第14回	ルネサンスと現代	Cultura di vita
第15回	まとめ レポートについての注意事項など	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

紹介する参考文献の自主的学習、イタリア映画の鑑賞、イタリア関係の美術展、フェアなどの実際の研修を薦めたい。また休暇中にスタディ・ツアーなどへの参加も学生時代にしかできない生きた学習・研究の機会となるので薦めたい。授業は一方交通的な講義のみでなく文献資料の講読や映像資料にもとずく討議などをおこなうのでぜひ学習を重要とす。また後半は各自の関心にもとづくプレゼンテーションなどの双方向型の授業も検討したい。受身ではなく積極的な授業参加を期待します。またルネサンス関係のイタリア語資料も使用したいのでイタリア語の学習も期待したい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	文章表現能力、問題意識などを評価
平常点(日常的)	30 %	小論文等を評価

小論文などの文章表現能力の向上への自覚的努力を期待したい。授業外学習で述べた各種イベントに関してはイタリア文化会館や京都イタリア会館、日伊協会のHP参照。須賀敦子の作品(とくに「トリエステの坂道」「ミラノ 霧の風景」新潮文庫)や塩野七生、若桑みどりの著作を薦めます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業外学習で述べたことを重視して欲しい。実地体験(フィールドワーク)の面白さを味わって欲しい。イタリアの有名な諺に「枇杷の実が熟すには、時間と葉が必要」というのがあります。関心あるテーマを見つけること、そのテーマをじっくり掘り下げる、それを文章に表現すること、つまり問題意識の形成、探究心、文章表現能力の向上を自覚的に追究することを期待します。「未来というワケのわからぬ存在を 私の形に切り抜いていく」(現代学生百人一首)。「ばさばさに乾いてゆく心を ひとのせいにはするな みずから水やりを怠っておいて……自分の感受性くらい自分で守れ」(茨木のり子詩集)。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。必要に応じて資料レジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
イタリアを知るための55章	共著 / 明石書店 / / イタリアの歴史、文化の入門書
ルネサンスの歴史	モンタネリ / 中公文庫 / / ルネサンスの歴史的概観
イタリア・ルネサンスの文化	ブルクハルト / 中公文庫 / / ルネサンス文化の解説
ルネサンス	パーク / 岩波書店 / / ルネサンス研究入門
ルネサンスを生きた人々	ジョンソン / 講談社 / / ルネサンスの人間像
イタリア・ルネサンスの扉を開く	塚本博 / 角川書店 / / ルネサンス芸術の紹介
ルネサンスとは何であったか	塩野七生 / 新潮社 / / ルネサンス文化・歴史の概説
Rinascimento	Capretti / Giunti / / Storia rinascimentale

テーマに応じて参考文献を適時紹介する。イタリア史概説書、入門書の近現代の章は通読しておくこと。イタリア映画などの映像作品や美術展鑑賞を薦めます。「Life is beautiful」「山猫」「道」「ニューシネマパラダイス」等。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

イタリアの都市や美術館、歴史博物館のサイト(英文もある)にアクセスして欲しい。

その他 / Others

講義内容に対する質問,意見を歓迎します。

担当者名 / Instructor 竹山 博英

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、実際の作品を分析することで、イタリアの映画史を追う。今年度は戦後の世界で最も注目を集めたと言えるネオ・レアリズモの映画を分析し、論じる。ネオ・レアリズモを代表する映画監督ヴィスコンティ、ロッセッリーニ、デ・シーカらの作品を分析し、それらが映画界のみならず、文化界全体でどのような意味を持ち、いかなる影響を与えたか考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

個々の作品を理解する。
ネオ・レアリズモについて理解する。
映画がイタリアの文化にどのような影響をもたらしたか理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イタリアの文化と特質、イタリア映画の歴史	
2	イタリア映画の歴史、ネオ・レアリズモ	
3	映画を見る	ヴィスコンティ『郵便配達は2度ベルを鳴らす』
4	映画を見る、分析と考察	ヴィスコンティ『郵便配達は2度ベルを鳴らす』
5	映画を見る	ロッセッリーニ『無防備都市』
6	映画を見る、分析と考察	ロッセッリーニ『無防備都市』
7	映画を見る	ヴィスコンティ『揺れる大地』
8	映画を見る	ヴィスコンティ『揺れる大地』
9	分析と考察	
10	映画を見る	デ・シーカ『自転車泥棒』
11	映画を見る、分析と考察	デ・シーカ『自転車泥棒』
12	映画を見る	ロッセッリーニ『戦火の彼方』
13	映画を見る、分析と考察	ロッセッリーニ『戦火の彼方』
14	映画を見る	デ・シーカ『靴みがき』
15	映画を見る、分析と考察	デ・シーカ『靴みがき』

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(日常的)	40 %	出席を重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 中山 明子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

古代から中世～近現代にかけての「イタリア」の歴史を概観し、イタリア文化を学ぶ上で欠かせない基礎的な知識を身につけることを目標とする。後半は中世後期から近世初期にかけてのイタリアの都市を取り上げ、その政治・社会構造や文化活動について詳しく論じる。

到達目標 / Attainment Objectives

古代～中世～近現代にかけてのイタリアの歴史を、自分なりの「物語」として把握する。
イタリア史上の重要人物・時代区分や地名を覚えて、新聞記事や小説の講読に役立てることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「イタリア語」の諸科目
履修していなくても問題はないが、当該地域は「イタリア」のみであり、資料もイタリア語の場合がある。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	授業の概要と導入	授業方針の説明、各回テーマの確認
第2回目	古代1	王制及び共和制のローマ
第3回目	古代2	帝制下のローマとローマ帝国の崩壊
第4回目	中世1	東ゴート族、ロンゴバルド族支配の時代、フランク族支配からイタリア王国へ
第5回目	中世2	ドイツ皇帝とノルマン人の支配、及び教皇権力の復活
第6回目	中世3	12～15世紀のイタリア
第7回目	近世1	イタリアにおけるスペイン支配
第8回目	近世2	オーストリア支配下のイタリア
第9回目	近現代1	ナポレオン支配下のイタリア
第10回目	近現代2	リソルジメント期のイタリアと統一後の幻滅
第11回目	近現代3	20世紀のイタリア
第12回目	中世の都市1	コムネの起源と都市コムネ体制
第13回目	中世の都市2	都市と領域支配、「コンタード」とは
第14回目	中世の都市3	14～15世紀の農民、女性
第15回目	「イタリア」とは	過去～現在に至る歴史の中の「イタリア」について

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

興味のある分野について、できるだけ多くの日本語文献に目を通してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	与えられたテーマについての論述。必ず1冊以上の日本語文献を読む必要がある。資料に基づいて論理的な議論が展開できているかどうかを見る。
平常点(日常的)	40 %	毎回出席をとる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義形態ではあるが、受講生の議論への積極的な参加を歓迎する。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

適宜、授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

特殊講義(オンデマンド) ZA § ヴィジョン形成特殊講義(オンデマンド) ZA § 特殊講義(基礎)I(オンデマンド) ZA § 特殊¹⁶⁸⁶¹
(基礎)1(オンデマンド) ZA

担当者名 / Instructor 木村 利人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人間生命の始まる前から、終わった後に至る、バイオエシックスのさまざまな問題を自然環境や社会環境の中でどのように把握すべきかを、「自己決定」「公正」「善行」などの、バイオエシックスの基本原則により検討します。

到達目標 / Attainment Objectives

生殖医療、患者の権利、安楽死、高齢者のケア、バイオエシックス公共政策などを手がかりに、バイオエシックスの問題点とその具体的対応を学習します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	事前ガイダンス	
第2回	オリエンテーション 授業のねらいと自己紹介	
第3回	第1講 バイオエシックスへの出発	
第4回	第2講 患者の人権と医療の考え方とは？	
第5回	第3講 医学人体実験・臨床試験は正当化されるのか？	
第6回	第4講 生殖医療とバイオエシックス	
第7回	第5講 臓器移植をめぐるバイオエシックス	
第8回	中間討議(テーマ視聴とリアルタイムBBS)	
第9回	中間討議教員フォロー	第6講 末期ケアとアドバンス・ディレクティブ
第10回	第7講 高齢者の生きがい	
第11回	第8講 いのちを学ぶ/ケアの心	
第12回	第9講 難民救援と開発途上国をめぐる問題	
第13回	第10講 未来のいのちのために - 新しい文明の創造に向けて	
第14回	最終討議(テーマ視聴とリアルタイムBBS)	
第15回	最終討議教員フォロー	最終レポート提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	最終レポート(20点)
平常点(日常的)	80 %	小レポート(20点 / 1回10点 × 2回)、小テスト(40点 / 1回5点 × 8回)、各回授業BBS(10点)、中間・最終討議BBS(10点)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業はインターネットを通じたオンデマンド形式で実施される。学生は受講可能期間中(各講通常1週間)の好きな時間に、自宅や大学のコンピュータ教室から授業を受けることができるが、各自のスケジュールに合わせて計画的に学習を進めること。

なお、この授業では電子掲示板(BBS)への主体的な意見の書込みが求められる。他の学生の意見にも積極的に反応することにより、相互に見識が高められることを期待する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

テキストは使用しない。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

参考文献は必要に応じて授業の中で提示する。

その他 / Others

特殊講義(オンデマンド) ZB § ヴィジョン形成特殊講義(オンデマンド) ZB § 特殊講義(基礎)I(オンデマンド) ZB § 特殊¹⁶⁸⁶⁵
(基礎)1(オンデマンド) ZB

担当者名 / Instructor 西村 正雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ヨーロッパで最初に起こった産業革命以来、多くの人々が、産業(工業)の発展こそが私達の生活を豊かにし、それゆえに幸福をもたらすもの信じてきました。同時に、それにともなつた一連の概念 - 能率主義、合理主義など - こそが、そうした豊かな生活の基本的コンセプトとして取り入れられるべきものと信じてきました。この結果、まだ産業化が進んでいない部分(地域など)を産業化すること - 開発 - は、「進歩や発展から取り残された人々」を引き上げ、文明化し、幸福にする事であり、また積極的に能率主義、合理主義を取り入れることこそ、そうした目標に近づくことと信じてきました。この点で開発は素晴らしいことであり、「なされるべきこと」でした。しかし、近年こうした開発を見直し、それに伴う多くの問題が指摘されています。そしてこの問題は、文化の問題と密接に関連しており、現代文化人類学の最も中心的なテーマの一つとなっています。

到達目標 / Attainment Objectives

本授業では、まず「開発」とは何かについて考え、文化人類学がそれをどのように捉え、分析しているのかを述べます。さらに私達が普段常識のように考えてきた「進歩」「発展」ということを、世界の事例を使いながら再検討してみたいと思います。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	事前ガイダンス	
第2回	オリエンテーション 授業のねらいと自己紹介	
第3回	第1講 文化人類学の基本的立場：文化的適応と文化変動	
第4回	第2講 「開発」とは何か？ - 文化人類学から見た「開発」 - いくつかの見方	
第5回	第3講 伝統的な経済システム	
第6回	第4講 世界システムの誕生と発展	
第7回	第5講 開発と社会変動	
第8回	中間討議(テーマ視聴とリアルタイムBBS)	
第9回	中間討議教員フォロー	第6講 開発プロジェクトの性格
第10回	第7講 開発の問題点 1 : ブラジルのセルタオの例	
第11回	第8講 開発の問題点 2 : インドネシアの緑の革命の例	
第12回	第9講 開発の問題点 3 : 東南アジアを中心とする地域の観光開発の例	
第13回	第10講 今、私たちが抱えている問題 - 「開発されていない」社会は本当に取り残されているのか？	
第14回	最終討議(テーマ視聴とリアルタイムBBS)	
第15回	最終討議教員フォロー	最終レポート提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	最終レポート(20点)
平常点(日常的)	80 %	小テスト(40点 / 1回5点 × 8回)、小レポート(20点 / 1回10点 × 2回)、各回授業BBS(10点)、中間・最終討議BBS(10点)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業はインターネットを通じたオンデマンド形式で実施される。学生は受講可能期間中(各講通常1週間)の好きな時間に、自宅や大学のコンピュータ教室から授業を受けることができるが、各自のスケジュールに合わせて計画的に学習を進めること。

なお、この授業では電子掲示板(BBS)への主体的な意見の書込みが求められる。他の学生の意見にも積極的に反応することにより、相互に見識が高められることを期待する。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

参考文献は必要に応じて授業の中で提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(オンデマンド) ZC § ヴィジョン形成特殊講義(オンデマンド) ZC § 特殊講義(基礎)I(オンデマンド) ZC § 特殊¹⁶⁸⁶⁹
(基礎)1(オンデマンド) ZC

担当者名 / Instructor 竹本 幹夫, 赤間 亮

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

世界には多くの演劇がありますが、日本を代表する古典演劇である能楽(能・狂言)と歌舞伎は、その伝統の長さにおいて、類を見ないものがあります。もちろん能や歌舞伎よりも古くからあると自称する演劇は少なくありませんが、それが現代まで途切れなく続いているという証拠を、文献資料(台本・上演記録その他)によって示すことの出来る分野は、そう多くはないのです。また日本の能楽や歌舞伎は、世界で高く評価されており、それは伝統的な演劇の中でもきわめて洗練度の高い演技を持っているためです。世界の伝統演劇の中には、きわめて古い文学的古典作品を劇化したものも少なからずあります。しかしながら演技の奥深さと美しさが、その詞章の言語芸術的レベルの高さとあいまって、演劇的な完成を遂げているのは、やはり日本の古典演劇においては無いのです。このようなすぐれた文化遺産を世界の人々に紹介し、共有してもらおうという志から、この授業を構想しました。能・狂言7回、歌舞伎7回の授業で、早稲田大学と立命館大学との協力により実現したものです。

またこの授業は2003年度文部科学省21世紀COE事業の研究拠点に選ばれた、早稲田大学演劇博物館演劇研究センターと立命館大学アート・リサーチセンターの、それぞれの研究成果の社会的還元という意味も持っています。

到達目標 / Attainment Objectives

毎回の授業を通じて、日本の古典演劇の歴史を正しく認識し、その魅力をより深く理解することを目指しています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	能楽の源流と現代の能・狂言	
第2回	狂言の魅力	
第3回	観阿弥時代の能	
第4回	世阿弥の時代	
第5回	世阿弥の能・世阿弥時代の能	
第6回	ポスト世阿弥時代	
第7回	室町後期の能	中間到達度テスト
第8回	お国歌舞伎から野郎歌舞伎前夜	
第9回	元禄歌舞伎の華	
第10回	音曲の発達と歌舞伎舞踊	
第11回	人形浄瑠璃と歌舞伎	
第12回	歌舞伎の完成と爛熟期	
第13回	三大名作の世界	
第14回	歌舞伎の舞台と演技	
第15回	最終到達度テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

映像として見られる舞台は非常に限られているので、受講期間中に実際に劇場や能楽堂等に行き生の舞台を鑑賞して頂くことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	テスト(前半能1回、後半歌舞伎1回の計2回)とする。 講義前半7回、後半7回のうち、いずれか3回以上の欠席で受験資格を失う。前半分は1回のうち2章以上の未視聴がある場合は欠席扱いとする。(後半歌舞伎に関しては各回1章のみのため、未視聴は欠席扱いとなる)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

アート・リサーチセンター <http://www.arc.ritsumeiji.ac.jp/>

赤間研究室 <http://www.arc.ritsumeiji.ac.jp/lib/geino/>

演劇博物館 <http://www.waseda.jp/enpaku/index.html>

その他 / Others

京都歴史回廊概論 LA § 人文科学総合講座特殊講義 LI § 特殊講義(京都歴史回廊プログラム) GA § ヴィジョン形成特¹³⁸⁵²講義(京都歴史回廊概論) PA

担当者名 / Instructor 高 正龍、早島 大祐、三枝 暁子、奈良 勝司、島田 康寛、白木 正俊、杉橋 隆夫、和田 晴 単位数 / Credit 2
吾、桂島 宣弘、矢野 健一、小林 丈広、木立 雅朗、山崎 有恒、佐古 愛己

授業の概要 / Course Outline

< 京都市北西部の「回廊的」歴史理解 点から線へ、そして面へ >

本講義は、文学部で展開されている「京都歴史回廊プログラム」中の必修講義科目として位置づけられており、主に日本史分野を専門とする教員によるリレー講義の形式をとる。

京都市北西部という地域は、古代から現在に至るまでに積み重ねられた、豊かな歴史と文化をほこっている。この地域を、歴史学の方法論にもとづく多様な視点から考察することで、過去の事物・事象を断片的な「点」として捉えるのではなく、「線」そして「面」として把握し、京都北西地域の歴史について総合的に理解することをめざしたい。

受講登録の際、エリアスタディプログラム受講許可者は「京都歴史回廊概論」、それ以外の文学部生は「人文科学総合講座特殊講義」、他学部生は「特殊講義(京都歴史回廊プログラム)」の授業コードで登録すること。

到達目標 / Attainment Objectives

京都市北西部の歴史についての概要を把握し、その全体像と特色をともに理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「京都歴史回廊研究 ～ 」のうち1科目以上を、本講義と並行して履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに < 担当 杉橋隆夫 >	
2	古代 「京都の先史時代」 < 担当 矢野健一 >	
3	古代 「京・嵯峨野の古墳群」 < 担当 和田晴吾 >	古墳時代後期の嵯峨野古墳群の特質について述べ、6世紀の時代像、横穴式石室の他界観に及ぶ。
4	中世 「洛西地域における平安貴族の遊びと信仰」 < 担当 佐古愛己 >	
5	古代 「洛西地域の渡来文化」 < 担当 高正龍 >	
6	中世 「洛西地域と西園寺・足利一門」 < 担当 杉橋隆夫 >	
7	中世 「北野社と西の京」 < 担当 三枝暁子 >	
8	中世 「『金閣寺』ができるまで」 < 担当 早島大祐 >	
9	近世 「近世洛西地域の文化と学問」 < 担当 桂島宣弘 >	
10	近世 「御室から鳴滝へ 考古学から見た京焼の二大スーパースター・仁清と乾山」 < 担当 木立雅朗 >	
11	近世 「嵯峨観光の近世・近代」 < 担当 小林丈広 >	
12	近代 「幕末維新の洛西地域」 < 担当 山崎有恒 >	
13	近代 「美術村としての衣笠」 < 担当 島田康寛 >	
14	近代 「工業地域としての洛西」 < 担当 白木正俊 >	
15	確認テスト(60分) + 解説(30分) < 担当 奈良勝司 >	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

特になし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	70 %	
平常点(日常的)	30 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

古代～近代までの京都の歴史について関心をもち、知識を深めておくこと。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

参考となる文献は授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都歴史回廊プログラム <https://lms.freemind.co.jp/rekishi/>
京都歴史回廊協議会 <http://www.kairou.org/>

その他 / Others

エリアスタディ専攻受講生以外で、2009年度に「京都歴史回廊プロジェクト研究 ～ 」の受講を希望するためには、「京都歴史回廊概論」と「京都歴史回廊研究 ～ 」の内いずれか1科目、合計2科目を履修していなければなりません。詳細は授業中に案内します。

京都歴史回廊概論 LB § 人文科学総合講座特殊講義 I LJ § 特殊講義(京都歴史回廊プログラム) GB § ヴィジョン形成 16350
講義(京都歴史回廊概論) PB

担当者名 / Instructor 高 正龍、早島 大祐、三枝 暁子、奈良 勝司、島田 康寛、杉橋 隆夫、和田 晴吾、桂島 宣弘、川嶋 将生、小林 丈広、木立 雅朗、山崎 有恒、小関 素明、佐古 愛己 単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

< 京都市北西部の「回廊的」歴史理解 点から線へ、そして面へ >

本講義は、文学部で展開されている「京都歴史回廊プログラム」中の必修講義科目として位置づけられており、主に日本史分野を専門とする教員によるリレー講義の形式をとる。

京都市北西部という地域は、古代から現在に至るまでに積み重ねられた、豊かな歴史と文化をほこっている。この地域を、歴史学の方法論にもとづく多様な視点から考察することで、過去の事物・事象を断片的な「点」として捉えるのではなく、「線」そして「面」として把握し、京都北西地域の歴史について総合的に理解することをめざしたい。

受講登録の際、エリアスタディプログラム受講許可者は「京都歴史回廊概論」、それ以外の文学部生は「人文科学総合講座特殊講義」、他学部生は「特殊講義(京都歴史回廊プログラム)」の授業コードで登録すること。

到達目標 / Attainment Objectives

京都市北西部の歴史についての概要を把握し、その全体像と特色をともに理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「京都歴史回廊研究 ～ 」のうち1科目以上を、本講義と並行して履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに < 担当 杉橋隆夫 >	
2	古代 「京・嵯峨野の古墳群」 < 担当 和田晴吾 >	
3	古代 「洛西地域の渡来文化」 < 担当 高正龍 >	
4	中世 「洛西地域における平安貴族の遊びと信仰」 < 担当 佐古愛己 >	
5	中世 「洛西地域と西園寺・足利一門」 < 担当 杉橋隆夫 >	
6	中世 「中世の嵯峨野 寺社門前の賑わい」 < 担当 川嶋将生 >	
7	中世 「北野社と西の京」 < 担当 三枝暁子 >	
8	中世 「『金閣寺』ができるまで」 < 担当 早島大祐 >	
9	近世 「近世洛西地域の文化と学問」 < 担当 桂島宣弘 >	
10	近世 「御室から鳴滝へ 考古学から見た京焼の二大スーパースター・仁清と乾山」 < 担当 木立雅朗 >	
11	近世 「嵯峨観光の近世・近代」 < 担当 小林丈広 >	
12	近代 「幕末維新の洛西地域」 < 担当 山崎有恒 >	
13	近代 「美術村としての衣笠」 < 担当 島田康寛 >	
14	近代 「蓮華谷火葬場と衣笠」 < 担当 小関素明 >	
15	確認テスト(60分) + 解説(30分) < 担当 奈良勝司 >	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

特になし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	70 %	
平常点(日常的)	30 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

古代～近代までの京都の歴史について関心をもち、知識を深めておくこと。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

参考となる文献は授業中に指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都歴史回廊プログラム <https://lms.freemind.co.jp/rekishi/>
京都歴史回廊協議会 <http://www.kairou.org/>

その他 / Others

エリアスタディ専攻受講生以外で、2009年度に「京都歴史回廊プロジェクト研究 ～ 」の受講を希望するためには、「京都歴史回廊概論」と「京都歴史回廊研究 ～ 」の内いずれか1科目、合計2科目を履修していなければなりません。詳細は授業中に案内します。

京都歴史回廊研究I L § 人文科学総合講座特殊講義I LK § 特殊講義(京都歴史回廊プログラム) GC § ヴィジョン形成特¹³⁸⁵³
義(京都歴史回廊研究I) P

担当者名 / Instructor 瀬戸 寿一、河原 典史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

< 京都の文化と風景 地理学考察と提案 >

古都・京都には、さまざま伝統が息づいている。その姿を変え、なかにはすでに過去のものもある。一方、近現代において、新たに創造されたものも少なくない。

本講義は「風景」「景観」「保全」などをキーワードとし、転機を迎えつつある京都の歴史・地域的背景を取り上げ、地域振興の実践を探る。

受講登録の際、エリアスタディプログラム受講許可者は「京都歴史回廊研究」、それ以外の文学部生は「人文科学総合講座特殊講義」、他学部生は「特殊講義(京都歴史回廊プログラム)」の授業コードで登録してください。

到達目標 / Attainment Objectives

京都をめぐるいくつかのトピックを紹介して、それに関する地理学を中心とする人文科学的なアプローチを理解する。そして、「風景」「景観」を創りだしてきた人びとの生業を捉える。これらの学術的な記述を活かしながら、「京都らしさ」を維持する方法を提案することを期待される。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「景観」「生業」「フィールドワーク」などに関わる科目(例えば地理学関係)を履修しておくことが望ましいが、その限りではない。「京都歴史回廊概論」もあわせて履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回:河原	はじめに:京都の風景を読み解くには	京都、風景、地理学、フィールドワーク
第2回:河原	平安京プランと両側町	平安京、条坊制、両側町、天正地割
第3回:河原	両側町と京町家	両側町、京町家、町屋の類型、保全
第4回:瀬戸	歴史都市京都の景観	京町家、世界遺産、景観保全
第5回:瀬戸	京都の都市計画と景観保全	都市計画、景観保全、京都市新景観条例
第6回:瀬戸	京都という「風景」の形成:人びとのまなざしと町並み(1)	案内書、絵図
第7回:瀬戸	京都という「風景」の形成:人びとのまなざしと町並み(2)	ツーリズム、京都らしさ、京都文化
第8回	行政からみた京都	京都市、文化財、保全
第9回:河原	国際都市・京都の諸相	韓国・朝鮮人集住地区、在日コリア
第10回:河原	戦前の立命館大学への朝鮮・台湾人留学生	立命館大学、朝鮮・台湾人留学生、知の還流
第11回:河原	京野菜とブランド化	京野菜、伝統野菜、ブランド化、近郊農業
第12回:河原	古都の緑を育てる	植木産業、庭園、苗木
第13回:瀬戸	文化的景観とは何か:北山林業地域を事例に(1)	林業(生業)、北山杉、京都市北西地域
第14回:瀬戸	文化的景観とは何か:北山林業地域を事例に(2)	文化的景観、林業集落、保全・保護
第15回:河原	おわりに	京都、風景、地理学、フィールドワーク

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	「京都らしさ」の歴史・地域的背景をめぐる地理学的アプローチの理解
平常点(日常的)	20 %	コミュニケーション・ペーパーによる「京都らしさ」を維持する方法の提案など

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
京都地図巻	植村善博・香川貴志編 / 古今書院 / 978-4-7722-3111-4 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
京都地図物語	植村善博・上野裕編 / 古今書院 / 4772216855 /
バーチャル京都	矢野桂司・中谷友樹・磯田玄編 / ナカニシヤ出版 / 4779501008 /
京まちづくり史	高橋康夫・中川理編 / 昭和堂 / 4812203147 /

京都に関わる参考文献は非常に多く様々な書物が図書館・書店等で入手可能である。
各回に関わる文献は講義の中でも適宜紹介するが、京都学研究の第一歩として受講者も自らの手で探して欲しい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都歴史回廊プログラム <https://lms.freemind.co.jp/rekishi/>
京都歴史回廊協議会 <http://www.kairou.org/>

その他 / Others

第8回には、京都市文化財保護課からのゲストスピーカーによる討論会を予定している。ただし、都合により実施回の変更もありうる。また、受講生数を鑑みて、京都市内のフィールドワークも計画している。なお、「地域地理学」を受講する受講生は、その一部が本授業科目の内容と若干重複することを予め了解願いたい。

エリアスタディ専攻受講生以外で、2009年度に「京都歴史回廊プロジェクト研究 ～ 」の受講を希望するためには、「京都歴史回廊概論」と「京都歴史回廊研究 ～ 」の内いずれか1科目、合計2科目を履修していなければなりません。詳細は授業中に案内します。

京都歴史回廊研究II L § 人文科学総合講座特殊講義I LL § 特殊講義(京都歴史回廊プログラム) GD § ヴィジョン形成特講¹⁶³⁴⁴
 義(京都歴史回廊研究II) P

担当者名 / Instructor 加藤 政洋

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「伝統的花街の過去・現在・未来 京都をフィールドにして」

現在、京都には上七軒・島原・先斗町・祇園甲・祇園東・宮川町・五条楽園という7つの花街があります。この授業は、これら京都の花街について歴史地理学・文化地理学の立場から概説する、「京都歴史回廊プログラム」の基礎的な講義科目「京都歴史回廊研究」(人文科学総合講座特殊講義I LLなどとしての受講可)のひとつです。花街というきわめて特異な遊興空間を、制度や形態にまつわる基本的な理解にはじまり、社会的・空間的なコンテクストに位置づけることを通じて、「文化」ないし「伝統」と称される事象を動的に把握してゆきたいと思えます。

到達目標 / Attainment Objectives

仮に「伝統」が変質・変態しながらも存続し延命することから生じる(つまり創造され再創造される)とするならば、まさに花街の変容の契機をきちんと見定めること、そしてそれらが都市空間ないし都市社会のなかでどのような役割を果たしてきたのか、どのような意味を有してきたのか、こうした問いを各自の立場で理解することが大きな目標となります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「京都歴史回廊概論」等、京都歴史回廊プログラム関連の科目
 「京都学」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	概説 花街 = 都市の空間的共通項	
	花街の誕生をめぐって(1) 『京都遊廓由緒』を読む	遊廓、由緒、立地、語り...
	花街の誕生をめぐって(2) 「貸席」の系譜学	円山、茶店(茶屋)、「お茶屋」、料理屋、貸席 / 席貸
	花街の誕生をめぐって(3) 伝説から生まれた風流の都	北政所(ねね / 高台院)、下河原、山猫、芸妓
	京・花街の近代(1) 明治初期の動向	博覧会、歌舞練場、会社、五業取締規則
	京・花街の近代(2) 祇園町の誕生	八坂神社、建仁寺、祇園町南側、駆籠院、歌舞練場
	京・花街の近代(3) (島原)の衰退と復活	伝統、景観、イベント、街づくり
	京・花街の近代(3) 消滅した花街、あれこれ	東三本木、二条新地、下河原、立命館大学の誕生、祇園丙部
	京・花街の近代(4) 発展の趨勢	芸妓・娼妓、統廃合、景観変容
	京・花街の文化誌 文化制度としての芸妓	おかあさん、姉妹、襟換え、旦那
	伝統的花街の変容(1) 昭和30年代の状況	売春防止法、五番町、島原、五条楽園
	京・花街の周辺文化 雇仲居から新妍芸妓へ	席貸、雇仲居、新妍芸妓...
	伝統的花街の変容(2) 現在までの趨勢	景観、文化、街づくり、遊興の変質
	文人 / 映画人たちの京・花街 エピソード編	溝口健二、石田民三、長田幹彦、吉井勇、谷崎潤一郎など
	花街の行く末 まとめにかえて	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

受講生は、季節のいい時期の休日を選んで、祇園・宮川町・下河原・先斗町・木屋町・島原・上七軒などを探訪し、街の雰囲気や景観を観察してみてください。また、水上勉など、花街にゆかりのある作家の作品を読んでおくのもよいでしょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	5～10の課題を提示。 課題に沿って論述されたレポートについて、典拠とした史料が有意かどうか、解釈が適切かどうか、適切な図表・写真などが添付されているか、フィールドワークの成果が活かされているかどうか、などを評価する。
平常点(日常的)	20 %	出席、アンケートなどをもって評価する。 (4回程度)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「授業外学習の指示」も参照のこと。
 授業は言うまでもなく屋内で行なわれるが、自主的なフィールドワークを推奨する。

花街をめぐる言説には、とかく信憑性のない語が多いので、「伝統」として自明視されている事柄もいったんは括弧に入れて疑問に付き、関連する語りや社会的背景を踏まえて考えてみましょう。

教科書 / Textbooks

教科書として特定の書物は指定しません。

参考書 / Reference Books

参考書はここではとても挙げきれないので、初回に配布する資料に掲載します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都歴史回廊プログラム <https://lms.freemind.co.jp/rekishi/>

京都歴史回廊協議会 <http://www.kairou.org/>

その他 / Others

エリアスタディ副専攻受講生以外で、2009年度に「京都歴史回廊プロジェクト研究 ～ 」の受講を希望するためには、「京都歴史回廊概論」と「京都歴史回廊研究 ～ 」の内いずれか1科目、合計2科目を履修していなければなりません。詳細は授業中に案内します。

京都歴史回廊研究Ⅲ L § 人文科学総合講座特殊講義Ⅰ LM § 特殊講義(京都歴史回廊プログラム) GE § ヴィジョン形成¹³⁸⁵⁴
講義(京都歴史回廊研究Ⅲ) P

担当者名 / Instructor 西林 孝浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「京都歴史回廊プログラム」第1ステージ(5つの講義科目)のうちの一つとして構成された当該科目では、京都市北西部の社寺に伝来する7～13世紀の宗教彫刻をとりあげる。神護寺、仁和寺、大報恩寺、雨宝院、大將軍八神社、清涼寺、大覚寺、法金剛院、広隆寺、松尾大社、宝菩提院といった社寺には、日本彫刻史を語る上で欠くことの出来ない仏像や神像が数多く伝来している。

現在の我々にとっての造形の魅力、過去の人々の造形への意識、宗教彫刻の意味や機能、そして東洋美術全体の中での位置づけなど、美術史的考察を中心としつつ、宗教学、歴史学、考古学といった隣接分野の成果も援用しながら、理解を深めたい。

受講登録の際、エリアスタディプログラム受講許可者は「京都歴史回廊研究」、それ以外の文学部生は「人文科学総合講座特殊講義」、他学部生は「特殊講義(京都歴史回廊プログラム)」の授業コードで登録してください。

到達目標 / Attainment Objectives

京都市北西部における宗教彫刻への美術史的アプローチと検討課題を知り、造形への理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「京都歴史回廊概論」もあわせて履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	導入その1:彫刻とは何か?(西洋美術史における彫刻 / インド古典期の彫刻)	
第2回	導入その2:仏教美術史のなかの仏像彫刻(インド～中央アジア～東アジア～日本)	
第3回～第4回	第1シーケンス(宗教彫刻における「表情」の問題)	
第5回～第6回	第2シーケンス(彫刻における「地域様式」とは?)	
第7回～第8回	第3シーケンス(木材の特性を考える)	
第9回	前半のまとめと補足	
第10回	中間レポート作成	
第11回～第12回	第4シーケンス(神仏習合)	
第13回～第14回	第5シーケンス(彫刻はどう位置し/祀られ/礼拝され/見られてきたのか?)	
第15回	まとめと補足 / 中間レポートの講評	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
平常点(日常的)	30 %	中間レポートの評価

成績の主たる判断材料は「定期試験」であるが、周囲の恵まれた環境を活かして、受講生自ら実践する社寺見学と絡めた「中間レポート」課題も予定している。講義と並行して進める(それは当然、講義の予習・復習も兼ねる)ことになる「中間レポート」への取り組みと完成度への評価は、「平常点評価」に含むこととする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都歴史回廊プログラム <https://lms.freemind.co.jp/rekishi/>
京都歴史回廊協議会 <http://www.kairou.org/>

その他 / Others

エリアスタディ副専攻受講生以外で、2009年度に「京都歴史回廊プロジェクト研究」の受講を希望するためには、「京都歴史回廊概論」と「京都歴史回廊研究」の内いずれか1科目、合計2科目を履修していなければなりません。詳細は授業中に案内します。

京都歴史回廊研究Ⅳ L § 人文科学総合講座特殊講義Ⅰ LN § 特殊講義(京都歴史回廊プログラム) GF § ヴィジョン形成¹⁶³⁴⁶
講義(京都歴史回廊研究Ⅳ) P

担当者名 / Instructor 瀧本 和成

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

<近代文学と京都>

京都は、平安以後日本文学創成の場であり、文学(作品)の宝庫であり続けてきた。近代文学においても、森鷗外「高瀬舟」、夏目漱石「門」、与謝野晶子「みだれ髪」、志賀直哉「暗夜行路」、梶井基次郎「檸檬」、中原中也「在りし日の歌」、谷崎潤一郎「細雪」、川端康成「古都」、三島由紀夫「金閣寺」、水上勉「雁の寺」、村上春樹「ノルウェイの森」など数々の文学作品(名作)の舞台となり、また同時に多くの文人たちの棲家(生活の場)でもあった。本講義では、文学生成の場としての京都、作品の舞台としての京都、文人たちの住としての京都など様々な視点から文化・芸術空間 京都を考察し、意味づけて行きたい。

到達目標 / Attainment Objectives

近代文学の中で 京都 を描いた作品を抽出し、京都 が(作品の中で)どのように描かれているか、或るいは作家が 京都 をどう描いているか、どのようなイメージを持っているか。そうした作者の意識をも探り、総体 として浮かび上がる 近代京都 のイメージに迫ることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「京都歴史回廊概論」もあわせて履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	近代文学と京都 概観	
第2回目	夏目漱石と京都 - 「門」(1)	
第3回目	夏目漱石と京都 - 「門」(2)	
第4回目	夏目漱石と京都 - 「京に着ける夕」	
第5回目	中原中也と京都 - 山口から京都(立命館中学)へ	
第6回目	中原中也と京都 - タダイズムとの邂逅	
第7回目	中原中也と京都 - 詩の創作	
第8回目	梶井基次郎と京都 - 「檸檬」(1)	
第9回目	梶井基次郎と京都 - 「檸檬」(2)	
第10回目	梶井基次郎と京都 - 「ある心の風景」	
第11回目	三島由紀夫と京都 - 「金閣寺」	
第12回目	三島由紀夫と京都 - 「文章読本」	
第13回目	川端康成と京都 - 「古都」	
第14回目	川端康成と京都 - 「美しい日本の私」	
第15回目	総体として浮かび上がる近代文学で描かれた 京都	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で取り上げる作品を読むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	試験(参考書・配布プリント・ノート類持込可)によって評価。
平常点(日常的)	30 %	小レポート

定期試験の成績を主とし、これに小レポート等を加味して総合評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

参考書・研究書を読むときは、鵜呑みにしないで批判摂取することを望む。

教科書 / Textbooks

使用しない。
必要に応じてプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『明治文学史』	上田博・瀧本和成編 / 晃洋書房 / 4-7710-1060-9 C3091 / 1998・11刊
『大正文学史』	上田博・瀧本和成ほか編 / 晃洋書房 / 4-7710-1303-9 C3091 / 2001・11刊

上記以外の参考書・研究書等は講義中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都歴史回廊プログラム <https://lms.freemind.co.jp/rekishi/>
京都歴史回廊協議会 <http://www.kairou.org/>

その他 / Others

エリアスタディ副専攻受講生以外で、2008年度に「京都歴史回廊プロジェクト研究 ～ 」の受講を希望するためには、「京都歴史回廊概論」と「京都歴史回廊研究 ～ 」の内いずれか1科目、合計2科目を履修していなければなりません。詳細は授業中に案内します。

担当者名 / Instructor 田中 聡

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本授業は、主として京都洛西地域(市北西部)の歴史・地理・社会・文化などの理解を深めるとともに、「フィールドワーク」の調査手法を学び、実際に現地での調査を経験する実践型の科目です。

「フィールドワーク」とは、文献・資料の調査等とならんで重要な、現地での観察や聞き取り、資料収集などを中心とする調査手法です。本科目の履修生には「フィールドワーク」の基礎を学ぶとともに、本学の位置する京都市北西部(衣笠周辺・西陣地域など)地域に赴いて、実際に「フィールドワーク」を行うことが求められます。

前期には、フィールドに出るにあたって必要となる、基本的な知識や文献調査の方法について、資料館ツアーやテキストリーディングなどを通して学びます。そして事前学習を積み重ねた後で、実際にクラス全体で教員の指導によるフィールドの体験・調査を行います。

後期には、京都市北西部地域の姿を、現地調査や聞き取りなどの「フィールドワーク」によって明らかにし、地域に住んでいる人々の営みを探ります。地域における産業・景観・文化などのテーマごとに設定したグループで調査を行い、その成果を報告会で発表するとともに、1冊の報告集にまとめることをめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

「フィールドワーク」という調査手法を経験・習得し、その手法を用いて京都市北西部を探究する。年間を通しての調査成果をふまえて、報告集を作成する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

京都歴史回廊概論(必修)
京都歴史回廊研究I~IVのいずれか1科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス・自己紹介など	
2~3	文献資料調査方法の学習(図書館・資料館ツアーなど)	
4~5	テキスト・リーディング(フィールドワークとはなにか)	
6	テーマ設定のための基礎準備(グループの設定)	
7~8	フィールドワーク(洛北地域)	
9~11	テキスト・リーディング(各グループ毎の担当)	
12~13	フィールドワーク(洛西地域・1)	
14~15	各グループによる報告・討論会(文献調査の報告と夏期調査の計画について)	
16~18	各グループによる報告・討論会(夏期調査の成果と課題について)	
19~20	フィールドワーク(洛西地域・2)	
21~23	テキスト・リーディング(各テーマ毎の選定文献について)	
24~27	各グループによる報告・討論(活動報告集の作成にむけて)	
28~30	成果報告会にむけての準備・まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

土・日にフィールド上で授業を行う場合もある(振替休講あり)。
夏期休暇中にグループ・ワークを行うこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	
平常点(日常的)	70 %	授業報告の内容、および授業での取組への積極性などを含む

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

フィールドワーク・グループワークが中心となるので、授業時間内のみではなく、授業外における活動(自主学習、調査など)も重視されることに留意すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

京都

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

林屋辰三郎 / 岩波新書 / 4-00-413095-6 / 立命館京都学の祖による、京都の歴史の概説書。

京都文学散歩

京都新聞出版センター(編) / 京都新聞出版センター / 978-4-7638-0578-2 / 数あるテーマの一例として、文学の視点から京都を見るための参考として。

参考書 / Reference Books書名 / Title

フィールドワーク増補版 書を持って街へ出よう

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

佐藤郁哉 / 新曜社 / 978-4-7885-1030-2 / 「フィールドワーク」初学者のための導入に適したテキスト。

京都や自らの関心に沿う文献には、積極的に目を通しておくこと。
その他の参考文献などは授業中に指示する。**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**京都歴史回廊プログラムHP <http://lms.freemind.co.jp/rekishi/>**その他 / Others**

エリアスタディ副専攻受講生以外で、2009年度に「京都歴史回廊演習」の受講を希望するためには、「京都歴史回廊プロジェクト研究」のいずれか1科目を履修していなければなりません。詳細は授業中に案内します。

担当者名 / Instructor 瀬戸 寿一、三枝 暁子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本授業は 京都歴史回廊プログラム の一環として、主に洛西地域を中心とした地域資源や地域の課題を見だし、人文学の視点から地域還元について取り組む。

具体的には、主に洛西地域を中心として地域の歴史や文化に関連する活動を行っている諸団体への研修 インターンシップ という具体的な対象を通して深く学ぶ。

地域の課題の発見とその対応策の検討には、研修で得られた体験や研修時に用いるスキル以外にも多くの観点を必要とする。そこで本授業では関連団体での研修だけではなく、共通理解のためのフィールドワークやテクスリーディングについても実施する。

以上の点から前期授業では、主に洛西地域をはじめとする京都の歴史・地理・文化を学ぶためのテクスリーディングとフィールドでの調査方法について講義・実習する。また前期後半から夏季にかけて、あるいは後期においては主に研修先でのインターンシップを実施する。インターンシップを踏まえた上で各派遣先ごとに設定する到達目標に向かって、事後分析やさらなる現地調査等を実施し、報告書をまとめることを予定している。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標は研修先ごとに異なるが、(1)地域の持っている課題を見出すこと、(2)派遣先の活動が地域にとってどのような意義を持っているか見出すこと、(3)活動を継続する上での課題や問題点の抽出および改善に向けた提案を見出すこと、を本科目共通の到達目標とする。また、年度中に調査報告書を刊行し1年間の実習の成果と位置づける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「京都歴史回廊概論」および「京都歴史回廊研究I～IV」など京都歴史回廊プログラムとして提供されている一連の科目群。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業ガイダンス、自己紹介	
第2回	レファレンスツアー & フィールドワーク入門	
第3回	テクスリーディング	
第4回	テクスリーディング	
第5～6回	フィールドワーク	
第7回	フィールドワークのまとめ	
第8～13回	インターンシップ事前指導・研修振替	
第14回	テクスリーディング	
第15回	テクスリーディング	
第16回～17回	インターンシップ研修(1)	
第18回～19回	インターンシップ中間報告会	
第20回	テクスリーディング	
第21回	テクスリーディング	
第22回～26回	インターンシップ研修(2)	
第27回～28回	事後指導・報告会準備	
第29～30回	最終報告会	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

インターンシップ先に応じた基礎知識の指導は事前・事後研修で極力取り扱うが、研修成果をより深めるために各自でも積極的に学んで欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	
平常点(日常的)	70 %	出席状況はもちろんのこと、プレゼンテーション・議論等への参加など授業態度についても評価する。 また研修報告書や各自の取り組み状況などをミニレポートやWebでの報告として求める。

本科目の大部分は、取り扱う内容からほぼ実習型の授業展開となる。したがって、出席状況等の日常的な授業への取り組みを最重視する。さらに本科目では他機関でのインターンシップ(フィールドワーク)が中心となるので、実習先での取り組みについても同様に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目では、大学・フィールドワーク・他機関と地域の様々な場所で授業を展開する。

したがって積極的な研究姿勢はもちろんのこと、他機関と接する事も多いため社会的なマナーについても普段よりもさらに心がけて欲しい。

また授業の一環としてフィールドワークを土日・休日に数回程度行う予定であり、インターンシップ研修についても多くが授業外の時間に取り組む事になる。

いずれも通常授業を振り替えて実施するので、開講後提示する具体的なスケジュールを基に各自予定を極力調整すること。なおやむを得ない事情で参加できない場合はくれぐれも早めに担当教員へ連絡を取ることを。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
京都	林屋辰三郎 / 岩波書店 / 4004130956 / (岩波新書 青版 451)
京都文学散歩	京都新聞出版センター編 / 京都新聞出版センター / 4763805789 /

上記に加え、フィールドワークのテキストは複数の専門書から一部を抜き出して取り扱う。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
フィールドワーク [増訂版]	佐藤郁哉 / 新曜社 / 4788510308 /
組織と経営についてするためのフィールドワーク入門	佐藤郁哉 / 有斐閣 / 4641161682 /
フィールドワークの技法と実際 マイクロ・エス / グラフイー入門	箕浦康子 / ミネルヴァ書房 / 4623030040 /

上記の文献以外にも、京都学や地域学に関する本は数多く出版されている。授業時に参考となる文献等は指摘するが自らも積極的に探して欲しい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都歴史回廊プログラム <https://lms.freemind.co.jp/rekishi/>
 京都歴史回廊協議会 <http://www.kairou.org/>

その他 / Others

本科目は、土・日にフィールドワーク授業・インターンシップ研修を授業の一環として行う場合があるので注意して下さい。(その場合、振替休講あり)

研修先に応じて研修時期の調整を必要とする。

エリアスタディ副専攻受講生以外で、2009年度に「京都歴史回廊演習」の受講を希望するためには、「京都歴史回廊プロジェクト研究」のいずれか1科目を履修していなければなりません。詳細は授業中に案内します。

京都歴史回廊演習 L § 人文科学特別研究II L § 特殊講義(京都歴史回廊プログラム) GI § ヴィジョン形成特殊講義(京¹⁴⁹⁸⁷史回廊演習) P

担当者名 / Instructor 加藤 政洋

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本演習では、京都歴史回廊プログラム(諸科目・実践)における学修の総仕上げとして、京都学まつわる基礎的な知識を踏まえ、受講生各自 / グループの関心に合わせたテーマを設定し、調査・研究を進めてゆきます。まずは設定されたテーマに関わる先行研究を講読し、そこから予想される結果と研究の意義を導き、自分なりのストーリーを構想してください。次いで、基本的な資料の収集、フィールドワークを行ない、分析・考察へと進めていきます。資料収集、時間をかけたフィールドワークは、夏休みから秋口にかけて集中的に行なう必要があるでしょう。そのためにも、前期の早い段階で、ある程度まで方向性を定めておかなければなりません。後期は、前期・夏季休暇中の成果を踏まえ、分析・考察を繰り返しながら、必要な追調査を行ない、最終成果のまとめに向けた作業を進めることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

京都歴史回廊プログラムの成果を提出、あるいは発表すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

京都歴史回廊プログラム、京都学に関わる科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	ゼミの方針、全体の日程、受講生の計画
第2～4回	口頭発表(第1回目)と議論、指導	テーマ、フィールド / 研究対象、調査方法、計画など、1(ないし2)年間にわたる調査・研究の方向性を発表
第5・6回	巡検	京都のディープなスポットを巡検(ただし通常の時間帯は行なわない)
第7～9回	口頭発表(第2回目)と議論、指導	テーマ、フィールド / 研究対象の概説
第10回	個人研究指導	個人研究指導
第11～13回	口頭発表(第3回目)と議論、指導	先行研究の検討、課題の洗い出し、史料・資料の展望
第14・15回	口頭発表(第4回目)と議論、指導	夏期研究計画
第16回	ガイダンス	後期日程の確認、夏期休暇中の成果報告
第17～19回	成果報告(第1回目)と議論、指導	夏期休暇中の成果、課題、後期の計画
第20・21回	巡検 + フィールドの観察	各受講生のフィールドを中心に巡検
第22～24回	成果報告(第2回目)と議論、指導	研究の展開
第25～28回	成果報告(第3回目)と議論、指導	最終成果の提出(発表)に向けたプレゼン
第29・30回	最終成果の報告	成果報告、残された課題の整理、個人研究指導

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

演習は主として成果や課題の報告、議論、指導の場であり、受講生自身の主題に沿った調査・研究は授業の時間外に行なわれることになる。平日頃から調査・研究に取り組む姿勢が大切であり、発表の準備も十分に時間をかけて行なうこと。また、機会を逃さずフィールドワーク / フィールドワークを行なうこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	発表の準備・内容、議論への参加、成果報告の内容など。

成績に関係しない成果物、最終レポートなどを提出していただきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

さまざまな関心を持つ受講生によって運営されるゼミですので、自分自身の課題をよりひろい文脈に置き直して多角的に検討するよう努力してください。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

募集要項を参照のこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都歴史回廊プログラム <https://lms.freemind.co.jp/rekishi/>

その他 / Others

特殊講義(国際平和交流セミナー) GA § 特殊講義(基礎)I(国際平和交流セミナー) GA § ヴィジョン形成特殊講義(国際平和交流セミナー) GA § 特殊講義(基礎)1(国際平和交流セミナー) GA § 特殊講義(自由選択)I(国際平和交流セミナー) GA

担当者名 / Instructor 藤岡 惇

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

国際平和交流セミナーは、教員の指導のもとでの旅行と実地体験を通して、平和な世界づくりに貢献する「地球市民」を育てようとする正課の教育プログラムです。戦後50周年を記念して1995年度より開始し、今年で14回目になります。毎年、夏期休暇の期間を利用し担当教員のガイドのもとで様々な地域を旅し、現場に身をさらし、5感で感じ取ってもらう国際的な体験学習を通して、世界平和の構築、国際理解と協力の道を探ります。

到達目標 / Attainment Objectives

教員の指導と支援のもとで、戦争遺跡やミュージアムを訪ね、外国の若者との交流を通じて、戦争の歴史と平和づくりの課題についての知見を広め、平和な世界づくりに貢献する「国際人」になっていただきたいと願っています。

原則として、変更されることはありません。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	第1回事前講義	
第2回	第2回事前講義	
第3回	第3回事前講義	
第4回	有志参加のプレ企画 - アメリカン大生と京都観光、歓迎パーティ	
第5回	正規プログラムの開始 平和ミュージアム参観、対話ワークショップ	
第6回	戦争展見学、対話ワークショップ、京都各地をめぐる体験学習	
第7回	広島へ出発、平和資料館見学	
第8回	ジョン・ハーシー「ヒロシマ」の追跡調査、中間点検のワークショップ	
第9回	慰霊式典に参加、被爆者や各種団体の訪問調査	
第10回	広島市長を招いた討論会、長崎に移動、原爆資料館の見学	
第11回	被爆者との交流会、戦跡調査	
第12回	城山小学校での式典、市主催の慰霊式典に参加、軍艦島見学	
第13回	まとめのワークショップ、長崎で現地解散(帰途は自由に)	
第14回	第1回事後講義	
第15回	第2回事後講義	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ヒロシマ	ジョン・ハーシー(谷本清ほか訳) / 法政大学出版局 / /
ヒロシマ、60年の記憶	近藤絨子 / リオン社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

募集人数は広島・長崎プログラムは15名です。最小催行人数は5名とし、満たない場合は実施しないことがあります。受講登録制限外科目とします。4月に募集要項を掲示し、募集説明会を開催します。

特殊講義(国際平和交流セミナー) GC § 特殊講義(基礎)I(国際平和交流セミナー) GC § ヴィジョン形成特殊講義(国際平和交流セミナー) GC § 特殊講義(基礎)1(国際平和交流セミナー) GC § 特殊講義(自由選択)I(国際平和交流セミナー) GC

担当者名 / Instructor 松野 周治

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ: 中朝露国境地域で考える東北アジアの平和
 東北アジアにおける戦争と対立の最前線となってきた中朝露国境地域を訪問し、東北アジアにおける平和構築について、中国東北地域を代表する大学での講義と学生交流、並びに見学等を通じて考える。
 事前研修(4授業時間)、現地講義と見学(1週間~10日)、事後研修(2授業時間)を通じて科目目標を達成する。

到達目標 / Attainment Objectives

かつての対立の地に足を踏み入れ、日系企業の活動を含む現状を確かめた上で、平和構築に関する自らの見解をまとめる。現地での講義、見学、訪問等の記録をグループで協力、分担しながら作成する。
 近く遠く中国の学生や人々との交流を試みる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

近現代史関係の諸科目(教養、専門)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	第1回事前研修: 国際平和交流セミナーで何を獲得するか	
第2回	第2回事前研修: 東北アジア近現代史	
第3回	第3回事前研修: セミナーでの個人テーマ、グループテーマの発見	
第4回	第4回事前研修: 個人テーマ、グループテーマの事前学習結果の発表	
第5回	現地学習1日目: 出国、目的地(長春)到着	
第6回	同2日目: 開会式、キャンパス見学、講義「日中関係の歴史と東北アジアの平和構築」その1	
第7回	同3日目: 講義「日中関係の歴史と東北アジアの平和構築」その2、見学(偽皇宮、トヨタ)	
第8回	同4日目: 吉林へ移動; 「豊満ダム」(発電、環境)等見学	
第9回	同5日目: 吉林から図們へ移動; 北朝鮮との国境地域等見学	
第10回	同6日目: 図們から琿春へ移動; 中朝露国境地域、日ソ戦争史跡等見学、日系企業訪問	
第11回	同7日目: 琿春から長春へ移動; 開会式	
第12回	同8日目: 長春出発	
第13回	同9日目: 他地域の見学、中国東北との比較	
第14回	事後研修第1回: プログラム記録の提出、レポート中間発表	
第15回	事後研修第2回: レポート指導	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

各自ならびにグループで設定、分担したテーマについて、図書館等で関連文献、資料等を収集し、これまでの研究成果を吸収する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	現地訪問や見学等がどこまで反映されているか、多くの参考文献・資料をもとに、どこまで自分の言葉で、書かれているか。
平常点(日常的)	50 %	事前、事後研修への出席と事前準備の内容、現地学習での記録作成などの内容などを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日中関係およびアジアの歴史と現状について、自らの現実体験を踏まえて考えることを重視します。
 現地でのヒアリングや見学の際の記録メモ作成についても、習熟して下さい(普段の講義での自筆ノート作成やその整理なども役立ちます)。

教科書 / Textbooks

特に定めません。

参考書 / Reference Books

ガイダンスおよび事前研修で指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(国際平和交流セミナー) GB § 特殊講義(基礎)I(国際平和交流セミナー) GB § ヴィジョン形成特殊講義(国際平和交流セミナー) GB § 特殊講義(基礎)1(国際平和交流セミナー) GB § 特殊講義(自由選択)I(国際平和交流セミナー) GB

担当者名 / Instructor 勝村 誠

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

国際平和交流セミナーは、教員の指導のもとで現地におけるフィールドワーク・講演・討論などを通して、平和な世界づくりに貢献する「地球市民」を育てようとする正課の教学プログラムです。戦後50周年を記念して1995年度より開始し、今年で14回目になります。毎年、夏期休暇の期間を利用して担当教員のガイドのもとで様々な地域を訪れ、現場に身をさらし、五感で感じ取ってもらう国際的な体験学習を通して、世界平和の構築、国際理解と協力の道を探ります。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業は韓国の済州島で「東アジア大学生平和・人権キャンプ」という研修旅行に参加することを中心に組み立てられています。この「キャンプ」では、立命館大学、立命館アジア太平洋大学、北九州市立大学、琉球大学、沖縄大学、全南大学校、済州大学校、ソウル大学校、中央大学校等の学生を中心に「現場で学ぶ平和と人権」をテーマとして、現地における講義、フィールドワーク、参加学生による討論を採り入れた実践型の学習・活動をします。日本、韓国、在日朝鮮人等の学生が同じ講義を受け、同じ現場を歩き、意見をぶつけ合うことで、同じ時間を共有すること、歴史や現在を同時体験すること、そして平和、人権についてともに考え、行動できるきっかけを作ることが目的となります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	第1回事前講義	
第2回	第2回事前講義	
第3回	第3回事前講義	
第4回	第4回事前講義	
第5回	出国、目的地到着・現地学習	
第6回	東アジア大学生平和・人権キャンプ(1日目)	
第7回	東アジア大学生平和・人権キャンプ(2日目)	
第8回	東アジア大学生平和・人権キャンプ(3日目)	
第9回	東アジア大学生平和・人権キャンプ(4日目)	
第10回	東アジア大学生平和・人権キャンプ(5日目)	
第11回	まとめのワークショップ、現地学習	
第12回	現地学習、済州島出発	
第13回	第1回事後講義	
第14回	第2回事後講義	
第15回	第3回事後講義	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「キャンプ」では通訳体制を組みますので、特に高い外国語能力を必要とすることはありません。しかし、韓国において東アジアの平和を目指して討論会を実施しますので、事前学習では簡単な朝鮮語の学習を行います。そのことを理解したうえで応募して下さい。ある程度朝鮮語ができる人には多様な活躍の場が与えられるので、大いにチャレンジしてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

募集人数は韓国プログラムは20名です。最小催行人数は5名とし、満たない場合は実施しないことがあります。受講登録制限外科目とします。4月に募集要項を掲示し、募集説明会を開催します。

特殊講義(映像学) GB § ヴィジョン形成特殊講義(映像学) GB § 特殊講義(基礎)I(映像学) GB § 特殊講義(基礎)1(10332学) GB § 特殊講義(映像学) GB

担当者名 / Instructor 宿南 達志郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「情報産業論(Information and Communications Technology)」です。(映画鑑賞の授業ではありません。)

急激に進化する情報機器や伝送技術により、情報産業の市場が大きく拡大するとともに、情報産業相互間の融合や他の産業分野における情報技術の活用が進んでいる。このような現状を定量的に把握するとともに、技術のトレンドやニーズの変化を分析することによって、情報産業の将来を見通すための議論を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

情報産業の全体像を理解する。
更に、それぞれの分野別の産業構造や今後の融合の可能性についても理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「情報社会論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	
第2回	コンピュータ産業1	コンピュータ発展の歴史
第3回	コンピュータ産業2	パソコンからウェアラブル・コンピュータ、電子タグ、電子ペーパーへの発展
第4回	通信産業1	通信産業の構造と主要企業
第5回	通信産業2	電話サービスの発展と限界
第6回	通信産業3	携帯電話サービスの歴史と将来
第7回	通信産業4	ブロードバンドサービスの歴史と将来
第8回	放送産業1	放送産業の構造と主要企業
第9回	放送産業2	公共放送の歴史と課題
第10回	放送産業3	民間放送の歴史と課題
第11回	放送産業4	放送の多様化とデジタル化
第12回	コンテンツ産業1	コンテンツ産業の構造と主要企業
第13回	コンテンツ産業2	伝統的コンテンツ産業の将来
第14回	コンテンツ産業3	デジタルコンテンツ産業の将来
第15回	講義全体の整理とアップデート。	まとめ、質疑、レポート提出等。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

テレビ、新聞、雑誌等で情報産業の動向を常に把握すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	課題の理解、分析力、論理性により評価する。
平常点(日常的)	50 %	中間レポート(20%) 各講義でのミニレポート(20%) 出席(10%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

QRコードを持参していない場合は欠席とする。

授業後にアップする講義資料や関連資料をチェックして復習に活用すること。

<http://www.ritsumei.ac.jp/~shuku/>

教科書 / Textbooks

特に定めない。
参考書籍、論文、記事等を授業時に提示する。

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
メディア産業論	宿南 達志郎 他 / 有斐閣 / 9784641173117 / 2006年05月発行
「新」メディア進化論 インターネットに押されるテレビ	西 正 / 日経BP社 / 9784822208990 / 2006年12月発行
ネット時代10年後、新聞とテレビはこうなる	藤原 治 / 朝日新聞社 / 9784022502322 / 2007年02月発行
「通信と放送」のこれからがわかる本	櫻井康雄 / あさ出版 / 4-86063-185-4 / 2006年12月発行
情報通信白書 平成19年版 (2007)	総務省 (編さん) / ぎょうせい / 432408260X / 平成20年版が2008年7月に発行される。
情報通信データブック2008	情報通信総合研究所 (編集) / NTT出版 / 978-4-7571-0226-2 / 2008年1月発行。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(映像学) GC § 特殊講義(基礎)II(映像学) GC § 特殊講義(基礎)2(映像学) GC § 特殊講義(映像学) GC	10652
--	-------

担当者名 / Instructor 宿南 達志郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『情報社会論(Information Technolgy & Society)』です。(映画鑑賞の授業ではありません。)

現代は情報化社会と呼ばれているが、そのような社会の中で生活、経済、経営、政治、法律、犯罪などが大きく変化してきている。そのような変化について認識を深めるとともに、変化が起きる原因やマイナス面を最小化しプラス面を最大化する可能性を探る。情報化社会の進展に大きな影響を与えている政府の政策についても詳細に分析を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

情報化社会の光と陰について理解し、リスクを回避しながら利便性を最大限享受するための課題等について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

『情報産業論』

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要と講義の進め方	講義内容のポイント、および到達目標の提示など
第2回	情報化社会と生活	ネットショッピング、電子マネー、住基ネット、Web新聞
第3回	情報化社会と安全・安心	災害情報、位置情報、警備システム、トレーサビリティ
第4回	情報化社会と経済・経営	ムーアの法則、ロングテールの法則、バーチャルカンパニー、ICタグ
第5回	情報化といじめ	学校裏サイト、メール攻撃、ホットライン
第6回	情報化と犯罪	闇サイト、違法取引、ネットギャンブル、出会い系
第7回	情報化と高齢者・障害者	情報バリアフリー、遠隔診療、ひとナビ
第8回	情報化と環境問題	省エネ機器、リサイクル、センサー
第9回	情報化と政治・選挙	ブログ、動画投稿、公職選挙法、
第10回	情報化と教育	eラーニング、ゲーム機利用、遠隔授業、電子図書館
第11回	情報セキュリティと個人情報保護	P2P、情報漏洩、ウィルス、迷惑メール、個人情報保護法
第12回	テレワークと雇用機会の変化	ブロードバンド、VPN、フレックスタイム
第13回	海外各国における情報化と社会(1)	欧米、コミュニティ、電子政府
第14回	海外各国における情報化と社会(2)	アジア、選挙、電子マネー
第15回	講義全体の整理とアップデート。	講義のまとめとレポート提出等

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho**

テレビ、雑誌、新聞等で話題となっている 이슈 をフォローすること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	知識、分析力、論理性などにより評価する。
平常点(日常的)	50 %	中間レポート(20%) 各講義ごとのミニ・レポート(20%) 出席(10%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

QRコードを持参していない場合は欠席とする。

授業後にアップする講義資料や関連資料をチェックして復習に活用すること。

<http://www.ritsumei.ac.jp/~shuku/>**教科書 / Textbooks**

特に定めない。
授業中に、最新の書籍、論文、資料、記事等を紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ネット君臨	毎日新聞取材班 (著) / 毎日新聞社 / 4620318361 / 2007年10月発行
今子どもたちが危ない!出会い系サイト	藤川 博樹 (著) / 汐文社 / 4811384024 / 2007年02月発行
情報社会のビジョン 現実と仮想のコミュニケーション	寺島 信義 (著) / 文芸社 / 4286010155 / 2006年05月発行
ネット犯罪から子どもを守る 被害者にも加害者にもしないために親がすべきこと	唯野 司 (著) / 毎日コミュニケーションズ / 483992077X / 2006年06月発行
eデモクラシー	岩崎 正洋 (編集) / 日本経済評論社 / 4818817392 / 2005年4月発行
情報社会の倫理と法 41のケースで学ぶ	リチャード A.スピネロ (著), 林 紘一郎 (監修), 中西輝夫 (翻訳) / エヌティティ出版 / 4757102194 / 2007年10月発行
インターネットの光と影 Ver.3 被害者・加害者にならないための情報倫理入門	情報教育学研究会情報倫理教育研究グループ (編集) / 北大路書房 / 4762824852 / 2006年2月発行
ウェブ時代をゆく	梅田望夫 / 筑摩書房 / 9784480063878 / 2007年11月発行

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(映像学)GD § 特殊講義(基礎)I(映像学)GD § 特殊講義(基礎)1(映像学)GD § 特殊講義(映像学)GD § 20473
 ジョン形成特殊講義(映像学)GD

担当者名 / Instructor 新 清士

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

インターネットの発達と開発ツールの一般化によって「イノベーションの民主化」ともいべき状況が発生している。これまで企業だけがイノベーションの主体となり、製品とすることができ、ユーザーはその商品を選択し消費するという行為を通じる以外の方法で、開発に関わることができなかった。しかし、企業のイノベーション活動に、ユーザーも実際に様々な形で関わることができるようになりつつある。アルビン・トフラーのいう「生産消費活動」の領域がますます拡大しているのだ。ユーザーは、消費者であると同時に生産者にもなりうる。

ゲームの分野は、このイノベーションの民主化が、顕著に進んでいる分野の一つである。PCゲームを中心としたユーザーが自由にデータを改変できる「Mod」と呼ばれる活動を通じて、実際にイノベーションが発生している。

この講座では、そのユーザーが引き起こしたイノベーションの代表例ともいえる「カウンターストライクソース」のMod環境を利用して、実際にゲーム内のマップを開発する(レベルデザイン)を通じて、ゲーム開発の仕組みと、ユーザーが関わることができる生産消費活動を実際に体験する。そして、現在の高度なゲーム機向けのゲーム開発がどのように行われているのかを実践的に理解する。

到達目標 / Attainment Objectives

「カウンターストライクソース」のMod活動を通じて、実際にユーザーでも十分にプロに通用するようなゲームが開発できることを実感できるようにすること。また、Modツールの利用を通じて、使用方法を習得し、特に現在のゲームデザイン分野の実践的ノウハウを体感的に習得する。集中講義期間中に、マップを一つ以上完成させることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション～全体の講義概要の理解	
第2回	「カウンターストライクソース」の基礎	
第3回	「カウンターストライクソース」のModツールの環境構築	
第4回	ハンマーエディターの使い方1 最初の部屋	
第5回	ハンマーエディターの使い方2 武器の設置、ライティングなど	
第6回	ハンマーエディターの使い方2 AIパス計算・実際のプレイ	
第7回	レベルデザインの概念の解説	
第8回	紙面マップ作成	
第9回	作成実習	
第10回	現在のゲーム機での開発手法の理解	
第11回	ライティングの理解	
第12回	作成実習(2)	
第13回	評価(1)	
第14回	評価(2)	
第15回	評価(3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

講義は、毎日講義時間外に行われるレポート作成、もしくは、実際のマップ制作の作業データやスクリーンショットの提出を義務づける。講義時間外に、講義で求められる製作の時間を取ることを前提とする。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	
平常点(日常的)	70 %	日常点30%、ゲームデータ40%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『富の未来』	アルビン・トフラー、ハイジ・トフラー / 講談社 / /
『ウィキノミクス』	ドン・タブスコット、アンソニー・ウィリアムズ / 日経BP / /
『民主化するイノベーションの時代』	エリック・フォン・ヒッペル / ファーストプレス / /

『ダンジョンズ&ドリーマーズ』

ブラッド・キング、ジョン・ポーランド/ソフトバンク//

日本経済新聞Web IT Plus「新清士のゲームスクランブル」

<http://it.nikkei.co.jp/digital/column/gamescramble.aspx>

ユーザーが勝手に作ってしまった「ガンダム」新作ゲームタイトル

<http://it.nikkei.co.jp/digital/column/gamescramble.aspx?ichiran=True&n=MMITew000013042007&Page=1>

ゲーム業界のユーザー参加型コンテンツ「Mod」が流行る理由

<http://it.nikkei.co.jp/digital/column/gamescramble.aspx?ichiran=True&n=MMITew000019042007&Page=1>

CSEC Mod Communities

<http://www.c-sec.net/phpBB/>

Source SDK Docs 日本語版

<http://developer.valvesoftware.com/wiki/Category:Japanese>**参考書 / Reference Books**

特にないが、ゲーム自体が好きで遊んできた経験を持っていることが望ましい。

「カウンターストライクソース」を事前に購入してプレイしておくことが望ましい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

特殊講義(映像学) GE § ヴィジョン形成特殊講義(映像学) GE § 特殊講義(基礎)I(映像学) GE § 特殊講義(基礎)1 (B, 1698)
学) GE § 特殊講義(映像学) GE

担当者名 / Instructor 富田 美香、川村 健一郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「映像文化の創造と倫理」

映像文化はどのように保存され、次世代へと適正に継承されるべきか。また、映像文化は地域社会の中でどのように活用され、マネジメントされるべきか。これらの問いは、現在の映像文化を考える上で見過ごすことのできないアクチュアルな課題である。

この講義では、フィルム¹の保存から最新のデジタル復元に至るまでのアーカイブ活動に関わる諸問題と、地域における公共映画上映とそのマネジメントに関わる諸問題について、その第一線で活躍する方々をお招きし、解説していただく。

第2回から第7回までが、アーカイブをテーマに、第8回から第14回までが、映像マネジメントをテーマに、担当教員及びゲスト講師によるレクチャーが行われる。第1回は担当教員2名による本講義のガイダンス、第15回は本講義の総括を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

映像資料の保存・復元のあり方を学ぶことを通して、文化遺産・歴史資料としての映像の価値についての理解を深める。また、映像マネジメントの実際²を学び、映画上映の社会的意義についての理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 映像文化の保存と活用	
第2回	フィルム・アーカイブの活動と倫理的問題 / 富田美香	
第3回	ノンフィルム: 収集、フェアユースとアクセス / 入江良郎 (東京国立近代美術館フィルムセンター)	
第4回	フィルム・アーカイブの活動と倫理的問題について その 最前線 / 岡島尚志(東京国立近代美術館フィルムセン ター)	
第5回	フィルム: 媒体・保存・復元 / とちぎあきら(東京国立近代 美術館フィルムセンター)	
第6回	ラボ: フィルム復元について / 山本毅(IMAGICAウエスト)	
第7回	ラボ: デジタル復元について / 越智武彦(IMAGICA)	
第8回	映画上映の倫理学: 実践知としての映像マネジメント / 川 村健一郎	
第9回	映画上映と公共性: コミュニティシネマの理念 / 岩崎ゆう 子(コミュニティシネマ支援センター事務局長)	
第10回	公共圏形成の倫理: 文化政策の現場から / 深田独(元・ 横浜美術館学芸員)	
第11回	映画上映と都市計画・都市政策 / 小川直人(せんだいメ ディアテーク学芸員)	
第12回	映画教育の必要性 / 村山匡一郎(映画評論家・多摩美 術大学客員教授)	
第13回	映画における法及び権利 / 内藤篤(弁護士・シネマ ヴェーラ渋谷館主)	
第14回	デジタル時代の映画上映 / 堀三郎(アネフランセ文化 センター制作室長)	
第15回	映像文化の創造と倫理 まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

使用しない。

参考書 / Reference Books

授業内で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内で適宜指示する。

その他 / Others

特殊講義(映像学) GF § 特殊講義(基礎)I(映像学) GF § 特殊講義(基礎)1(映像学) GF § 特殊講義(映像学) GF § 20477
 ジョン形成特殊講義(映像学) GF

担当者名 / Instructor 鈴木 岳海

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

花街「上七軒」における"文化の多面性"を取り上げ、オーラル・ヒストリーをもとにビデオ作品を制作する。具体的には、上七軒と関わりの深い"お茶"、花街に見られる身体装飾、花街の身体所作の3つを取り上げ、各テーマの専門家をお呼びし、講義と実演の観察、受講生の体験を経て、ビデオ作品の撮影をおこなう。

到達目標 / Attainment Objectives

花街文化に関して多面的な理解を实践を通して深める。
 花街文化を映像として後代に残す。
 撮影現場での即応性を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス: 知的財産としての花街文化	Edit in Camera撮影法について
第2回	花街"上七軒"とお茶	花街の歴史 花街と菓子 茶道点前
第3回	花街の身体装飾	着物と着付け 髪結い 化粧 足袋
第4回	花街の身体所作	室礼 料理 座敷舞
第5回	作品上映と講評	知的財産の記録・保存 外国人からみた花街

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	毎回の小レポート

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

適宜、提示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

講義の場所は、以下の通り。各場所へは自費で集合することになります。

第1回: 1時限@衣笠キャンパス

第2回: 4時限@大原「無心庵」

第3回: 4時限@宮川町

第4回: 4時限@上七軒お茶屋又は、上七軒歌舞練場

第5回: 2時限@衣笠キャンパス

受講人数によりませんが、3、4人で1グループになってもらいます。

場所や講義内容の詳細は、第1回目の講義でお知らせします。

講義内容と講義形式、講義の準備の都合により、(格段の理由がない場合)回を選んでの受講は認められません。

特殊講義(海外留学英語演習) PA

14040

担当者名 / Instructor 西山 淳子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

英語圏で、高等教育機関への留学、語学留学、調査を希望する学生に、そこでの生活・学習・研究に必要な基礎知識と実践的な英語運用能力を修得させることを目的とします。海外留学・海外調査を希望・計画する学部学生が、現地で円滑な学習・研究を行うために必要とされる、英語圏の大学・大学生活に関する総合的な知識を修得し、留学先での、社会研究やクラスでの学習課題を明晰かつ論理的な英語で表現し、伝えることができる実践的な英語能力の育成をはかります。

到達目標 / Attainment Objectives

英語圏での生活・文化や高等教育機関に関する総合的な知識を修得し、英語圏で通用する自己表現力を身につけてもらうことを目標とします。さらに、社会研究の課題を明晰かつ論理的な英語で表現できる研究のための実践的な英語能力の育成をはかります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	コース予定と概要の説明	さまざまな留学のスタイル(学内、学外)についての概略、受講者の留学希望調査
2-4	英語圏の高等教育機関での学習・研究	海外の大学制度・教育・研究・クラスルーム、生活・文化の違い、目標の明確化、自分にふさわしい留学、留学手続き
5-8	留学先への出願、留学準備	Proposal/statement/recommendation: 研究計画書と出願エッセイ(志望書)の書き方、推薦状等の準備の仕方など
9-11	留学先での学習・研究準備	Study/research design and methods, Interview/questionnaire design and writing: 学習・社会研究の技法
12-14	学習・研究成果をまとめる技法	Research and Presentation
15	総括ワークショップ	Oral presentation, 留学にむけて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

各自の研究計画、留学目標に沿ったリサーチや課題作成

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	クラスにおけるパフォーマンス(到達度評価)

学会やセミナーでの報告を想定したoral presentationなどの課題を含む日常的なクラスにおけるパフォーマンスを総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者数に制限があるため、事前登録科目となります。前期セメスターにPAとPBクラスを、後期セメスターにPCとPDクラスを開講します。研究入門フォーラムの海外プロジェクトや、UBC、DUDP、交換留学、その他の留学に出発予定の学生、上述した各種留学プログラムへの応募や、その他の海外調査・留学を希望し、出願を予定している学生を対象とします。受講者の計画や能力に応じた教科内容にしますが、できるだけ具体的な計画・展望を持って受講してください。

教科書 / Textbooks

開講時に指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

2007年度前期の授業より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/f1_read.cgi?key=1col2007528163927
 PA・PCクラスの担当者より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/2cols_read.cgi?key=2col200744175913

その他 / Others

PA/PB/PC/PDクラスの重複履修はできません。

特殊講義(海外留学英語演習) PB

14041

担当者名 / Instructor 飯田 未希

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

英語圏で、高等教育機関への留学、語学留学、調査を希望する学生に、そこでの生活・学習・研究に必要な基礎知識と実践的な英語運用能力を修得させることを目的とします。海外留学・海外調査を希望・計画する学部学生が、現地で円滑な学習・研究を行うために必要とされる、英語圏の大学・大学生活に関する総合的な知識を修得し、留学先での、社会研究やクラスでの学習課題を明晰かつ論理的な英語で表現し、伝えることができる実践的な英語能力の育成をはかります。

到達目標 / Attainment Objectives

英語圏での生活・文化や高等教育機関に関する総合的な知識を修得し、英語圏で通用する自己表現力を身につけてもらうことを目標とします。さらに、社会研究の課題を明晰かつ論理的な英語で表現できる研究のための実践的な英語能力の育成をはかります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	コース予定と概要の説明	さまざまな留学のスタイル(学内、学外)についての概略、受講者の留学希望調査
2-4	英語圏の高等教育機関での学習・研究	海外の大学制度・教育・研究・クラスルーム、生活・文化の違い、目標の明確化、自分にふさわしい留学、留学手続き
5-8	留学先への出願、留学準備	Proposal/statement/recommendation: 研究計画書と出願エッセイ(志望書)の書き方、推薦状等の準備の仕方など
9-11	留学先での学習・研究準備	Study/research design and methods, Interview/questionnaire design and writing: 学習・社会研究の技法
12-14	学習・研究成果をまとめる技法	Research and Presentation
15	総括ワークショップ	Oral presentation, 留学にむけて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

各自の研究計画、留学目標に沿ったリサーチや課題作成

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	クラスにおけるパフォーマンス(到達度評価)

学会やセミナーでの報告を想定したoral presentationなどの課題を含む日常的なクラスにおけるパフォーマンスを総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者数に制限があるため、事前登録科目となります。前期セメスターにPAとPBクラスを、後期セメスターにPCとPDクラスを開講します。研究入門フォーラムの海外プロジェクトや、UBC、DUDP、交換留学、その他の留学に出発予定の学生、上述した各種留学プログラムへの応募や、その他の海外調査・留学を希望し、出願を予定している学生を対象とします。受講者の計画や能力に応じた教科内容にしますが、できるだけ具体的な計画・展望を持って受講してください。

教科書 / Textbooks

開講時に指示します。

参考書 / Reference Books

必要に応じて指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

2007年度前期の授業より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/f1_read.cgi?key=1col2007528163927
 PA・PCクラスの担当者より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/2cols_read.cgi?key=2col200744175913

その他 / Others

PA/PB/PC/PDクラスの重複履修はできません。

特殊講義(海外留学英語演習) PC

16520

担当者名 / Instructor 西山 淳子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

英語圏で、高等教育機関への留学、語学留学、調査を希望する学生に、そこでの生活・学習・研究に必要な基礎知識と実践的な英語運用能力を修得させることを目的とします。海外留学・海外調査を希望・計画する学部学生が、現地で円滑な学習・研究を行うために必要とされる、英語圏の大学・大学生活に関する総合的な知識を修得し、留学先での、社会研究やクラスでの学習課題を明晰かつ論理的な英語で表現し、伝えることができる実践的な英語能力の育成をはかります。

到達目標 / Attainment Objectives

英語圏での生活・文化や高等教育機関に関する総合的な知識を修得し、英語圏で通用する自己表現力を身につけてもらうことを目標とします。さらに、社会研究の課題を明晰かつ論理的な英語で表現できる研究のための実践的な英語能力の育成をはかります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	コース予定と概要の説明	さまざまな留学のスタイル(学内、学外)についての概略、受講者の留学希望調査
2-4	英語圏の高等教育機関での学習・研究	海外の大学制度・教育・研究・クラスルーム、生活・文化の違い、目標の明確化、自分にふさわしい留学、留学手続き
5-8	留学先への出願、留学準備	Proposal/statement/recommendation: 研究計画書と出願エッセイ(志望書)の書き方、推薦状等の準備の仕方など
9-11	留学先での学習・研究準備	Study/research design and methods, Interview/questionnaire design and writing: 学習・社会研究の技法
12-14	学習・研究成果をまとめる技法	Research and Presentation
15	総括ワークショップ	Oral presentation, 留学にむけて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

各自の研究計画、留学目標に沿ったリサーチや課題作成

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	クラスにおけるパフォーマンス(到達度評価)

学会やセミナーでの報告を想定したoral presentationなどの課題を含む日常的なクラスにおけるパフォーマンスを総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者数に制限があるため、事前登録科目となります。前期セメスターにPAとPBクラスを、後期セメスターにPCとPDクラスを開講します。研究入門フォーラムの海外プロジェクトや、UBC、DUDP、交換留学、その他の留学に出発予定の学生、上述した各種留学プログラムへの応募や、その他の海外調査・留学を希望し、出願を予定している学生を対象とします。受講者の計画や能力に応じた教科内容にしますが、できるだけ具体的な計画・展望を持って受講してください。

教科書 / Textbooks

開講時に指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

2007年度前期の授業より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/f1_read.cgi?key=1col2007528163927
 PA・PCクラスの担当者より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/2cols_read.cgi?key=2col200744175913

その他 / Others

PA/PB/PC/PDクラスの重複履修はできません。

特殊講義(海外留学英語演習) PD

16521

担当者名 / Instructor 飯田 未希

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

英語圏で、高等教育機関への留学、語学留学、調査を希望する学生に、そこでの生活・学習・研究に必要な基礎知識と実践的な英語運用能力を修得させることを目的とします。海外留学・海外調査を希望・計画する学部学生が、現地で円滑な学習・研究を行うために必要とされる、英語圏の大学・大学生活に関する総合的な知識を修得し、留学先での、社会研究やクラスでの学習課題を明晰かつ論理的な英語で表現し、伝えることができる実践的な英語能力の育成をはかります。

到達目標 / Attainment Objectives

英語圏での生活・文化や高等教育機関に関する総合的な知識を修得し、英語圏で通用する自己表現力を身につけてもらうことを目標とします。さらに、社会研究の課題を明晰かつ論理的な英語で表現できる研究のための実践的な英語能力の育成をはかります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	コース予定と概要の説明	さまざまな留学のスタイル(学内、学外)についての概略、受講者の留学希望調査
2-4	英語圏の高等教育機関での学習・研究	海外の大学制度・教育・研究・クラスルーム、生活・文化の違い、目標の明確化、自分にふさわしい留学、留学手続き
5-8	留学先への出願、留学準備	Proposal/statement/recommendation: 研究計画書と出願エッセイ(志望書)の書き方、推薦状等の準備の仕方など
9-11	留学先での学習・研究準備	Study/research design and methods, Interview/questionnaire design and writing: 学習・社会研究の技法
12-14	学習・研究成果をまとめる技法	Research and Presentation
15	総括ワークショップ	Oral presentation, 留学にむけて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

各自の研究計画、留学目標に沿ったリサーチや課題作成

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	クラスにおけるパフォーマンス(到達度評価)

学会やセミナーでの報告を想定したoral presentationなどの課題を含む日常的なクラスにおけるパフォーマンスを総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者数に制限があるため、事前登録科目となります。前期セメスターにPAとPBクラスを、後期セメスターにPCとPDクラスを開講します。研究入門フォーラムの海外プロジェクトや、UBC、DUDP、交換留学、その他の留学に出発予定の学生、上述した各種留学プログラムへの応募や、その他の海外調査・留学を希望し、出願を予定している学生を対象とします。受講者の計画や能力に応じた教科内容にしますが、できるだけ具体的な計画・展望を持って受講してください。

教科書 / Textbooks

開講時に指示します。

参考書 / Reference Books

必要に応じて指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

2007年度前期の授業より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/f1_read.cgi?key=1col2007528163927
 PA・PCクラスの担当者より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/2cols_read.cgi?key=2col200744175913

その他 / Others

PA/PB/PC/PDクラスの重複履修はできません。

人文科学総合講座特殊講義ⅠLD § 特殊講義(基礎)ⅠTA § 特殊講義(総合)GA § 特殊講義(基礎)1C § ヴィジョン形¹³⁹⁰¹
 特殊講義(日本文化の源流を求めて・京都学の創成)GA

担当者名 / Instructor 杉橋 隆夫、佐古 愛己

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、読売新聞社の協力を得て、過去3年間実施してきたリレー講義「現代社会と宗教」次いで「日本文化の源流を求めて」を継承し、さらに展開する試みである。本年度は、これまでの成果と潮流を京都を核として収斂、いっそう深化させると同時に、宗教を含む日本文化の特質を追究しようと企図する。そしてこれらを包摂する概念は「京都学」である。当然のことながら、この場合の「京都学」は、たんなる地域学ではない。今日の日本文化の源流を探り、広く世界に接するための学問なのである。

本講義は、従前からの京都歴史回廊協議会の活動や、一昨年・昨年と相次いで設置された現代GP(京都歴史回廊プログラム)、グローバルCOE、京都文化講座(東京キャンパス)などと有機的に結合するものとして、その役割が期待されている。

これらを総合して、われわれが目指す「立命館京都学」は、総合性、学際性、国際性、地域連携、現在性、の5要素を具有、実現する内容になるであろう。

到達目標 / Attainment Objectives

日本文化にまつわる精神的営みと文物の概要を客観的に理解できるよう努める。また、「京都学」が目指すところとその意義を精確に認識し、できれば「立命館京都学」の創成にみずから参加する意欲と具体的手段とを見出したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

激動の現今、日本の伝統的文化や精神世界を改めて回顧し、自省の念を深めることは、重要な意義を持つ。他の文化・思想・宗教関係科目の履修は有意義だし、とりわけ「京都学」関係では、「授業の概要」に開説した諸活動に注意を向け、文学部においてこれからもますます拡大・充実していくであろう「京都学」関連科目(京都プログラム)の並行履修も、大いに推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	杉橋 隆夫(コーディネーター 立命館大学文学部教授)	
第2回	瀬戸内 寂聴(作家)	
第3回	佐々木 高明(国立民族学博物館元館長)	
第4回	桐竹 勳十郎(文楽人形遣い)	
第5回	桂 三枝(落語家)	
第6回	亀山 郁夫(東京外国語大学学長)	
第7回	村田 吉弘(菊乃井主人)	
第8回	片岡 秀太郎(歌舞伎俳優)	
第9回	中村 昌生(京都工芸繊維大学名誉教授)	
第10回	酒井 一(三重大学名誉教授)	
第11回	北川 博子(阪急学園池田文庫研究員)	
第12回	笹岡 隆甫(華道末生流)	
第13回	新木 直人(下鴨神社宮司)	
第14回	牧野 圭一(京都精華大学教授)	
第15回	佐古 愛己(立命館大学准教授)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

本講義内容だけでなく、日本文化と精神世界、京都の歴史と文化への関心を常に温めながら、見聞を深めたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	50 %	
平常点(日常的)	50 %	出席・質問用紙の提出状況等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のものを使用しない。資料等は必要に応じて配付する。

参考書 / Reference Books

各招聘講師の著作等を事前に一読しておきたい。プロフィールを含め、インターネットなどで容易に検索可能である。また、『いま、宗教を問う!、現代社会と宗教』『宗教者に聞く!、日本編上・下 現代社会と宗教』(いずれも法蔵館)は、前述、本講義の前身企画の記録・成果であって、参考に資すべきところが多い。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

前・後期とも受講するのが望ましい。

人文科学総合講座特殊講義Ⅰ LE § 特殊講義(基礎)Ⅱ TA § 特殊講義(総合) GB § 特殊講義(基礎)2 C § ヴィジョン形¹⁶³⁶⁴
 殊講義(日本文化の源流を求めて・京都学の創成) GB

担当者名 / Instructor 杉橋 隆夫、佐古 愛己

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、読売新聞社の協力を得て、過去3年間実施してきたリレー講義「現代社会と宗教」次いで「日本文化の源流を求めて」を継承し、さらに展開する試みである。本年度は、これまでの成果と潮流を京都を核として収斂、いっそう深化させると同時に、宗教を含む日本文化の特質を追究しようと企図する。そしてこれらを包摂する概念は「京都学」である。当然のことながら、この場合の「京都学」は、たんなる地域学ではない。今日の日本文化の源流を探り、広く世界に接するための学問なのである。

本講義は、従前からの京都歴史回廊協議会の活動や、一昨年・昨年と相次いで設置された現代GP(京都歴史回廊プログラム)、グローバルCOE、京都文化講座(東京キャンパス)などと有機的に結合するものとして、その役割が期待されている。

これらを総合して、われわれが目指す「立命館京都学」は、総合性、学際性、国際性、地域連携、現在性、の5要素を具有、実現する内容になるであろう。

到達目標 / Attainment Objectives

日本文化にまつわる精神的営みと文物の概要を客観的に理解できるよう努める。また、「京都学」が目指すところとその意義を精確に認識し、できれば「立命館京都学」の創成にみずから参加する意欲と具体的手段とを見出したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

激動の現今、日本の伝統的文化や精神世界を改めて回顧し、自省の念を深めることは、重要な意義を持つ。他の文化・思想・宗教関係科目の履修は有意義だし、とりわけ「京都学」関係では、「授業の概要」に關説した諸活動に注意を向け、文学部においてこれからもますます拡大・充実していくであろう「京都学」関連科目(京都プログラム)の並行履修も、大いに推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	杉橋 隆夫(コーディネーター 立命館大学文学部教授)	
第2回	山折 哲雄 (宗教学者)	
第3回	井上 八千代 (京舞)	
第4回	河田 昌之 (久保惣記念美術館長)	
第5回	千田 稔 (国際日本文化研究センター教授)	
第6回	瀬木 直貴 (映画監督)	
第7回	森本 公誠 (東大寺長老)	
第8回	藤本 青一 (財団法人美術院国宝修理所所長)	
第9回	上村 淳之 (日本画家)	
第10回	梅若 六郎 (能楽師)	
第11回	立松 和平 (作家)	
第12回	松本 健一 (麗沢大学教授)	
第13回	小林 由紀子 (ドラマプロデューサー)	
第14回	西尾 久美子 (神戸大研究員)	
第15回	佐古 愛己 (立命館大学准教授)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

本講義内容だけでなく、日本文化と精神世界、京都の歴史と文化への関心を常に温めながら、見聞を深めたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	50 %	
平常点(日常的)	50 %	出席・質問用紙の提出状況等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のものを使用しない。資料等は必要に応じて配付する。

参考書 / Reference Books

各招聘講師の著作等を事前に一読しておきたい。プロフィールを含め、インターネットなどで容易に検索可能である。また、『いま、宗教を問う!、現代社会と宗教』『宗教者に聞く!、日本編上・下 現代社会と宗教』(いずれも法蔵館)は、前述、本講義の前身企画の記録・成果であって、参考に資すべきところが多い。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

前・後期とも受講するのが望ましい。

特殊講義(大学アスリート入門) GA § ヴィジョン形成特殊講義(大学アスリート入門) P

16920

担当者名 / Instructor 佐藤 善治

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

スポーツ特別選抜入試で入学した1回生全員を対象に、大学生アスリートに対する「大学生活」「文武両道」への導入期教育、新人研修とする。授業内容としては、大学アスリートとして自立的な成長を促すきっかけとなる内容(スポーツ科学・文化の基礎的な理解、アスリート生活者として自覚・倫理を促す知識・行為、スタディ・スキルの獲得と勉学・スポーツへのバランスの取れた取り組み)を中心とする。

到達目標 / Attainment Objectives

大学生としての自覚・認識を深化させるべく、単一クラブの枠を越え、科学や文化・スポーツの素材を仲立ちとして相互に交流することができるようになること

学生アスリートとしての文武両道の考え方を理解すること

アスリートと勉学生活との計画的な取り組み(スケジュール化)を行なえるようになること

大学での学習スタイル(例えば勉強の仕方、文章の書き方、発表の仕方など)を理解し、実践できるようになること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	導入講義	「文武両道;クラブ活動と勉学との両立について~立命スポーツのあり方~」
第2回目	前半: ゲストスピーカー 「スポーツマンの身体的コンディショニング」	後半: 担当コーディネーターによるレクチャー及び課題演習
第3回目	前半: ゲストスピーカー 「スポーツマンの食生活・健康と栄養」	後半: 担当コーディネーターによるレクチャー及び課題演習
第4回目	ゲストスピーカー 「スポーツを文化としてとらえるとは」	担当コーディネーターによるレクチャー及び課題演習
第5回目	ゲストスピーカー 「大学とスポーツ、スポーツマン」	担当コーディネーターによるレクチャー及び課題演習
第6回目	ゲストスピーカー 「スポーツマンの自立と成長」	担当コーディネーターによるレクチャー及び課題演習
第7回目	ゲストスピーカー 「これまでとこれからの立命スポーツマン・アスリート」	担当コーディネーターによるレクチャー及び課題演習
第8回目	総括講義および各自のめざす「アスリート像」を考える	「学生アスリートの生活スタイルを考える」「授業参加の仕方(勉強方法、ノートの取り方など)を考える」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	30 %	最終課題レポート(最終日に提出)
平常点(日常的)	70 %	毎回の授業時間内課題(出席ポイントを含む)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(地域参加活動入門) G § ヴィジョン形成特殊講義(地域参加活動入門) P

16767

担当者名 / Instructor 角谷 嘉則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

大学生の学びの場はキャンパス内にとどまるものではない。ボランティア活動などの、地域へ参加する活動を通じて、かけがえのない学びを得ることができる。人間的な成長や、専門知識への関心を高めることが出来る。地域参加の活動は、地域に貢献するだけでなく、参加する学生にとっても、得るものが大きいのである。

しかし、地域参加活動の魅力や、そこで得られる学びは、活動を行っていない者にはなかなか理解しがたい。また、社会的な活動であるため、事前に諸々の注意事項を理解しておく必要がある。本講義は、そうした地域参加活動へ誘う動機付けと、参加のための心構えを身につけることを目的に開講する。

本講義では多くのゲストスピーカーが登場する。いずれも日常の学生生活では出会えない人ばかりなので、臆せずに質問等を行ってほしい。

到達目標 / Attainment Objectives

地域参加活動の意義・現状・課題や、地域参加活動の方法を学ぶことで、地域参加活動を行うための準備となることを目指す。本講義を終え、地域に参加する受講者が一人でも多く現れてほしいと望んでいる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	本授業の目的とスケジュール、地域参加活動とは何か
2~3	若者と地域参加	歴史的な文脈における若者と地域参加の有り様と変化。若者の地域参加の現在的な意義。ボランティア活動の可能性、大学生のボランティアの現状。
4~8	地域問題と大学生の地域参加	環境保全の活動、青少年育成の活動、在日外国人支援の活動、情報発信の活動、文化伝統の活動など
9~13	大学生の地域参加の課題	大学ボランティアセンター、地域の青少年社会参加支援団体、サービスマネジメント、海外の大学生ボランティア活動支援、リスクマネジメント
14-15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	与えられた設題について十分に論じられているか。文章は論理的か。誤字脱字やインターネット丸写しはないか
平常点(検証テスト)	50 %	中間まとめのときに、レポート課題を課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・本講義では基本的にレクチャーを中心とした授業スタイルとなるが、できるだけ学生の授業参加があるよう、工夫をしていきたい(質問用紙の配布、演習形式の取り入れなど)。それらに対する積極的な姿勢を望みたい。

・当然のマナーであるが、講義中は携帯電話・PHSの電源は切ること。私語も禁止。受講マナーが悪い場合は注意の上、退席を願う場合もある。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(茶道文化史) GA § 特殊講義(基礎)I(茶道文化史) GA § ヴィジョン形成特殊講義(茶道文化史) GA

20249

担当者名 / Instructor 筒井 紘一、千 玄室

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

茶道は現在、日本を代表する伝統文化として世界中に知られるようになった。しかし、一般的には未だ、礼儀作法のための稽古事という感覚でとらえる人が多い。それは茶の湯の本質と全く違った見方と言える。茶道に礼儀作法の要素が全くないとは言わないが、その本質は日本を代表する総合的な文化体系であると言えよう。その総合性とは、哲学的な要素などを含む点にある。

茶が日本に伝来して以来1000年以上も経過しているが、伝来した当初から文化性を備えていたわけではない。本講では、照葉樹文化を代表する嗜好飲料である茶を通して、その文化性の特色を探るとともに、わが国の飲料として伝来した茶が、日本独自の文化性を備えた茶道へと変遷していく過程を明らかにしていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

茶道を通じて日本文化を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は事前登録科目です。

授業期間・講義内容詳細については、6月頃に学部掲示板にて連絡します。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回) テーマ / Theme キーワード / Key Word

詳細は6月頃掲示で案内します

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点(日常的)

100 %

レポート

最終講義日に課題提示します。提出されたレポート内容を評価します。
講義と実技への参加態度をもとに評価します。

*レポート提出は必須とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業内容の詳細については6月頃に学部掲示板にて案内します。

担当者名 / Instructor 木野 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

環境と生命に関する諸問題は20世紀以来、人々から大きな関心をもたれているテーマである。科学技術の急速な発達、環境問題、増大する地球人口、資源の枯渇、貧富の格差拡大、絶え間ない戦争、生殖医療技術の発達、生命と倫理の諸問題など、そこにはさまざまな問題が含まれている。

一方、現代の私たちは膨大な情報に囲まれているが、その中から必要な情報を得ることはきわめて難しい。様々な媒体から与えられる情報をただ受け止めるだけでなく、それを読み解く能力が必要である。

この授業ではテレビ・ドキュメンタリーを題材に、環境と生命に関するこれらの諸問題をみんなで考えることを通して、受け身ではなく自ら考える能力を磨くことを目標にする。そのため、授業は一般的な講義形式を取らず、みんなでドキュメンタリーを観た後、教室でのディスカッションを通じて理解を深め、考えることに集中する。授業では必要な資料を授業プリントとして用意するが、授業の後、自分でインターネットや図書館を利用して調べる習慣を身に付ける。

授業のアウトラインは以下の通りである。

- * 予定しているドキュメンタリーごとに各自の関心に応じて8つのテーマ研究グループを作る。
- * 毎回、チャイムとともに全員でテレビ・ドキュメンタリーを鑑賞する。
- * 鑑賞後、グループに分かれ、まずその日のドキュメンタリーについてディスカッションを行い、次にグループ研究の相談を行う。ディスカッションの報告およびグループ研究の進捗状況はメーリングリストに投稿する。
- * 授業後、各自、自分の意見(400~600字)をメーリングリストに投稿する。
- * 次の授業時に、メーリングリストに投稿された意見の中から最も優れていると思う意見を投票で選ぶ。選ばれた人は1分間スピーチを行う。
- * 授業の後半で、各グループの研究発表とディスカッションを行う。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・ドキュメンタリーを観て、何が問題かを理解できるようになる。
- ・ドキュメンタリーに関連した情報を自分で調べることができるようになる。
- ・ドキュメンタリーに対する自分の意見を持つことができるようになる。
- ・自分の意見を所定の字数にまとめ、人に伝えることができるようになる。
- ・他の人とディスカッションをし、人の意見を理解することができるようになる。
- ・グループワークができるようになる。
- ・所定の時間でスピーチができるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	第1回目のドキュメンタリー鑑賞、授業の進め方、グループ分け	
第2回	第2回目のドキュメンタリー鑑賞、グループ・ディスカッション	
第3回	第3回目のドキュメンタリー鑑賞、グループ・ディスカッション	
第4回	第4回目のドキュメンタリー鑑賞、グループ・ディスカッション	
第5回	第5回目のドキュメンタリー鑑賞、グループ・ディスカッション	
第6回	第6回目のドキュメンタリー鑑賞、グループ・ディスカッション	
第7回	第7回目のドキュメンタリー鑑賞、グループ・ディスカッション	
第8回	第8回目のドキュメンタリー鑑賞、グループ・ディスカッション	
第9回	第9回目のドキュメンタリー鑑賞、グループ・ディスカッション	
第10回	第2回目と第3回目のドキュメンタリーのグループ研究発表とディスカッション	
第11回	第4回目と第5回目のドキュメンタリーのグループ研究発表とディスカッション	
第12回	第6回目と第7回目のドキュメンタリーのグループ研究発表とディスカッション	
第13回	第8回目と第9回目のドキュメンタリーのグループ研究発表とディスカッション	

第14回 第10回目のドキュメンタリー鑑賞、グループ・ディスカッション

第15回 課題レポートの要旨を全員が1分間スピーチ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

- ・授業後、ドキュメンタリーに関連する情報をインターネットや図書館を利用して調べる。
- ・グループ研究に関する情報や資料をグループのメンバーで分担協力して調べる。
- ・レポートの課題は以下の通りである。
 授業期間中にTVで放送されるドキュメンタリーの中から環境と生命に関する1本を選び、その要旨(400字程度)と自分の意見(400~600字)をまとめる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	課題レポートの要旨および意見について総合評価する。
平常点(日常的)	80 %	毎回のメーリングリストへの投稿とその評価を50%、ドキュメンタリーの要約(各自1回)の評価を10%、グループ研究の評価を10%、グループ研究への貢献度を10%とする。なお、原則として2/3以上の出席を成績評価の要件とし、欠席回数に応じて日常点を減点する。

【レポート】

- * 評価の基準は、所定の字数が守られているか、書き方(誤字、段落、引用・参考文献など)の是非のほか、どこまで自分で考えたかという考察力である。
- * 課題レポートの提出はWebCTとする。

【その他】

- * 番組内容の要約やグループ・ディスカッションの報告は原則一人1回を前提とするが、2回以上担当した人にはプラスアルファの評価を加える。
- * グループ研究発表のディスカッションでのQ & Aは要旨をWebCTに投稿してもらうが、投稿した人には授業に対する積極的な参加としてプラスアルファの評価を加える。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講にあたっては、WebCTの読み書きができること、インターネットで情報検索ができることが必要である。これらは受講の条件なので、開講までにできるようにしておくこと。

教科書 / Textbooks

ドキュメンタリーの参考資料は当日プリントにして配布する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業で紹介する。

その他 / Others

特殊講義(ピア・サポート論) GA

13900

担当者名 / Instructor 沖 裕貴

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

アメリカのピア・リーダーシップ・プログラムは、多くの大学で一年次支援プログラムの一環として機能し、一般学生の転換期教育に欠かせないものとなっている。また、ピア・サポータを育成する訓練や研修には、基盤となるコミュニケーション能力の育成の他、大学の歴史、理念・目的を初めとした知識と、基本的な青年期発達理論への理解が欠かせない。

本授業では、具体的に、本学における学生相互の学び合いの仕組みの目的、オリター制度やTA、ES制度の歴史などに関する基本的知識の習得、指導・支援を行う学生の要求と特徴をつかむための基本的な青年期発達理論の学習、学修指導に関する教員との分担の方法やチーム・ティーチング、ファシリテーションなどの教育方法の習得、さらにコミュニケーション能力を育成するさまざまなトレーニングなどを行い、講義だけでなく、グループワークを中心とした演習を盛り込む。

なお、授業は、演習も行うことから最大50名を限度とする。また、過去オリターやESを体験した学生の経験談や成果なども併せて紹介し、ピア・サポータ志望者の不安を払拭し、意欲を向上させるものにした。

到達目標 / Attainment Objectives

(知識・理解)

1. 本学の理念・目的やオリター制度、ES、TA制度の歴史、目的、仕組みを説明することができる。
2. 前後期青年期の特徴や最近の生徒・学生の思考・行動様式について説明することができる。
3. 授業を行う際に利用できる指導方術についてその要点を説明することができる。

(関心・意欲・態度)

1. ピア・サポートに意欲を持ち、自ら学ぶ態度を持つ。
2. ピア・サポートを通して得た経験を、インターンシップやボランティアを初め他のピア・サポートやサービス・ラーニングに生かそうとする意欲を持つ。

(技能・表現)

1. 適切なコミュニケーションをとるための技術を持ち、必要な場面で活用することができる。
2. 集団を指導する際に有効な指導方略、指導方術を修得し、適切かつ効果的に利用することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法等、各回の授業の概要
2	立命館学	立命館憲章、建学の精神『自由と清新』、教学理念『平和と民主主義』、立命館学園の構成、立命館の沿革
3	立命館大学のピア・サポート	ピア・サポートとは、ピア・サポートの役割、育成する人材像、オリター・エンター、プレースメントリーダー(PL)・ジュニアアドバイザー(JA)、教育サポーター(ES)、本学のピア・サポートの到達点
4	現代の若者像	データに見る若者たちの意識と学力、若者像に関する識者の意見、現代の若者に何が起きているか、ゆとり教育の検証
5	思春期と青年期	思春期・青年期の発達と大学生活
6	ピア・サポートで活用できる教育の方法と技術	学習指導要領、教授・学習理論、授業における学生のメンタル・モデル、メラビアンの法則、優れた授業の条件、Learning Pyramid、授業における指導技術
7	コミュニケーションの手法を学ぶ1	相手の情報を受け止めるための手法を学ぶ1(聴き手に求められる力 - オーディエンス教育 -)
8	コミュニケーションの手法を学ぶ2	相手の情報を受け止めるための手法を学ぶ2(妥協点を見つけるために受容的に聴く力 - 犬バラ法 -)
9	コミュニケーションの手法を学ぶ3	自分の情報を伝えるための手法を学ぶ1(相手の気持ちに立って話をする力 - アサーション -)
10	コミュニケーションの手法を学ぶ4	自分の情報を伝えるための手法を学ぶ2(表現力とアイコンタクト - 無言面接 -)
11	コミュニケーションの手法を学ぶ5	自分の情報を伝えるための手法を学ぶ3(議論に負けない力 - 少女とハゲワシ -)
12	コミュニケーションの手法を学ぶ6	自分の情報を伝えるための手法を学ぶ4(自分の情報を整理する力 - 強制連結法 -)
13	コミュニケーションの手法を学ぶ7	自分の情報を伝えるための手法を学ぶ5(情報を構造化する力 - フォトランゲージ -)

14	コミュニケーションの手法を学ぶ8	問題を発見し、論理的に考え、提案するための手法を学ぶ1(主張し、提案する力-目的分析-)
15	コミュニケーションの手法を学ぶ9	問題を発見し、論理的に考え、提案するための手法を学ぶ2(道徳的に判断する力-コールバグ-)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日頃から新聞等で教育問題に関心を持ち、主体的に考える姿勢が望まれる。また、演習においてはグループワークが中心となり、各自の責任感や協調性が求められる。さらに本授業の受講後もしくは並行してピア・サポートに従事することが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	44 %	A4一枚 - 原稿用紙5枚程度、「本授業で何を学んだか、自分はどう変わったか」
平常点(日常的)	56 %	毎時間の小レポート(A4一枚程度、各4点×14回=56点)

小レポート(各4点満点×14回)の書き方については、単なる授業の感想ではなく、授業で指示した設問に対する回答や、毎回の授業の到達目標の達成度など、授業に主体的に参加していなければ答えられない内容とする。この点については第1回目の授業で詳しく説明する。なお、小レポートにはQRコードを必ず添付すること。添付していない小レポートは1点減点とする。毎回の小レポートの結果は、翌週までにコースツールで確認できるようにする。また、授業で配付した資料もコースツールから取得できるようにするので、毎時確認していただきたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

第7回目以降の授業は、毎回異なるグループごとに演習を行う。初めて出会う人たちとさまざまなコミュニケーション・トレーニングを行うが、恥ずかしがらず、積極的、主体的に取り組んでほしい。これらは、ピア・サポータのみならず、教職やボランティア等多くの役割や仕事に共通して求められる技術であり、自分を変えるために必要なトレーニングである。

本授業を受講する学生には、ES志願者はもちろん、教職志望者やオリター等学内でさまざまなピア・サポートを志望する学生を想定するほか、西園寺育英奨学生も積極的に参加してほしい。ただし、本授業は、ESやオリター等の任用の条件とはしない。

なお、受講者が超過した場合には事務局において受講者調整を行う予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
必携! 相互理解を深めるコミュニケーション実践学	林徳治・沖裕貴編著 / ぎょうせい / 978-4-324-08141-9 C3036 / 生協で必ず購入する

テキストがない場合、トレーニングに参加することが困難となるので、第7週までに必ず購入すること。その他必要な資料は適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術	林徳治編著 / ぎょうせい / 4-324-06243-9 C3036 /
階層化日本と教育危機	荻谷剛彦 / 有心堂 / 4-8420-8525 C3037 /
大衆教育社会のゆくえ	荻谷剛彦 / 中公新書 / 4-12-101249-6 C1237 /
不平等社会日本	佐藤俊樹 / 中公新書 / 4-12-101537-1 C1236 /
下流社会	三浦展 / 光文社新書 / 4-334-03321-0 C0236 /
就職がこわい	香山リカ / 講談社 / 4-06-212269 C0095 /
他人を見下す若者たち	速水敏彦 / 講談社現代新書 / 4-06-149827-4 C0211 /
「学び」から逃走する子どもたち	佐藤学 / 岩波ブックレットNo.524 / 4-00-009224-3 C0336 /
格差時代を生き抜く教育	寺脇研 / KTC中央出版 / 4-87758-506-0 C0037 /
格差社会 何が問題なのか	橋木俊詔 / 岩波新書 / 4-00-431033-4 C0233 /
二十歳の原点	高野悦子 / 新潮社 / /
学力を育てる	志水宏吉 / 岩波新書 / 4-00-430978-6 C0237 /
「学力低下」の実態	荻谷剛彦・志水宏吉他 / 岩波ブックレットNo.578 / 4-00-009278-2 C0336 /

上記以外にも必要な参考図書は、授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各種統計資料や指導、評価方法に関して、国立教育政策研究所 (<http://www.nier.go.jp/homepage/kyoutsuu/index.html>)
 各種教育統計に関して(財)日本青少年研究所 (<http://www1.odn.ne.jp/youth-study/index.htm>)
 学習指導要領等は文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>) を参照すること。

その他 / Others

遅刻はやめてください。トレーニングが始まると、グループ分けをしていますので、途中参加ができません。また、私語は慎んでください。これは言うまでもなく、最低限のマナーです。また、私も、出来る限り分かりやすく、興味を引く授業を心がけます。授業に対する要望があれば、小レポートに書いてください。できることであれば、必ず次回から配慮します。

授業の概要 / Course Outline

アメリカのピア・リーダーシップ・プログラムは、多くの大学で一年次支援プログラムの一環として機能し、一般学生の転換期教育に欠かせないものとなっている。また、ピア・サポータを育成する訓練や研修には、基盤となるコミュニケーション能力の育成の他、大学の歴史、理念・目的を初めとした知識と、基本的な青年期発達理論への理解が欠かせない。

本授業では、具体的に、本学における学生相互の学び合いの仕組みの目的、オリター制度やTA、ES制度の歴史などに関する基本的知識の習得、指導・支援を行う学生の要求と特徴をつかむための基本的な青年期発達理論の学習、学修指導に関する教員との分担の方法やチーム・ティーチング、ファシリテーションなどの教育方法の習得、さらにコミュニケーション能力を育成するさまざまなトレーニングなどを行い、講義だけでなく、グループワークを中心とした演習を盛り込む。

なお、授業は、演習も行うことから最大50名を限度とする。また、過去オリターやESを体験した学生の経験談や成果なども併せて紹介し、ピア・サポータ志望者の不安を払拭し、意欲を向上させるものにした。

到達目標 / Attainment Objectives

(知識・理解)

1. 本学の理念・目的やオリター制度、ES、TA制度の歴史、目的、仕組みを説明することができる。
2. 前後期青年期の特徴や最近の生徒・学生の思考・行動様式について説明することができる。
3. 授業を行う際に利用できる指導方術についてその要点を説明することができる。

(関心・意欲・態度)

1. ピア・サポートに意欲を持ち、自ら学ぶ態度を持つ。
2. ピア・サポートを通して得た経験を、インターンシップやボランティアを初め他のピア・サポートやサービス・ラーニングに生かそうとする意欲を持つ。

(技能・表現)

1. 適切なコミュニケーションをとるための技術を持ち、必要な場面で活用することができる。
2. 集団を指導する際に有効な指導方略、指導方術を修得し、適切かつ効果的に利用することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法等、各回の授業の概要
2	立命館学	立命館憲章、建学の精神「自由と清新」、教育理念「平和と民主主義」、立命館学園の構成、立命館の沿革
3	立命館大学のピア・サポート	ピア・サポートとは、ピア・サポートの役割、育成する人材像、オリター・エンター、プレースメントリーダー(PL)・ジュニアアドバイザー(JA)、教育サポーター(ES)、本学のピア・サポートの到達点
4	現代の若者像	データに見る若者たちの意識と学力、若者像に関する識者の意見、現代の若者に何が起きているか、ゆとり教育の検証
5	思春期と青年期	思春期・青年期の発達と大学生活
6	ピア・サポートで活用できる教育の方法と技術	学習指導要領、教授・学習理論、授業における学生のメンタル・モデル、メラビアンの法則、優れた授業の条件、Learning Pyramid、授業における指導技術
7	コミュニケーションの手法を学ぶ1	相手の情報を受け止めるための手法を学ぶ1(聴き手に求められる力 - オーディエンス教育 -)
8	コミュニケーションの手法を学ぶ2	相手の情報を受け止めるための手法を学ぶ2(妥協点を見つけるために受容的に聴く力 - 犬バラ法 -)
9	コミュニケーションの手法を学ぶ3	自分の情報を伝えるための手法を学ぶ1(相手の気持ちに立って話をする力 - アサーション -)
10	コミュニケーションの手法を学ぶ4	自分の情報を伝えるための手法を学ぶ2(表現力とアイコンタクト - 無言面接 -)
11	コミュニケーションの手法を学ぶ5	自分の情報を伝えるための手法を学ぶ3(議論に負けない力 - 少女とハゲワシ -)
12	コミュニケーションの手法を学ぶ6	自分の情報を伝えるための手法を学ぶ4(自分の情報を整理する力 - 強制連結法 -)
13	コミュニケーションの手法を学ぶ7	自分の情報を伝えるための手法を学ぶ5(情報を構造化する力 - フォトランゲージ -)
14	コミュニケーションの手法を学ぶ8	問題を発見し、論理的に考え、提案するための手法を学ぶ1(主張し、提案する力 - 目的分析 -)

**(学) 学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大) 大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

日頃から新聞等で教育問題に関心を持ち、主体的に考える姿勢が望まれる。また、演習においてはグループワークが中心となり、各自の責任感や協調性が求められる。さらに本授業の受講後もしくは並行してピア・サポートに従事することが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	44 %	A4一枚 - 原稿用紙5枚程度、「本授業で何を学んだか、自分はどう変わったか」
平常点(日常的)	56 %	毎時間の小レポート(A4一枚程度、各4点×14回=56点)

小レポート(各4点満点×14回)の書き方については、単なる授業の感想ではなく、授業で指示した設問に対する回答や、毎回の授業の到達目標の達成度など、授業に主体的に参加していなければ答えられない内容とする。この点については第1回目の授業で詳しく説明する。なお、小レポートにはQRコードを必ず添付すること。添付していない小レポートは1点減点とする。毎回の小レポートの結果は、翌週までにコースツールで確認できるようにする。また、授業で配付した資料もコースツールから取得できるようにするので、毎時確認していただきたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

第7回目以降の授業は、毎回異なるグループごとに演習を行う。初めて出会う人たちとさまざまなコミュニケーション・トレーニングを行うが、恥ずかしがらず、積極的、主体的に取り組んでほしい。これらは、ピア・サポータのみならず、教職やボランティア等多くの役割や仕事に共通して求められる技術であり、自分を知り、自分を変えるために必要なトレーニングである。本授業を受講する学生には、ES志願者はもちろん、教職志望者やオリター等学内でさまざまなピア・サポートを志望する学生を想定するほか、西園寺育英奨学生も積極的に参加してほしい。ただし、本授業は、ESやオリター等の任用の条件とはしない。なお、受講者が超過した場合には事務局において受講者調整を行う予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
必携! 相互理解を深めるコミュニケーション実践学	林徳治・沖裕貴編著 / ぎょうせい / 978-4-324-08141-9 C3036 / 生協で必ず購入すること

テキストがない場合、トレーニングに参加することが困難となるので、第7週までに必ず購入すること。その他必要な資料は適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術	林徳治編著 / ぎょうせい / 4-324-06243-9 C3036 /
階層化日本と教育危機	荻谷剛彦 / 有心堂 / 4-8420-8525 C3037 /
大衆教育社会のゆくえ	荻谷剛彦 / 中公新書 / 4-12-101249-6 C1237 /
不平等社会日本	佐藤俊樹 / 中公新書 / 4-12-101537-1 C1236 /
下流社会	三浦展 / 光文社新書 / 4-334-03321-0 C0236 /

就職がこわい 香山リカ 講談社 4-06-212269 C0095
 他人を見下す若者たち 速水敏彦 講談社現代新書 4-06-149827-4 C0211
 「学び」から逃走する子どもたち 佐藤学 岩波ブックレットNo.524 4-00-009224-3 C0336
 格差時代を生き抜く教育 寺脇研 KTC中央出版 4-87758-506-0 C0037
 格差社会 何が問題なのか 橋本俊詔 岩波新書 4-00-431033-4 C0233
 学力を育てる 志水宏吉 岩波新書 4-00-430978-6 C0237
 「学力低下」の実態 荻谷剛彦・志水宏吉他 岩波ブックレットNo.578 4-00-009278-2 C0336
 二十歳の原点 高野悦子 新潮社
 上記以外にも必要な参考図書は、授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各種統計資料や指導、評価方法に関して、国立教育政策研究所 (<http://www.nier.go.jp/homepage/kyoutsuu/index.html>)
 各種教育統計に関して(財)日本青少年研究所 (<http://www1.odn.ne.jp/youth-study/index.htm>)
 学習指導要領等は文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>) を参照すること。

その他 / Others

遅刻はやめてください。トレーニングが始まると、グループ分けをしていますので、途中参加ができません。また、私語は慎んでください。これは言うまでもなく、最低限のマナーです。また、私も、出来る限り分かりやすく、興味を引く授業を心がけます。授業に対する要望があれば、小レポートに書いてください。できることであれば、必ず次回から配慮します。

授業の概要 / Course Outline

アメリカのピア・リーダーシップ・プログラムは、多くの大学で一年次支援プログラムの一環として機能し、一般学生の転換期教育に欠かせないものとなっている。また、ピア・サポータを育成する訓練や研修には、基盤となるコミュニケーション能力の育成の他、大学の歴史、理念・目的を初めとした知識と、基本的な青年期発達理論への理解が欠かせない。

本授業では、具体的に、本学における学生相互の学び合いの仕組みの目的、オリター制度やTA、ES制度の歴史などに関する基本的知識の習得、指導・支援を行う学生の要求と特徴をつかむための基本的な青年期発達理論の学習、学修指導に関する教員との分担の方法やチーム・ティーチング、ファシリテーションなどの教育方法の習得、さらにコミュニケーション能力を育成するさまざまなトレーニングなどを行い、講義だけでなく、グループワークを中心とした演習を盛り込む。

なお、授業は、演習も行うことから最大50名を限度とする。また、過去オリターやESを体験した学生の経験談や成果なども併せて紹介し、ピア・サポータ志望者の不安を払拭し、意欲を向上させるものにした。

到達目標 / Attainment Objectives

(知識・理解)

1. 本学の理念・目的やオリター制度、ES、TA制度の歴史、目的、仕組みを説明することができる。
2. 前後期青年期の特徴や最近の生徒・学生の思考・行動様式について説明することができる。
3. 授業を行う際に利用できる指導方術についてその要点を説明することができる。

(関心・意欲・態度)

1. ピア・サポートに意欲を持ち、自ら学ぶ態度を持つ。
2. ピア・サポートを通して得た経験を、インターンシップやボランティアを初め他のピア・サポートやサービス・ラーニングに生かそうとする意欲を持つ。

(技能・表現)

1. 適切なコミュニケーションをとるための技術を持ち、必要な場面で活用することができる。
2. 集団を指導する際に有効な指導方略、指導方術を修得し、適切かつ効果的に利用することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法等、各回の授業の概要
2	立命館学	立命館憲章、建学の精神「自由と清新」、教育理念「平和と民主主義」、立命館学園の構成、立命館の沿革
3	立命館大学のピア・サポート	ピア・サポートとは、ピア・サポートの役割、育成する人材像、オリター・エンター、プレースメントリーダー(PL)・ジュニアアドバイザー(JA)、教育サポーター(ES)、本学のピア・サポートの到達点
4	現代の若者像	データに見る若者たちの意識と学力、若者像に関する識者の意見、現代の若者に何が起きているか、ゆとり教育の検証
5	思春期と青年期	思春期・青年期の発達と大学生活
6	ピア・サポートで活用できる教育の方法と技術	学習指導要領、教授・学習理論、授業における学生のメンタル・モデル、メラビアンの法則、優れた授業の条件、Learning Pyramid、授業における指導技術
7	コミュニケーションの手法を学ぶ1	相手の情報を受け止めるための手法を学ぶ1(聴き手に求められる力 - オーディエンス教育 -)
8	コミュニケーションの手法を学ぶ2	相手の情報を受け止めるための手法を学ぶ2(妥協点を見つけるために受容的に聴く力 - 犬バラ法 -)
9	コミュニケーションの手法を学ぶ3	自分の情報を伝えるための手法を学ぶ1(相手の気持ちに立って話をする力 - アサーション -)
10	コミュニケーションの手法を学ぶ4	自分の情報を伝えるための手法を学ぶ2(表現力とアイコンタクト - 無言面接 -)
11	コミュニケーションの手法を学ぶ5	自分の情報を伝えるための手法を学ぶ3(議論に負けない力 - 少女とハゲワシ -)
12	コミュニケーションの手法を学ぶ6	自分の情報を伝えるための手法を学ぶ4(自分の情報を整理する力 - 強制連結法 -)
13	コミュニケーションの手法を学ぶ7	自分の情報を伝えるための手法を学ぶ5(情報を構造化する力 - フォトランゲージ -)
14	コミュニケーションの手法を学ぶ8	問題を発見し、論理的に考え、提案するための手法を学ぶ1(主張し、提案する力 - 目的分析 -)

**(学) 学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(学) 大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

日頃から新聞等で教育問題に関心を持ち、主体的に考える姿勢が望まれる。また、演習においてはグループワークが中心となり、各自の責任感や協調性が求められる。さらに本授業の受講後もしくは並行してピア・サポートに従事することが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	44 %	A4一枚 - 原稿用紙5枚程度、「本授業で何を学んだか、自分はどう変わったか」
平常点(日常的)	56 %	毎時間の小レポート(A4一枚程度、各4点×14回=56点)

小レポート(各4点満点×14回)の書き方については、単なる授業の感想ではなく、授業で指示した設問に対する回答や、毎回の授業の到達目標の達成度など、授業に主体的に参加していなければ答えられない内容とする。この点については第1回目の授業で詳しく説明する。なお、小レポートにはQRコードを必ず添付すること。添付していない小レポートは1点減点とする。毎回の小レポートの結果は、翌週までにコースツールで確認できるようにする。また、授業で配付した資料もコースツールから取得できるようにするので、毎時確認していただきたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

第7回目以降の授業は、毎回異なるグループごとに演習を行う。初めて出会う人たちとさまざまなコミュニケーション・トレーニングを行うが、恥ずかしがらず、積極的、主体的に取り組んでほしい。これらは、ピア・サポータのみならず、教職やボランティア等多くの役割や仕事に共通して求められる技術であり、自分を知り、自分を変えるために必要なトレーニングである。本授業を受講する学生には、ES志願者はもちろん、教職志望者やオリター等学内でさまざまなピア・サポートを志望する学生を想定するほか、西園寺育英奨学生も積極的に参加してほしい。ただし、本授業は、ESやオリター等の任用の条件とはしない。なお、受講者が超過した場合には事務局において受講者調整を行う予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
必携! 相互理解を深めるコミュニケーション実践学	林徳治・沖裕貴編著 / ぎょうせい / 978-4-324-08141-9 C3036 / 生協で必ず購入すること

テキストがない場合、トレーニングに参加することが困難となるので、第7週までに必ず購入すること。その他必要な資料は適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術	林徳治編著 / ぎょうせい / 4-324-06243-9 C3036 /
階層化日本と教育危機	荻谷剛彦 / 有心堂 / 4-8420-8525 C3037 /
大衆教育社会のゆくえ	荻谷剛彦 / 中公新書 / 4-12-101249-6 C1237 /
不平等社会日本	佐藤俊樹 / 中公新書 / 4-12-101537-1 C1236 /
下流社会	三浦展 / 光文社新書 / 4-334-03321-0 C0236 /

就職がこわい 香山リカ 講談社 4-06-212269 C0095
 他人を見下す若者たち 速水敏彦 講談社現代新書 4-06-149827-4 C0211
 「学び」から逃走する子どもたち 佐藤学 岩波ブックレットNo.524 4-00-009224-3 C0336
 格差時代を生き抜く教育 寺脇研 KTC中央出版 4-87758-506-0 C0037
 格差社会 何が問題なのか 橋本俊詔 岩波新書 4-00-431033-4 C0233
 学力を育てる 志水宏吉 岩波新書 4-00-430978-6 C0237
 「学力低下」の実態 荻谷剛彦・志水宏吉他 岩波ブックレットNo.578 4-00-009278-2 C0336
 二十歳の原点 高野悦子 新潮社
 上記以外にも必要な参考図書は、授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各種統計資料や指導、評価方法に関して、国立教育政策研究所 (<http://www.nier.go.jp/homepage/kyoutsuu/index.html>)
 各種教育統計に関して(財)日本青少年研究所 (<http://www1.odn.ne.jp/youth-study/index.htm>)
 学習指導要領等は文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>) を参照すること。

その他 / Others

遅刻はやめてください。トレーニングが始まると、グループ分けをしていますので、途中参加ができません。また、私語は慎んでください。これは言うまでもなく、最低限のマナーです。また、私も、出来る限り分かりやすく、興味を引く授業を心がけます。授業に対する要望があれば、小レポートに書いてください。できることであれば、必ず次回から配慮します。

特殊講義(日本政治のメカニズム) GA § ヴィジョン形成特殊講義(日本政治のメカニズム) GA

11106

担当者名 / Instructor 福岡 政行

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代日本の政治を動的に分析し、政治の判断力の上昇に寄与する授業を目的とする。
 実証的政治学を主軸とする。政治において、理論や枠組はどうしても実態を離れる。
 そのため、政治や報道の現場にいる人にゲストスピーカーとしてレクチャーしてもらおう。
 私の授業を中心に、いろいろな視座からの情報・知識の提供を行う。

授業は下記日程の火曜4・5連続で行う。

第1回4/8、第2回4/22、第3回5/13、第4回5/27、第5回6/10、第6回6/24、第7回7/8、第8回7/15

到達目標 / Attainment Objectives

政治学の基本コンセプトの修得と同時に、現実の場でどのように作用しているか、
 言葉の表面的意味だけではなく、機能的な面を重視する。政治の世界についての
 的確な判断力を要請する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	小泉政権の光と影	～ 構造改革とは何だったのか～
2	メディアと政治と世論	～ 世論操作とテレビ政治～
3	自民党の構造的危機	～ その危機の本物が～
4	ネジレ国会と大連立	～ 大政翼賛会の危険～
5	07年度の参院選と次期総選挙	～ 無党派層の選択～
6	年金問題と借金大国の日本	～ 老後の不安をどうする～
7	日本の格差は拡大する	～ 勝ち組・負け組み そして普通組～
8	ディスカッション	～ ゲスト未定、政治家とジャーナリスト～

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 小原 豊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

数学は理性の音楽であり、強制される無意味な手続きとは程遠いところにある、人類の知的喜びそのものと言える。

本授業は、数学を必ずしも得意としない受講者を対象に、そのリメディアル教育の一環として、数学的な内容・方法を講ずるものである。教職を志す受講者に向けての内容が中心となるが、そうではない受講者の数学的リテラシーの向上も視野に入れている。時間数の制約上、内容知らずなわち知識・技能よりも、方法知らずなわち数学を探究し構成する手法に焦点を当てた上で、数学上の幾つかの重要なトピックを楽しみながら振り返る。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 数学を人類の社会文化的な所産と捉え、その学習に深い関心・意欲をもつことができる。
- 2 数学的リテラシーの基礎を身につけ、必要に応じて高等学校以前に学んだ数学的内容を再構成できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前履修が必要な科目はありません。日頃から、物事を数学的に考える習慣をつけていきましょう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	人はなぜ数学を学ぶか？	数学の文化史, 民主主義, 黄金比, 懸賞金問題
第2回	数学的な方略	ストラテジーとタクティクス, 発見法, 単純化, 特殊化, カプレカル操作
第3回	数学的な推論 蓋然・必然と命題操作	帰納・演繹・類比, 仮説推論(abduction), 合接・離接, 含意, 逆・裏・対偶
第4回	数学的な推論 誤った推論と論駁	反例・反証, 過般化, ラカトシュモデル
第5回	“必勝法”の数理	ゲーム理論, スプラウト, Win-Win, 勝率と期待値
第6回	統計的リテラシー 説得する	分散, 分布, 偏差, 統計的仮説, 検定・推定
第7回	統計的リテラシー 嘘を見抜く	比較の論理, 平均の嘘, グラフ選定と錯視
第8回	数学の実験とは? 数学に触れる	模型・実験, 正多面体, 多面体, オイラー標数
第9回	数学の実験とは? 四次元をみる	拡張・一般化, 平面(お好み焼き)の分割, 立体(西瓜)の分割, フラクタル
第10回	折り紙の数理 平面	オリガミクス, 平行・対称・回転移動, 正多角形の構成, 二次曲線
第11回	折り紙の数理 空間	オリガミクス, 正多面体の構成, 非ユークリッド操作
第12回	数学と文化 芸術に潜む数理	ピタゴラス音階, 黄金比, フィボナッチ数列
第13回	数学と文化 和算の世界	九章算術, 塵劫記, 算木, 算額, 油分け算, 薬師算
第14回	数学と文化 異文化の計算法	計算法の文脈依存, 比と関数の思想
第15回	市民の数学: Numeracy とは?	数理思想, バーコードの数学, 多様な消費税計算

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

本授業では、小学校から高等学校までに習ってきた数学的知識を学び直す事例が多くあります。授業でも基礎から分かりやすく解説しますが、教科書等を用いて必要に応じて自主的に復習することを勧めます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	授業の理解度をみるために、数回の課題を出します。
平常点(日常的)	60 %	出席を重視する。また平常点(学習・発表態度, 質問内容, 討論参加等)も加算する。
特別な事情がない限り、開講回数の2 / 3以上を出席することを単位認定の基本条件とします。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業は、日常感覚と切り離された数学的教養を身につけるのではなく、各トピックを通じて適切な数学的着想と手法を学び直していきます。数学に王道無し。楽な近道はありませんが、知る喜びを軸に主体的に学ぶことで必ず数学的リテラシーが身につきます。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。必要に応じて授業時に参考資料を適宜配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
教育系のための数学概説	吾妻一興, 武本英夫, 長宗雄, 松本紘司 / 培風館 / 4-563-00223-2 / 教育系の学生

が数学に親しめる

いかにして問題をとくか

G. ポリア / 丸善 / 4-621-04593-8 / 未知の問題にアプローチする上での古典的名著

世界は数理でできている

L. A. スティーン / 丸善 / 4-621-04742-6 / 次元, 量, 不確実性, 形, 変化という着想から数学を省みる

その他, 参考となる資料は随時紹介し, 必要に応じて抜粋を配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

数学のリメディアル学習につながるsiteを授業時に随時紹介していきます。

その他 / Others

授業において不明な点, 疑問に感じた点を大切に, まずは自らその解消に努めて下さい。またPCを利用した授業を行う場合もあります。

理科入門ⅠS

13229

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校、中学校理科(物理、地学)で扱うテーマを中心に、基礎知識、またその方法(科学の方法)の修得をめざす。また、単に学校理科にとどまらず、科学リテラシーの涵養という観点から、社会現象を科学の目で捉えるための様々な手法、またそのための基礎知識について学習を深める。現代を生きる者の理科という観点を強調したい。講義形式が主になるが、実験、観察、討論等様々な手法を駆使して、学習者の「科学する心」をもう一度目覚めさせたい。

到達目標 / Attainment Objectives

小学校、中学校理科の内容、方法が理解できる。
 日ごろ感じている疑問を、身近な素材で確かめられる。
 科学リテラシーの観点から、理科の内容が再構成できる。
 科学の方法を駆使して、テーマに即した討論に参加、発表ができる。
 「人の関わりとしての理科」という観点から、学校理科のあるべき姿を模索できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目は、今後展開される教職科目「初等理科教育法」、「初等理科」の基礎科目という位置づけも担っています。「教職に関する科目」、また「教科に関する科目」については計画的に履修するよう心がけてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回～3回	理科とは何か - 身近な素材を使って自然に親しむ -	小学校理科(第1回)、中学校理科(第2回)、高等学校理科(第3回)で学んできたものは何かを知ろう
第4回～6回	理科の内容と方法(その1) - 小学校の理科の素材から -	小学校理科をテーマにして(振り子(第4、5回)や電気・磁石(第6回)等を題材にして)科学の方法について学ぶ
第7回～9回	理科の内容と方法(その2) - 中学校の理科の素材から -	中学校理科をテーマにして(地球の自転・公転(第7、8回)や溶ける不思議(第9回)を題材にして)学ぶ
第10回～12回	理科の内容と方法(その3) - 地球の環境(科学のリテラシー)を題材にして[ゲストスピーカーの授業] -	地球環境をテーマに、科学的なものの見方・考え方と「理科の教材」の役割について学ぶ
第13回	科学リテラシーとしての理科(その1) - 生きる力と理科 - 【レポート課題の提示】	テーマごとの演習、討論(ゲストスピーカーの話から小学校・中学校の理科の実態を知る)
第14回	科学リテラシーとしての理科(その2) - 理科の知識と方法 - 【レポート課題についての質疑】	テーマごとの演習、討論(与えられた課題から理科の実験をデザインする)
第15回	課題レポートの発表(各班10分)とその講評(30分)	理科としてのまとめ方、レポート作成の仕方、発表の仕方について学ぶ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

「各家庭の電気の配線は並列ですか、直列ですか、」など、毎授業後、理科の内容に関連した面白クイズを出します。各個人の質問・指導、また解答はメール等で行いますが、それを導入として授業を進めていきます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業で扱ったいくつかのテーマを元にして各自が興味関心を引いたテーマについて、理科(科学)の方法の運用、また知識の定着を見ます。実験で得られた結果からどのようなことが引き出せるか、そのまとめ方についても評価します。
平常点(検証テスト)	20 %	講義時に出す課題、またクイズに対する解答内容、また応答回数等を評価します。
平常点(日常的)	20 %	討論会での発表、調べ学習、また態度等を評価します。特に、第13～15回での発表会での積極性を評価します。

特に、第14、15回で行う模擬実験での取り組み(発表、またそれまでの活動)については、平常点として高く評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

小学校、中学校、また高等学校の理科の教科書を持参することが望ましい。
 (毎回プリント等で資料は提供します。)
 理科が嫌いな学生ほど受講する価値があります。なぜ嫌いなのかを明確にしておくことが受講の際の大切な条件です。
 日ごろ感じている疑問を身近な素材で追求していきます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
理科は理科系のための科目ですか	山下芳樹 / 森北出版 / 4 - 627 - 16121 - 2 / 教科書、資料集として活用

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Q & Aでわかる物理科学(1, 2, 3)	山下芳樹 他 / 丸善 / 4 - 621 - 07237 - 4 / 知識の宝庫(クイズ形式で楽しく学べます)
大人のためのサイエンス!Q	左巻健男, 山下芳樹他 / 化学同人 / 978 - 4 - 7598 - 1088 - 2 / 理科の知識が広く確認出来ます
高校物理 検定外 教科書	山下芳樹 / 宝島社 / 978 - 4 - 7966 - 6026 - 6 / 理数オンチの人には最適

種々の参考書(資料)については、授業時に伝えます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて伝えます。

その他 / Others

理科入門 では私だけの理科の参考書をつくってもらいます。そのための資料(作り方など)は授業時に連絡します。

理科入門II S

15658

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校、中学校理科(物理、化学、生物、地学)で扱うテーマを中心に、基礎知識、またその方法(科学の方法)の修得をめざす。また、単に学校理科にとどまらず、科学リテラシーの涵養という観点から、社会現象を科学の目で捉えるための様々な手法、またそのための基礎知識について学習を深める。現代を生きる者の理科という観点を強調したい。講義形式が主になるが、実験、観察、討論等、様々な手法を駆使して、学習者の「科学する心」をもう一度目覚めさせたい。特に、理科入門 では、理科入門 の学びを前提として、より深い理解を図る。教材の作成という「ものづくり」を中心とした授業展開とする。

到達目標 / Attainment Objectives

小学校、中学校理科の内容、方法が深く理解できる。
 科学リテラシーの観点から、内容に応じてその再構成ができる。
 テーマに即した討論に参加し、科学的根拠に基づいた発表、討論ができる。
 「人の関わりとしての理科」という観点から、学校理科のあるべき姿を模索できる。
 選んだテーマについて、内容、方法等質の高い調べ学習(実験、観察を含む)ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

理科入門 では、理科入門 の学びを前提とします。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回～3回	私たちを取り巻く現状と理科 (理科と地球環境を題材にして)	学校理科と最先端科学, 身の回りの科学
第4回～6回	理科の内容と方法(その1) - 作業(実験、観察)を通して理解する -	小学校、中学校理科をテーマにして(物理分野、化学分野から)
第7回～9回	理科の内容と方法(その2) - 作業(実験、観察)を通して理解する -	小学校、中学校理科をテーマにして(生物分野、地学分野から)
第10回～13回	課題研究(その1) - 科学の方法を具体的事例(教材の開発)を通して学ぶ -	与えられたテーマに即して調べ学習を行う
第14回	課題研究(その2)	課題研究の発表, テーマごとの演習, 討論【評価】
第15回	課題研究(その3)	課題研究の発表, テーマごとの演習, 討論【評価】

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

「理科と地球環境」を主題として、理科の各分野(物理・化学・生物・地学)を取り扱います。課題研究(教材の開発)では、この主題に即した作業(調べ学習など)を行います。相談日等を設け、随時サポートします。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	講義時に出す課題に対する解答内容、またその取り組み態度(応答回数)等を評価します。
平常点(日常的)	60 %	課題研究での発表、調べ学習、また態度等を評価します。教材作成での成果物による評価も重視します。

第14、15回で各自(またはグループ)で開発した教材の発表を行います。その教材の作成の狙い等(企画説明書、及び成果物)による個人評価や参加者の評価をも総合して平常点評価とします。出席については重要視します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

小学校、中学校、また高等学校の理科の教科書を持参することが望ましい。
 (毎回プリント等で資料は提供します。)
 課題研究ではグループで調べ学習を行います。授業時間以外でも、集まって作業をする場合もあります。
 小学校の授業参観等を通して、環境教材についての実態を学習します。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
大人のためのサイエンスIQ	左巻健男, 山下芳樹他 / 化学同人 / 978-4-7598-1088-2 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Q & Aでわかる物理科学(1, 2, 3)	山下芳樹 他 / 丸善 / 4 - 621 - 07237 - 4 /

種々の参考書(資料)については、授業時に伝えます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて伝えます。

